大洗町文化財調査報告書 第 27 集

茨城県東茨城郡大洗町

宮田遺跡（第１次）

関根祝町線他１路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

（下 巻）

２０２４

大 洗 町 都 市 建 設 課
大 洗 町 教 育 委 員 会
関東文化財振興会株式会社

大洗町文化財調査報告書 第 27 集

茨城県東茨城郡大洗町

宮田（みやた）遺跡（第１次）

関根祝町線他１路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

（下 巻）

２０２４

大 洗 町 都 市 建 設 課
大 洗 町 教 育 委 員 会
関東文化財振興会株式会社

目　次

(上　巻)

序
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経緯 …… 2
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　位置と地形 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　1　縄文時代の遺物 …… 11
　　2　弥生時代の遺構と遺物 …… 13
　　(1)　竪穴建物跡 …… 13
　　(2)　遺構外出土遺物 …… 33
　　3　古墳時代の遺構と遺物 …… 34
　　(1)　竪穴建物跡 (第201号竪穴建物跡まで) …… 34

(下　巻)

　　(1)　竪穴建物跡 (第205号竪穴建物跡から) …… 223
　　(2)　古墳 …… 248
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 250
　　4　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 251
　　(1)　竪穴建物跡 …… 251
　　(2)　土坑 …… 326
　　5　中世以降の遺構と遺物 …… 329
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 329
　　(2)　土坑 …… 330
　　(3)　溝跡 …… 332
　　6　時期不明の遺構と遺物 …… 337
　　(1)　竪穴建物跡 …… 337
　　(2)　柱穴列 …… 348
　　(3)　土坑 …… 353
　　(4)　溝跡 …… 355
　　(5)　ピット群 …… 364
　　(6)　遺構外出土遺物 …… 369
　第４節　まとめ …… 370
附　章
　　宮田遺跡出土遺物の化学分析 …… 379
写真図版
抄　録
付　図

挿　図　目　次

（下　巻）

第167図　第205号竪穴建物跡実測図(1)　…… 224
第168図　第205号竪穴建物跡実測図(2)　…… 225
第169図　第205号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 226
第170図　第206号竪穴建物跡実測図…… 228
第171図　第206号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 229
第172図　第210号竪穴建物跡実測図…… 230
第173図　第210号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 231
第174図　第230号竪穴建物跡実測図…… 233
第175図　第230号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 234
第176図　第235号竪穴建物跡実測図…… 235
第177図　第237号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 237
第178図　第238号竪穴建物跡実測図…… 238
第179図　第238号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 239
第180図　第240号竪穴建物跡実測図…… 239
第181図　第240号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 240
第182図　第247号竪穴建物跡実測図…… 241
第183図　第248号竪穴建物跡実測図…… 243
第184図　第248号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 244
第185図　第1号墳出土遺物実測図…… 248
第186図　第1号墳実測図(1)　…… 249
第187図　第1号墳実測図(2)　…… 250
第188図　遺構外出土遺物実測図　…… 250
第189図　第８号竪穴建物跡･出土遺物実測図…… 252
第190図　第19号竪穴建物跡実測図(1)　…… 254
第191図　第19号竪穴建物跡実測図(2)･出土遺物実測図
……255
第192図　第20号竪穴建物跡実測図　…… 257
第193図　第20号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 258
第194図　第24号竪穴建物跡実測図(1)　…… 260
第195図　第24号竪穴建物跡実測図(2)　…… 261
第196図　第24号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 262
第197図　第35号竪穴建物跡実測図(1)　…… 264
第198図　第35号竪穴建物跡実測図(2)　…… 265
第199図　第35号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 266
第200図　第42号竪穴建物跡・出土遺物実測図　…… 268
第201図　第51号竪穴建物跡実測図　…… 270
第202図　第51号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)　…… 271
第203図　第51号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)　…… 272
第204図　第52号竪穴建物跡実測図　…… 274
第205図　第52号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 275
第206図　第73号竪穴建物跡実測図　…… 277
第207図　第73号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 278
第208図　第76号竪穴建物跡実測図　…… 280
第209図　第76号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 282
第210図　第92号竪穴建物跡・出土遺物実測図　…… 284
第211図　第96号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 286
第212図　第96号竪穴建物跡出土遺物実測図　…… 287
第213図　第108号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 288
第214図　第110号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 289
第215図　第115号竪穴建物跡実測図…… 291
第216図　第115号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 292
第217図　第116号竪穴建物跡実測図…… 294
第218図　第116号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 295
第219図　第121号竪穴竪穴建物跡実測図…… 296
第220図　第121号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 297
第221図　第125号竪穴建物跡実測図…… 299
第222図　第125号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 300
第223図　第127号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 302
第224図　第135号竪穴建物跡実測図(1)　…… 303
第225図　第135号竪穴建物跡実測図(2)　…… 304
第226図　第135号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 305
第227図　第136号竪穴建物跡実測図…… 307
第228図　第136号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 309
第229図　第145号竪穴建物実測図…… 311
第230図　第145号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 312
第231図　第147号竪穴建物跡実測図…… 314
第232図　第147号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 315
第233図　第151号竪穴建物跡実測図…… 317
第234図　第151号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 318
第235図　第153号竪穴建物跡実測図…… 319
第236図　第153号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 320
第237図　第203号竪穴建物跡実測図…… 322
第238図　第203号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 323
第239図　第207号竪穴建物跡実測図…… 324
第240図　第207号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 325
第241図　第15号土坑・出土遺物実測図　…… 327
第242図　第71号土坑・出土遺物実測図　…… 328
第243図　第1号掘立柱建物跡実測図(1)　…… 329
第244図　第1号掘立柱建物跡実測図(2)　…… 330
第245図　第1号土坑実測図…… 330
第246図　第1号土坑出土遺物実測図…… 331
第247図　第1号溝跡・出土遺物実測図…… 333

第248図　第2号溝跡実測図…… 334
第249図　第2号溝跡・出土遺物実測図 …… 335
第250図　第12号溝跡・出土遺物実測図…… 336
第251図　第6号竪穴建物跡実測図…… 337
第252図　第18号竪穴建物跡実測図 …… 338
第253図　第61号竪穴建物跡実測図 …… 339
第254図　第85号竪穴建物跡実測図 …… 340
第255図　第109号竪穴建物跡実測図…… 341
第256図　第122号竪穴建物跡実測図…… 342
第257図　第231号竪穴建物跡実測図…… 343
第258図　第233号竪穴建物跡実測図…… 344
第259図　第236号竪穴建物跡実測図…… 345
第260図　第239号竪穴建物跡実測図…… 346
第261図　第243号竪穴建物跡実測図…… 347
第262図　第１号柱穴列・出土遺物実測図…… 349
第263図　第２号柱穴列実測図 …… 350
第264図　第３号柱穴列実測図 …… 351
第265図　第７号柱穴列実測図 …… 352
第266図　時期不明の土坑実測図 …… 353
第267図　第３号溝跡実測図 …… 356
第268図　第５号溝跡・出土遺物実測図…… 357
第269図　第６号溝跡実測図 …… 358
第270図　第８号溝跡実測図 …… 359
第271図　第10・11号溝跡実測図 …… 362
第272図　第13号溝跡実測図 …… 362
第273図　第14号溝跡実測図 …… 363
第274図　第１号ピット群実測図(1) …… 364
第275図　第１号ピット群実測図(2) …… 365
第276図　第４号ピット群実測図 …… 366
第277図　第５号ピット群実測図 …… 367
第278図　第６号ピット群実測図 …… 368
第279図　遺構外出土遺物実測図 …… 369

挿　表　目　次

（下　巻）

第73表　第205号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 225
第74表　第206号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 229
第75表　第210号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 232
第76表　第230号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 234
第77表　第237号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 237
第78表　第238号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 239
第79表　第240号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 240
第80表　第248号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 244
第81表　古墳時代の竪穴建物跡一覧 …… 245
第82表　第１号墳出土遺物観察表 …… 250
第83表　遺構外出土遺物観察表 …… 250
第84表　第８号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 255
第85表　第19号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 256
第86表　第20号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 259
第87表　第24号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 263
第88表　第35号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 267
第89表　第42号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 268
第90表　第51号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 272
第91表　第52号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 275
第92表　第73号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 279
第93表　第76号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 281
第94表　第92号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 284
第95表　第96号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 287
第96表　第108号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 288
第97表　第110号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 290
第98表　第115号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 293
第99表　第116号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 295
第100表　第121号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 297
第101表　第125号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 301
第102表　第127号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 302
第103表　第135号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 306
第104表　第136号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 310
第105表　第145号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 313
第106表　第147号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 316
第107表　第151号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 318
第108表　第153号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 320
第109表　第203号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 323
第110表　第207号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 325
第111表　奈良・平安時代の竪穴建物跡一覧…… 325
第112表　第15号土坑出土遺物観察表 …… 327
第113表　第71号土坑出土遺物観察表 …… 328
第114表　第１号土坑出土遺物観察表 …… 331
第115表　第１号溝跡出土遺物観察表 …… 334
第116表　第２号溝跡出土遺物観察表 …… 335
第117表　第12号溝跡出土遺物観察表 …… 336
第118表　中世以降の溝跡一覧 …… 336
第119表　時期不明の竪穴建物跡一覧 …… 348
第120表　時期不明　土坑一覧 …… 354
第121表　第５号溝跡出土遺物観察表 …… 357
第122表　時期不明の溝跡一覧 …… 363
第123表　第１号ピット群一覧 …… 366
第124表　第４号ピット群一覧 …… 367
第125表　第５号ピット群一覧 …… 368
第126表　第６号ピット群一覧 …… 368
第127表　遺構外出土遺物観察表 …… 369

写　真　図　版　目　次

写真図版１　調査区全景　テストピット　第１号竪穴建物跡完掘状況　第１号竪穴建物跡遺物出土状況　第１号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版２　第５号竪穴建物跡完掘状況　第５号竪穴建物跡遺物出土状況　第５号竪穴建物跡遺物出土状況　第５号竪穴建物跡土層観察状況　第６号竪穴建物跡完掘状況　第８号竪穴建物跡完掘状況　第８号竪穴建物跡竈完掘状況　第９～11号竪穴建物跡完掘状況

写真図版３　第９号竪穴建物跡遺物出土状況　第９号竪穴建物跡遺物出土状況　第９～11号竪穴建物跡土層観察状況　第10号竪穴建物跡遺物出土状況　第10号竪穴建物跡遺物出土状況　第10号竪穴建物跡遺物出土状況　第11号竪穴建物跡遺物出土状況　第11号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版４　第13号竪穴建物跡完掘状況　第13号竪穴建物跡遺物出土状況　第13号竪穴建物跡遺物出土状況　第13号竪穴建物跡遺物出土状況　第13号竪穴建物跡遺物出土状況　第13号竪穴建物跡焼土完掘状況　第14号竪穴建物跡完掘状況　第14号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版５　第14号竪穴建物跡土層観察状況　第13・17号竪穴建物跡完掘状況　第17号竪穴建物跡遺物出土状況　第17号竪穴建物跡遺物出土状況　第18号竪穴建物跡完掘状況　第19号竪穴建物跡完掘状況　第20・21・24・32号竪穴建物跡遺物出土状況　第20号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版６　第20号竪穴建物跡遺物出土状況　第20号竪穴建物跡土層観察状況　第24・35号竪穴建物跡完掘状況　第24・35号竪穴建物跡遺物出土状況　第24・35号竪穴建物跡土層観察状況　第32・36号竪穴建物跡完掘状況　第32号竪穴建物跡炉完掘状況　第32・36号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版７　第33・85号竪穴建物跡完掘状況　第33・85号竪穴建物跡遺物出土状況　第33・85号竪穴建物跡土層観察状況　第35号竪穴建物跡完掘状況　第35・24号竪穴建物跡遺物出土状況　第35号竪穴建物跡遺物出土状況　第35号竪穴建物跡遺物出土状況　第35号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版８　第24・40号竪穴建物跡完掘状況　第40号竪穴建物跡遺物出土状況　第40号竪穴建物跡遺物出土状況　第40号竪穴建物跡炉完掘状況　第40号竪穴建物跡土層観察状況　第41号竪穴建物跡完掘状況　第41号竪穴建物跡遺物出土状況　第41号竪穴建物跡炉完掘状況

写真図版９　第41号竪穴建物跡土層観察状況　第42号竪穴建物跡完掘状況　第44号竪穴建物跡土層観察状況　第43号竪穴建物跡土層観察状況　第44号竪穴建物跡完掘状況　第44号竪穴建物跡遺物出土状況　第44号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況　第45・128号竪穴建物跡完掘状況

写真図版10　第45号竪穴建物跡遺物出土状況　第45号竪穴建物跡遺物出土状況　第45号竪穴建物跡遺物出土状況　第45号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況　第45号竪穴建物跡土層観察状況　第45号竪穴建物跡焼土完掘状況　第51号竪穴建物跡完掘状況　第51号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版11　第51号竪穴建物跡遺物出土状況　第51号竪穴建物跡遺物出土状況　第51号竪穴建物跡遺物出土状況　第51号竪穴建物跡土層観察状況　第52号竪穴建物跡遺物出土状況　第52号竪穴建物跡土層観察状況　第58・84号竪穴建物跡完掘状況　第58・84号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版12　第58・84号竪穴建物跡土層観察状況　第61・144号竪穴建物跡遺物出土状況　第72・73号竪穴建物跡遺物出土状況　第72号竪穴建物跡遺物出土状況　第72号竪穴建物跡土層観察状況　第73号竪穴建物跡遺物出土状況　第73号竪穴建物跡遺物出土状況　第74・75・80・210号竪穴建物跡完掘状況

写真図版13　第74・210号竪穴建物跡遺物出土状況　第74号竪穴建物跡土層観察状況　第74号竪穴建物跡遺物出土状況　第74号竪穴建物跡遺物出土状況　第74号竪穴建物跡竈完掘状況　第75・76号竪穴建物跡完掘状況　第75・76・79号竪穴建物跡遺物出土状況　第75号竪穴建物跡竈完掘状況

写真図版14　第76号竪穴建物跡遺物出土状況　第75・76号竪穴建物跡土層観察状況　第79号竪穴建物跡遺物出土状況　第79号竪穴建物跡遺物出土状況　第79号竪穴建物跡遺物出土状況　第79号竪穴建物跡遺物出土状況　第79号竪穴建物跡土層観察状況　第80号竪穴建物跡完掘状況

写真図版15　第80号竪穴建物跡遺物出土状況　第80号竪穴建物跡遺物出土状況　第80号竪穴建物跡土層観察状況

第 80 号竪穴建物跡炉完掘状況　第 82 号竪穴建物跡土層観察状況　第 83・140 号竪穴建物跡完掘状況　第 83・140 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 83・140 号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版 16　第 85 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 85 号竪穴建物跡土層観察状況　第 87 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 87 号竪穴建物跡土層観察状況　第 87 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 88 号竪穴建物跡完掘状況　第 88 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 88 号竪穴建物跡炉完掘状況

写真図版 17　第 90・247 号竪穴建物跡完掘状況　第 90 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 90 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 90 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 90 号竪穴建物跡土層観察状況　第 91 号竪穴建物跡完掘状況　第 91 号竪穴建物跡土層観察状況　第 92 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 18　第 92 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 92 号竪穴建物跡土層観察状況　第 92 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 93・94 号竪穴建物跡完掘状況　第 93・94・95 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 93 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 93 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 93 号竪穴建物跡竈完掘状況

写真図版 19　第 93・94 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 94 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 93・95 号竪穴建物跡完掘状況　第 95 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 95 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 95 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 95 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 96 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 20　第 96 号竪穴建物跡土層観察状況　第 100 号竪穴建物跡完掘状況　第 100 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 100 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 100 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 100 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 100 号竪穴建物跡土層観察状況　第 100 号竪穴建物跡竈完掘状況

写真図版 21　第 102 号竪穴建物跡完掘状況　第 103 号竪穴建物跡完掘状況　第 103 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 103 号竪穴建物跡土層観察状況　第 106・110 号竪穴建物跡完掘状況　第 106 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 106・110 号竪穴建物跡土層観察状況　第 106 号竪穴建物跡竈完掘状況

写真図版 22　第 107 号竪穴建物跡完掘状況　第 107 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 107 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 107 号竪穴建物跡土層観察状況　第 108・109 号竪穴建物跡完掘状況　第 108 号竪穴建物跡土層観察状況　第 108 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 114 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 23　第 114 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 114 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 114 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 114 号竪穴建物跡土層観察状況　第 114 号竪穴建物跡炉 1 完掘状況　第 114 号竪穴建物跡炉 2 完掘状況　第 115 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 115 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 24　第 115 号竪穴建物跡土層観察状況　第 116 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 116 号竪穴建物跡土層観察状況　第 117 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 117 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 117 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 117 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 117 号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版 25　第 118 号竪穴建物跡完掘状況　第 118 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 118 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 118 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 119 号竪穴建物跡完掘状況　第 119 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 119 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 119 号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版 26　第 114・120・122・123 号竪穴建物跡完掘状況　第 120 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 114・120・122 号竪穴建物跡土層観察状況　第 124・129・130・131・211 号竪穴建物跡完掘状況　第 124 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 124・129 号竪穴建物跡土層観察状況　第 125・126 号竪穴建物跡完掘状況　第 125・126 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 27　第 125・126 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 125・126 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 125・126 号竪穴建物跡土層観察状況　第 127 号竪穴建物跡完掘状況　第 127 号竪穴建物跡土層観察状況　第 128 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 128 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 128 号竪穴建物跡土層観察状況

写真図版 28　第 129・130 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 129 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 129 号竪穴建物跡土層観察状況　第 131 号竪穴建物跡炉完掘状況　第 129 号竪穴建物跡 P3 遺物出土状況　第 133・134 号竪穴建物跡完掘状況　第 133・134 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 133 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 29　第 133 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 135・136 号竪穴建物跡完掘状況　第 135・136 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 137 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 137 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 137 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 137 号竪穴建物跡土層観察状況　第 138・139 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 30　第 138 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 138・139 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 138 号竪穴建物跡土層観察状況　第 142・143 号竪穴建物跡完掘状況　第 142・143 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 142 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 142 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 142 号竪穴建物跡竈土層

写真図版 31　第 143 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 143 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 143 号竪穴建物跡土層観察状況　第 143 号竪穴建物跡竈遺物出土状況　第 52・61・82・144 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 145 ～ 147 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 145 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 145 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 32　第 145 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 145 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 146 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 148 号竪穴建物跡完掘状況　第 148 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 148 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 148 号竪穴建物跡土層観察状況　第 149 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 33　第 149 号竪穴建物跡土層観察状況　第 149 号竪穴建物跡竈遺物出土状況　第 150 号竪穴建物跡完掘状況　第 151 号竪穴建物跡完掘状況　第 151 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 151 号竪穴建物跡土層観察状況　第 151 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 152 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 34　第 152 号竪穴建物跡土層観察状況　第 153 号竪穴建物跡完掘状況　第 200・201 号竪穴建物跡完掘状況　第 200・201 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 200 号竪穴建物跡土層観察状況　第 200 号竪穴建物跡竈完掘状況　第 201 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 203・237 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 35　第 203 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 203 号竪穴建物跡土層観察状況　第 205・207 号竪穴建物跡完掘状況　第 205 号竪穴建物跡竈遺物出土状況　第 205 号竪穴建物跡竈掘り方状況　第 205 号竪穴建物跡土層観察状況　第 206 号竪穴建物跡完掘状況　第 206 号竪穴建物跡遺物出土状況

写真図版 36　第 206 号竪穴建物跡土層観察状況　第 207 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 207 号竪穴建物跡竈掘り方状況　第 210 号竪穴建物跡完掘状況　第 210 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 211 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 211 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 231 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 37　第 237 号竪穴建物跡土層観察状況　第 236 号竪穴建物跡土層観察状況　第 203・237 号竪穴建物跡完掘状況　第 237 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 238 号竪穴建物跡完掘状況　第 240 号竪穴建物跡完掘状況　第 240 号竪穴建物跡遺物出土状況　第 247 号竪穴建物跡完掘状況

写真図版 38　第 248 号竪穴建物跡竈土層観察状況　第 248 号竪穴建物跡完掘状況　第 1 号墳完掘状況　第 1 号墳遺物出土状況　第 1 号墳遺物出土状況　第 1 号掘立柱建物跡完掘状況　第 1 号柱穴列完掘状況

写真図版 39　第 2 号柱穴列完掘状況　第 3 号柱穴列完掘状況　第 125・126 号竪穴建物跡・第 7 号柱穴列完掘状況　第 1 号土坑遺物出土状況　第 46 ～ 48 号土坑完掘状況　第 71 号土坑完掘状況

写真図版 40　第 1 号溝跡完掘状況　第 2 号溝跡完掘状況　第 3 号溝跡完掘状況　第 5 号溝跡完掘状況　第 6 号溝跡完掘状況　第 10 号溝跡完掘状況

写真図版 41　第 8 号溝跡完掘状況　第 11 号溝跡完掘状況　第 12 号溝跡完掘状況　第 13 号溝跡完掘状況　第 14 号溝跡完掘状況　第 1 号ピット群完掘状況

写真図版 42　縄文時代遺構外遺物　第 40・41・107 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 43　第 107・130・134・211 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 44　第 58・134・号竪穴建物跡出土遺物　遺構外出土遺物　第 1 ・ 5 ・11・13・32 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 45　第 43・45・75・79 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 46　第 80・87・88・90・93 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 47　第 93・95 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 48　第 100・104・106 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 49　第 114 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 50　第 117・118 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 51　第 118・119・120・128・129 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 52　第 129・131・133・137 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 53　第 137・142・143 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 54　第 144・146・148・149 号竪穴建物跡出土遺物

写真図版 55　第 150・152・200・201 号竪穴建物跡出土遺物
写真図版 56　第 201・205・210・240・248・19・24 号竪穴建物跡出土遺物
写真図版 57　第 35・51・52 号竪穴建物跡出土遺物
写真図版 58　第 73・76・96・110・115・116・126 号竪穴建物跡出土遺物
写真図版 59　第 135・136・145・147・151・153 号竪穴建物跡出土遺物
写真図版 60　第 203・207 号竪穴建物跡出土遺物　第 1 号古墳出土遺物　第 71・15・ 1 号土坑出土遺物　第２・５・12 号溝跡出土遺物

第３章　調査の成果

第３節　遺構と遺物

３　古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

第 205 号竪穴建物跡 (SI-205)(第 167・168・169 図　写真図版 35)

位置　調査区中央部 G38・39・40、H38・39・40、I39 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 115・207 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　覆土が薄いが長軸は 8.90 ｍ、短軸は 8.20 ｍと推定できる。平面形は方形と推定され、主軸方位はＮ－ 20°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 10cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面が踏み固められている。

竈　竈１は北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 100cmである。袖部の基部の最大幅は約 80cmと確認する。内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。竈２は北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 120cmである。袖部の基部の最大幅は約 110cmである。袖部の補強材に凝灰岩を使用している。内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。竈１から竈２へ作り代えられたものとみられる。

土層　２層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット３か所が検出でき、Ｐ１は主柱穴と考えられる。Ｐ１:30 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ２:32 × 30cm、深さ 22cm、Ｐ３：34 × 34cm、深さ 20cmである。

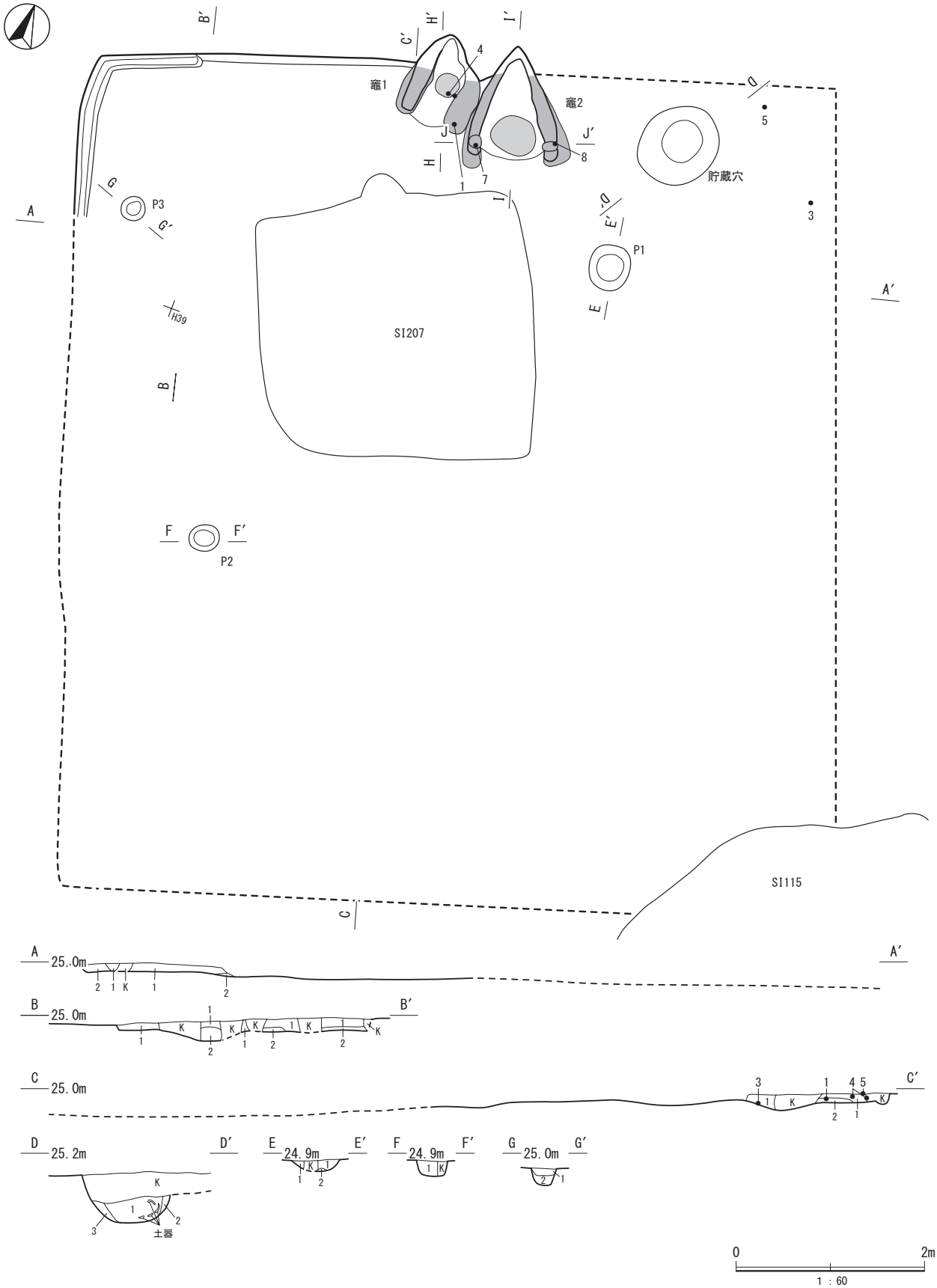
貯蔵穴　竈東側に位置し、長径 70cm、短径 50cmの楕円形で、深さ 80cmである。

遺物出土状況　土師器片 190 点 [坏 16 点 (230g)、高坏 1 点 (39g)、甕 173 点 (4,200g)]、須恵器片 8 点 [坏６点 (43g)、蓋２点 (150g)]、弥生土器片１点 (４g)、瓦片１点 (15g)、磁器片１点 (４g)、礫３点 (3,300g)。１・３の土師器坏は竈前の床面、４の土師器甕は貯蔵穴内、６の土師器甑は北東部の床面から出土している。７の竈補強材は竈左袖内、８の竈補強材は竈右袖内から出土している。

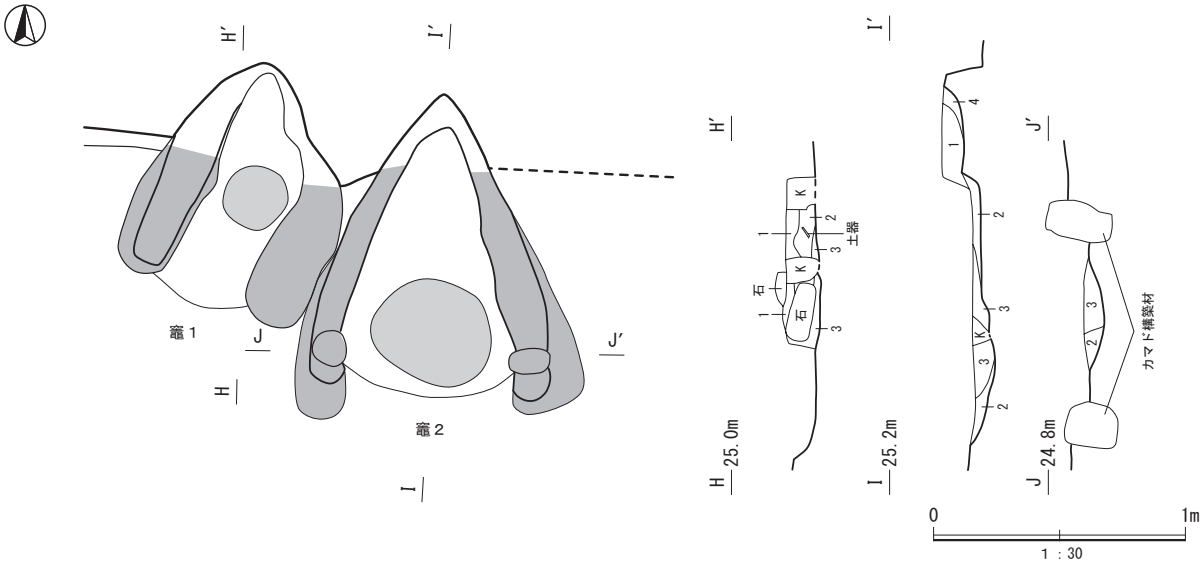
所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子少量　粘土粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　粘土ブロック・粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームフロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 167 図　第 205 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 168 図　第 205 号竪穴建物跡実測図 (2)

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

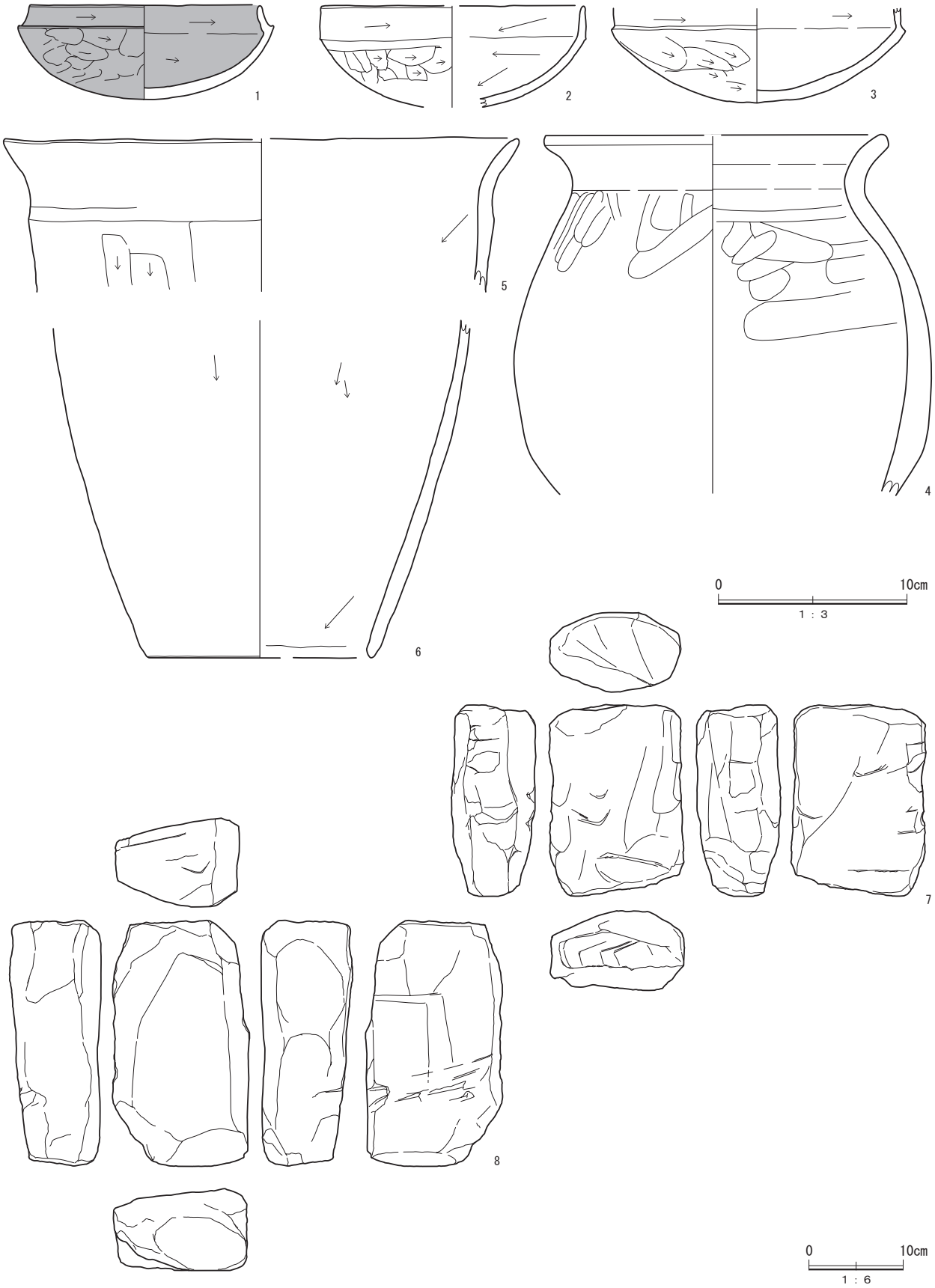
竈 1 土層解説
1　2.5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし (火床面)

竈 2 土層解説
1　2.5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　2.5YR　4/2　灰 赤 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　黄白色粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子少量　灰少量／粘性なし　締まりなし (火床面)
4　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子微量　ローム粒子中量／粘性あり　締まりあり (掘方)

第 73 表　第 205 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.2	5.0	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内外面黒色処理	竈前面床面	100% 写真図版56
2	土師器	坏	[14.0]	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横位・放射状のヘラミガキ	覆土中	30%
3	土師器	坏	—	(5.0)	—	長石・石英	暗褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面ナデ	東壁床面	15%
4	土師器	甕	[17.9]	(19.1)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不鮮明　内面横ナデ	竈内	60% 写真図版56
5	土師器	甕	[27.0]	(8.0)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り摩滅により不鮮明　内面斜位のナデ	北部覆土下層	15%
6	土師器	甑	—	(18.0)	[12.0]	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部内外面摩滅により調整痕不鮮明 底部横位のヘラ切り	北東部床面	25%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	竈構築材	26.1	14.5	9.5	2,147	凝灰岩	成形痕	竈左袖内	写真図版56
8	竈構築材	20.3	14.8	8.9	1477.0	凝灰岩	成形痕	竈右袖内	



第 169 図　第 205 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 206 号竪穴建物跡 (SI-206)(第 170・171 図　写真図版 35・36)

位置　調査区中央部 D37、E37･38、F37･38 グリットに位置し、標高 25 mの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区外に延びていることから、南北軸は 7.00 mで、東西軸は 6.50 mでしか確認できなかった。平面形は不明である。主軸方向は、Ｎ－７°－Ｗと推測できる。壁は確認面から最大高 24cmで、外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。

竈　調査区外にあると考えられる。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出でき、Ｐ１～Ｐ３は主柱穴、Ｐ４は出入口施設と考えられる。Ｐ１：40 × 40cm、深さ 52cm、Ｐ２:70 × 60cm、深さ 70cm、Ｐ３:30 × 28cm、深さ 18cm、Ｐ 4:48 × 46cm、深さ 20cm、Ｐ５：40 × 40cm、深さ 52cmである。

遺物出土状況　土師器片 208 点 [坏２点 (166g)、高坏２点 (482g)、甕 203 点 (4,255g)、甑１点 (31g)]、須恵器片３点［坏１点 (５g)、高台付坏１点 (18g)、甕１点 (34g)］、弥生土器片 13 点 (119g)、金属製品１点 (0.5g)、土製品１点 (140g)、石製品１点 (３g)、礫３点 (542g)。１の土師器坏・７の有孔円板は中央部の床面、３の土師器高坏・６の支脚・５の土師器甕は南東部の床面から出土している。８の金属製品は北西部の床面、４の土師器高坏は西部の覆土下層から出土している。

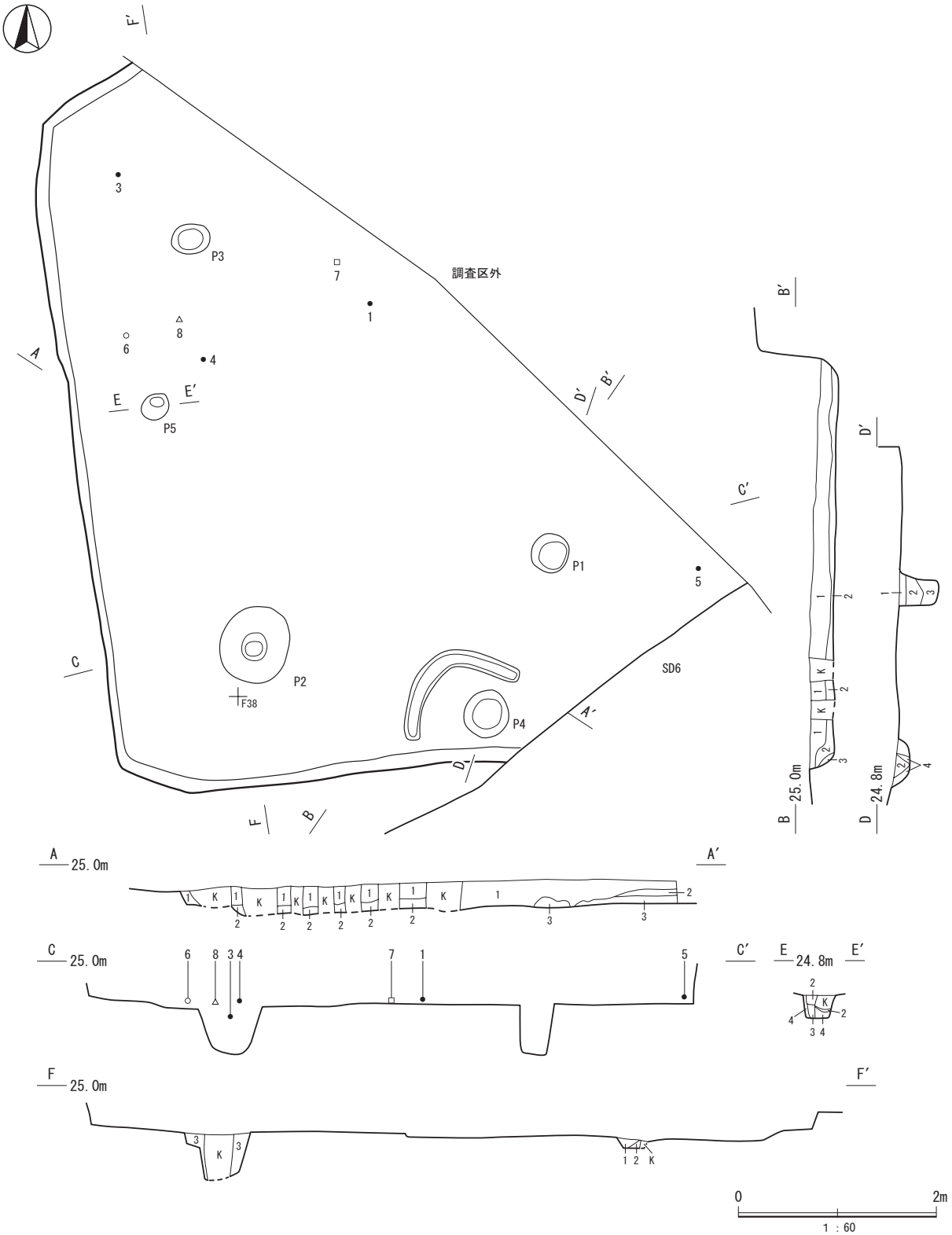
所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

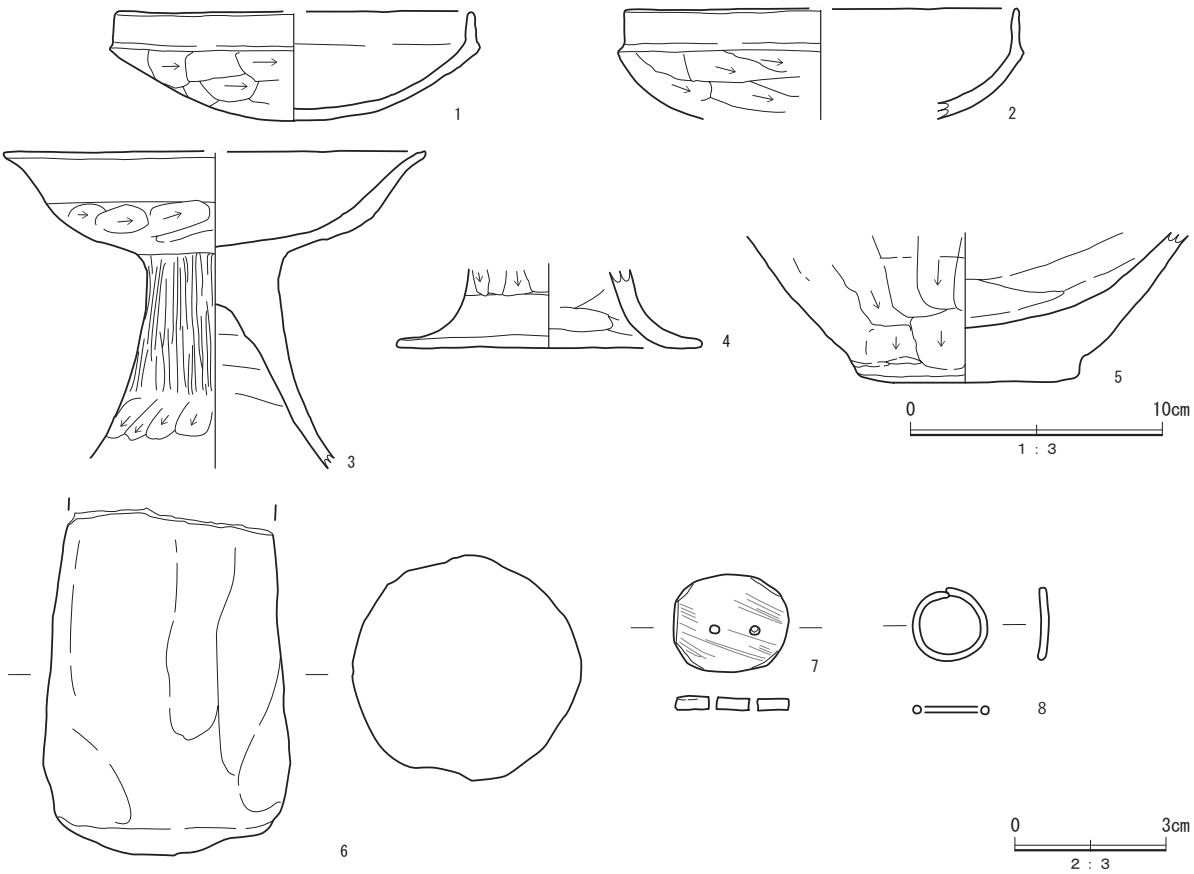
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 170 図　第 206 号竪穴建物跡実測図



第 171 図　第 206 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 74 表　第 206 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	4.4	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	中央部床面	25%
2	土師器	坏	[15.6]	(4.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のナデ	覆土中	25%
3	土師器	高坏	17.0	(12.5)	—	長石・石英・チャート・スコリア	にぶい橙	普通	坏部口縁部横ナデ　外面下端横位のヘラ削り 脚部縦位のヘラナデ　下端縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	北西部床面	50%
4	土師器	高坏	—	(3.2)	[12.0]	長石・石英	暗褐	良好	台部外面上位縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ 裾部横位のナデ	西部床面	10%
5	土師器	甕	—	(6.0)	8.8	長石・石英・チャート・スコリア	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面指頭ナデ　底部ヘラ削り	南東部床面	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	色調	特徴	出土位置	備考
6	支脚	(6.8)	4.8	4.8	(140.0)	にぶい褐	外面縦位の指ナデ	西部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	有孔円板	2.3	1.9	0.2	3	片石	表面に研磨による筋あり　一方向からの穿孔２か所	中央部床面	写真図版56

番号	種別	口径	内径	太さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	リング	1.45	1.13	0.16	0.5	鉄	鉄地銅貼	北西部床面	写真図版56

第 210 号竪穴建物跡 (SI-210)(第 172・173 図　写真図版 36)

位置　調査区中央部 B24･25、C24 ～ 26 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

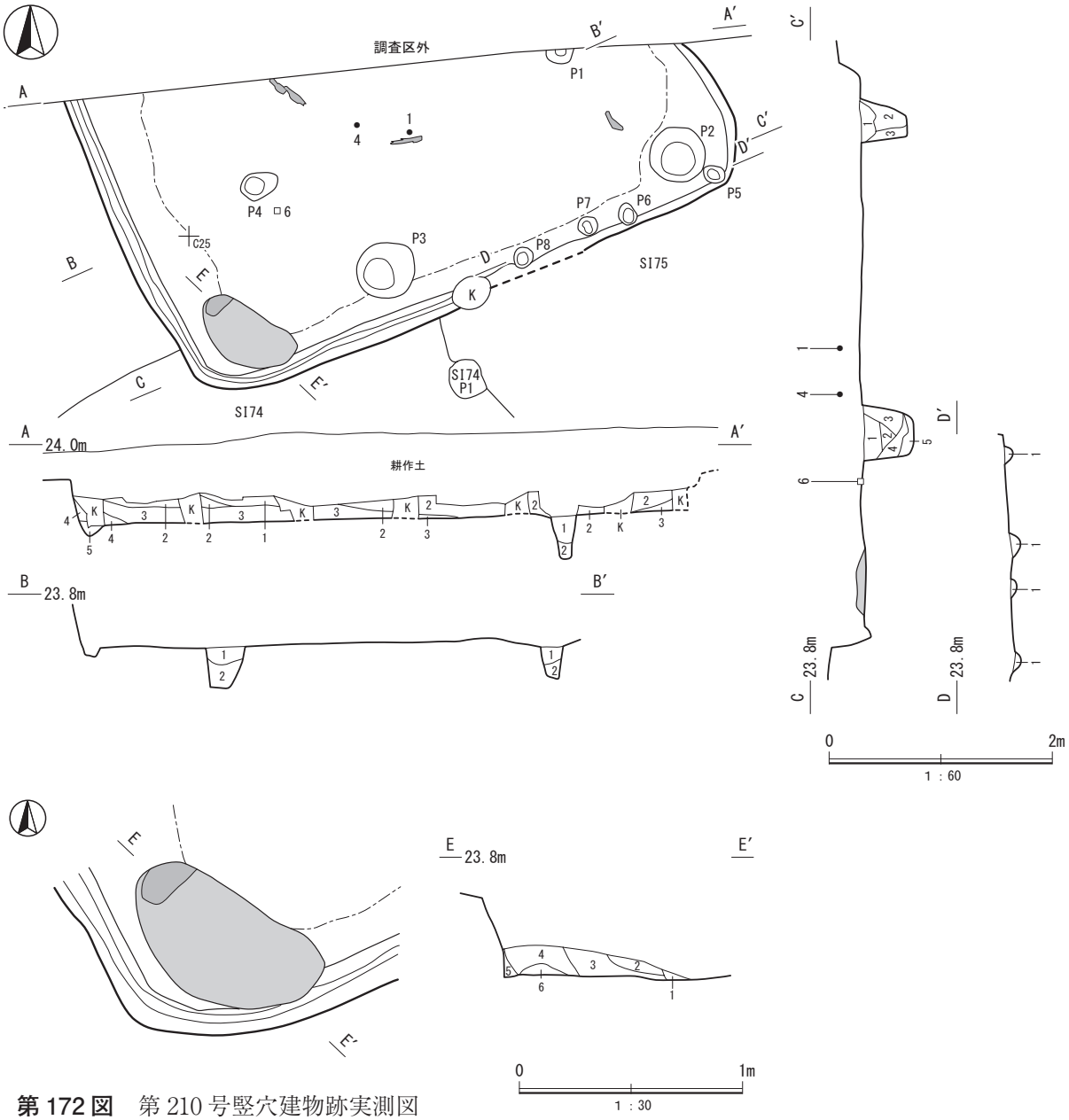
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 74・75 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延びており、南部を第 74・75 号竪穴建物に掘り込まれているので東西軸は 5.32 mで、南北軸は 3.00 mしか確認できず、平面形は方形又は長方形と推測される。南北軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は西壁と南壁で上幅 20 ～ 25cm、下幅 10 ～ 16cm、深さ 10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　壁際を除いて踏み固められている。

土層　５層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子を含んでいるが、自然堆積と考えられる。



第 172 図　第 210 号竪穴建物跡実測図

ピット　ピット８か所が検出でき、明らかに主柱穴と断定できるピットはなかった。Ｐ１：30 × 12cm、深さ 50cm、Ｐ２：50 × 50cm、深さ 40cm、Ｐ３：52 × 50cm、深さ 48cm、Ｐ４：32 × 20cm、深さ 42cmである。Ｐ５：22 × 18cm、深さ 10cm、Ｐ６：18 × 16cm、深さ 10cm、Ｐ７：20 × 20cm、深さ８cm、Ｐ８：22 × 20cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 149 点 [坏４点 (138g)、坩２点 (97g)、甕 143 点 (1,100g)]、縄文土器片１点 (32g)、弥生土器片 17 点 (185g)、土製品１点 (34g)、石製品１点 (16g)、礫 10 点 (731g)、牡蠣貝殻７点 (336g)。１の土師器坏・４の土師器甕は中央部の覆土中層、６の石製紡錘車は南西部の床面、２の土師器坏・３の土師器坩・５の管状土錘は覆土中から出土している。牡蠣の貝殻は覆土中から出土しており、建物が廃棄された後に投棄されたものとみられる。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期５世紀中葉と考えられる。覆土中に炭化物や焼土が堆積しているので焼失家屋と考えられる。

土層解説

1	5YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物微量・粒子中量／粘性あり　締まりなし	
2	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化物少量・粒子中量／粘性あり　締まりなし	
3	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子多量　炭化物中量・粒子少量／粘性あり　締まりなし	
4	5YR	2/3	極暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし	
5	7.5YR	4/4	褐　　色	ローム粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし (壁溝)	

P1 ピット土層解説

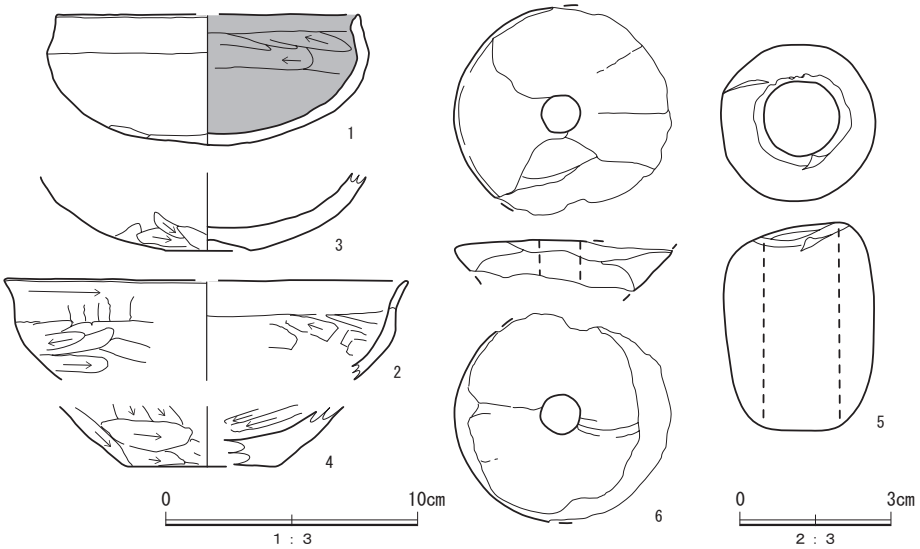
1	7.5YR	3/3	暗褐色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物少量・粒子中量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/2	黒褐色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物・粒子中量／粘性あり　締まりなし

P2 ～ P8 ピット土層解説

1	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/1	黒褐色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
4	7.5YR	3/2	黒褐色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	4/3	褐　　色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

焼土土層解説

1	5YR	2/1	黒褐色	焼土粒子少量　炭化物多量・粒子中量／粘性あり　締まりなし
2	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
3	5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4	7.5YR	3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
6	7.5YR	4/3	褐　　色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 173 図　第 210 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 75 表　第 210 号竪穴建物跡出土遺物観察

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.0]	5.3	―	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　外面横位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ　内面黒色処理	中央部中層部	25%
2	土師器	坏	[16.0]	(4.0)	―	長石・スコリア・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	覆土中	15%
3	土師器	坩	―	(3.0)	3.4	長石・石英・角閃石	赤褐	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面剥離部多い　底部放射状のヘラ削り	覆土中	10%
4	土師器	甕	―	(3.0)	6.0	長石・石英	赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラナデ	中央部中層部	10%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	管状土錘	4.1	3.0	1.5	33.5	長石	赤褐	外面ナデ	覆土中	写真図版56

番号	種別	径	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	紡錘車	(4.3)	(1.0)	0.8	(15.6)	滑石	上下剥離	南西部床面	

第 230 号竪穴建物跡 (SI-230)(第 174・175 図)

位置　調査区中央部 O45、P45・46 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　南部が調査区外に延びており、東西軸は 6.20 mで、南北軸は 1.50 mしか確認できず、平面形は方形又は長方形と推測される。主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床　確認部は踏み固められている。

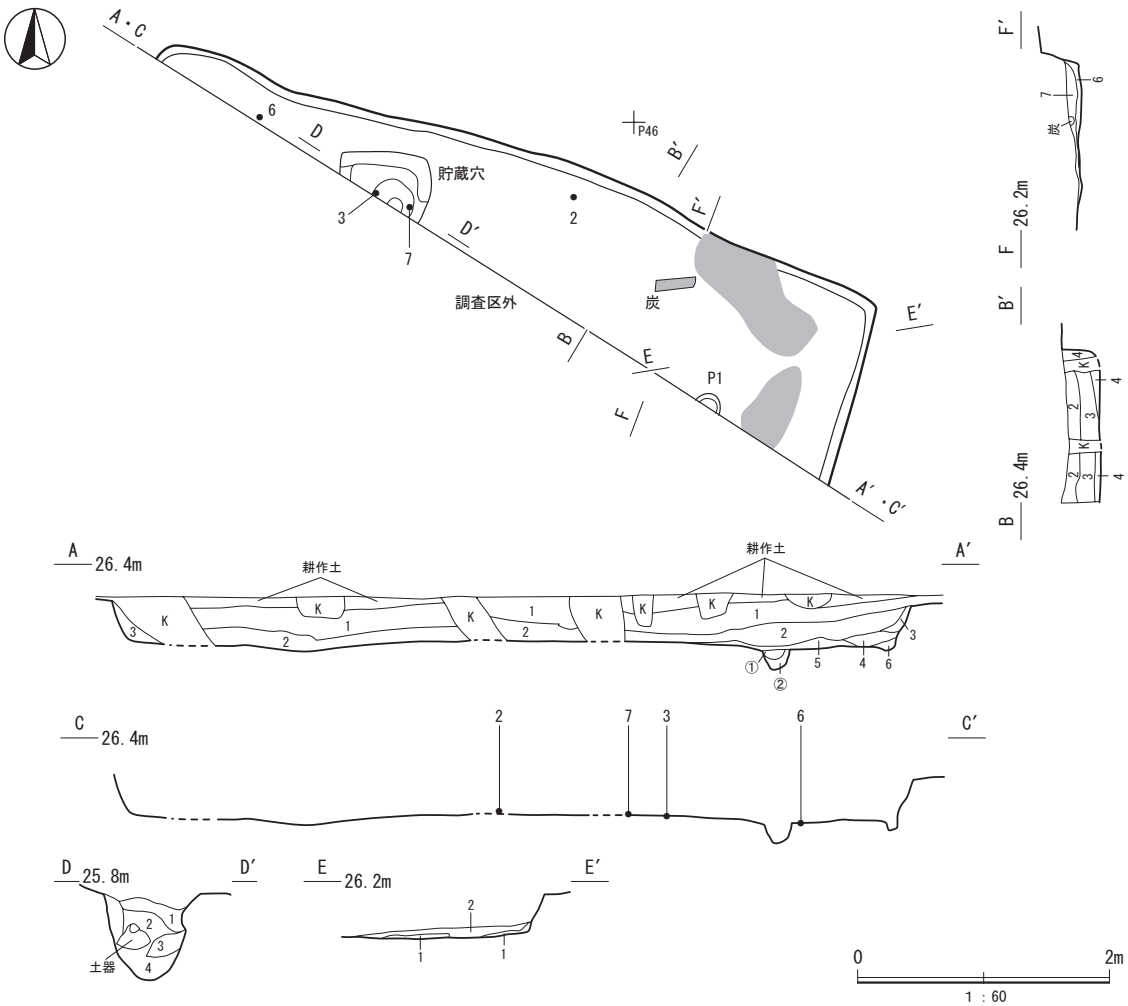
土層　８層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子を含んでいるが、自然堆積とみられる。

ピット　ピット１か所が検出でき、Ｐ１：20 × 10cm、深さ 20cmである。

貯蔵穴　長軸 70cm、短軸は 50cmしか確認できなかったが、方形とみられ、深さ 80cmである。

遺物出土状況　土師器片 144 点 [高台付坏 11 点 (142g)、高坏３点 (427g)、坩２点 (231g)、甕 128 点 (1,501g)]、弥生土器片３点 (39g)、炭化材 (488g)。２の土師器坩は北部の床面、３の土師器高坏・７の土師器壺は貯蔵穴内、６の土師器甕は北西部の床面から出土している。１の土師器坩・４・５の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。覆土中に炭化材や焼土が堆積しているので焼失家屋と考えられる。



第 174 図　第 230 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　2/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

焼土土層解説

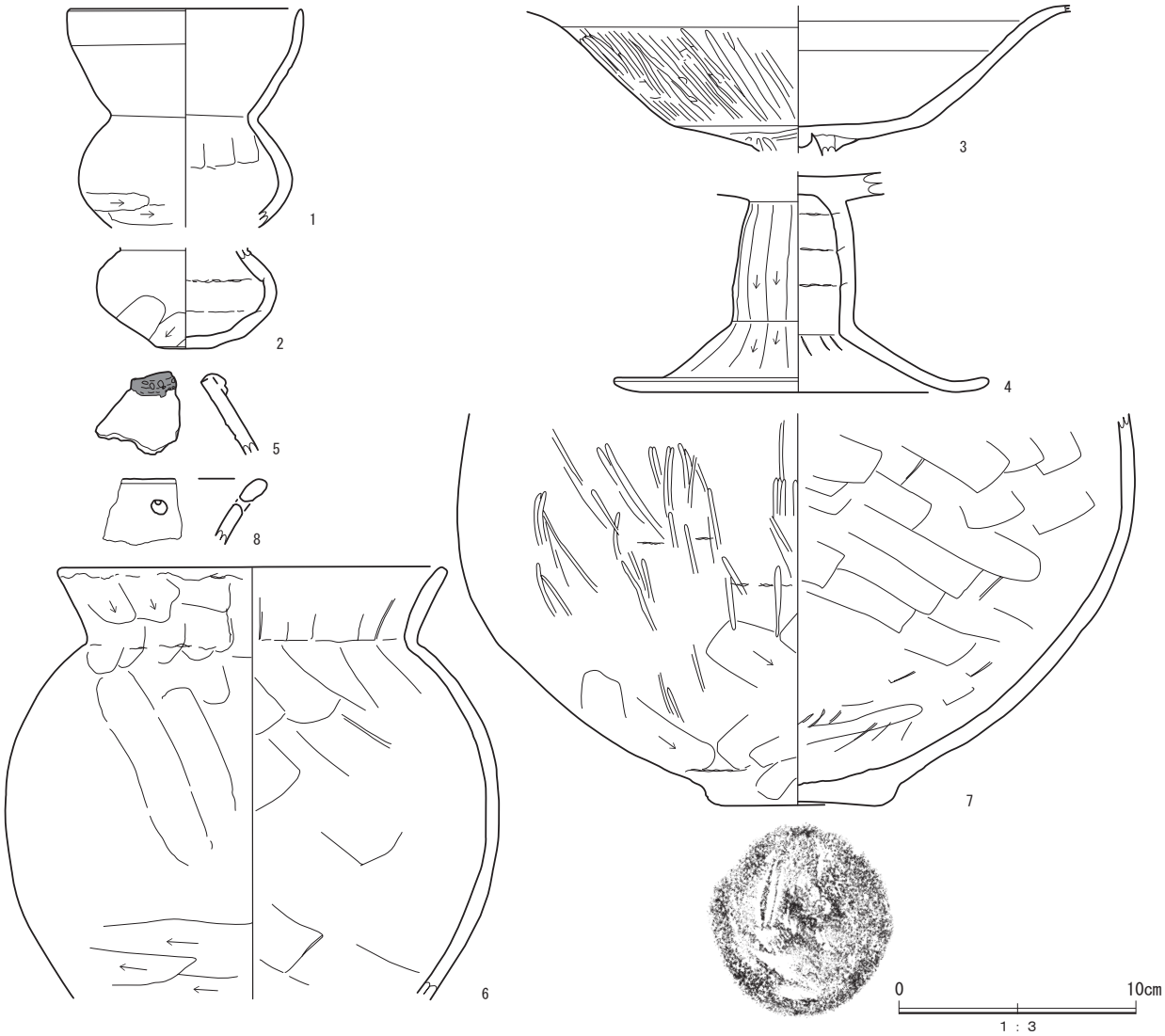
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　5YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化物少量・粒子中量／粘性あり　締まりなし

貯蔵穴土層解説

1　5YR　2/2　黒 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　5YR　3/2　極暗褐色　焼土粒子中量　炭化物少量・粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　5YR　3/3　極暗褐色　焼土粒子中量　炭化物・粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

①　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
②　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まり



第 175 図　第 230 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 76 表　第 230 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	9.6	(9.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面下端横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	覆土中	70%
2	土師器	坩	—	(4.3)	2.4～2.9	長石・石英	橙	普通	体部下端斜位のヘラ削り　内面横ナデ　底部一方向のヘラ削り	北部床面	50%
3	土師器	高坏	—	(6.0)	—	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　坏部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	覆土中	10%
4	土師器	高坏	—	(9.2)	[15.7]	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ　裾部横ナデ	貯蔵穴内	60%
5	土師器	高坏	—	(3.5)	—	長石・石英・細礫	橙	普通	脚部外面横ナデ　内面横ナデ　羽口転用により高温で器面灰色に変質	覆土中	5% 羽口転用
6	土師器	甕	[16.0]	(18.7)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　体部外面上位斜位のヘラナデ下位横位のヘラ削り　内面斜位のヘラナデ	北西部床面	30%
7	土師器	壺	—	(16.5)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面斜位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面斜位のヘラナデ	貯蔵穴内	40%
8	土師器	甕	—	(2.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　径 0.3 ～ 0.6cmの補修孔	覆土中	5%

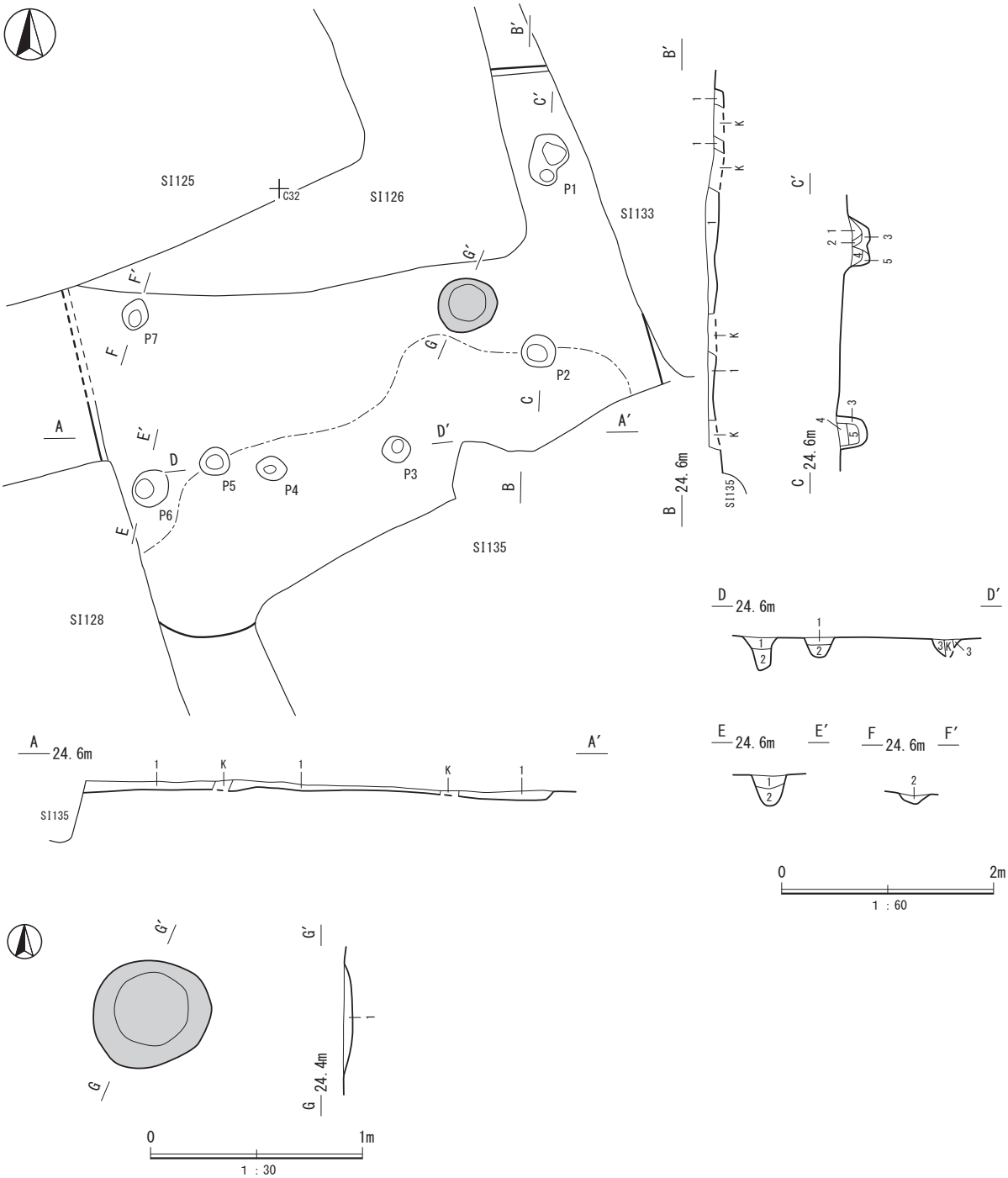
第 235 号竪穴建物跡 (SI-235)(第 176 図)

位置　調査区中央部 B32 ～ C32 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 125・126・128・133・135 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部を第 126 号竪穴建物に、南部を第 135 号竪穴建物に、東部を第 133 号竪穴建物に、西部を第 128 号竪穴建物に掘り込まれているので、東西軸は 5.20 mで、南北軸は 3.14 mで、平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 70°－ Ｅと推測される。壁は確認面から最大高 10cmで、外傾して立



第 176 図　第 235 号竪穴建物跡実測図

ち上がっている。

床　南部が踏み固められている。

土層　単一層である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

炉　中央部東寄りに位置し、長径55cm、短径50cmの円形で、床面を５cm程掘りくぼめられて使用されている。

ピット　ピット７か所が検出でき、Ｐ１:50 × 40cm、深さ20cm、Ｐ２:35 × 30cm、深さ30cm、Ｐ３:25 × 25cm、深さ10cm、Ｐ４:30 × 25cm、深さ20cm、Ｐ５:30 × 24cm、深さ10cm、Ｐ６:37 × 32cm、深さ30cm、Ｐ７：30 × 25cm、深さ10cmである。

遺物出土状況　土師器片13点[坏６点(46g)、甕７点(178g)]、礫１点(７g)。

所見　時期は、重複関係から古墳時代前期と考えられる。

土層解説

1	7.5YR	2/1	黒 褐 色	ローム粒子微量	炭化粒子中量　黒色土粒子中量／粘性あり	締まりなし

ピット土層解説

1	7.5YR	3/2	黒 褐 色	ローム粒子少量	炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり	締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量	炭化粒子多量／粘性あり	締まりなし
3	7.5YR	4/3	褐　　色	ロームブロック中量・粒子多量	炭化粒子微量／粘性あり	締まりなし
4	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ローム粒子少量	炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり	締まりあり
5	7.5YR	3/2	黒 褐 色	ローム粒子少量	炭化粒子多量／粘性あり	締まりなし

炉土層解説

1	５YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子中量／粘性なし	締まりあり

第237号竪穴建物跡(SI-237)(第177図　写真図版37)

位置　調査区中央部J44・45、K44・45グリットに位置し、標高25ｍの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第203号竪穴建物・第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状　壁が確認できなかったことから、推定される南北軸は4.00ｍ、東西軸は3.96ｍで、平面形は方形で、主軸方位はＮ－10°－Ｅと推測される。壁は確認できなかった。

床　中央部が僅かに踏み固められている。

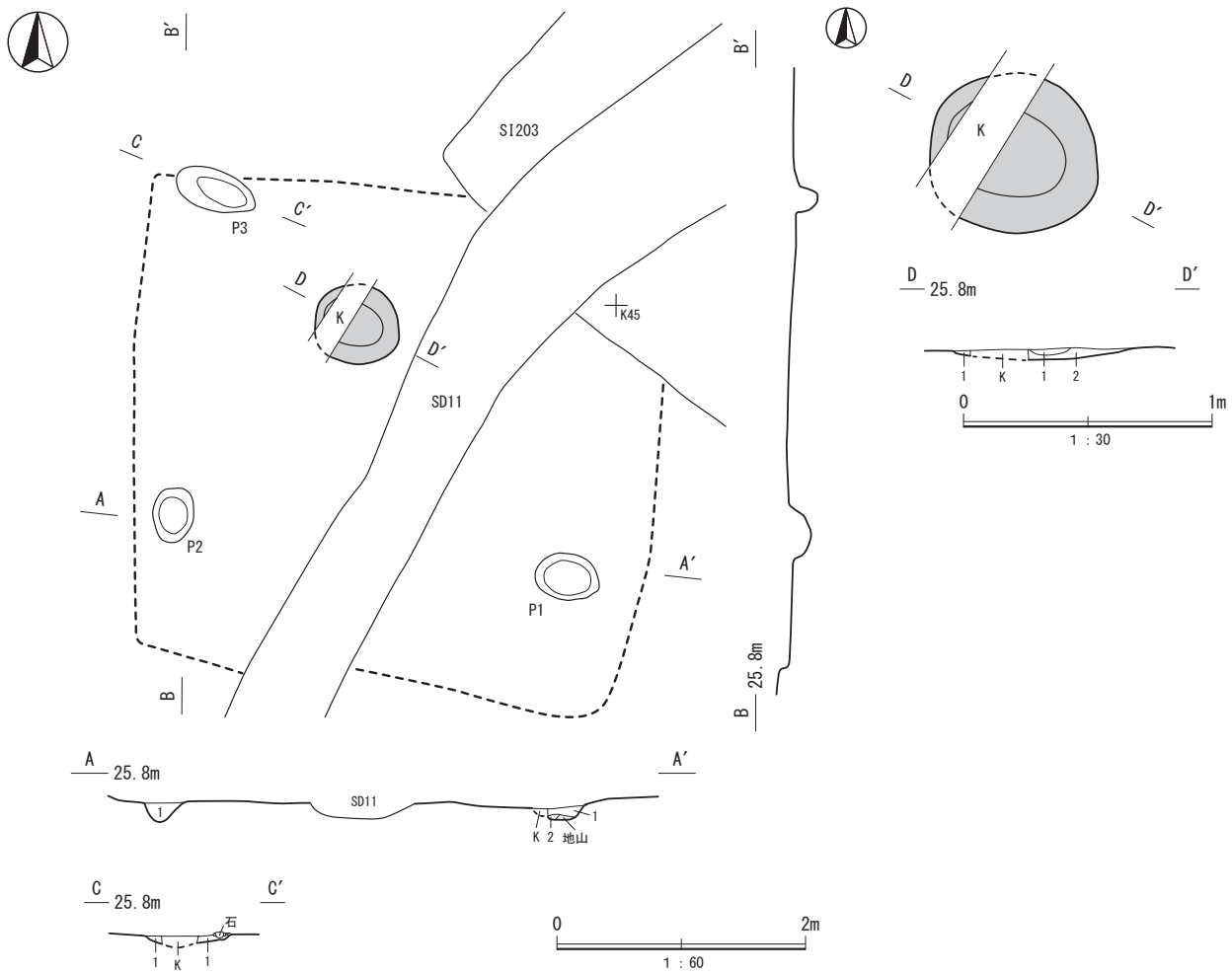
土層　覆土は確認できなかった。

炉　中央部北寄りに位置し、長径70cm、短径60cmの円形で、床面を５cm程掘りくぼめられて使用されている。

ピット　ピット３か所が検出できた。Ｐ１：52 × 30cm、深さ10cm、Ｐ２：34 × 30cm、深さ18cm、Ｐ３：70 × 40cm、深さ10cmである。

遺物出土状況　土師器甕片４点(57g)、縄文土器片１点(26g)、弥生土器片６点(45g)。１の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

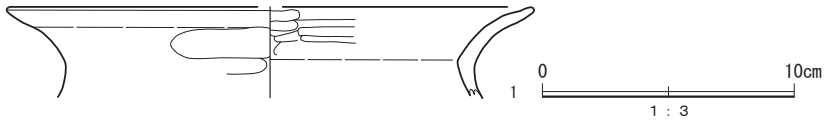


炉土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

1　5YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 177 図　第 237 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 77 表　第 237 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.6]	(3.6)	―	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁部横ナデ　内外面横位のヘラナデ	覆土中	5%

第 238 号竪穴建物跡 (SI-238)(第 178・179 図　写真図版 37)

位置　調査区中央部 H35・36、I35 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 51 号竪穴建物・第 13 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　壁が確認できなかったことから、東西軸は 5.00 m、南北軸は 4.16 mと推定され、平面形は長方形で、主軸方位はN － 50° － E と推測される。壁は確認できなかった。

床　中央部が僅かに踏み固められている。

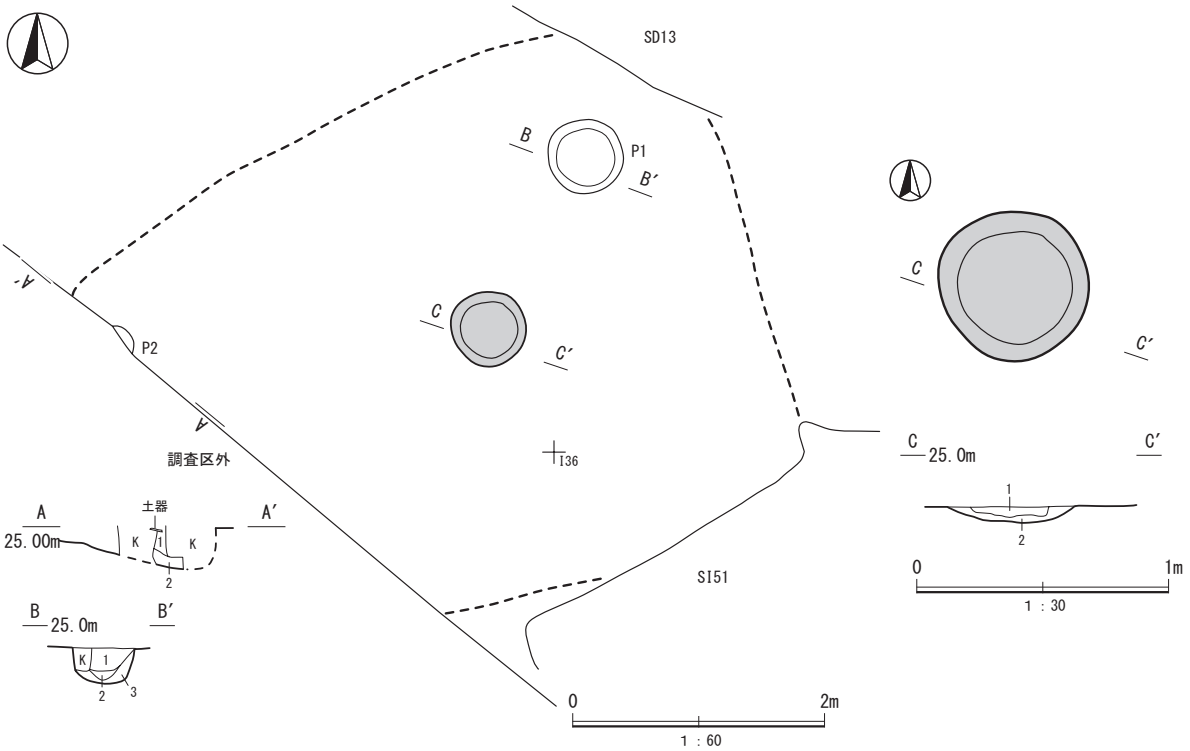
土層　覆土は確認できなかった。

炉　中央部東寄りに位置し、長径 60cm、短径 54cmの円形で、床面を５cm程掘りくぼめられて使用されている。

ピット　ピット２か所が検出できた。Ｐ１:60 × 54cm､深さ 24cm､Ｐ２:60 × 10cm､深さ 32cmである。

遺物出土状況　土師器片 19 点［高坏１点 (43g)、甕 18 点 (211g)］、陶器片１点 (16g)。１の土師器高坏・２の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。



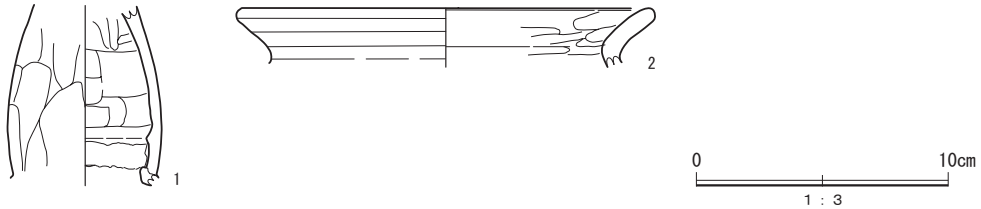
第 178 図　第 238 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

炉土層解説

1　５YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　５YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　ローム粒子微量／粘性なし　締まりなし



第 179 図　第 238 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 78 表　第 238 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	―	(7.1)	―	長石・石英	橙	普通	脚部外面縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	覆土中	10%
2	土師器	甕	[16.2]	(2.3)	―	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　内面横位のヘラナデ	覆土中	5%

第 240 号竪穴建物跡 (SI-240)(第 180・181 図　写真図版 37)

位置　調査区中央部 A31 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

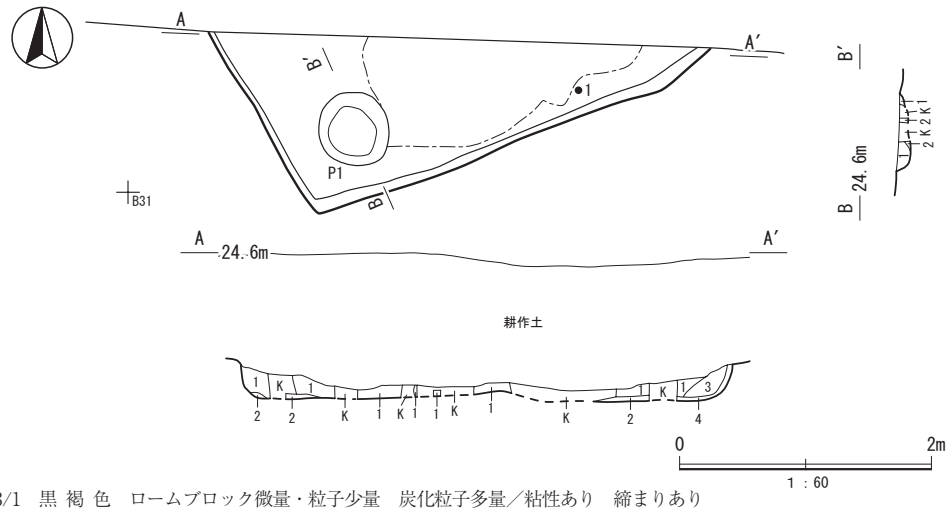
規模と形状　北部が調査外に延びており、東西軸は 3.10 m、南北軸は 1.20 mしか確認できず、平面形は方形または長方形で、主軸方位は不明である。壁は確認面から 20cm である。

床　平坦で中央部が踏み固められている。

土層　４層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積と考えられる。

炉　確認できなかった。

ピット　１か所を確認する。Ｐ１は径 60cm、深さ 10cm である。



土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり (床部)
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

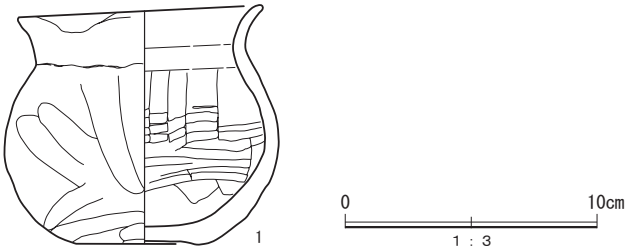
ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

第 180 図　第 240 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片３点［坩１点(43g)、甕２点(47g)］、弥生土器片２点(23g)。１の土師器高坩は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。



第 181 図　第 240 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 79 表　第 240 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	小形甕	[9.6]	9.5	5.1	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位・縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ　底部２方向のナデ	覆土中	95%

第 247 号竪穴建物跡 (SI-247)(第 182 図　写真図版 17・37)

位置　調査区西部Ｋ７～Ｋ８グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 90 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部は第 90 号竪穴建物に掘り込まれ、南部が調査区外に延びており、東西軸は、4.80 ｍで、南北軸は 1.90 ｍでしか確認できなかった。平面形は不明である。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。

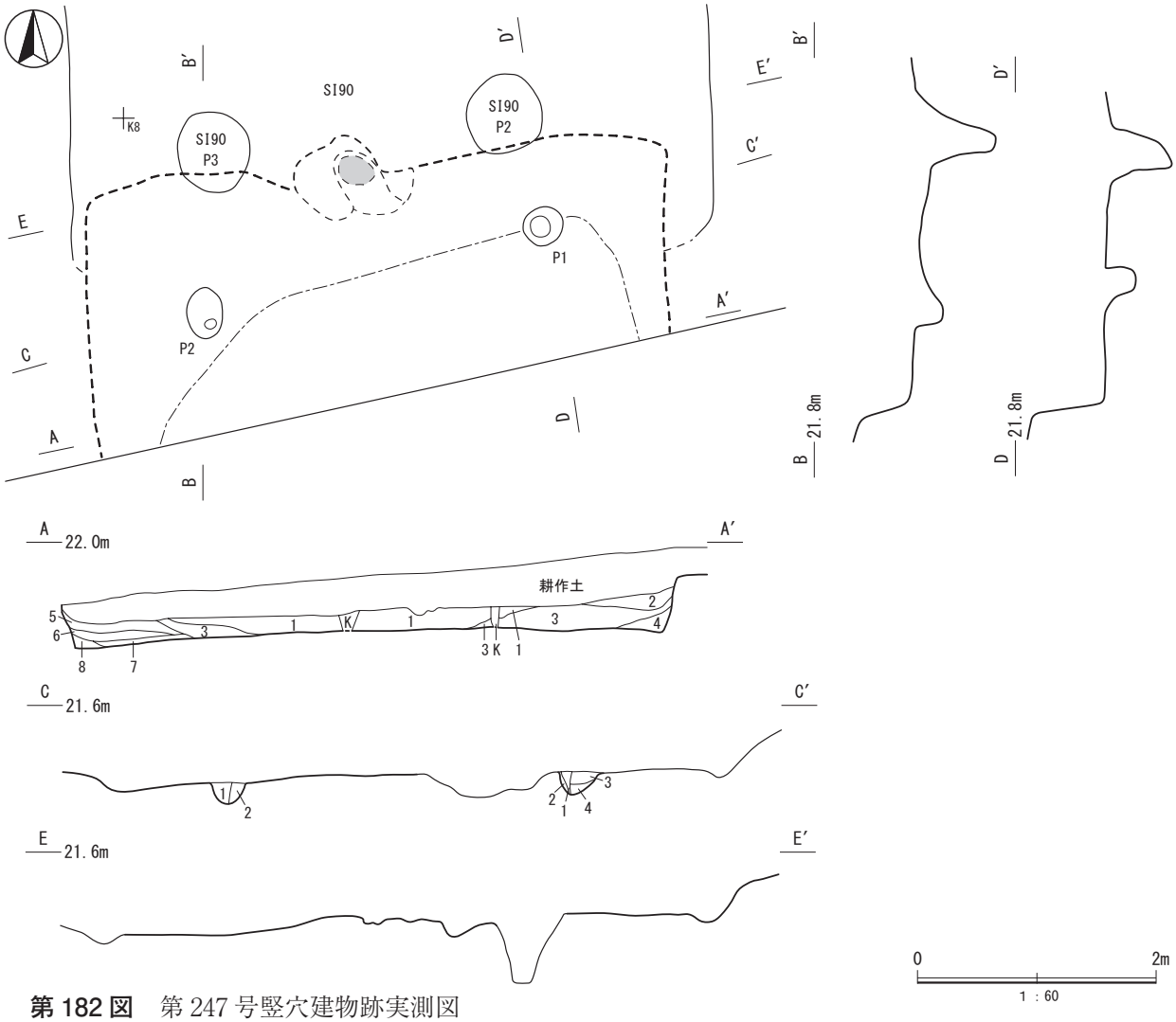
竈　北西壁中央に痕跡を確認する。火床部から煙道部までは 40㎝である。袖部の痕跡から基部の最大幅は約 70㎝である。火床面は、床面から５㎝ほど掘りくぼめている。

土層　８層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット２か所が検出できた。主柱穴の可能性がある。Ｐ１：30 × 28㎝、深さ 28㎝、Ｐ２：40 × 30㎝、深さ 20㎝である。

遺物出土状況　土師器片４点 [坏１点 (８g)、甕３点 (87g)]、礫１点 (15g)。

所見　時期は、掲載できる遺物はないが重複関係から古墳時代後期と考えられる。



第 182 図　第 247 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量　焼土粒子中量／粘性あり　締まりなし
7　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし
8　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

第 248 号竪穴建物跡 (SI-248)(第 183・184 図　写真図版 38)

位置　調査区西部 K6・7、L6 グリットに位置し、標高 20 mの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 94 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部は第 94 号竪穴建物に掘り込まれ、南部が調査区外に延びており、東西軸は 5.50 mで、南北軸は 1.20 mでしか確認できなかった。平面形は不明である。壁は確認面から最大高 30 cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈周辺が踏み固められている。

竈　北西壁中央に灰白色粘土で構築され、火床部から煙道部までは 70cmである。袖部の基部の最大幅は約 120cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　８層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット１か所が検出できた。Ｐ１：40 × 40cm、深さ 40cm、である。

貯蔵穴　竈右側に位置し、長軸 60cm、短軸 40cmの長方形で深さ 50cmである。

遺物出土状況　土師器片 99 点 [坏 20 点 (1,002g)、甑 1 点 (2,189g)、甕 78 点 (1,008g)]、弥生土器片 4 点 (56g)、礫 6 点 (653g)。１～３の土師器坏・４の土師器甑・５の土師器甕は貯蔵穴内から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

1	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量　焼土粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし 締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/2	灰 褐 色	ローム粒子少量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	5/2	灰 白 色	灰白色粘土ブロック・粒子中量／粘性強い　締まり強い
6	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
7	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
8	7.5YR	4/2	灰 褐 色	ロームブロック・粒子少量　白色粘土ブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

Ｐ１土層解説

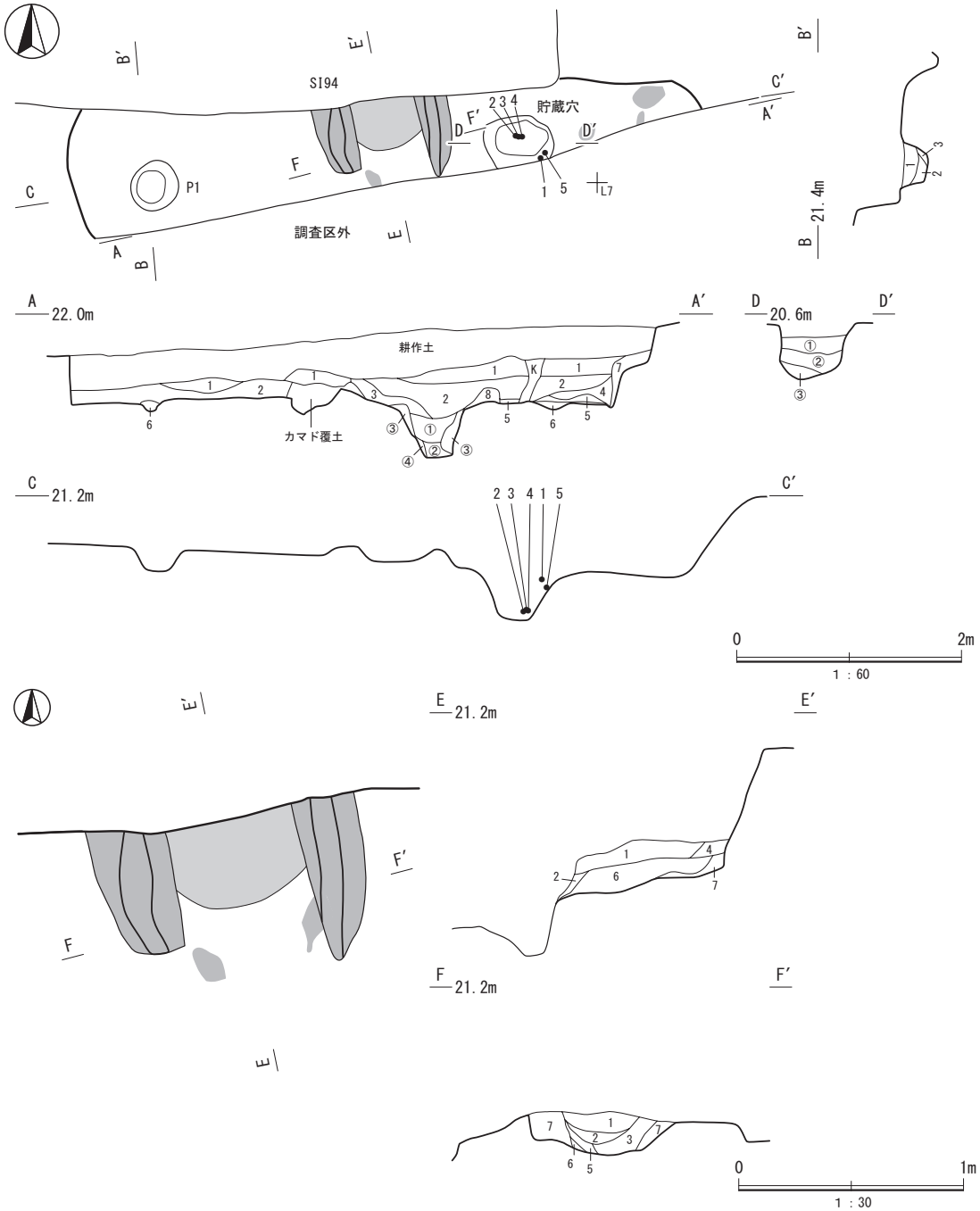
1	7.5YR	3/2	黒 褐 色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴土層解説

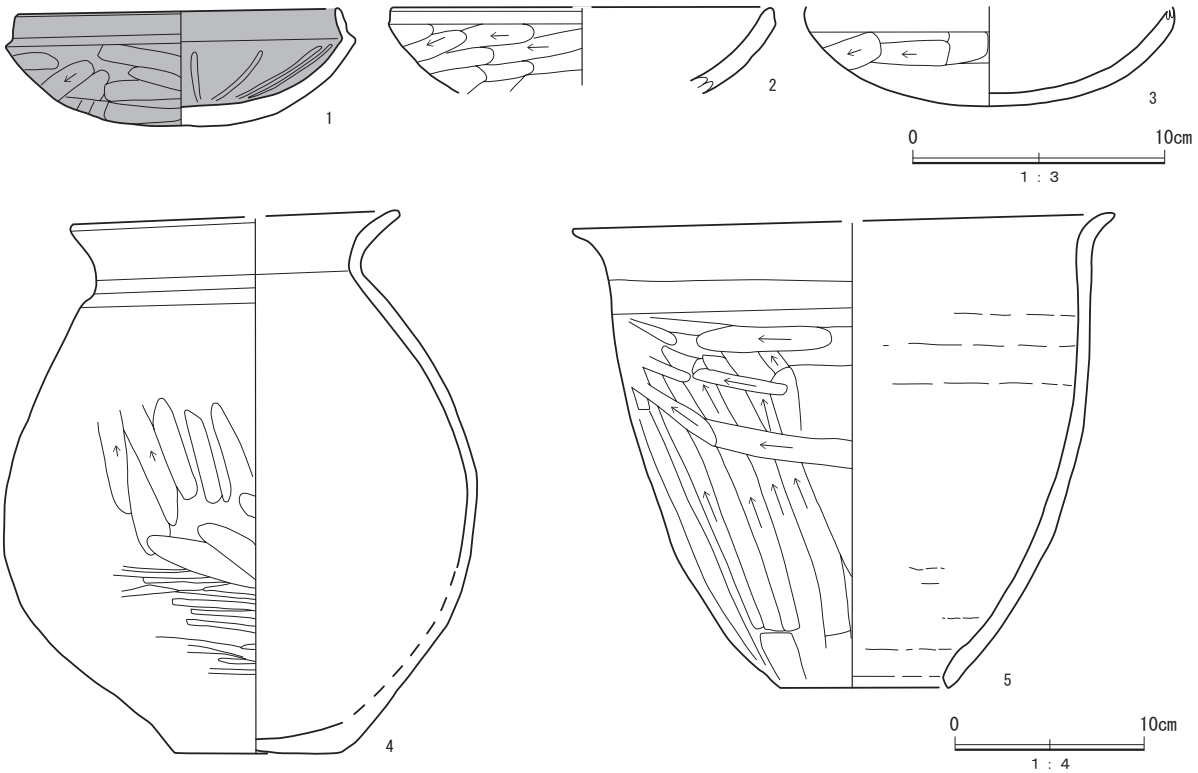
①	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
②	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
③	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
④	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性強い　締まりあり
2	7.5YR	3/2	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まり強い
3	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームフロック・粒子少量　焼土ブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
5	7.5YR	4/2	灰 褐 色	ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
6	7.5YR	4/1	灰 褐 色	粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
7	7.5YR	6/1	褐 灰 色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　粘土ブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり



第 183 図　第 248 号竪穴建物跡実測図



第 184 図　第 248 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 80 表　第 248 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.5	4.7	—	長石・石英	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内外面黒色処理	貯蔵穴内	90% 写真図版56
2	土師器	坏	—	(3.9)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面摩滅により調整痕不明	貯蔵穴内	60%
3	土師器	坏	[15.0]	(3.4)	—	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	貯蔵穴内	20%
4	土師器	甕	17.1	27.9～28.7	8.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面上位縦位のヘラ削り　下位横位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	貯蔵穴内	95% 写真図版56
5	土師器	甑	28.5	24.2	8.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位・横位のヘラ削り　内面ナデ	貯蔵穴内	90% 写真図版56

第 81 表　古墳時代の竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時期	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口ピット	他のピット	炉・竈	貯蔵穴			
1	I3・4 J3・4	N-15° -W	方形	4.10 × 4.08	60	平坦	—	—	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-11 →本跡→ SD-2
5	G2・3	N-10° -E	方形	(3.40) × (2.30)	40	平坦	—	—	—	1	—	—	土師器	鬼高期	本跡→ SD-1
9	H4・5 I4	N-10° -W	長方形	4.30 × (3.60)	20	平坦	—	—	—	—	—	—	土師器	鬼高期	SI-10・11 →本跡 → SD-2
10	G4 H4	不明	長方形	6.50 × (2.00)	20	平坦	一部	2	—	—	—	—	土師器	五領期	SI-19 →本跡 → SI-11 → SD-2、 SI-1
11	H4 I4	不明	長方形	4.10 × (2.20)	20	平坦	一部	2	—	—	—	—	土師器	和泉期	SI-10 →本跡→ SD-2
13	F22・23 G22・23	N-35° -W	方形	5.60 × 5.10	40	平坦	—	4	—	—	北壁竈	—	土師器・ 須恵器	鬼高期	SI-14・17 →本跡
14	E21 ～ 23 F21 ～ 23 G21・22	N-20° -W	方形	8.60 × 8.20	10	平坦	一部	4	—	2	炉 4	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-13
17	G23・24 H23	N-40° -W	長方形	5.20 × 4.20	40	平坦	—	2	1	—	北西壁竈	1	土師器・ 鏃	鬼高期	SI-88 →本跡 → SI-13
32	E26・27 F26・27	N-40° -W	方形	5.32 × 5.18	30	平坦	一部	4	1	1	炉	1	土師器	和泉期	SI-24・36 →本跡
33	D23~25 E23~25	N-40° -W	方形	7.00 × 6.60	18	平坦	—	4	1	1	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-85 →本跡
36	E26・27	N-20° -W	[長方形]	5.60 × (5.10)	30	平坦	一部	—	—	1	—	—	土師器	五領期	本跡→ SI-24・32・ 72
43	D31・32 E31・32 F30・31	N-50° -W	方形	6.50 × 6.46	20	平坦	一部	4	—	1	炉	1	土師器	和泉期	SI-87 →本跡 → SI- 45・147
44	F32 ～ 34 G32 ～ 34 H34	N-20° -W	方形	8.62 × 8.22	30	平坦	全周	3	—	1	—	1	土師器	和泉期	SD-13 →本跡
45	D30・31 E30 ～ 32 F30・31	N-35° -W	方形	7.96 × 7.62	40	平坦	一部	4	1	—	北西壁竈	1	土師器	鬼高期	SI-43・87・128・ 239 → SK-10 →本跡
72	D25・26 E25・26	N-35° -W	方形	6.24 × 5.62	12	平坦	全周	4	1	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-36・85 →本跡 → SI-37・127
74	C24・25 D25	N-25° -W	[長方形]	5.04 × (4.60)	12	平坦	全周	4	1	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-210 →本跡 → SI-75・127
75	B25・26 C25~27 D26	N-40° -W	方形	6.50 × 6.42	30	平坦	一部	4	1	2	北西壁竈	—	土師器・ 須恵器	鬼高期	SI-74・210 →本跡 → SI-76
79	C26・27 D26・27	N-5° -W	[方形]	6.60 × (5.82)	10	平坦	一部				炉	1	土師器	和泉期	本跡→ SI-76・80
80	B26 ～ 28 C27	N-25° -E	隅丸方形	5.90 × 5.80	46	平坦	一部	3	—	—	炉	1	土師器	五領期	本跡→ SI-79
82	F36・37 G36・37	N-30° -E	[方形]	5.72 × (4.20)	22	平坦	—	2	—	3	—	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-144、 SD-6・8
83	D34・35 E34・35 F35	N-25° -W	方形	5.46 × 5.20	34	平坦	全周	4	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-140・141・145 →本跡→ SA-3
84	F35・36	N-15° -W	方形	4.42 × 4.40	22	平坦	—	4	1	—	北壁竈	—	土師器・ 須恵器	鬼高期	SI-58 →本跡→ SA-1

87	D31・32 E32	N-40°-W	[隅丸長方形]	(3.50) × (2.76)	10	平坦	—	4	—	—	炉	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-43・45・128
88	G23・24	N-5°-W	不明	(4.10) × (3.20)	20	平坦	一部	2	—	—	炉	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-17・19
90	J7・8 K7・8	N-10°-W	方形	5.63 × 5.38	30	平坦	一部	4	—	1	北壁竈	—	土師器・須恵器	鬼高期	本跡→ SI-247
91	H7・8 I7・8 J7・8	N-20°-W	[長方形]	6.10 × (5.37)	5	平坦	一部	4	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	
93	J6 K5・6	N-40°-W	方形	3.76 × 3.60	40	平坦	—	—	—	2	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-94・95 →本跡
94	J5・6 K5・6	N-5°-W	方形	5.90 × 5.75	50	平坦	全周	4	1	1	北壁竈	1	土師器	鬼高期	SI-95・248 →本跡→ SI-93
95	I6 J5 ～ 7 K6	N-50°-W	方形	5.68 × 5.60	40	平坦	全周	4	—	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-104・107 →本跡→ SI-93・94
100	J2・3 K2・3	N-30°-W	［方形］	4.90 × (4.10)	20	平坦	半周	4	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	本跡→ SD-1
102	G5 ～ 7 H5 ～ 7	N-20°-W	［方形］	(6.20) × (6.10)	10	平坦	一部	4	1	—	—	—	土師器	鬼高期	本跡→ SI-96
103	K3・4 L4	N-75°-E	［方形］	(4.90) × (4.20)	25	平坦	全周	4	—	—	東壁竈	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-106
104	I5・6	N-10-E	不明	(4.40) × (4.00)	10	平坦	一部	—	—	1	—	—	土師器	五領期	本跡→ SI-95・96、SK-11
106	L3・4	N-30°-W	［方形］	(3.10) × (2.20)	50	平坦	—	—	—	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-113 →本跡→ SI-110
114	I39・40 J38 ～ 41 K38 ～ 40	N-70°-W	方形	8.40 × 7.80	50	平坦	全周	4	1	1	炉３	1	土師器	和泉期	本跡→ SI-123・120・121、SA-2
117	K41・42 L41・42	N-50°-W	方形	4.50 × 4.32	40	平坦	—	4	2	—	北西壁竈	1	土師器・須恵器	鬼高期	
118	H42 I41・42	N-20°-W	[隅丸方形]	4.50 × (2.20)	22	平坦	全周	—	—	—	—	1	土師器	五領期	
119	I42・43 J42・43 K42・43	N-20°-E	[方形]	6.80 × (6.40)	10	平坦	—	4	—	2	炉	1	土師器	和泉期	本跡→ SD-10
120	K39・40 L39・40	N-15°-W	方形	4.00 × 3.60	28	平坦	—	4	—	—	—	—	土師器	鬼高期	SI-114・122・123 →本跡
123	K39	N-45°-W	［方形］	(2.20) × (1.60)	28	平坦	—	—	—	—	—	—	土師器	鬼高期	SI-114 →本跡→ SI-120・122
124	B30	N-25°-W	方形	3.70 × 3.68	5	平坦	一部	4	1	3	炉	—	土師器	和泉期	SI-243 →本跡→ SI-129 → SK-4
126	B31・32 C31・32	N-15°-W	方形	5.10 × (4.40)	30	平坦	—	—	—	2	—	—	土師器	鬼高期	本跡→ SI-125
128	C30・31 D30~32	N-20°-W	方形	5.92 × 5.50	18	平坦	全周	4	—	1	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-87・235 →本跡→ SI-45
129	A29・30 B28 ～ 30 C28 ～ 31 D29	N-25°-W	方形	9.10 × 8.92	48	平坦	一部	4	1	3	北壁竈２	2	土師器・須恵器	鬼高期	SI-130・131 →本跡→ SI-124
131	B28・29 C28・29	N-10°-W	方形	5.20 × (3.20)	48	平坦	一部	3	—	1	炉	1	土師器	和泉期	SI-130 →本跡→ SI-129
133	B32・33 C32・33	N-25°-W	方形	5.95 × 5.90	36	平坦	一部	4	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-134 →本跡→ SI-135・137、SD-2
137	B33・34 C33・34	N-5°-W	方形	5.80 × 5.60	52	平坦	一部	4	1	—	北壁竈２	1	土師器・須恵器	鬼高期	SI-133 →本跡→ SI-136

138	B34・35 C34・35	N-10° -W	方形	5.08 × 5.06	54	平坦	—	3	1	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-139 →本跡
139	C34・35 D34・35	N-25° -W	方形	7.20 × 7.00	40	平坦	全周	3	—	—	炉	1	土師器	五領期	本跡→ SI-137・138
140	D35 E35・36 F35	N-30° -E	［方形］	4.86 × (2.20)	12	平坦	—	2	1	—	—	1	土師器	和泉期	本跡→ SI-83
142	I37 ～ 39 J37 ～ 39	N-35° -W	方形	6.75 × 6.40	40	平坦	—	4	—	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-143・233 →本跡
143	I37・38 J37	N-10° -W	［方形］	5.60 × (4.10)	40	平坦	—	4	—	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	和泉期	本跡→ SI-142、SK-15
144	G36 ～ 38 H36 ～ 38	N-35° -W	方形	7.80 × 7.20	10	平坦	—	4	1	—	北西壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-61・82 →本跡→ SI-52、SD-6
146	D32 ～ 34 E32 ～ 34	N-10° -W	方形	6.34 × 5.96	20	平坦	一部	4	—	2	北壁竈	—	土師器	鬼高期	SI-141 →本跡→ SI-145・147
148	E38・39 F38・39	N-40° -W	［方形］	(4.00) × (3.80)	30	平坦	一部	—	—	5	—	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-153、SD-6
149	H41・42 I41・42	N-20° -W	長方形	(4.62) × (4.60)	32	平坦	—	—	—	1	北西壁竈	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-116
150	L40・41 M40・41	N-30° -W	［方形］	6.95 × (2.80)	20	平坦	—	—	—	1	北西壁竈	1	土師器	鬼高期	
152	G40・41 H40	N-15° -W	［方形］	(6.00) × (3.60)	20	平坦	一部	1	—	—	—	—	土師器	鬼高期	
200	M46・47 N46・47 O46・47	N-35° -W	方形	7.24 × 7.06	54	平坦	全周	4	1	3	北西壁竈	—	土師器・須恵器	鬼高期	SI-201 →本跡
201	M46 N45・46 O46	N-45° -W	方形	4.88 × 4.80	24	平坦	—	3	—	7	—	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-200
205	G38 ～ 40 H38 ～ 40 I39	N-20° -W	方形	8.90 × 8.20	10	平坦	—	2	1	—	北西壁竈 2	1	土師器	鬼高期	本跡→ SI-207
206	D37 E37・38 F37・38	N-7° -W	不明	(7.00) × (6.50)	24	平坦	—	3	1	1	—	—	土師器	鬼高期	本跡→ SD-6
210	B24・25 C24 ～ 26	N-30° -W	［方形］	(5.32) × (3.00)	40	平坦	一部	2	—	6	—	—	土師器	鬼高期	本跡→ SI-74・75
230	O45 P45・46	—	不明	(6.20) × (1.50)	30	平坦	—	—	—	1	—	1	土師器	和泉期	
235	B32 ～ C32	N-69° -E	［方形］	(5.20) × (3.14)	40	平坦	—	—	—	7	炉	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-126・128・135
237	J44・45 K44・45	N-10° -E	［方形］	(4.00) × (3.96)	0	平坦	—	—	—	3	炉	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-203
238	H35・36 I35	—	［長方形］	(5.00) × (4.16)	0	平坦	—	—	—	2	—	—	土師器	和泉期	本跡→ SI-51・SD-13
240	A31	—	［方形］	(3.10) × (1.20)	20	平坦	—	—	—	1	—	—	土師器	和泉期	
247	K7 ～ K8	—	不明	(4.80) × (1.90)	30	平坦	—	—	—	2	北西壁竈	—	—	鬼高期	本跡→ SI-90
248	K6・7,L6	—	不明	5.50 × (1.20)	30	平坦	—	—	—	1	北西壁竈	1	土師器	鬼高期	SI-94 →本跡

(2)　古墳

古墳１基を確認した。確認できた遺構及び遺物について記載する。

第１号墳 (TM-01)(第 185 ～ 187 図　写真図版 38)

現況と確認状況　調査前の現況は畑地であった。墳丘の周溝の大半は調査区外にあり、周溝の一部が確認されたのみである。

位置　調査区中央部 G21・22、H20・21・22・23 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

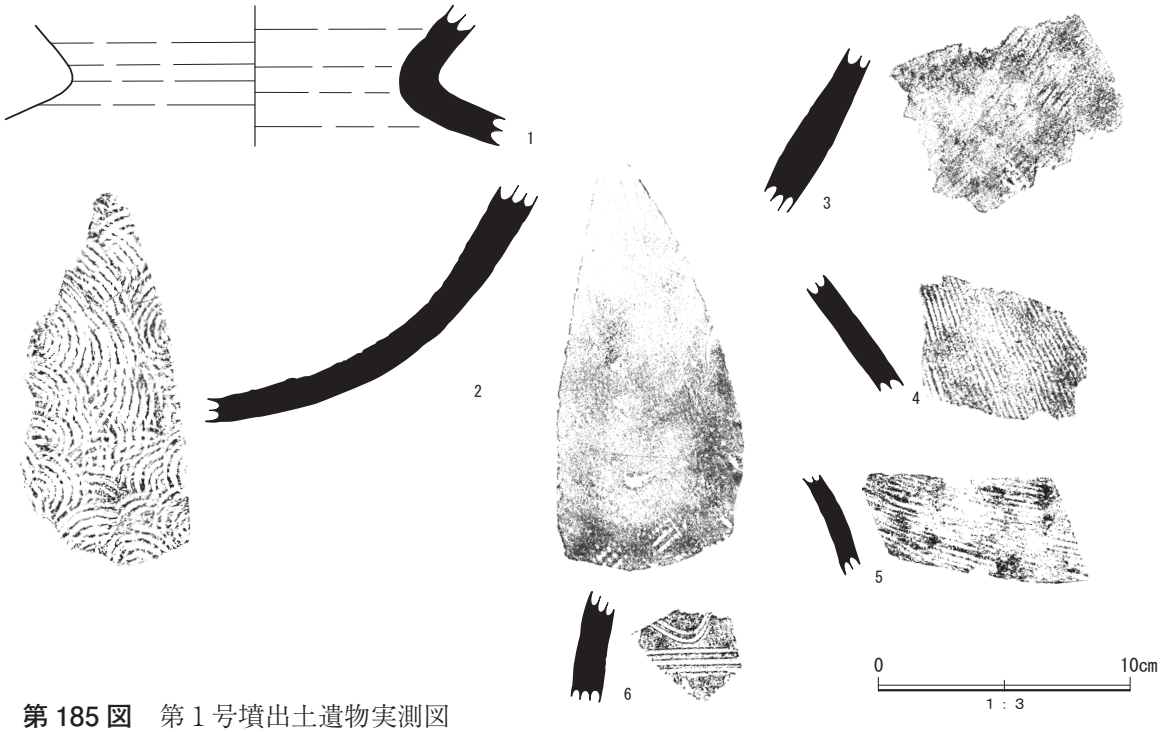
墳形及び規模　方墳。東辺の周溝は、長さ 9.00m を確認した。

墳丘　大部分は調査区外にあり、畑地として利用されているため削平されていると考えられる。

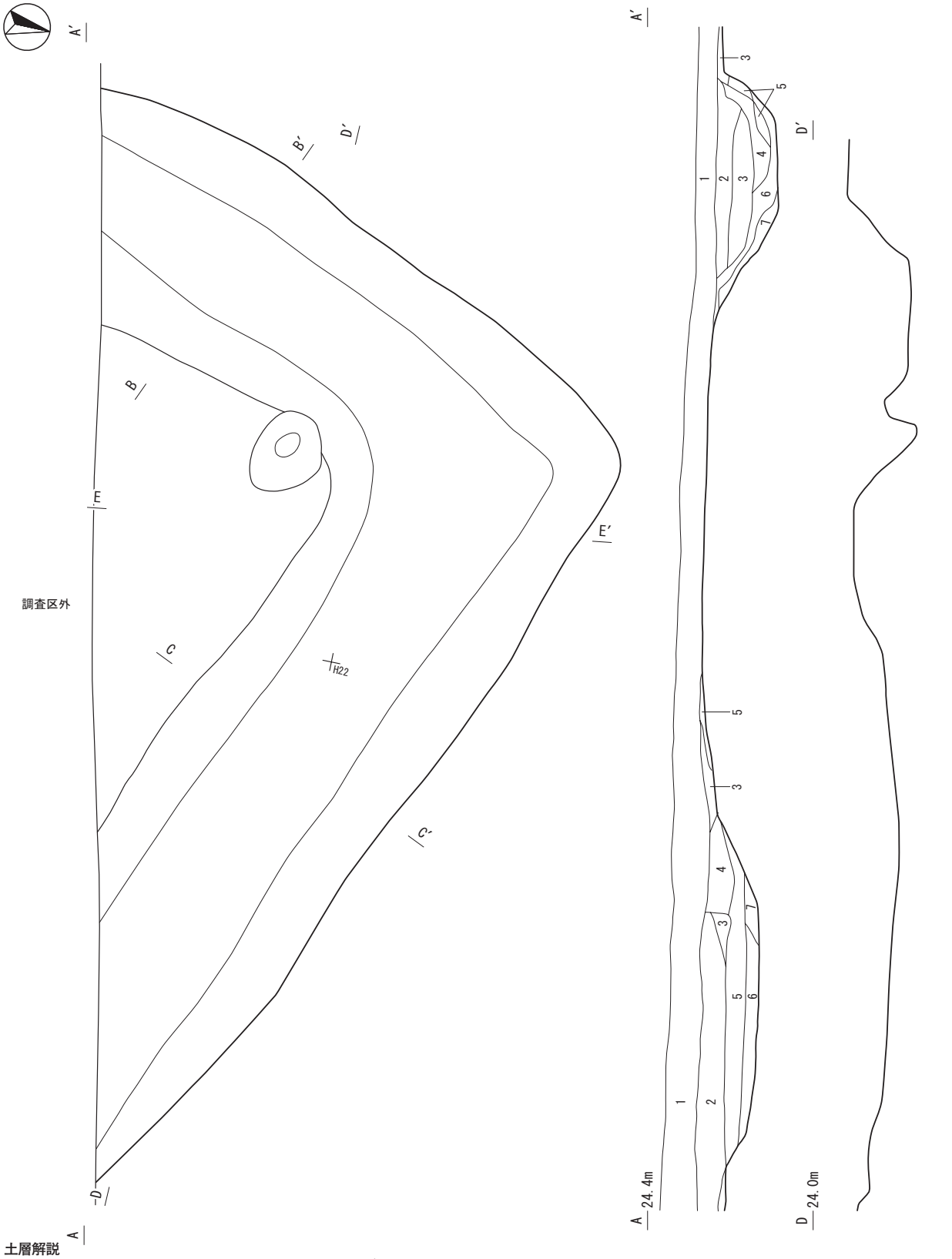
周溝　方形に囲繞していたと考えられるが、北東コーナー部の一部を確認したのみである。規模は上幅 2.40m、下幅 1.00 ～ 1.20m、深さ 0.60m で断面形は逆台形状である。覆土の堆積状況は自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 21 点［坏２点 (23g)、高坏２点 (168g)、甕 17 点 (308g)］、須恵器甕片 17 点 (1,076g)、弥生土器片１点 (12g)。礫３点 (25g)。１～５の須恵器甕は周溝の覆土中から出土している。

所見　周溝内に流れ込んだ遺物で、詳細な時期を決定することができないが、古墳時代後期と考えられる。



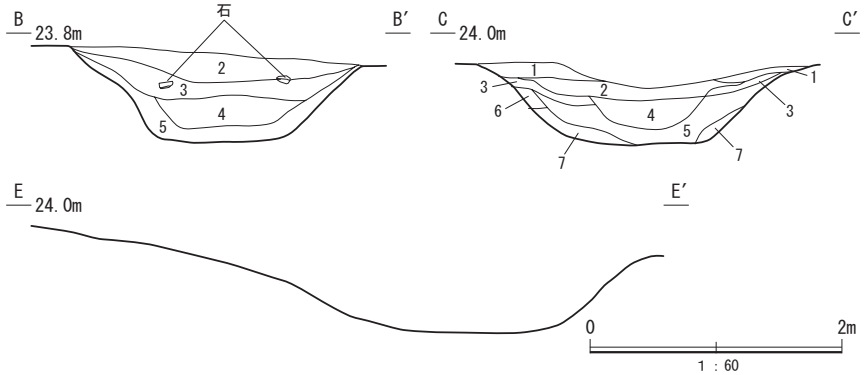
第 185 図　第１号墳出土遺物実測図



土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりなし(表土)
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし 締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
7　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり

第 186 図　第 1 号墳実測図 (1)

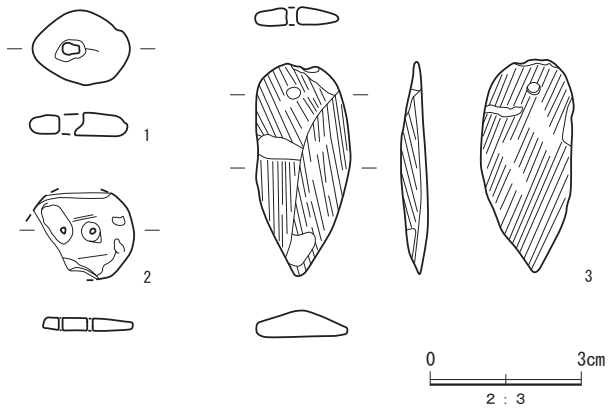


第 187 図　第１号墳実測図 (2)

第 82 表　第１号墳出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(5.5)	—	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
2	須恵器	甕	—	(9.3)	—	長石・石英	灰黄	普通	外面格子目叩き　内面同心円の当具痕	覆土中	5%
3	須恵器	甕	—	(6.3)	—	長石・石英	暗灰黄	普通	外面斜位の平行叩き　内面無文の当具痕	覆土中	5%
4	須恵器	甕	—	(4.6)	—	長石・石英	褐灰	普通	外面平行叩き　内面無文の当具痕	覆土中	5%
5	須恵器	甕	—	(4.0)	—	長石・石英	灰黄	普通	外面平行叩き	覆土中	5%
6	須恵器	甕	—	(4.3)	—	長石・石英	灰	良好	外面２条の波状文　下に３条の平行線	覆土中	5% 写真図版 60

(3)　遺構外出土遺物



第 188 図　古墳時代遺構外出土遺物実測図

第 83 表　古墳時代遺構外出土遺物観察表

番号	機種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	平玉	1.88	1.44	0.41	1.0	泥岩	孔径 0.21 ～ 0.52㎝	表採	
2	双孔円板	1.7	1.2	0.3	1.4	滑石	孔２か所　孔径 0.12㎝	表採	
3	剣型模造品	4.2	1.8	0.5	6	滑石	径孔 0.3㎝	SI-136	

４　奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡 27 棟、土坑２基を検出した。以下検出した遺構と遺物について記載する。

(1)　竪穴建物跡

第８号竪穴建物跡 (SI-08)(第 189 図　写真図版２)

位置　調査区西部Ｉ２、Ｊ２グリットに位置し、標高 19 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　西部を第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西側の大半を第１号溝に掘り込まれ、南北軸は 3.00 ｍで、東西軸は 0.80 ｍしか確認できず、平面形は方形または長方形で、主軸方位はＮ－ 80°－ Ｅと推測される。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がる。

床　竈前面が踏み固められている。

竈　東壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 80㎝である。袖部の基部の最大幅は 90㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は、床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピットは検出されなかった。

遺物出土状況　土師器片 22 点 [坏３点 (19g)、椀１点 (41g)、甕 18 点 (971g)]、須恵器片３点 [坏１点 (27g)、壺１点 (10g)、甕１点 (15g)] である。１の土師器甕は竈内から出土している。

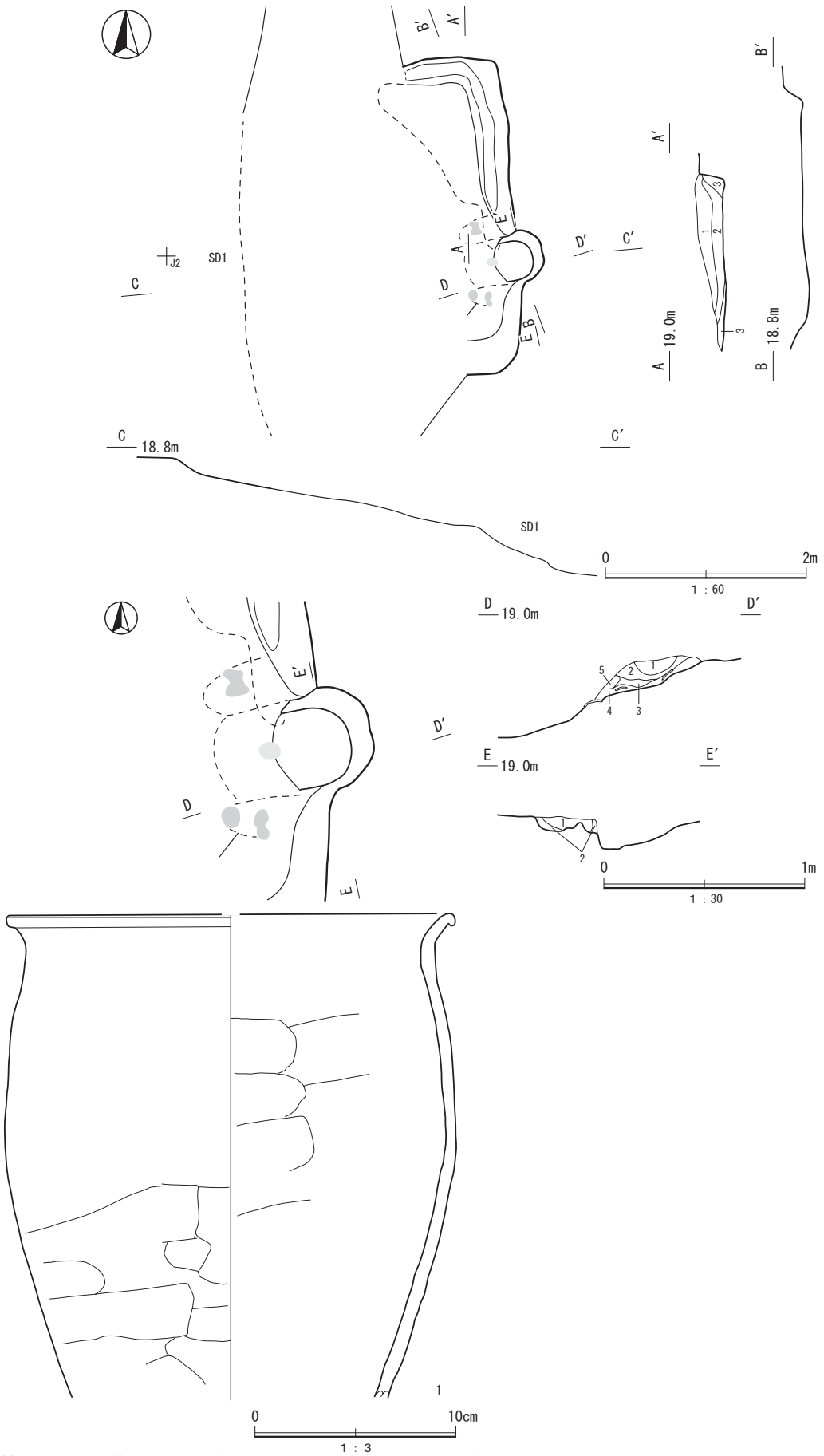
所見　時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。

土層解説

1	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　しまりあり
3	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	2.5YR	2/1	赤 黒 色	焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
2	2.5YR	5/3	灰 赤 色	焼土粒子中量　炭化粒子少量　黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	2.5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
5	2.5YR	4/8	赤 褐 色	焼土ブロック多量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし



第189図　第191図　第８号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 84 表　第８号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[21.0]	(24.0)	―	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内面横ナデ　体部外面上位横位のナデ　下位横位のヘラ削り	竈内	15%

第 19 号竪穴建物跡 (SI-19)(第 190・191 図　写真図版５)

位置　調査区中央部 F24・25、G24・25 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 18・88 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部の一部が調査区外に延びて、長軸は 5.00 m、短軸は 4.45 mで、平面形は長方形である。主軸方位はＮ－ 30°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 60cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 130cmである。袖部の基部の最大幅は 114cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　４層に分層できる。第４層はロームブロックが含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：40 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ２：40 × 30cm、深さ 72cm、Ｐ３：60 × (35)cm、深さ 70cm、Ｐ４：50 × 36cm、深さ 30cm、Ｐ５：40 × 36cm、深さ 14cmである。

遺物出土状況　土師器甕片 442 点 (4,932g)、須恵器片 47 点［坏 30 点 (602g)、蓋３点 (51g)、短頸壺１点 (117g)、甕 11 点 (581g)、甑２点 (78g)］、縄文土器片１点 (７g)、弥生土器片 13 点 (96g)、陶磁器片４点 (41g)、礫６点 (216g)。10 の須恵器甑は竈内から出土している。１～３須恵器坏、４の須恵器蓋、５の須恵器短頸壺、６～８の土師器甕は覆土中から出土している。９の土師器甕は、北東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀後葉と考えられる。

土層解説

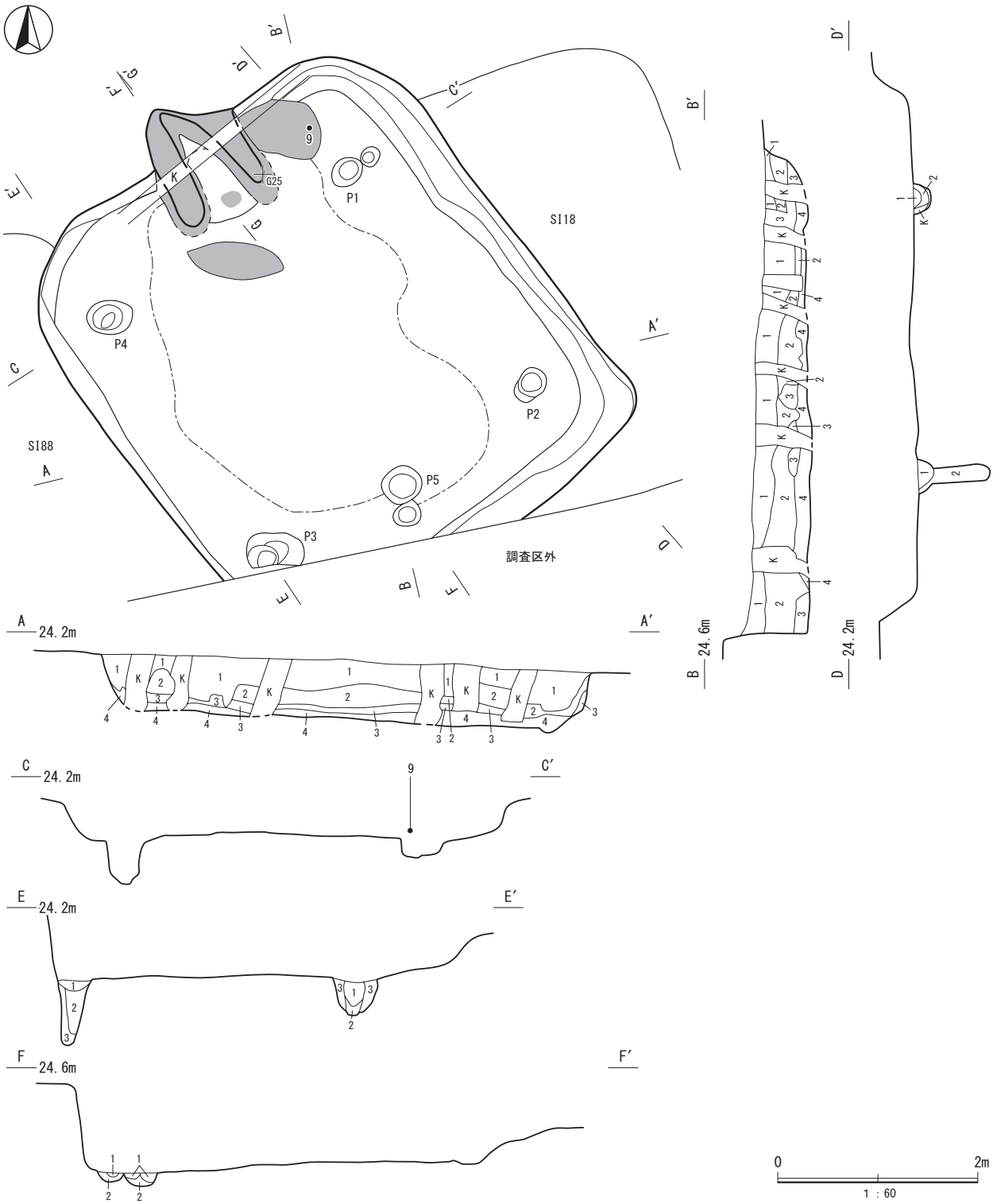
１　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
２　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
３　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
４　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

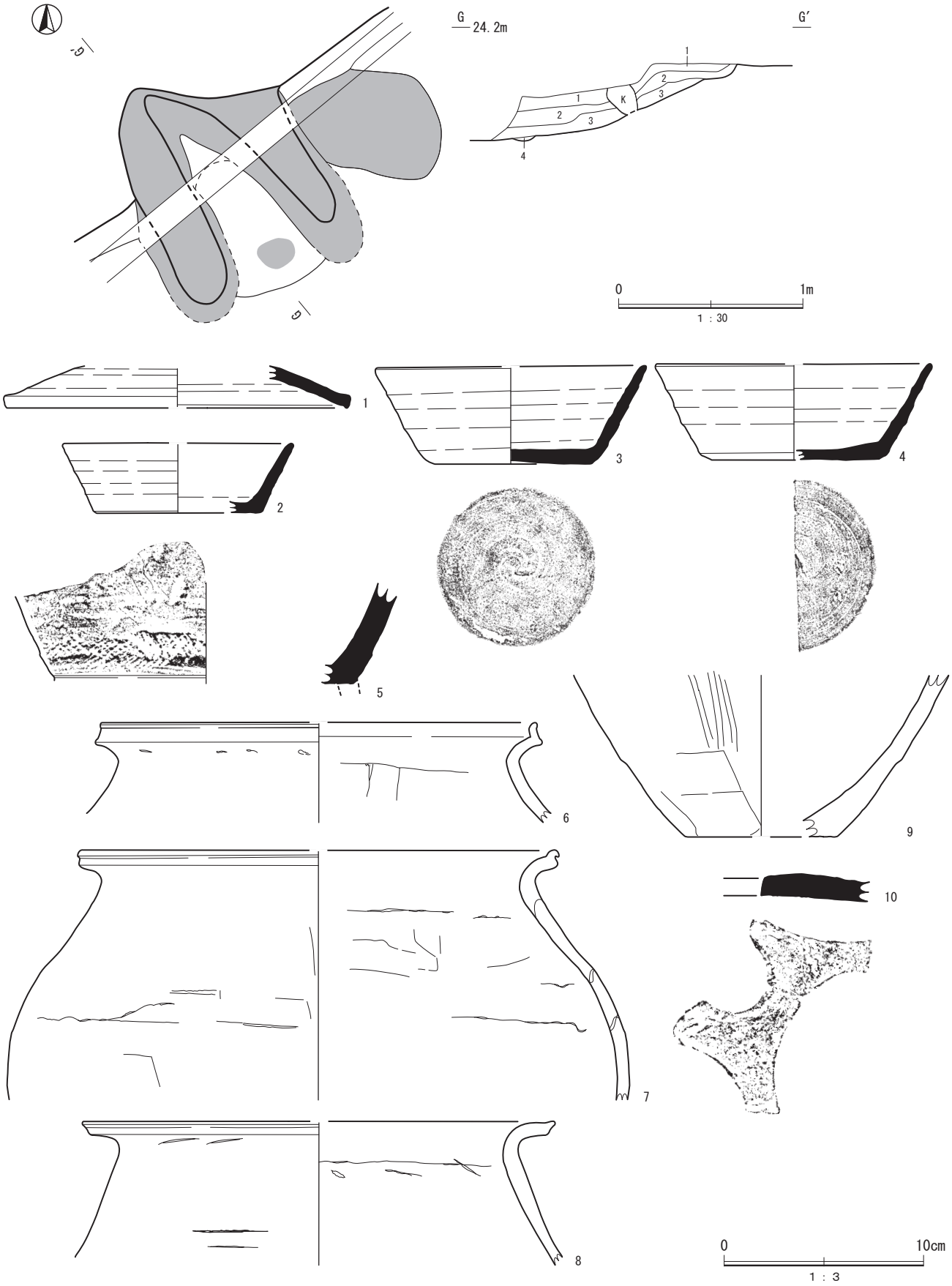
１　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
２　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
３　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説

１　５YR　4/6　赤 褐 色　焼土粒子多量　粘土粒子多量　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
２　５YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　粘土粒子多量　ロームブロック多量・粒子中量／粘性あり　締まりあり
３　５YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子中量　粘土粒子多量　ロームブロック粒子多量／粘性なし　締まりあり
４　５YR　4/3　赤 褐 色　焼土粒子多量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし



第190図　第19号竪穴建物跡実測図



第 191 図　第 19 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 85 表　第 19 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	［16.9］	(2.1)	―	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5% 木葉下窯
2	須恵器	坏	[11.4]	3.5	[8.4]	長石・石英	灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	5% 木葉下窯
3	須恵器	坏	[13.4]	4.9	8.0	長石・石英・ チャート・ 針状鉱物	灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	70% 木葉下窯
4	須恵器	坏	［13.7］	4.8	[8.6]	長石・石英・ 針状鉱物	灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	45% 木葉下窯 写真図版 56
5	須恵器	短頸壺	―	(5.0)	[15.2]	長石・石英・ チャート・ 針状鉱物	灰褐	普通	ロクロナデ　体部下端布目痕	覆土中	5%
6	土師器	甕	[21.7]	(6.0)	―	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　頸部内面横位のヘラナデ 外面横位のナデ	覆土中	5%
7	土師器	甕	［23.5］	(12.4)	―	長石・石英・ 雲母・ スコリア	にぶい 黄褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のナデ 内面横位のヘラナデ　輪積痕	覆土中	5%
8	土師器	甕	[23.5]	(7.2)	―	長石・石英・ 雲母	褐	普通	口縁部横ナデ　体部内外面横位のナデ	覆土中	5%
9	土師器	甕	―	(8.0)	［7.6］	長石・石英・ 雲母・ スコリア	黒褐	普通	体部外面中位縦位のヘラ磨き 下端縦位のヘラ削り　内面ナデ	北東部 覆土 下層	5%
10	須恵器	甑	―	(1.4)	―	長石・石英・ 雲母	灰	普通	孔ヘラ切り　５孔式	竈内	3% 新治窯

第 20 号竪穴建物跡 (SI-20)(第 1942・193 図　写真図版５・６)

位置　調査区中央部 F26・27、G26・27 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 21・24 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区外に延びており、東西軸は 4.98 ｍで、南北軸は 3.50 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され、主軸方位はＮ－ 30°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

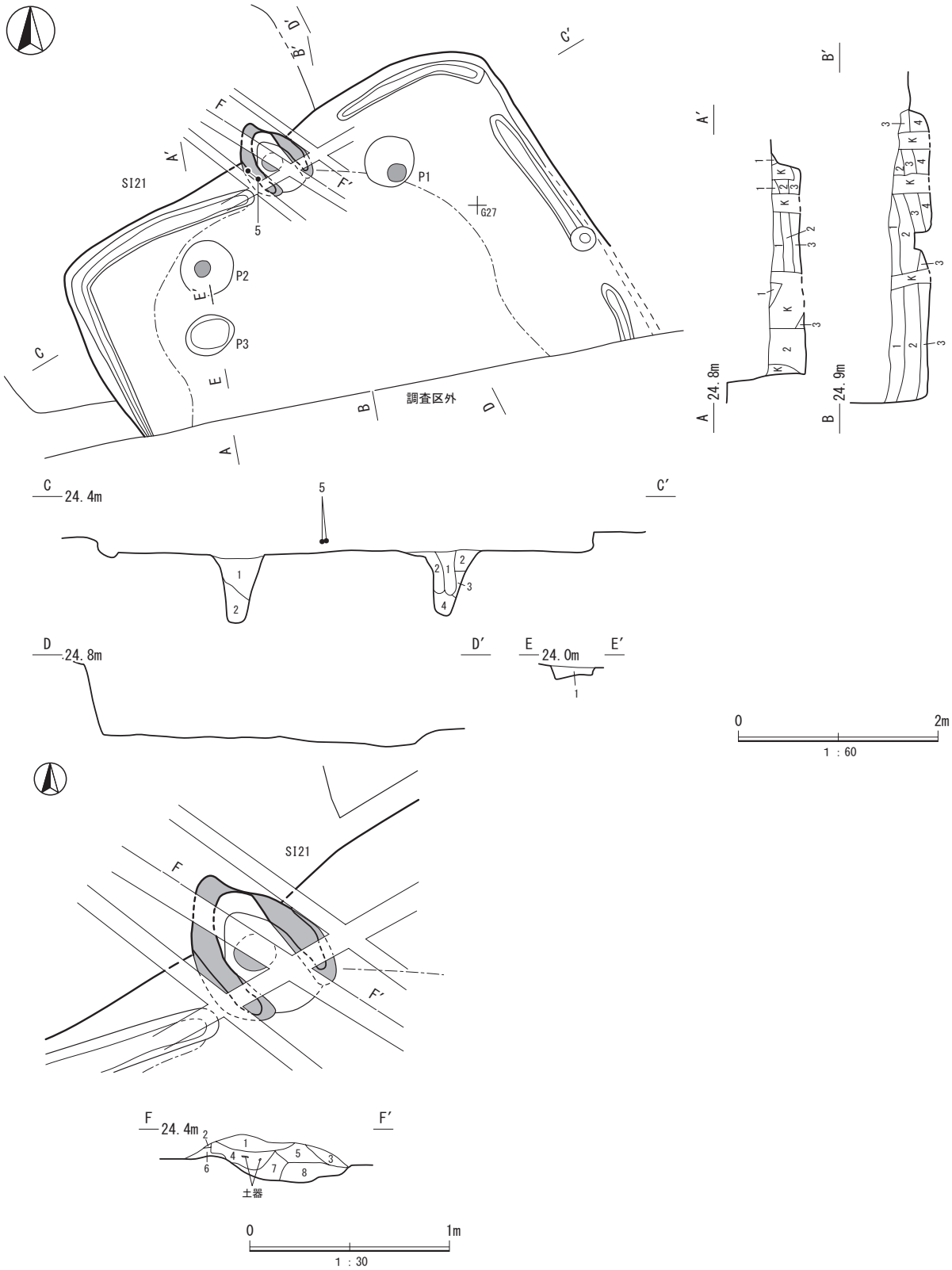
竈　北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 82cmである。袖部の基部の最大幅は 64cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は、床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット３か所が検出でき、Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１:54 × 48cm、深さ 64cm、Ｐ２：58 × 50cm、深さ 68cm、Ｐ３：50 × 34cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 134 点 [坏 15 点 (355g)、高台付坏 1 点 (51g)、高坏 1 点 (24g)、器台 1 点 (83g)、甕 116 点 (1,881g)]、須恵器片 24 点 [坏 16 点 (233g)、蓋 1 点 (4 g)、盤 2 点 (196g)、甕 5 点 (344g)]、鉄製品 1 点 (3.6g)、弥生土器片 11 点 (104g)、瓦質土器片 1 点 (14g)、陶器片 1 点 (7 g)、礫 7 点 (871g)。５の須恵器盤は竈内から出土している。１の土師器坏、２～４の須恵器坏、６～８の土師器甕、９の刀子は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第 192 図　第 20 号竪穴建物跡実測図

土層解説

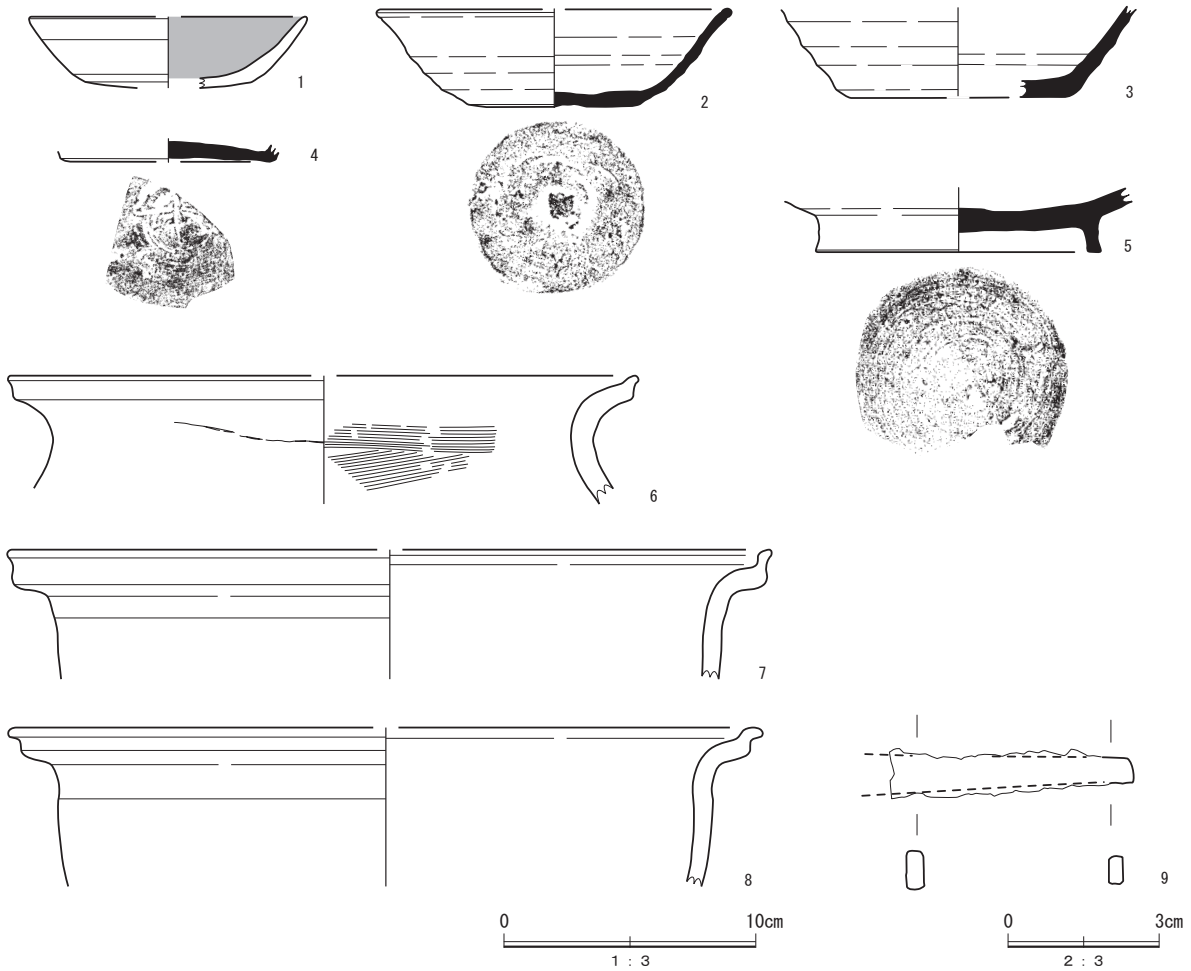
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし 締まりなし
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/1　黒 褐 色　焼土粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　2.5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　2.5YR　5/2　灰 赤 色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5　2.5YR　3/1　暗赤灰色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
6　2.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
7　2.5YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
8　2.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 193 図　第 20 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 86 表　第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	［10.8］	2.8	[6.6]	長石･石英･チャート	黄橙	普通	ロクロナデ　体部外面回転ヘラ削り 底部ナデ　内面黒色処理	覆土中	20%
2	須恵器	坏	［13.8］	3.9	6.9	長石・石英	褐灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り不調整	覆土中	30% 木葉下窯
3	須恵器	坏	―	(3.6)	［8.8］	長石･石英･チャート	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	覆土中	20% 木葉下窯
4	須恵器	坏	―	(0.8)	[8.2]	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　底部片　底部回転ヘラ切り不調整　底部「×」のヘラ記号	覆土中	10% 木葉下窯
5	須恵器	盤	―	(2.5)	11.3	長石･石英･チャート･針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り 底面「二」のヘラ記号	竈内	30% 木葉下窯
6	土師器	甕	[24.8]	(5.1)	―	長石･石英･チャート	褐	普通	口縁部横ナデ　体部内面横位のハケナデ	覆土中	15%
7	土師器	甕	［30.0］	(5.1)	―	長石･石英･チャート	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部ナデ	覆土中	10%
8	土師器	甕	[29.4]	(6.3)	―	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	刀子	(4.8)	0.5 ～ 0.9	0.3 ～ 0.4	(3.6)	鉄	茎部	覆土中	

第 24 号竪穴建物跡 (SI-24)(第 194 ～ 196 図　写真図版５・６・７・８)

位置　調査区中央部 E27・28・29、F27・28・29、G27・28 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 40 号竪穴建物跡を掘り込み、第 35・36 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区外に延びて、東西軸は 8.60 ｍで、南北軸は 6.70 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測される。主軸方位はＮ－ 10°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北壁と東壁・西壁の一部で確認でき、上幅 18 ～ 24cm、下幅６～ 10cm、深さ 10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

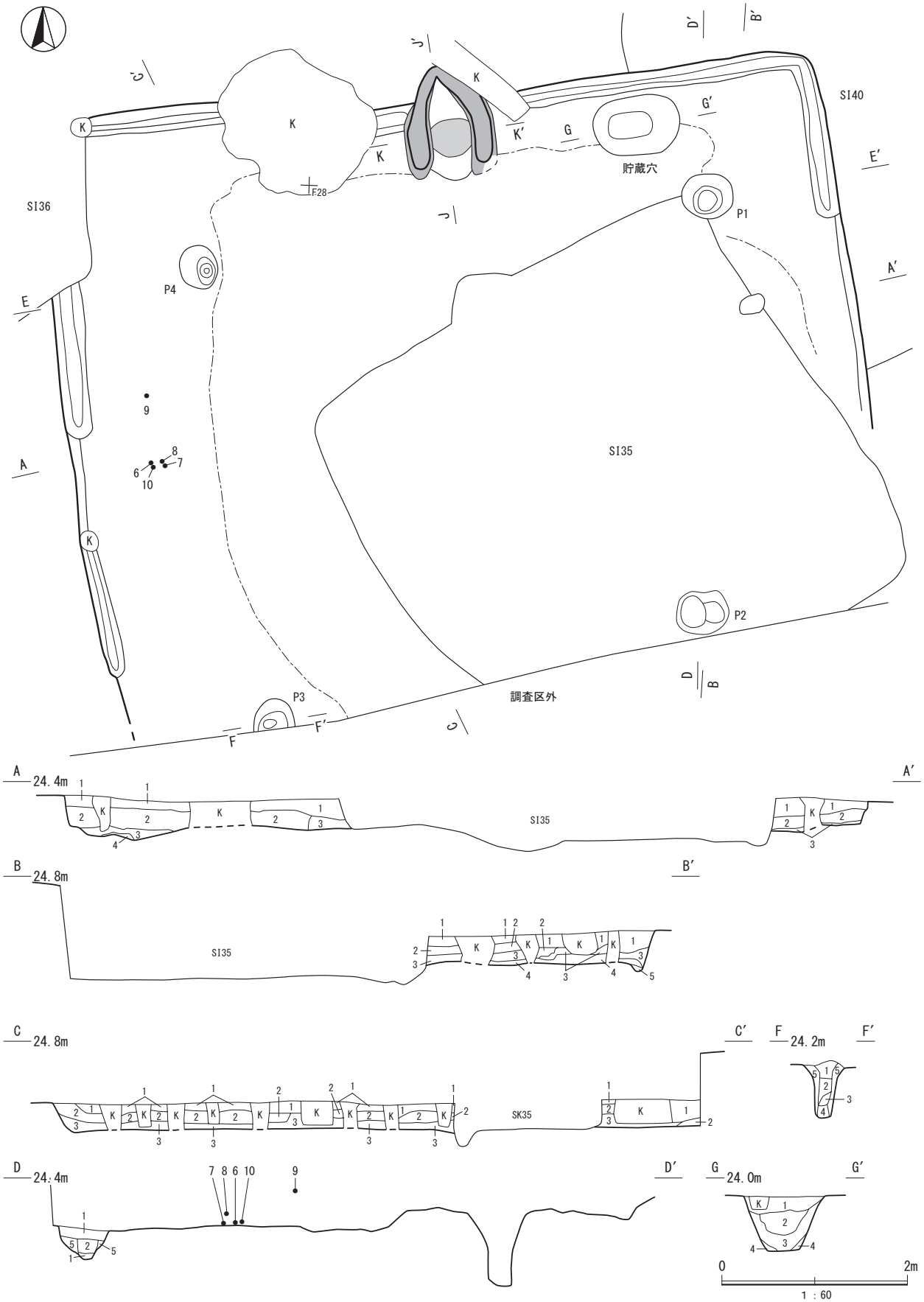
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 125cmである。袖部の基部の最大幅は 98cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

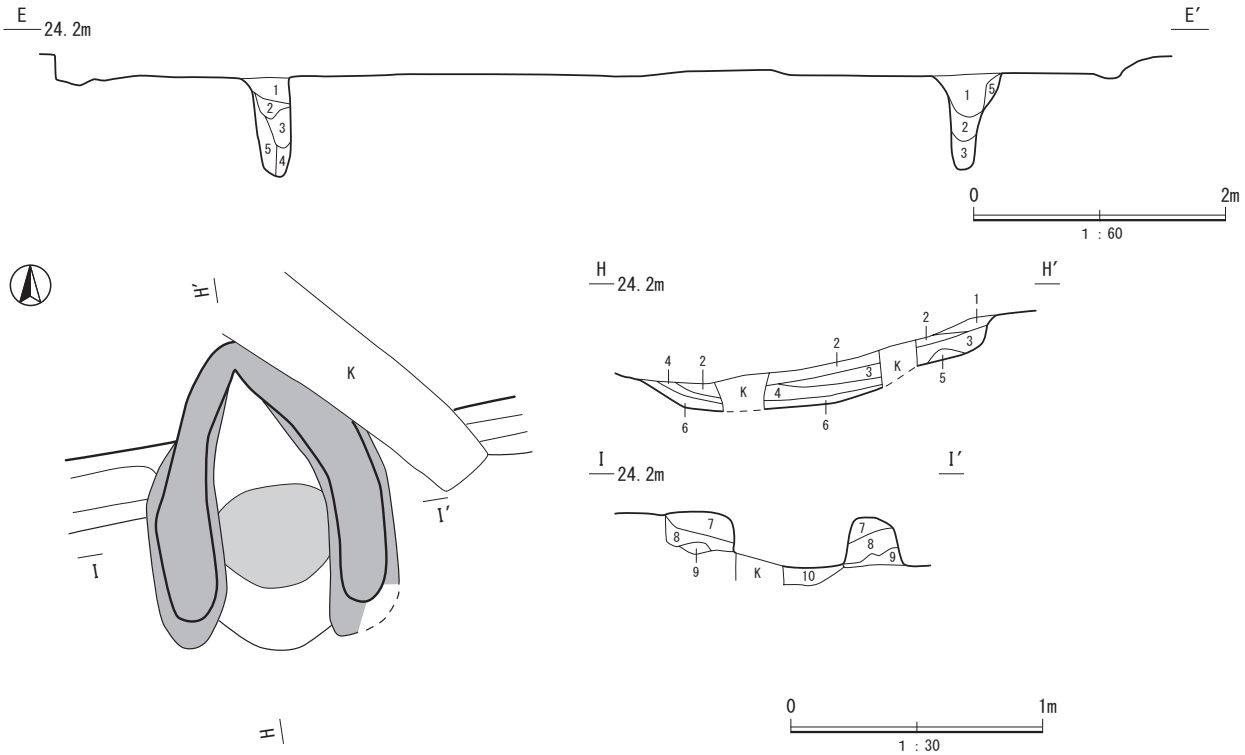
土層　５層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:54 × 52cm、深さ 76cm、Ｐ２:60 × (50)cm、深さ 34cm、Ｐ３:50 × (20)cm、深さ 50cm、Ｐ４:58 × 40cm、深さ 80cmである。

貯蔵穴　竈右側に位置し、長径 92cm、短径 68cmの隅丸長方形で、深さ 60cmである。



第 194 図　第 24 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 195 図　第 24 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり 締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり 締まりあり

貯蔵穴土層解説

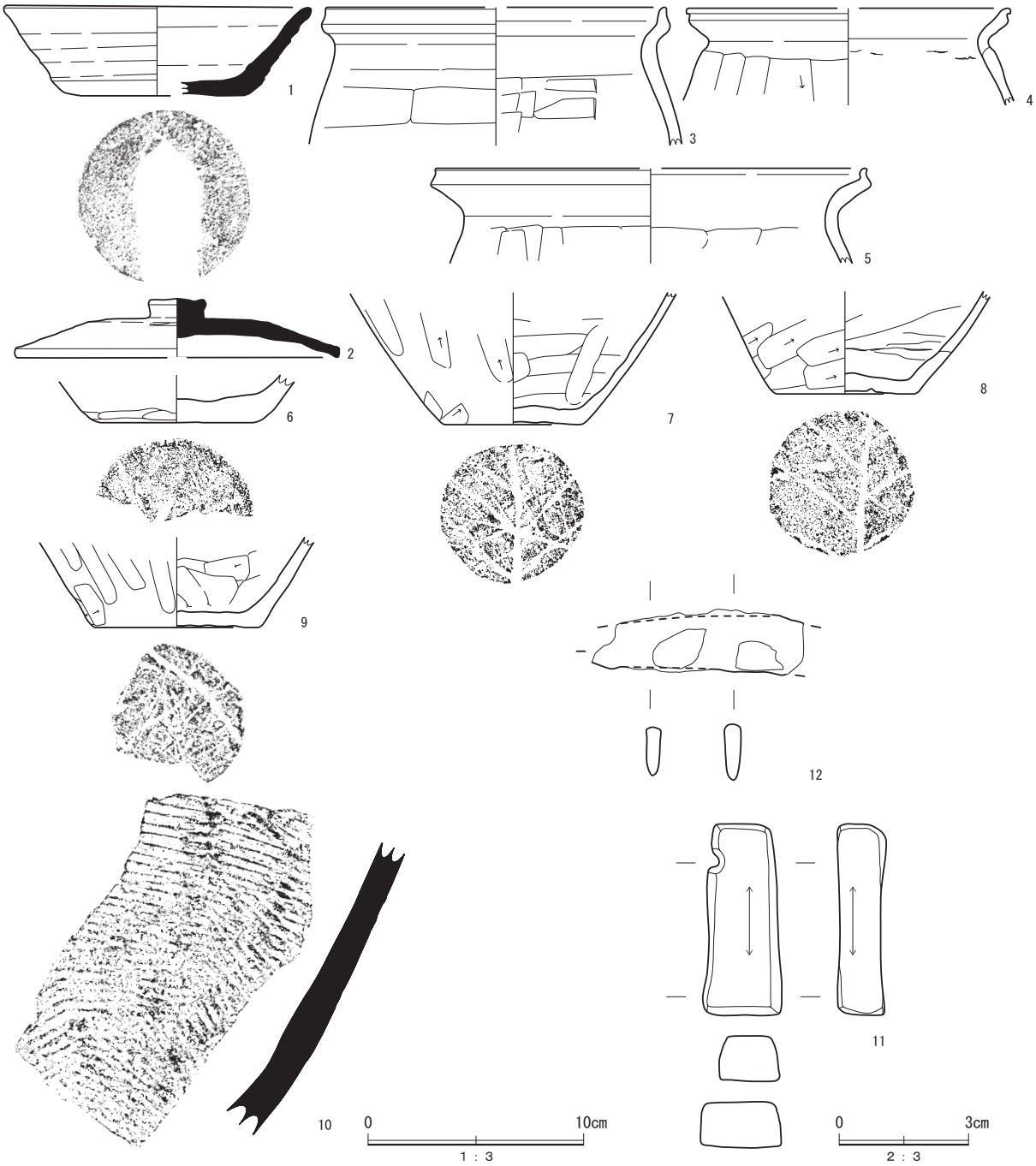
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

1　2.5YR　3/1　暗赤灰色　焼土粒子微量　炭化粒子多量　灰少量／粘性なし　締まりあり
2　2.5YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし 締まりなし
4　2.5YR　3/4　暗 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/2　灰 褐 色　焼土ブロック中量・粒子少量　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　3/3　暗 褐 色　焼土ブロック・粒子中量　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりなし
7　5YR　6/2　灰 褐 色　焼土粒子微量　粘土ブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
8　5YR　5/3　灰 褐 色　焼土粒子微量　粘土ブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
9　5YR　5/1　褐 灰 色　粘土ブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
10　2.5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし

遺物出土状況　土師器片 1,308 点 [坏 103 点 (1,171g)、高台付坏 6 点 (268g)、高坏 36 点 (881g)、坩 19 点 (298g)、器台 1 点 (240g)、甕 1,137 点 (13,348g)]、須恵器片 159 点［坏 86 点 (910g)、蓋 12 点 (160g)、盤 2 点 (48g)、甕 59 点 (1,863g)］、弥生土器片 131 点 (1,168g)、鉄製品 1 点 (5.7g)、石製品 1 点 (15g)、陶磁器片 11 点 (75g)、礫 31 点 (2,871g)。４～７の土師器甕・10 の須恵器甕は南西部の床面から出土している。１の須恵器坏・２の須恵器蓋・３の土師器甕、11 の砥石、12 の刀子は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第 196 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 87 表　第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.0	4.2	8.3	長石・石英・雲母	明紫灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ　体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	覆土中	70% 新治窯 写真図版56
2	須恵器	坏蓋	—	(2.8)	［15.0］	長石・石英	灰	普通	摘み部ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り	覆土中	10% 木葉下窯
3	土師器	甕	［15.6］	(6.4)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　　体部外面横位のナデ	覆土中	20%
4	土師器	甕	［14.8］	(4.5)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横ナデ	南西部床面	20%
5	土師器	甕	［19.9］	(4.4)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ・内面横位のナデ	南西部床面	20%
6	土師器	甕	—	(2.2)	[7.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ　内面ロクロナデ 底部２方向ヘラナデ	南西部床面	20%
7	土師器	甕	—	(6.1)	6.5	長石・石英・チャート	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ　底部木葉痕	南西部床面	10%
8	土師器	甕	—	(4.8)	6.5	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ　底部木葉痕	南西部覆土中層	10%
9	土師器	甕	—	(4.2)	［7.6］	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ　底部木葉痕	南西部覆土上層	10%
10	須恵器	甕	—	(13.3)	—	長石・石英	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　内面ナデ	南西部床面	5% 木葉下窯

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	砥石	4.4	1.16	1.9	15	粘板岩	砥面２面　径 0.3cmの孔あり　携帯用	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	刀子	(4.87)	1.3	0.34 ～ 0.36	(5.7)	鉄	刃部	覆土中	写真図版56

第 35 号竪穴建物跡 (SI-35)(第 197 ～ 199 図　写真図版６・７)

位置　調査区中央部 F28、29、G28 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 24 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

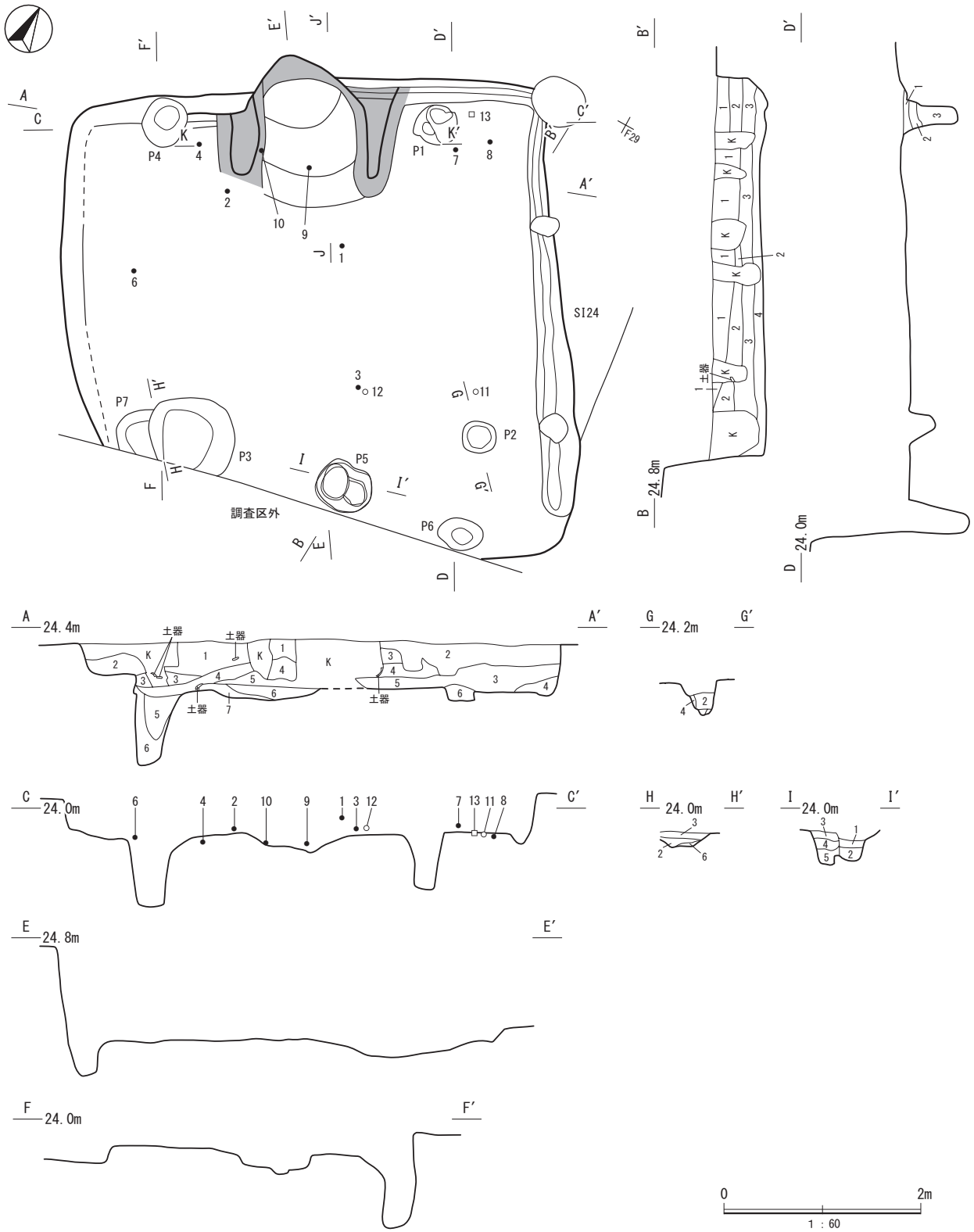
規模と形状　南部が調査区外に延びているが、長軸 4.92 m、短軸 4.90 mで、平面形は方形である。主軸方位はN－35°－Wである。壁は確認面から最大高54cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北西壁と北東壁の一部で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 16cm、深さ 10cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

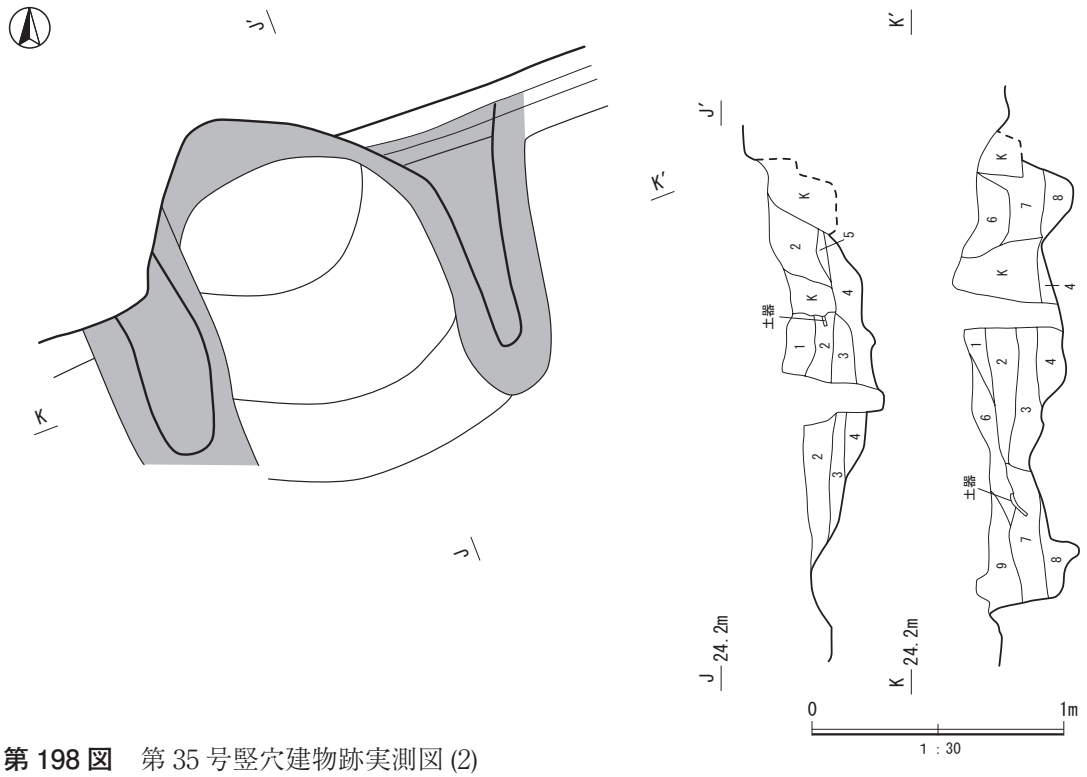
竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 156cmである。袖部の基部の最大幅は約 178cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット７か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 42cm、深さ50cm、Ｐ２：50 × 30cm、深さ 80cm、Ｐ３：80 × (70)cm、深さ 20cm、Ｐ４：52 × 48cm、深さ 80cm、Ｐ５：34 × 80cm、深さ 20cm、Ｐ６：50 × 30cm、深さ 60cm、Ｐ７：(40) × (30)cm、深さ 20cmである。



第 197 図　第 35 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 198 図　第 35 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量　粘土ブロック少量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
6　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし 締まりなし
7　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　5/1　赤　灰　色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性なし　締まりあり
2　2.5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化物少量・粒子中量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
6　2.5YR　6/1　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子だ量／粘性あり　締まりあり
7　2.5YR　5/2　黒　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
8　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

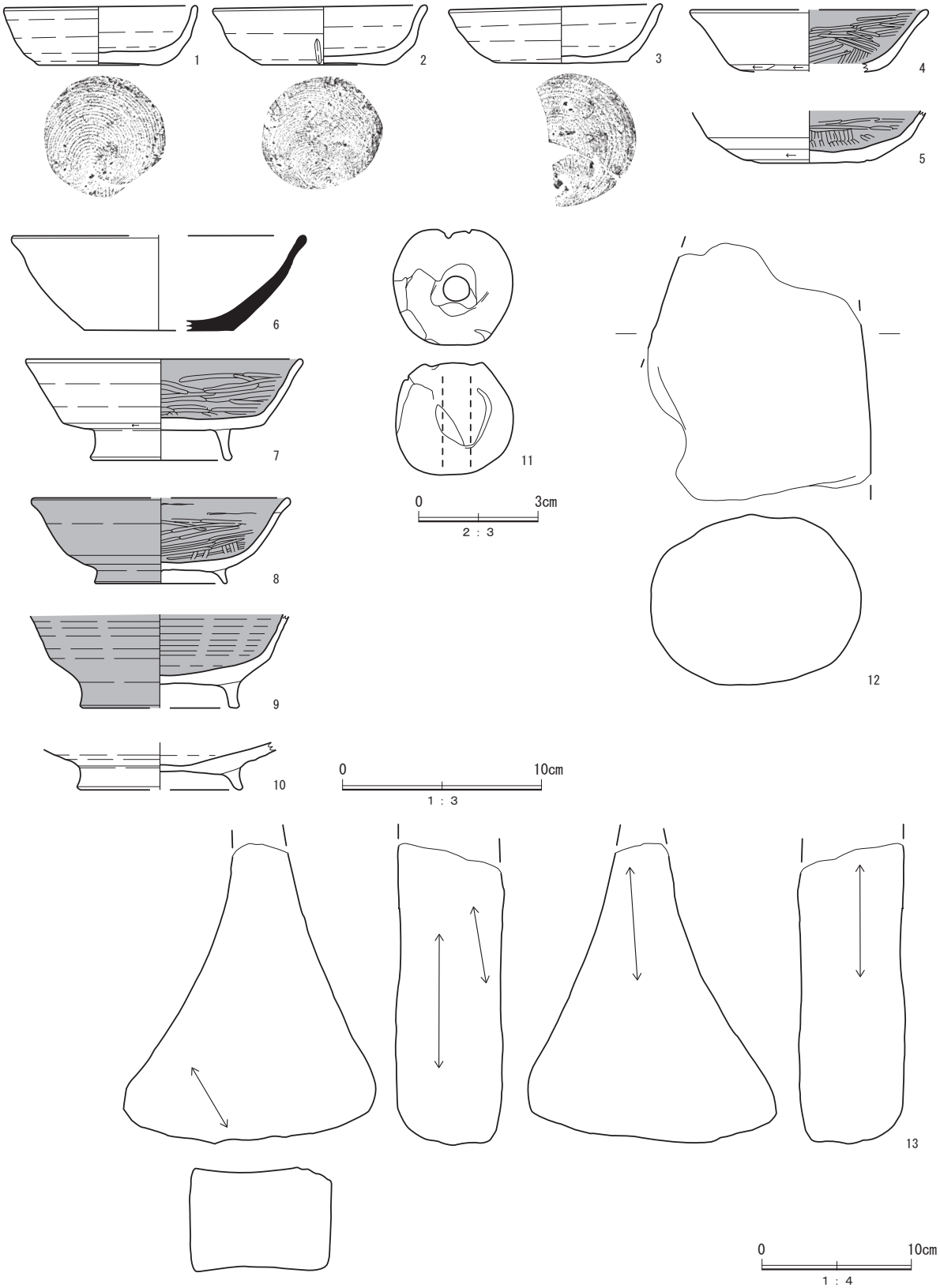
ピット土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

遺物出土状況　土師器片 508 点 [坏 49 点 (706g)、高台付坏 8 点 (412g)、皿 3 点 (28g)、坩 1 点 (7 g)、ミニチュア土器 1 点 (8 g)、甕 446 点 (5,700g)]、須恵器片 66 点［坏 35 点 (367g)、高台付坏 1 点 (31g)、盤 1 点 (49g)、蓋 7 点 (120g)、甕 21 点 (419g)、甑 1 点 (73g)］、弥生土器片 16 点 (146g)、土製品 2 点 (73g)、石製品 1 点 (714g)、礫 9 点 (146g)。1 の土師器坏は竈前の覆土上層、2 ・ 4 の土師器坏は竈西側の床面、3 の土師器坏・12 の土製支脚は中央部の床面から出土している。6 の須恵器坏は西部の床面、7 ・ 8 の土師器高台付坏・13 の砥石は北東部の床面、9 の土師器高台付坏・10

の土師器高台付坏は竈内から出土している。11 の土玉は、東部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 199 図　第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 88 表　第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	9.6	3.0	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切リ不調整	竈前覆土上層	100% 写真図版57
2	土師器	坏	10.6	3.0	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	竈西側床面	100% 写真図版57
3	土師器	坏	10.6	3.0	6.4	長石･石英･チャート	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	中央部床面	50% 写真図版57
4	土師器	坏	［11.9］	(3.1)	—	長石･石英･雲母・チャート	暗灰	普通	ロクロナデ　体部下端ヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　内面黒色処理	竈西側床面	25%
5	土師器	坏	—	(2.7)	[4.9]	長石･石英･雲母・チャート	暗灰	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　内面黒色処理	覆土中	25%
6	須恵器	坏	［14.5］	4.8	[7.4]	長石･石英･雲母	灰黄	やや不良	ロクロナデ　底部一方向のヘラ削り	西部床面	30% 新治窯
7	土師器	高台付坏	［13.8］	5.1	6.8	長石･石英･スコリア	暗灰	普通	ロクロナデ　内面横位のヘラミガキ 体部下端回転ヘラ削り 回転ヘラ削り後高台貼り付け　内面黒色処理	北部床面	50% 写真図版57
8	土師器	高台付坏	[12.6]	4.3	6.6	長石･石英･チャート	暗灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り 内面多方向のヘラミガキ　内外面黒色処理	北東部床面	45% 写真図版57
9	土師器	高台付坏	—	(4.7)	[7.7]	長石･石英･雲母・チャート	暗灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り　内外面黒色処理	竈内	25%
10	土師器	高台付坏	—	(2.4)	[8.0]	長石･石英･雲母・チャート	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	竈内	25%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土玉	2.96	2.86	0.7	24	長石・石英	褐灰	全面ナデ	東部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	支脚	(6.5)	(5.6)	(4.2)	(49.0)	長石	浅黄橙	摩滅により調整痕不明	中央部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	砥石	(13.2)	13.2	4.6	(714.0)	砂岩	砥面４面	北東部床面	写真図版57

第 42 号竪穴建物跡 (SI-42)(第 200 図　写真図版９)

位置　調査区西部 F31・32、G32 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　大半が調査区外に延びており、確認できた東西軸は 3.20 m、南北軸は 1.92 mのみで、平面形は不明である。主軸方位も不明である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。

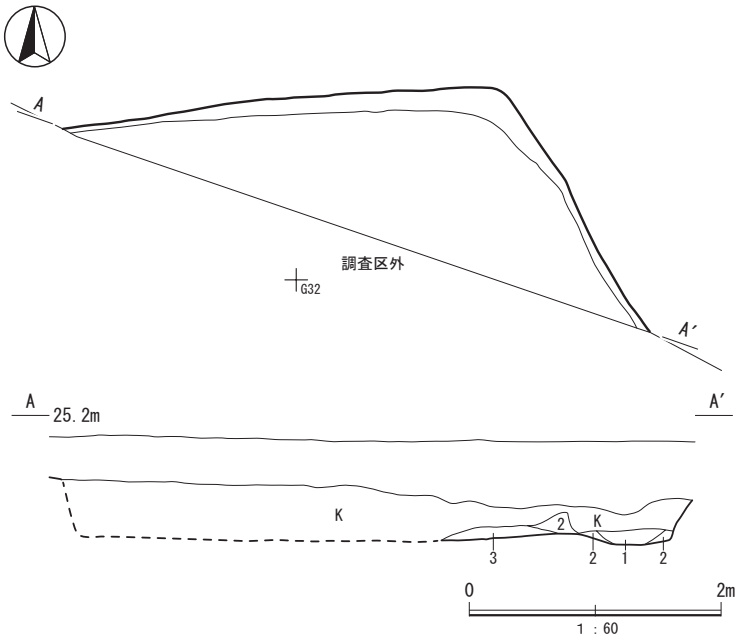
床　確認した部分はやや踏み固められている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　確認できなかった。

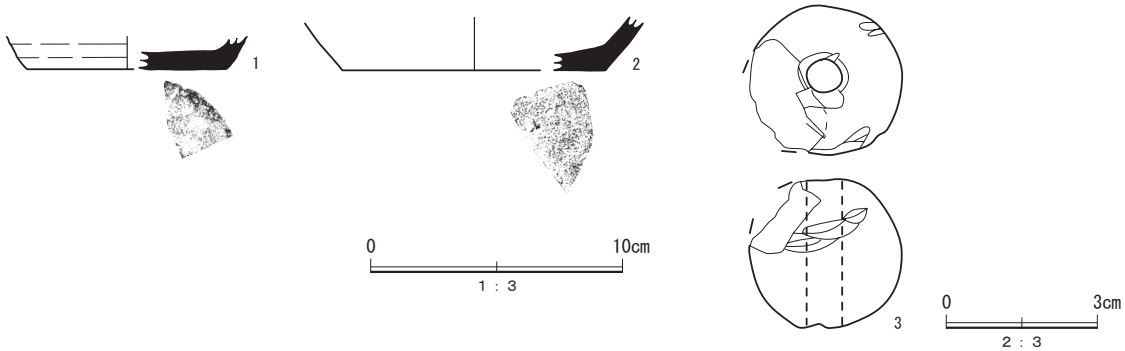
遺物出土状況　土師器甕片 24 点 (24g)、須恵器片 10 点 [坏 4 点 (56g)、甕 6 点 (127g)]、土製品 1 点 (25g)、縄文土器片 6 点 (71g)、弥生土器片 5 点 (45g)、礫 2 点 (31g)。１・２の須恵器坏は覆土中から出土している。３の土玉は北東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀後葉と考えられる。



土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 200 図　第 42 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 89 表　第 42 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	—	(1.3)	[7.8]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	10% 木葉下窯
2	須恵器	坏	—	(2.1)	[10.4]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　底部ナデ	覆土中	5% 木葉下窯

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	3.05	2.95	0.7	(24.8)	長石・石英	黒褐	全面ナデ　縄目痕あり	覆土中	80%

第 51 号竪穴建物跡 (SI-51)(第 201 ～ 203 図　写真図版 10・11)

位置　調査区中央部 H36、I35・36 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第８号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南西部が調査区外に延びているが、長軸 4.50 m、短軸 3.96 mで、平面形は長方形である。主軸方位はＮ－ 25°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 50cmで、ほぼ直立している。壁溝は、確認された壁で全周し、上幅 18 ～ 30cm、下幅６～ 10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土の上部に暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 125cmである。袖部の基部の最大幅は 130cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口には灰白色粘土を貼り付け、床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出でき、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 46cm、深さ 50cm、Ｐ２：52 × 48cm、深さ 48cm、Ｐ３：40 × 32cm、深さ 50cm、Ｐ４：48 × 46cm、深さ 68cmである。

遺物出土状況　土師器片 483 点 [坏 21 点 (219g)、高坏４点 (349g)、甕 458 点 (9,428g)]、須恵器片 39 点 [坏 23 点 (751g)、蓋 10 点 (273g)、長頸瓶１点 (23g)、甕６点 (387g)]、弥生土器片５点 (44g)、鉄製品３点 (58g)、土製品４点 (397g)、石製品２点 (596g)、礫 36 点 (8,802g)。１の須恵器坏は北西部の床面、３の須恵器坏はＰ２北側の床面、４の須恵器坏は竈西側の床面から出土している。５の須恵器坏は東部の覆土中層、７の須恵器長頸瓶は竈東側の床面、８の土師器甕は北東隅の床面、12 の須恵器甕は南部の覆土中層から床面、13 の土師器ミニチュア甕はＰ２内、14 の管状土錘は南部の覆土下層、14 の管状土錘は中央部の覆土下層、15 の管状土錘、22 の鎌は中央部の覆土下層から出土している。17 の石製支脚は竈内、18 の土製紡錘車は南部の覆土中層、22 の刀子は西部の覆土中層から出土している。２の須恵器坏・６の須恵器蓋・９～ 11 の土師器甕・19 の石製勾玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀中葉と考えられる。

土層解説

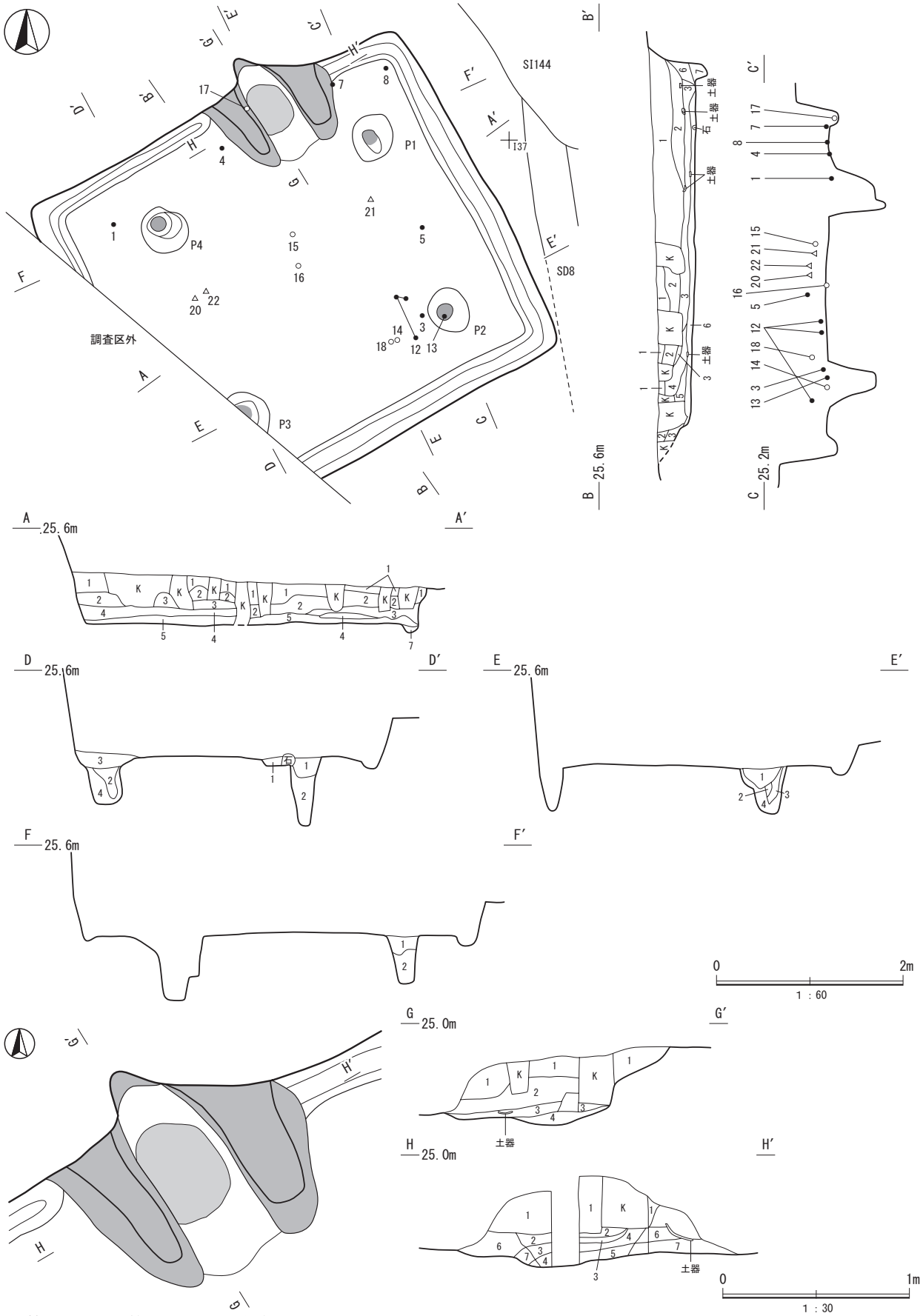
1	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ローム粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ロームブロック・粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
4	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ロームブロック少量・粒子微量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック少量・粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
6	7.5YR	4/3	褐　　色	ローム粒子微量　粘土ブロック多量　焼土粒子微量／粘性あなし　締まりあり
7	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック少量・粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

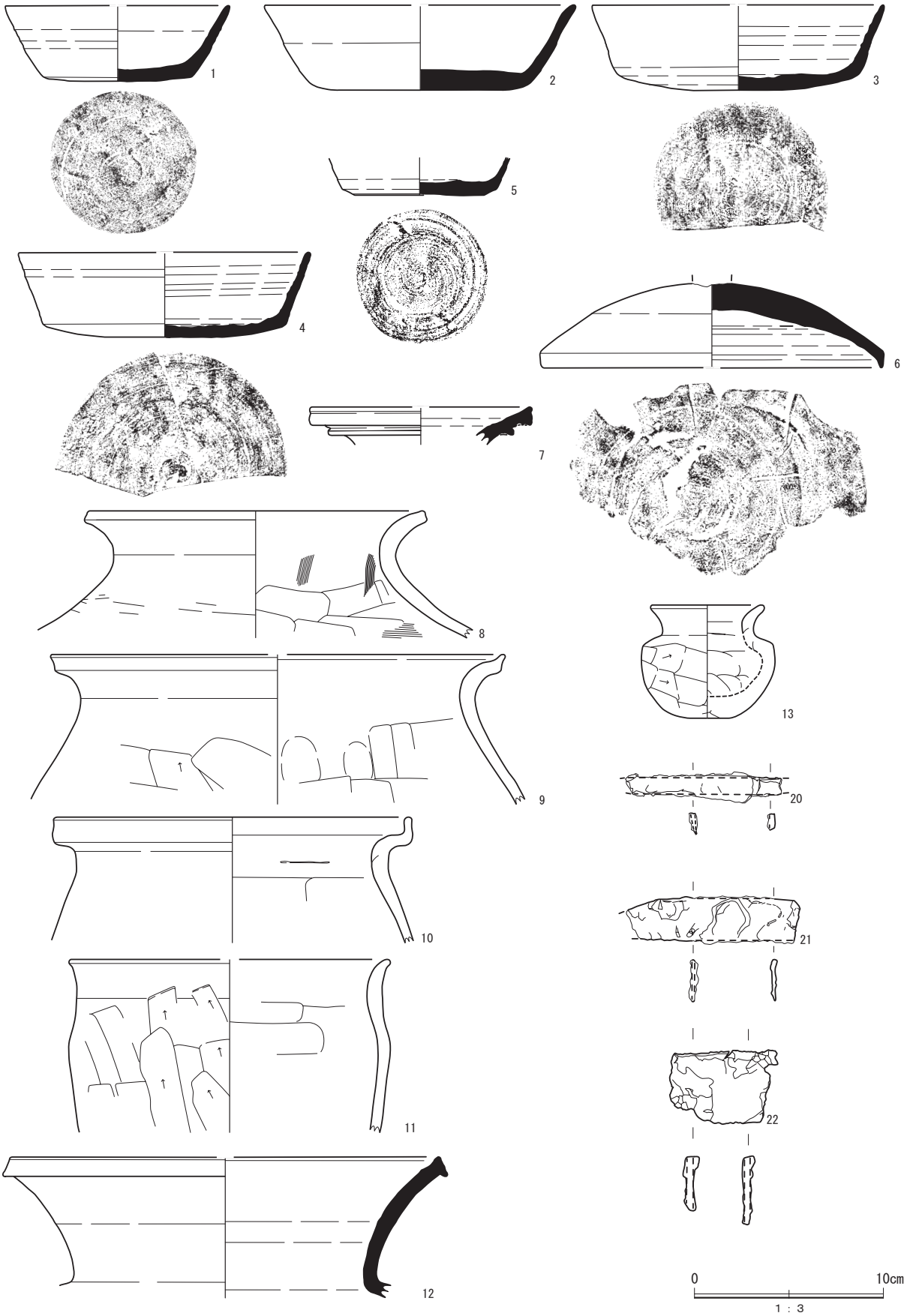
1	7.5YR	5/2	にぶい褐色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2	7.5YR	5/4	にぶい褐色	ロームブロック微量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3	7.5YR	3/2	黒　褐　色	ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
4	7.5YR	3/2	黒　褐　色	ローム粒子多量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

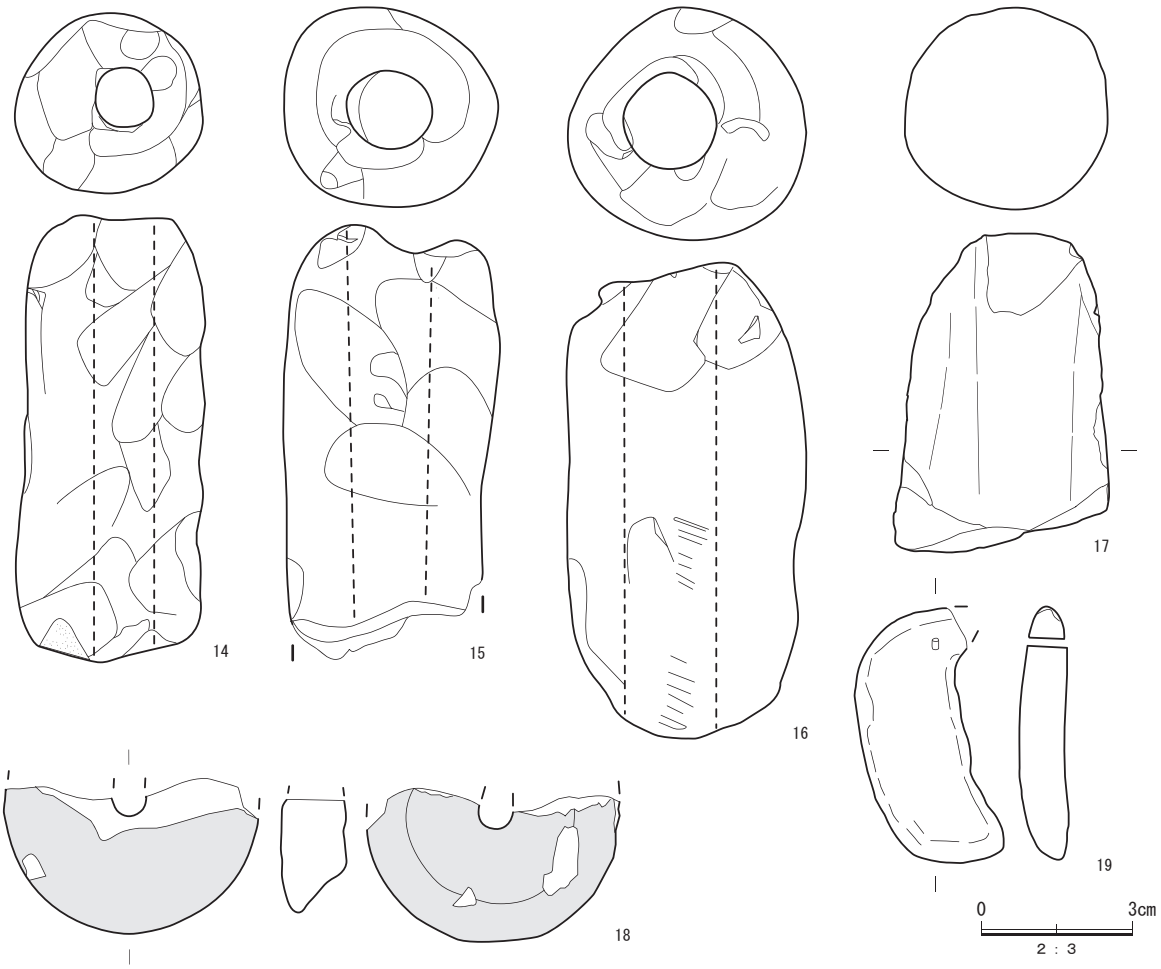
1	5YR	6/3	にぶい橙色	焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土ブロック・粒子多量／粘性なし　締まりあり
2	5YR	3/2	暗 赤 褐 色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	5YR	3/2	暗 赤 褐 色	炭化粒子微量　粘土ブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	5YR	2/2	黒　褐　色	炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
5	5YR	3/6	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性なし　締まりあり
6	5YR	5/2	灰　褐　色	焼土粒子微量　粘土ブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
7	5YR	6/2	灰　褐　色	小土粒子微量　粘土ブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 201 図　第 51 号竪穴建物跡実測図



第 202 図　第 51 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 203 図　第 51 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 90 表　第 51 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[11.7]	4.0	7.9	長石・石英・チャート・針状鉱物	灰	やや不良	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	北西部床面	80% 木葉下窯
2	須恵器	坏	[16.2]	4.5	9.7	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ　底部不定方向の丁寧なナデ	P2 北側床面	70% 新治窯
3	須恵器	坏	[15.3]	4.5	12.5	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	東部覆土下層	50% 木葉下窯
4	須恵器	坏	[15.2]	4.5	[12.7]	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	竈西側床面	50% 木葉下窯
5	須恵器	坏	—	(2.0)	6.9	長石・石英・チャート・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り 内面中央部に仕上げナデ	東部覆土中層	30% 木葉下窯
6	須恵器	蓋	—	(4.4)	[17.9]	長石・石英	灰白	やや不良	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り　摘まみ欠損	覆土中	35% 堀の内窯
7	須恵器	長頸瓶	[11.6]	(2.0)	—	長石・石英・鉄分吹き出し	灰	良好	口縁部ロクロナデ	竈東側床面	5% 木葉下窯
8	土師器	甕	17.7	(6.7)	—	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内外面横位のナデ後ハケ目	北東隅床面	50%
9	土師器	甕	[23.9]	(7.9)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土中	20%
10	土師器	甕	[18.6]	(6.6)	—	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面縦位のナデ	覆土中	20%

11	土師器	甕	[16.9]	(9.2)	—	長石・石英・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土中	10%
12	須恵器	甕	[22.5]	(7.4)	—	長石・石英・チャート	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き　内面ロクロナデ	南部覆土中層から床面	10% 木葉下窯
13	土師器	ミニチュア壺	5.9	6.0	2.0	長石・石英・チャート	明黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り・内面横位のナデ 底部横位のヘラ削り	Ｐ２内	100%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	管状土錘	4.6	9.4	1.8	(179.0)	長石・石英	橙	全面ナデ	南部覆土下層	写真図版57
15	管状土錘	3.7	8.85	1.2	(115.0)	長石・石英・スコリア	橙	全面ナデ	中央部覆土下層	
16	管状土錘	4.3	(8.6)	14.5～16.5	(85.0)	細砂	黒褐	全面ナデ　一方向からの穿孔	中央部床面	70% 写真図版57
17	支脚	上部径7.95 基部径8.5	(12.6)	—	(577.0)	凝灰岩	明赤灰橙	二次焼成	竈内	
18	紡錘車	5.0	5.0	0.7	(18.0)	細砂・雲母		前面ミガキ　赤彩	南部覆土中層	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
19	勾玉	5.05	2.95	0.9	17.1	滑石	全面研磨	覆土中	写真図版57

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
20	刀子	(8.2)	0.8～1.45	0.5	(11.3)	鉄	刃部長さ 6.6cm　茎部長さ (1.6)cm　幅 1.0cm　厚さ 0.45cm	西部覆土中層	写真図版57
21	鎌	(9.1)	2.6	0.1	(20.5)	鉄	刃部	中央部覆土下層	写真図版57
22	不明鉄製品	(5.7)	3.9	0.3～0.6	(27.0)	鉄		西側覆土中層	写真図版57

第 52 号竪穴建物跡 (SI-52)(第 204・205 図　写真図版 11・31)

位置　調査区中央部 H37・38、I37・38 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 144・233 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.52 m、短軸 2.96 mで、平面形は長方形である。主軸方位はN － 35° － W である。壁は確認面から最大高 54cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 84cmである。袖部基部の最大幅は 50cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

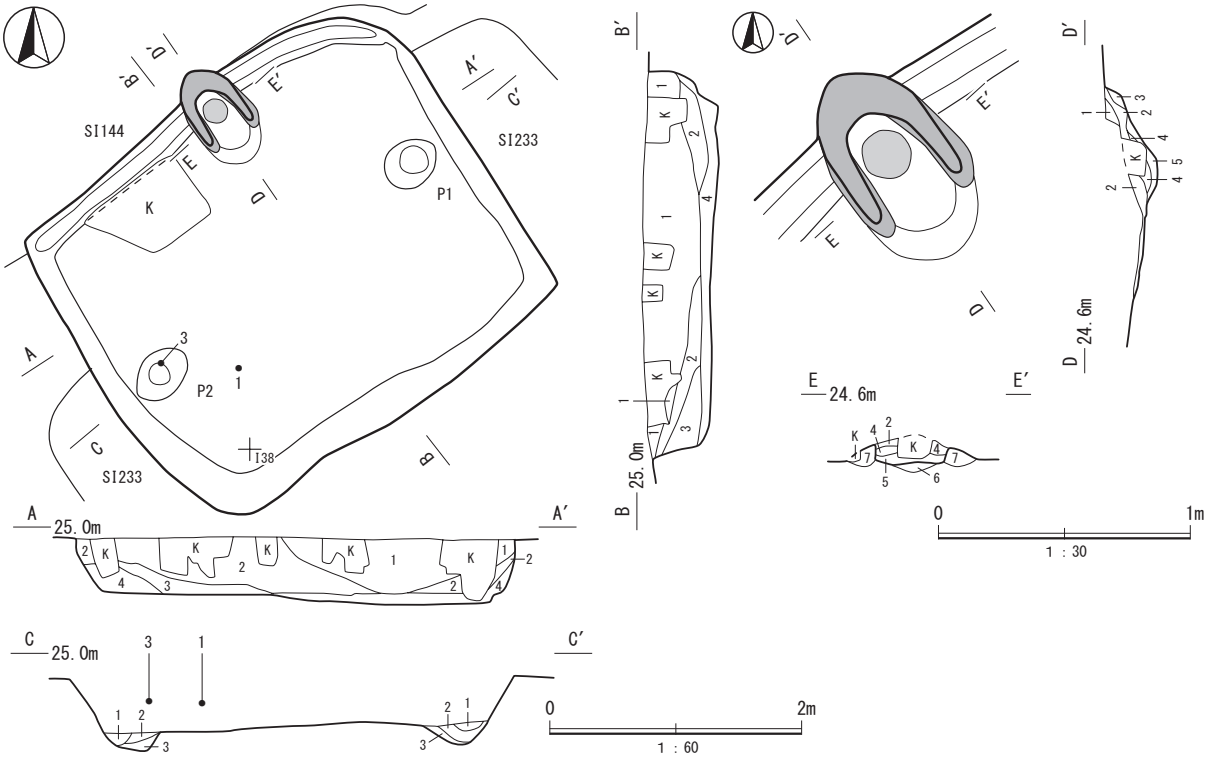
土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット２か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１:42 × 38cm、深さ 16cm、

Ｐ２：54 × 38cm、深さ 16cm、Ｐ３：40 × 32cm、深さ 50cmである。

遺物出土状況　土師器片 308 点 [坏 18 点 (266g)、高台付坏２点 (104g)、高坏 20 点 (501g)、高台付皿１点 (112g)、甕 266 点 (4,756g)]、須恵器片 23 点 [坏３点 (189g)、高台付坏２点 (59g)、甕 17 点 (567g)、甑１点 (23g)]、弥生土器片６点 (69g)、土製品１点 (８g)、礫 14 点 (3,300g)。１の土師器坏は南東部の覆土中層、３の須恵器坏は西部の覆土中層から出土している。２の土師器坏・４の須恵器坏・５の土師器高台付坏・６の土師器高台付皿、７の土師器甕・８の須恵器甕・９の須恵器甑・10 の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 204 図　第 52 号竪穴建物跡実測図

土層解説

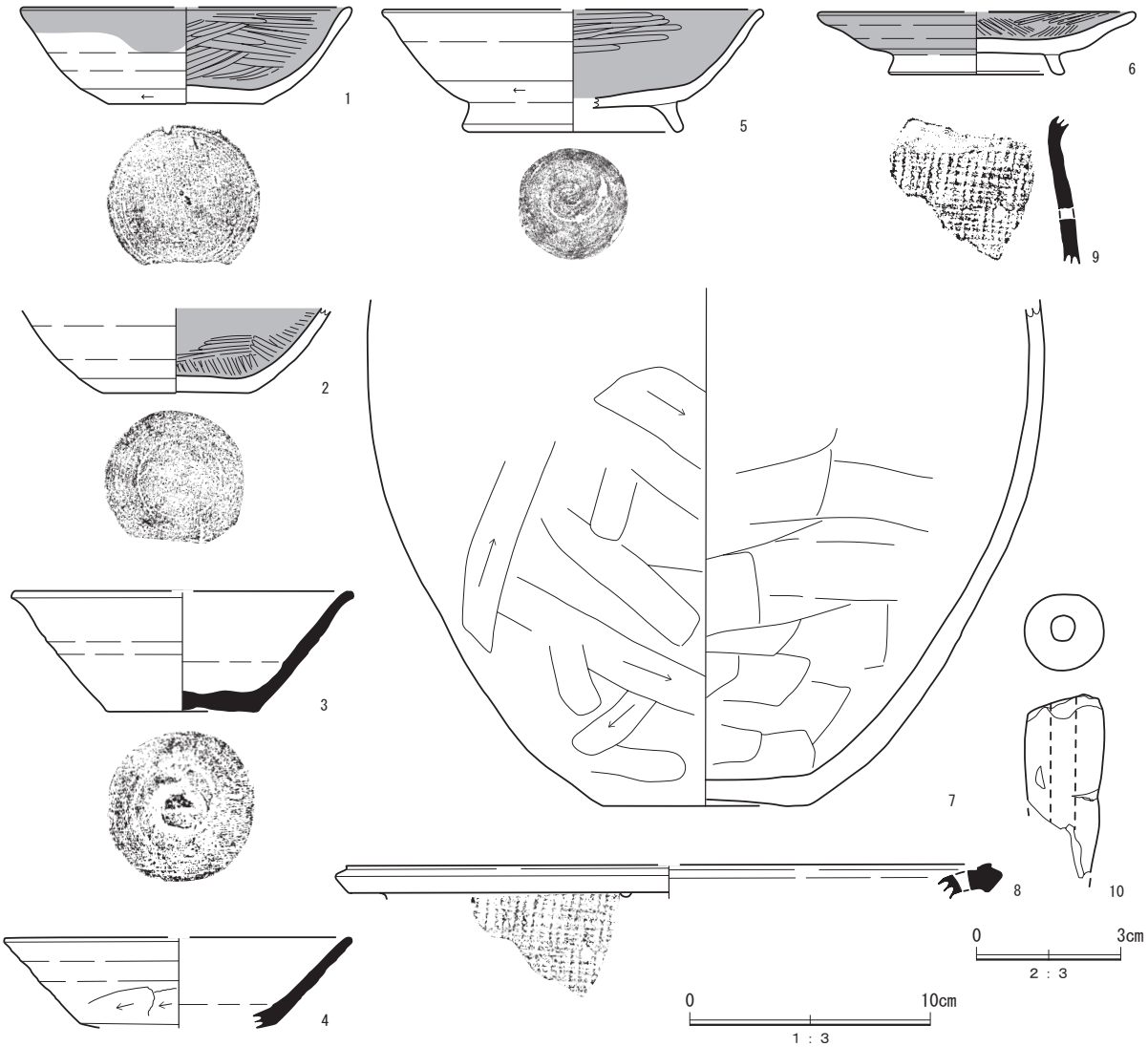
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　５YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
2　５YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　５YR　3/1　黒 褐 色　焼土粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
4　５YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
5　５YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
6　2.5YR　5/6　明赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
7　５YR　5/1　褐 灰 色　焼土粒子微量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり



第 205 図　第 52 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 91 表　第 52 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	4.0	[6.4]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　底部回転ヘラ削り　内外面黒色処理	南東部 覆土 中層	40%
2	土師器	坏	—	(3.1)	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	暗灰	普通	ロクロナデ　体部下端・底部回転ヘラ削り　内面多方向のヘラミガキ　内面黒色処理	覆土中	30%
3	須恵器	坏	[13.8]	5.0	6.4	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	西部 覆土中層	50% 木葉下窯 写真図版 57
4	須恵器	坏	[14.2]	(3.75)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　体部下端手持ちヘラ削り 底部ナデヵ	覆土中	30% 木葉下窯 写真図版 57
5	土師器	高台付坏	[15.6]	5.1	[8.6]	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	ロクロナデ　体部下端・底部回転ヘラ削り後高台貼り付け　内面横位のヘラミガキ　内面黒色処理	覆土中	40% 写真図版 57
6	土師器	高台付皿	[13.0]	2.6	[7.0]	長石・石英・チャート	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ　体部下端・底部回転ヘラ削り後高台貼り付け　内面多方向のヘラミガキ　内外面黒色処理	覆土中	60% 写真図版 57

7	土師器	甕	―	(21.0)	8.4	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	5% 写真図版 57
8	須恵器	甕	［26.7］	(1.4)	―	長石・石英・ 雲母・ スコリア	褐灰	普通	ロクロナデ　補修孔	覆土中	3% 新治窯
9	須恵器	甑	―	(6.0)	―	長石・石英・ 雲母	にぶい 褐	やや不 良	ロクロナデ　体部外面格子目叩き 内面横位のナデ　補修孔	覆土中	5% 新治窯

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	管状 土錘	1.55 ～ 1.62	(3.75)	0.51 ～ 0.53	(7.7)	長石・石英・ スコリア	赤褐	外面ナデ	覆土中	写真図版 57

第 73 号竪穴建物跡 (SI-73)(第 206・207 図　写真図版 12)

位置　調査区中央部 D25・26、E25・26 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 72 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は 4.54 m、短軸は 4.44 mで、平面形は方形である。主軸方位はN － 40° － W で壁は最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。トレンチャーにより切断され、焚口部から煙道部は 106cmである。袖部の基部の最大幅は 130cmと推測される。比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。火床面は床面とほぼ同じ高さである。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：60 × 56cm、深さ 36cm、Ｐ２:40 × 38cm、深さ 42cm、Ｐ３:60 × 42cm、深さ 52cm、Ｐ４:52 × 38cm、深さ 94cm、Ｐ５：60 × 56cm、深さ 32cmである。

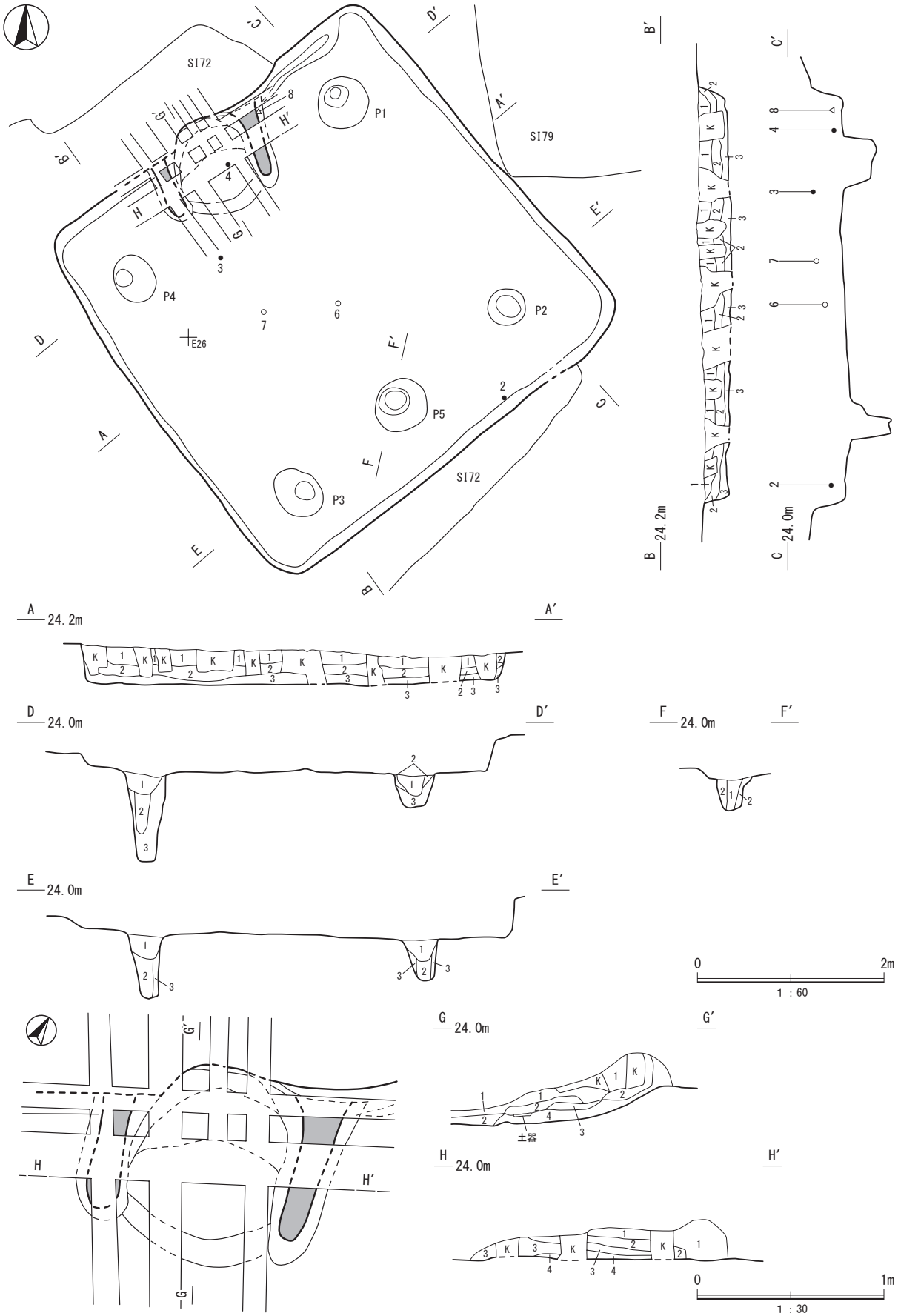
遺物出土状況　土師器片 236 点 [坏 13 点 (254g)、高坏 2 点 (13g)、蓋 1 点 (9 g)、小型甕 2 点 (460g)、甕 218 点 (3,188g)]、須恵器片 22 点［坏 9 点 (321g)、瓶 2 点 (33g)、甕 10 点 (287g)］、縄文土器片 3 点 (34g)、弥生土器片 6 点 (74g)、鉄製品 2 点 (82g)、土製品 1 点 (64g)、石 9 点 (852g)。２の須恵器坏は南壁の覆土中層、３の土師器甕は竈前の覆土中層、４の土師器甕は竈内から出土している。６の土師器鉢・７の土玉は中央部の覆土中層、８の槍鉋は竈右袖内から出土している。１の土師器坏・５の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀中葉と考えられる。

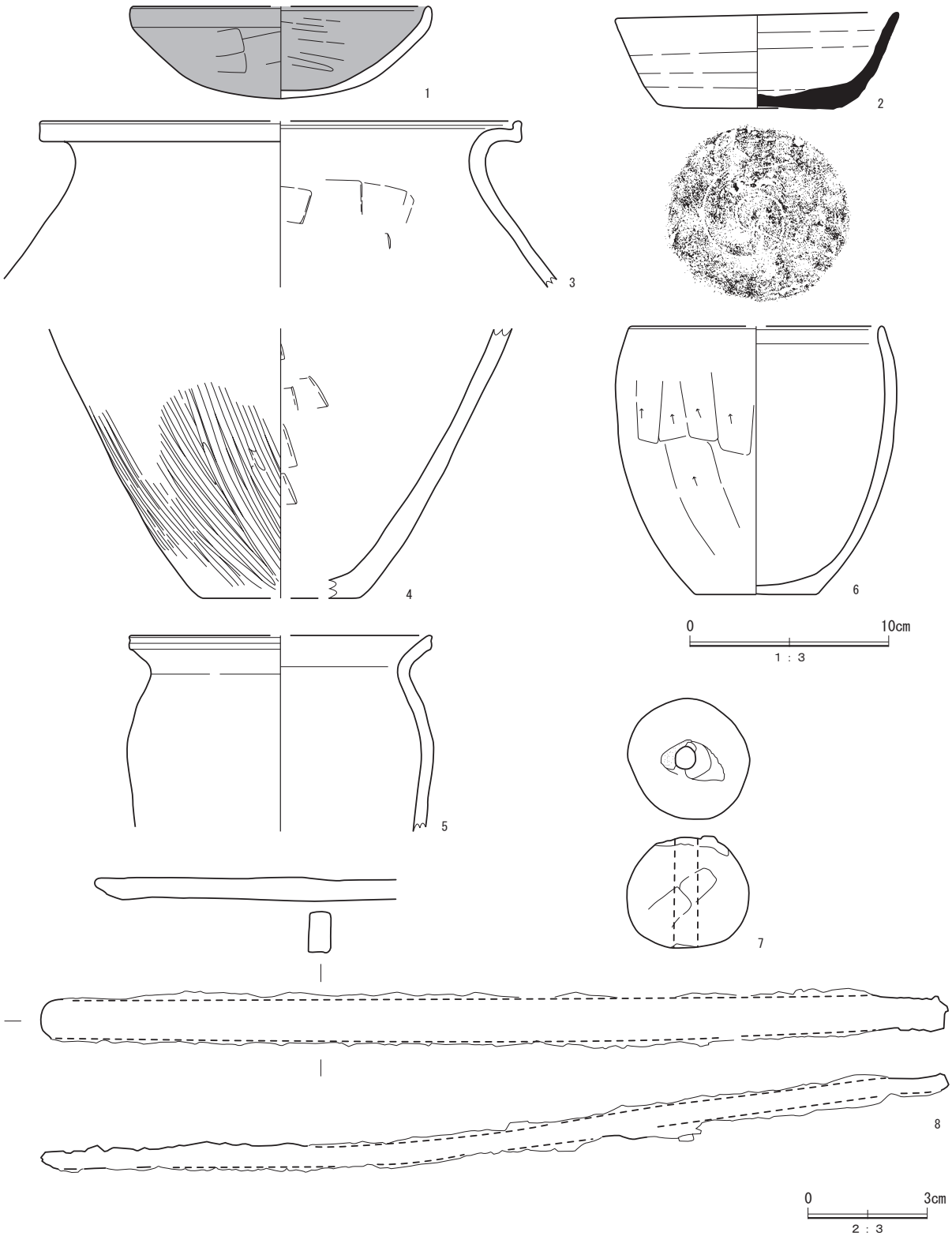
土層解説
1　10YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説
1　５YR　3/4　暗赤褐色　焼土ブロック少量　炭化粒子少量　灰白色粘土ブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　５YR　4/6　赤 褐 色　焼土ブロック多量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　５YR　3/6　暗赤褐色　焼土ブロック多量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　５YR　4/4　暗赤褐色　焼土ブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり



第 206 図　第 73 号竪穴建物跡実測図



第 207 図　第 73 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 92 表　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.8]	4.7	—	長石・石英・チャート	黒	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ　内面横位のヘラミガキ　内外面黒色処理	覆土中	40%
2	須恵器	坏	14.1	4.5 ～ 4.8	8.8 ～ 9.0	長石・石英・チャート・針状鉱物	黄灰	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	南部覆土中層	70% 木葉下窯 写真図版 58
3	土師器	甕	[24.0]	(8.4)	—	長石・石英・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面横位のナデ	竈前覆土中層	15%
4	土師器	甕	—	(13.6)	[8.0]	長石・石英・チャート	橙	普通	体部外面縦位のヘラミガキ 内面横位のヘラナデ　底部一方向へのヘラナデ	竈内	10%
5	土師器	小形甕	[15.0]	(9.9)	—	長石・石英・チャート	赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部内外面ナデ	覆土中	20% 煤付着
6	土師器	鉢	[12.6]	13.5	—	長石・石英・チャート	赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ　底部一方向へのヘラ削り	中央部覆土中層	45% 写真図版 58

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	2.8	3.0 ～ 3.1	0.6	24.5	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	中央部覆土中層	写真図版 58

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	槍鉋	22.6	1.0	0.55	61	鉄	刃部と茎部	竈右袖内	写真図版 58

第 76 号竪穴建物跡 (SI-76)(第 208・209 図　写真図版 13・14)

位置　調査区中央部 C26・27、D26 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 75・79 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

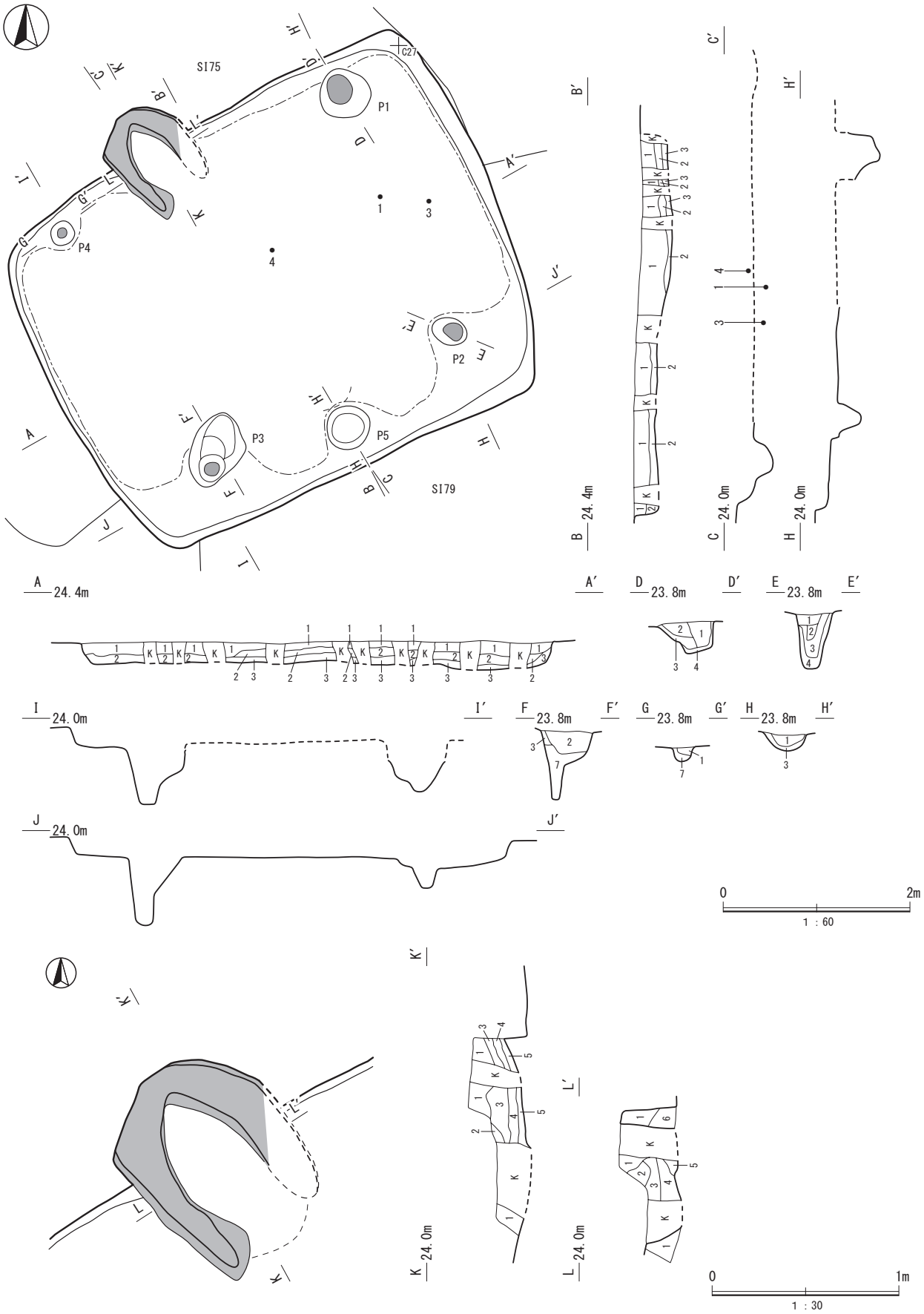
規模と形状　長軸 5.20 m、短軸 4.12 mで、平面形は長方形である。主軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床　全体的に踏み固められている。

竈　北西壁中央左寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 112cmである。袖部の基部の最大幅は 88cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：54 × 50cm、深さ 30cm、Ｐ２:42 × 28cm、深さ 28cm、Ｐ３:78 × 50cm、深さ 80cm、Ｐ４:30 × 30cm、深さ 30cm、Ｐ５：50 × 50cm、深さ 20cmである。



第 208 図　第 76 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

竈土層解説
1　7.5YR　3/2　黒　褐　色　黄褐色粘土ブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　黄褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　7/6　橙　　色　粘土粒子微量　黄褐色粘土ブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/1　黒　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　黄褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
5　5YR　5/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄褐色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　焼土ブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり

遺物出土状況　土師器片 783 点 [坏 27 点 (366g)、高坏 17 点 (723g)、甕 739 点 (10,000g)]、須恵器片 32 点 [坏 14 点 (220g)、高台付坏 2 点 (39g)、盤 1 点 (61g)、甕 15 点 (366g)]、鉄製品 1 点 (14g)、弥生土器片 34 点 (328g)、土製品 10 点 (218g)、礫 41 点 (7,500g)。1 の須恵器坏、3 の須恵器盤は東部の覆土下層、4 の土師器甕は中央部の覆土中層から出土している。2 の須恵器坏・5 ～ 16 の土玉、17 の刀子は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。

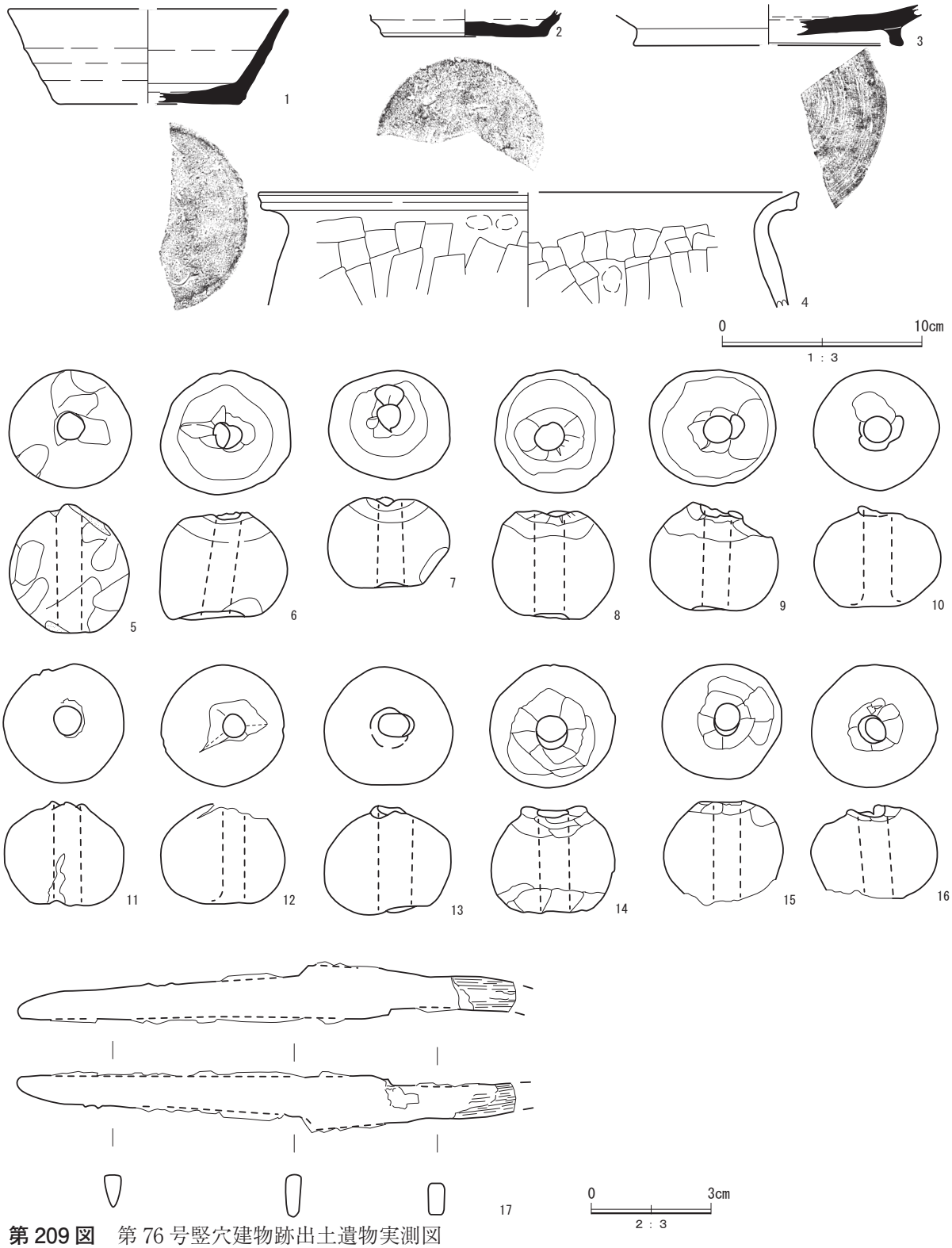
第 93 表　第 76 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.8]	4.75	[9.1]	長石・石英・チャート	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	東部覆土下層	30% 木葉下窯
2	須恵器	坏	—	(1.3)	8.2	長石・石英・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ　中央部一方向のヘラ削り	覆土中	30% 木葉下窯
3	須恵器	盤	—	(2.0)	[13.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ　高台貼り付け 底部回転ヘラ削り	東部覆土下層	20% 新治窯
4	土師器	甕	[26.8]	(5.8)	—	長石・雲母・白色粒子	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ	中央部覆土中層	5% 内面煤付着

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	3.0	3.2	0.6	28.3	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	写真図版58
6	土玉	(2.7)	3.2	0.7	(24.3)	長石	褐灰	外面ナデ	覆土中	写真図版58
7	土玉	2.2	2.7 ～ 3.1	0.6	16.2	長石・石英	褐灰	外面ナデ	覆土中	写真図版58
8	土玉	2.7	3.0	0.8	21.6	長石	にぶい褐	外面ナデ　上下面使用痕あり	覆土中	写真図版58
9	土玉	2.7	2.9 ～ 3.2	0.7	20.1	長石・石英	灰褐	外面ナデ　下面使用痕あり	覆土中	写真図版58
10	土玉	2.5	3.0 ～ 3.2	0.7	(20.3)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	写真図版58
11	土玉	2.7	3.0	0.6 ～ 0.7	(20.0)	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	覆土中	写真図版58
12	土玉	2.5	3.0 ～ 3.1	0.5	(20.4)	長石・石英	明褐灰	外面ナデ	覆土中	写真図版58
13	土玉	2.7	3.0 ～ 3.2	0.7 ～ 0.9	(22.3)	長石・石英	灰褐	外面ナデ　下面使用痕あり	覆土中	写真図版58
14	土玉	2.6	3.1	0.8 ～ 0.9	20.9	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ　上下面使用痕あり	覆土中	写真図版58

15	土玉	(2.6)	2.9～3.0	0.7～0.8	(18.0)	長石・石英	黒褐	外面ナデ　上下面使用痕あり	覆土中	写真図版58
16	土玉	2.4	3.1～3.2	0.7～0.8	(18.9)	長石・石英	灰褐	外面ナデ　上下面使用痕あり	覆土中	写真図版58

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	刀子	(12.3)	1.4	0.4	(14.2)	鉄	刃部の長さ 7.2cm　茎部に木片付着	覆土中	写真図版58



第 209 図　第 76 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 92 号竪穴建物跡 (SI-92)(第 81・82 図　写真図版 17・18)

位置　調査区西部Ｇ６～Ｈ７グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　西側が傾斜地に位置し、長軸 4.56 ｍ、短軸 4.50 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 15°－Ｗである。壁は確認面から最大高 16 ㎝で、ほぼ直立している。壁溝は、確認できた壁で、上幅 18 ～ 20 ㎝、下幅６～ 10 ㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央に粘土範囲と焼土の一部を確認する程度である。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況が見られる。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴，Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１:50 × 40 ㎝，深さ 60 ㎝，Ｐ２:50 × 40 ㎝，深さ 50 ㎝，Ｐ３:50 × 46 ㎝，深さ 54 ㎝，Ｐ４：60 × 50 ㎝，深さ 48 ㎝，Ｐ５：30 × 30 ㎝，深さ 10 ㎝である。

遺物出土状況　土師器片 49 点 [坏３点 (33g)、甕 46 点 (746g)]、須恵器甕片１点 (21g)、弥生土器片１点 (５g)、陶器片１点 (７g)]、礫２点 (28g)。１の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器が少なく判断が難しいが奈良時代と考えられる。

土層解説

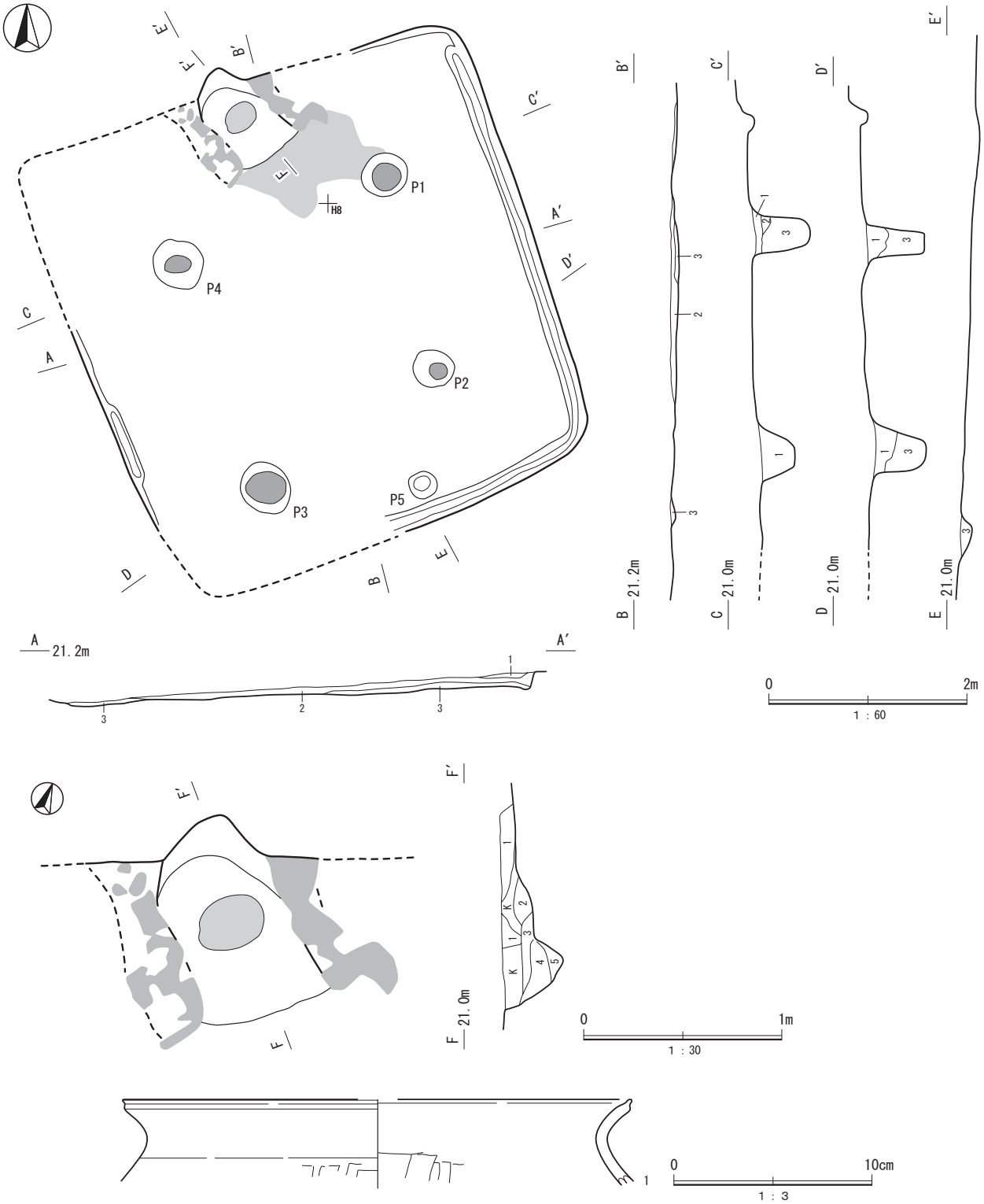
1	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	５YR	6/1	褐 灰 色	ローム粒子少量　粘土ブロック多量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック中量・粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1	7.5YR	4/6	褐　色	ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり 締まりあり
2	7.5YR	4/6	褐　色	ローム粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	５YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2	５YR	3/3	暗赤褐色	ロームブロック・粒子多量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	５YR	4/1	黒 褐 色	ローム粒子中量　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4	５YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子中量　炭化粒子微量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
5	５YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 210 図　第 92 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 94 表　第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[25.6]	(4.3)	―	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面・内面縦位のナデ	覆土中	5%

第 96 号竪穴建物跡 (SI-96)(第 211・212 図　写真図版 19・20)

位置　調査区西部Ｈ５・６、Ｊ５・６グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 102・104 号竪穴建物跡を掘り込んで、第２号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.75 ｍ、短軸 4.51 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 30°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 10cmで、ほぼ直立している。壁溝は、全壁で確認でき、上幅 18 ～ 30cm、下幅６～ 10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土の上部に暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 83cmである。袖部の基部の最大幅は約 92cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口には灰白色粘土を貼り付け、床面から３cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：55 × 50cm、深さ 40cm、Ｐ２:56 × 50cm、深さ 30cm、Ｐ３:70 × 66cm、深さ 54cm、Ｐ４:62 × 50cm、深さ 50cm、Ｐ５：40 × 32cm、深さ 34cmである。

遺物出土状況　土師器片 131 点 [坏 14 点 (94g)、甕 127 点 (1,817g)]、須恵器片６点 [蓋２点 (117g)、甕４点 (129g)]、弥生土器片 33 点 (285g)、土製品１点 (16g)、礫 16 点 (6,400g)。２の土師器甕はＰ３とＰ４内から出土している。１の須恵器坏蓋は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀前葉と考えられる。

土層解説

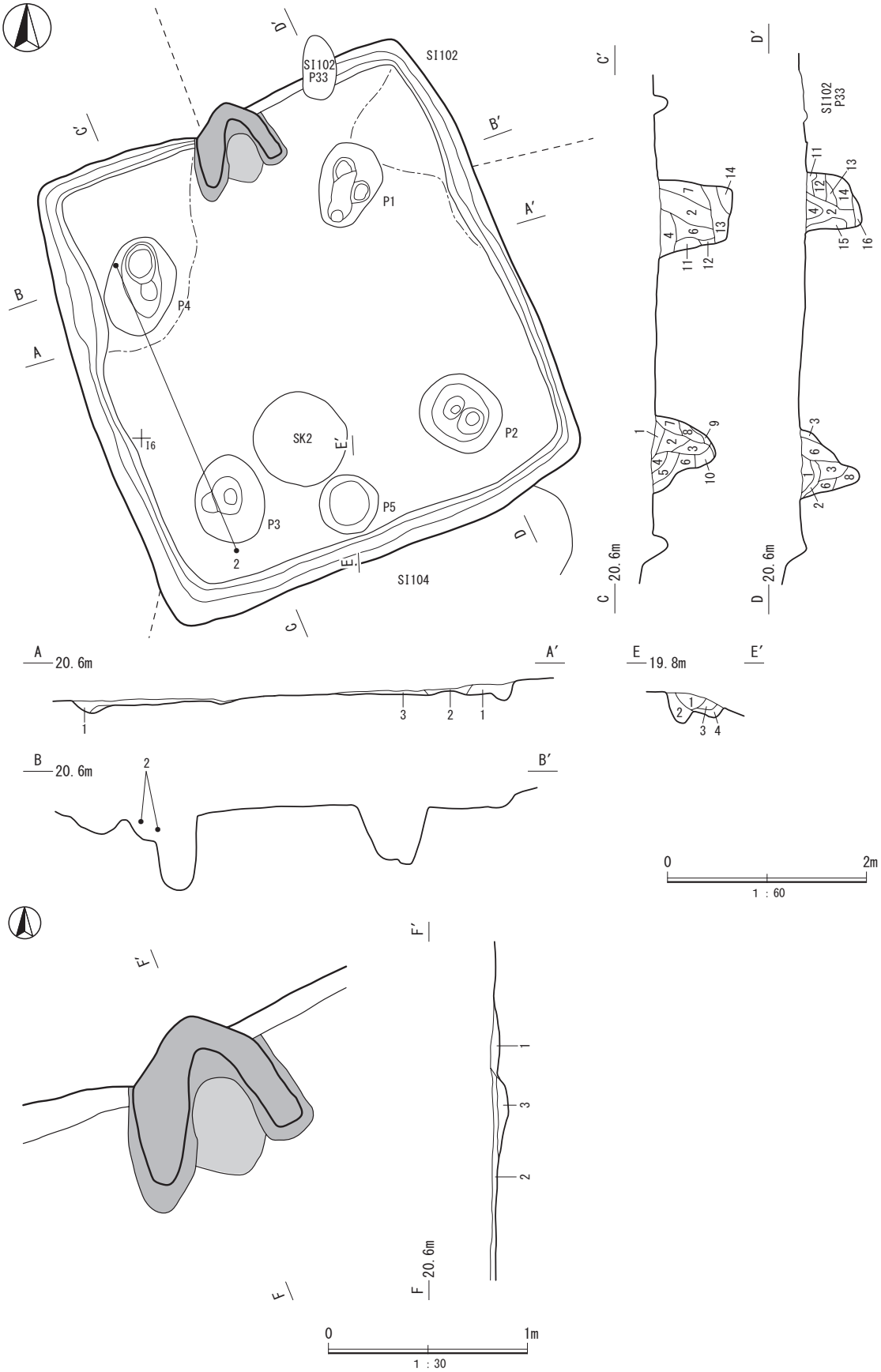
1	10YR	4/3	にぶい黄褐色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2	10YR	3/2	黒　褐　色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3	10YR	6/6	明 黄 褐 色	ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

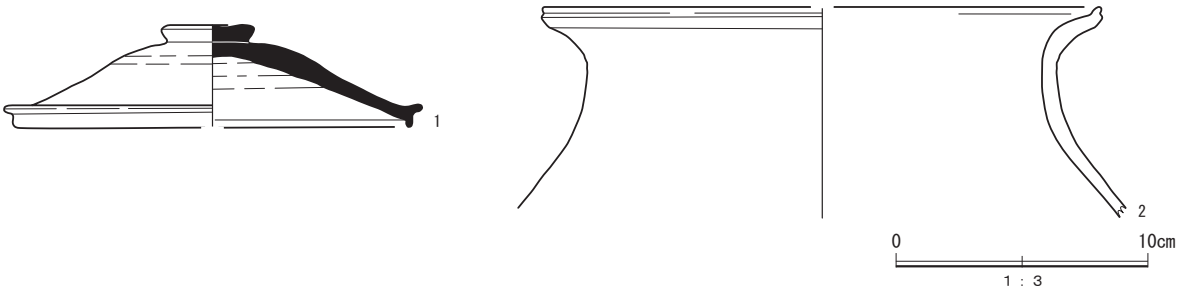
1	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック少量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/3	褐　色	ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	4/4	褐　色	ローム粒子中量／粘性あり 締まりなし
6	7.5YR	4/3	褐　色	ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まり強い
7	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック微量・粒子小量／粘性あり　締まりあり
8	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まり強い
9	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子少量／粘性なし　締まり強い
10	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック少量／粘性あり 締まりあり
11	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック中量／粘性あり　締まりあり
12	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック中量／粘性あり　締まりあり
13	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
14	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まり強い
15	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
16	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子少量／粘性あり　締まり強い

竈土層解説

1	5YR	6/1	褐　灰　色	焼土粒子微量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2	5YR	4/3	にぶい赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　暗褐色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3	5YR	3/2	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし



第 211 図　第 96 号竪穴建物跡実測図



第 212 図　第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 95 表　第 96 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	3.65	4.05	[15.7]	長石・石英・雲母	灰白	やや不良	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り 摘まみロクロナデ	覆土中	5% 瀬戸美濃 写真図版58
2	土師器	甕	[22.0]	(8.0)	―	砂粒・石英・雲母	褐	普通	口縁部横ナデ 体部内外面横位のナデ	P3・P4	15%

第 108 号竪穴建物跡 (SI-108)(第 213 図　写真図版 22)

位置　調査区中央部 D20・21 グリットに位置し、標高 23 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 109 号竪穴建物跡を掘り込み、第５号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延びており、中央部を第５号溝に掘り込まれており、北西・南東軸は 3.90 m、北東・南西軸は 5.20 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、北西・南東軸方位はN － 35° － W である。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、西・南壁の一部で確認でき、上幅 14 ～ 18cm、下幅６～ 10cm、深さ６cmで、断面形はU字形を呈している。

床　中央部にかけて踏み固められている。

土層　２層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１:28 × 22cm､深さ 44cm、Ｐ２：70 × 50cm、深さ 66cm、Ｐ３：54 × 50cm、深さ 62cm、Ｐ４：52 × 44cm、深さ 60cm、Ｐ５：40 × 40cm、深さ 20cm、Ｐ６：42 × 40cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 44 点 [坏 14 点 (254g)、高台付坏３点 (109g)、甕 28 点 (297g)]、須恵器坏片３点 (18g)、陶器片１点 (11g)、礫１点 (13g)。１の土師器坏、２・３の土師器高台付坏は覆土中から出土している。

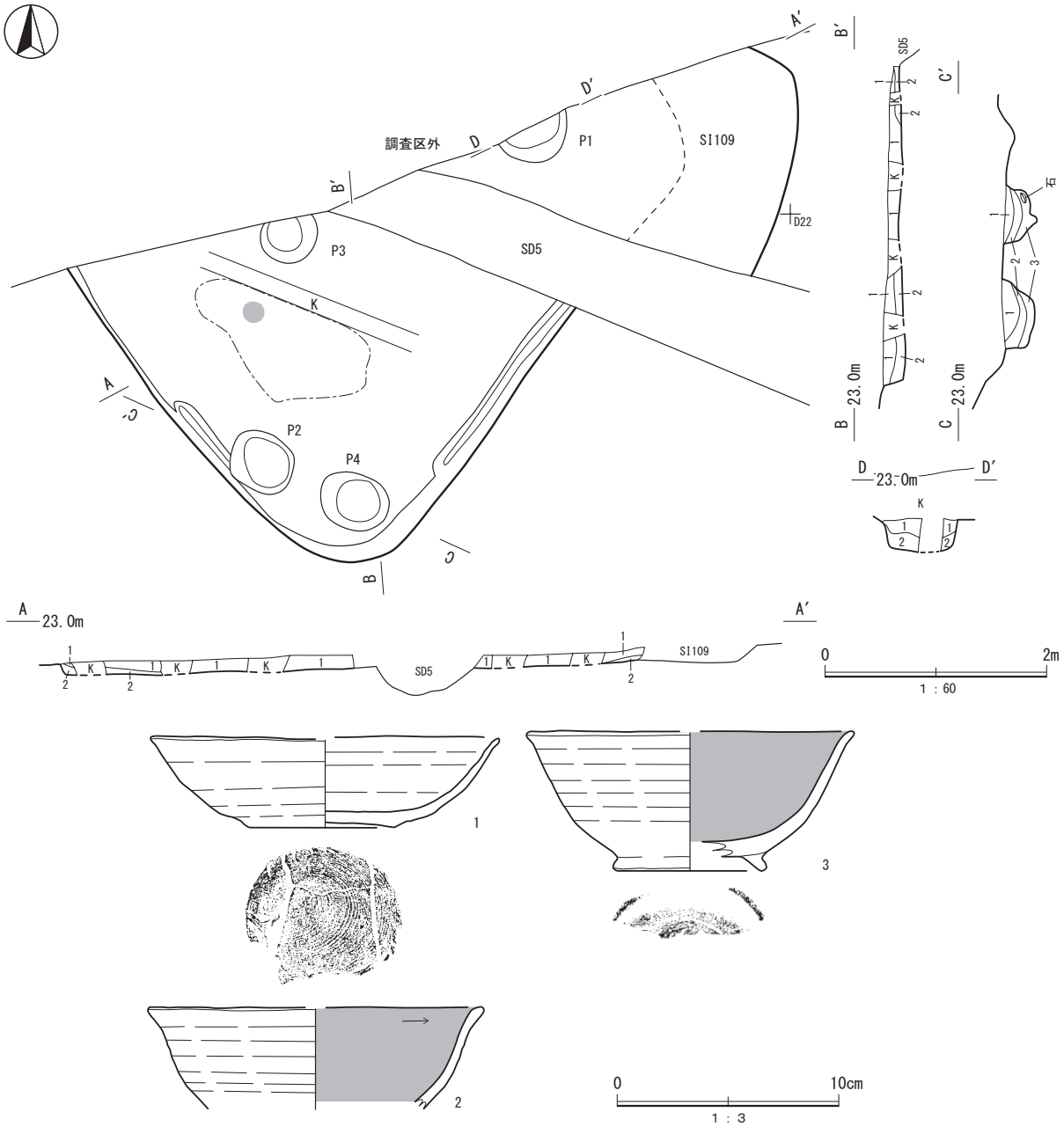
所見　時期は、出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。床面南西部で焼土が確認されたことから焼失家屋と考えられる。

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 213 図　第 108 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

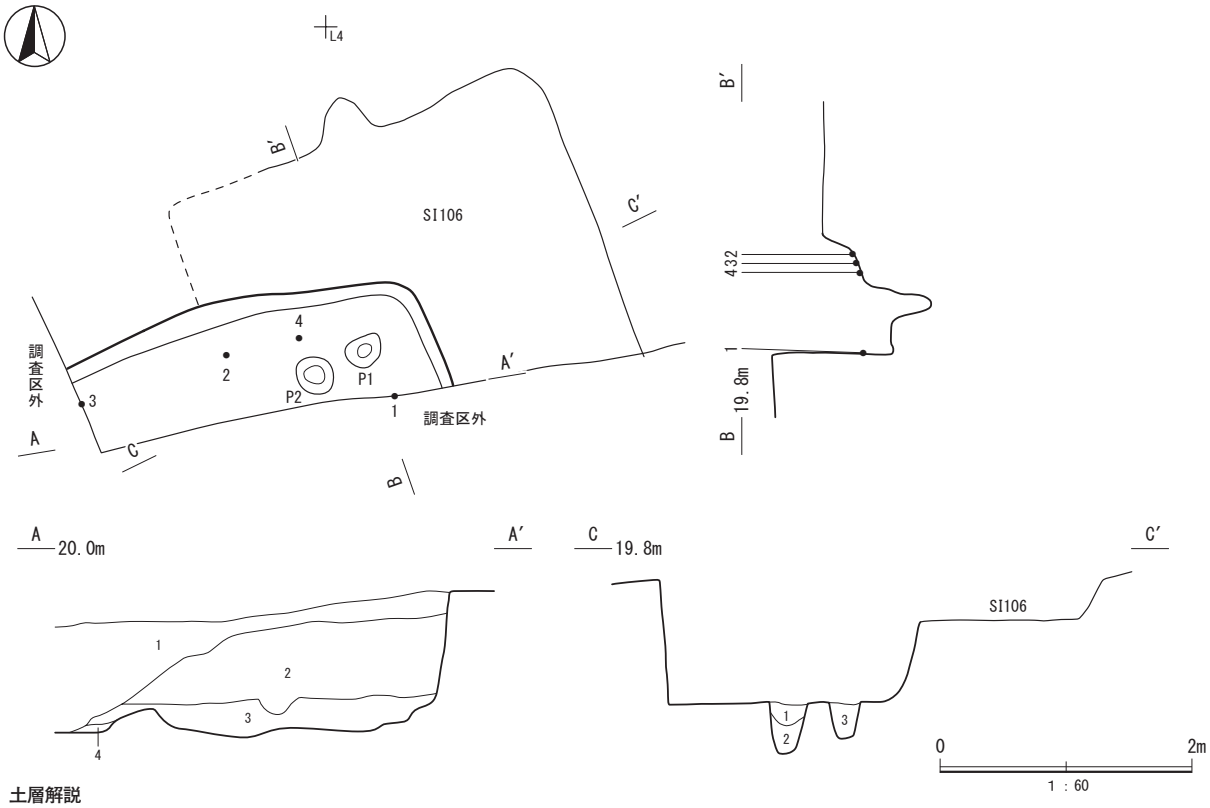
第 96 表　第 108 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.8]	4.0	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り　不調整	覆土中	20%
2	土師器	高台付坏	[15.2]	(4.5)	―	砂粒・雲母・スコリア	褐	良好	ロクロナデ　体部内面横位のヘラミガキ 内面黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	高台付坏	[14.8]	6.2	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	良好	ロクロナデ　体部内面横位のヘラミガキ 内面黒色処理　底部回転糸切り後高台貼り付け	覆土中	20%

第 110 号竪穴建物跡 (SI-110)(第 214 図　写真図版 21)

位置　調査区西部Ｌ３・４グリットに位置し、標高 19 mの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

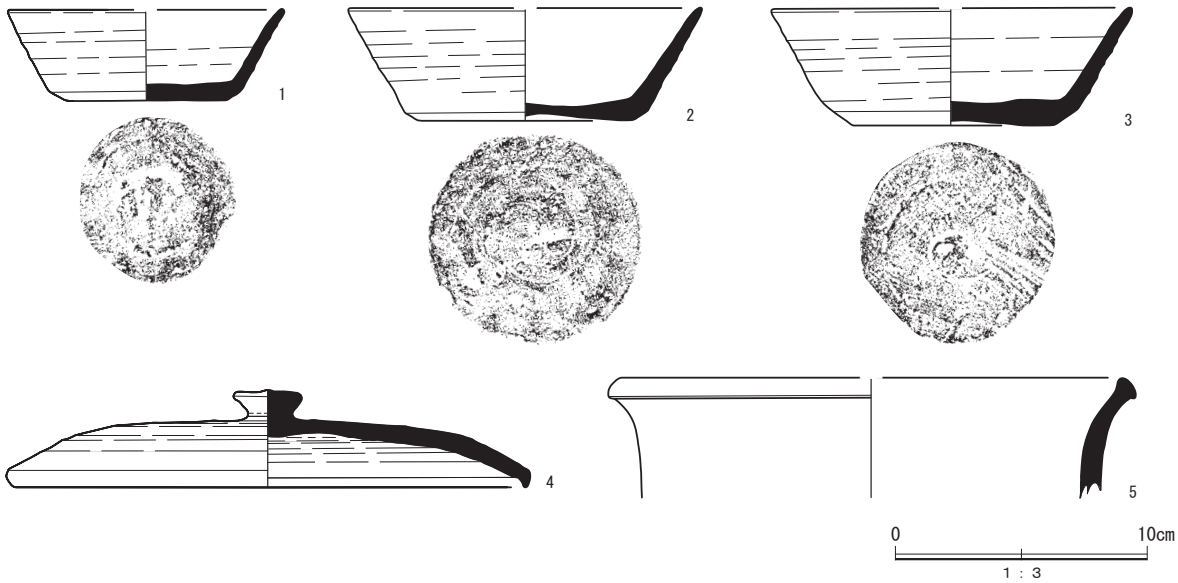


土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 214 図　第 110 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 97 表　第 110 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	10.8	3.6	6.5	長石・石英・チャート	灰黄	やや不良	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り痕を残す不定方向のナデ	北東部床面	70% 木葉下窯
2	須恵器	坏	13.9	4.45	8.5	長石・石英	灰オリーブ	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	北部床面	80% 木葉下窯 写真図版58
3	須恵器	坏	14.2	4.6～4.7	8.0	長石・石英・針状鉱物・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後２方向のヘラ削り	北部床面	70% 木葉下窯 写真図版58
4	須恵器	蓋	―	3.85	20.4	長石・石英・鉄分吹き出し	灰黄	普通	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り 摘まみロクロナデ	東部床面	100% 木葉下窯 写真図版58
5	須恵器	甕	[20.0]	(4.5)	―	長石・石英	黄褐	良好	ロクロナデ　内外面黄褐色の自然釉	覆土中	3% 木葉下窯

重複関係　第 106 号竪穴建物跡を掘り込み、第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部は傾斜地で第２号溝に掘り込まれ、南部は調査区外になり、南北軸 0.75 m、東西軸 2.30 mしか確認できなかった。平面形は不明である。東西軸方位はN － 70° － E である。壁は確認面から最大高 100cmで、ほぼ直立している。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。第１層は第２号溝の覆土である。

ピット　ピット２か所が検出された。Ｐ１:30 × 30cm、深さ 40cm、Ｐ２:30 × 20cm、深さ 36cmである。

遺物出土状況　土師器片 45 点 [坏１点 (18g)、甕 44 点 (1,179g)]、須恵器片７点 [坏５点 (432g)、蓋１点 (457g)、甕１点 (33g)]、弥生土器片３点 (58g)。１の須恵器坏は北東部の床面、２の須恵器坏は北部の床面、３の須恵器坏は北部の床面、４の須恵器蓋は北東部の床面から出土している。５の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第 115 号竪穴建物跡 (SI-115)(第 215・216 図　写真図版 23・24)

位置　調査区東部 H40・41、I40・41 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 116・205 号竪穴建物跡を掘り込んで、第３号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.50 m、短軸 3.12 mで、平面形は長方形である。主軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 20cmで、ほぼ直立している。壁溝は、東・西・南壁の一部で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅４～ 10cm、深さ６cmで、断面形はU字形を呈している。

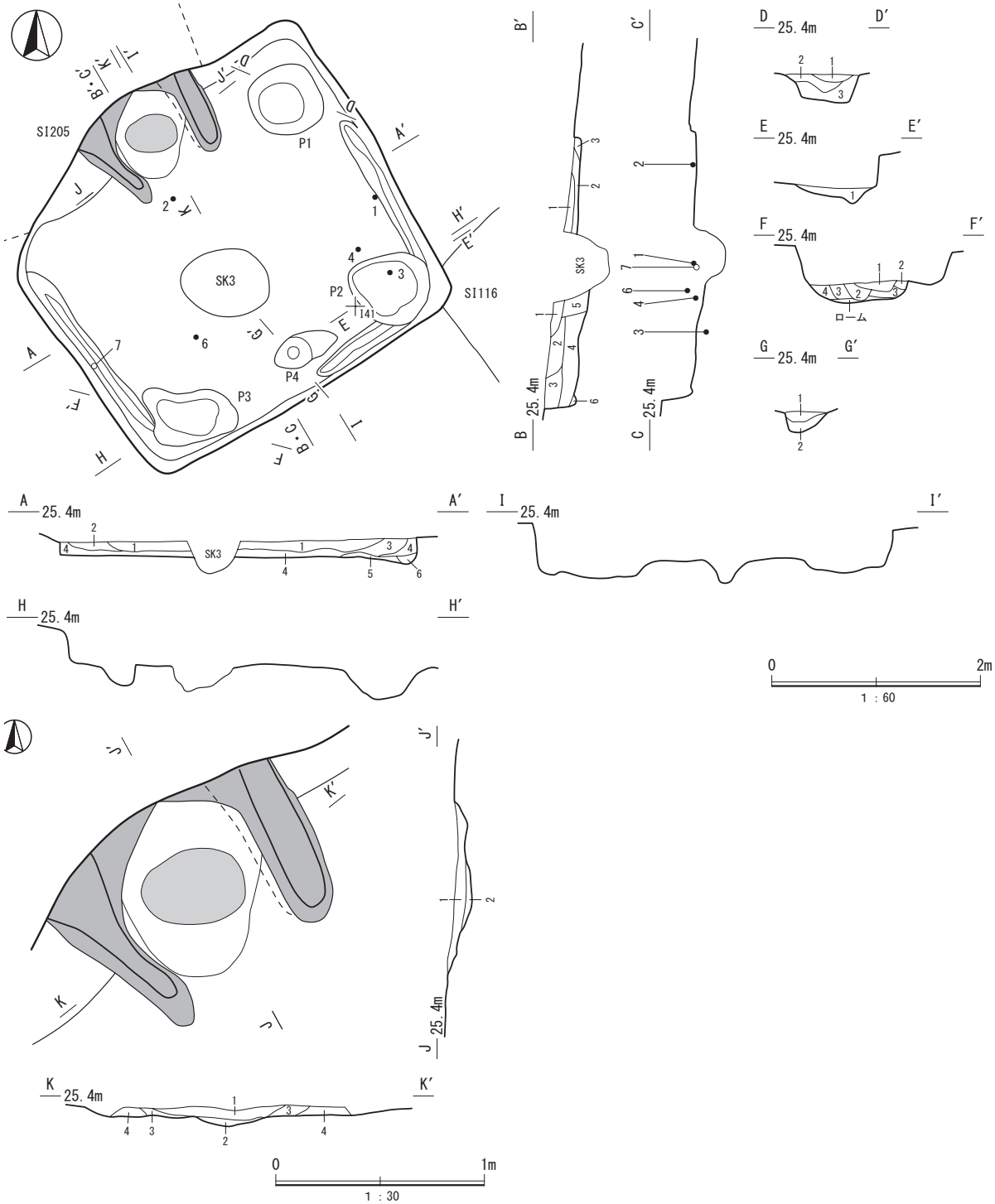
床　全面が踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 90cmである。袖部の基部の最大幅は約 120cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴、Ｐ４は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 70cm、深さ 28cm、Ｐ２:74 × 70cm、深さ 18cm、Ｐ３:90 × 46cm、深さ 20cm、Ｐ４:40 × 30cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器片 190 点 [坏 15 点 (200g)、高台付坏 4 点 (148g)、高坏 1 点 (11g)、甕 170 点 (1,600g)]、須恵器片 42 点 [坏 15 点 (205g)、高台付坏 1 点 (23g)、蓋 5 点 (72g)、甕 19 点 (325g)]、弥生土器片 1 点 (12g)、鉄製品 1 点 (8 g)、土製品 1 点 (78g)、礫 2 点 (70g)。１の土師器坏は東部床面、



第 215 図　第 115 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

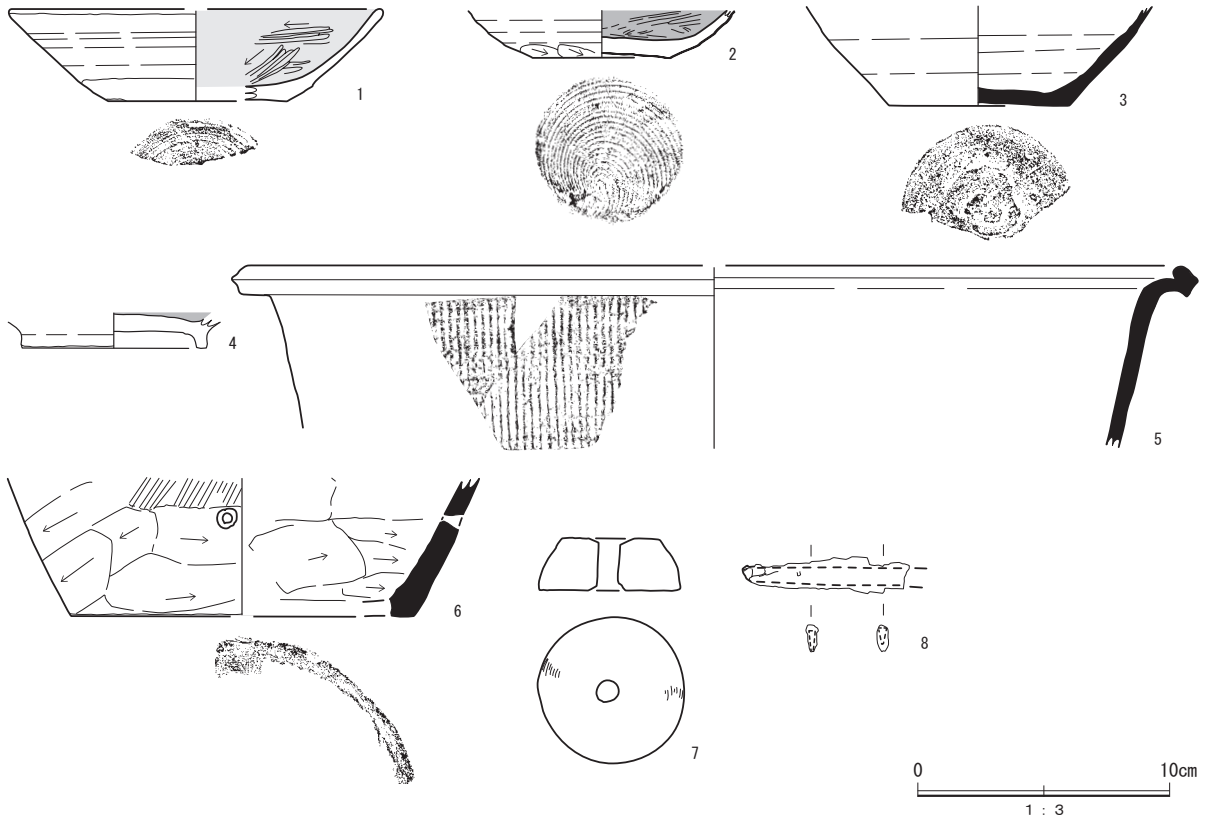
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　2/4　極暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　暗褐色粘土粒子少量／粘性なし　しまりなし
4　2.5YR　5/2　灰　赤　色　灰褐色粘土粒子多量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし

３の須恵器坏はＰ２内、２の土師器坏は竈前の覆土下層、４の土師器高台付坏は南東部の床面から出土している。６の須恵器甑は中央部の床面・７の土製紡錘車は西壁溝内の床面から出土している。５の須恵器甑・８の刀子は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第 216 図　第 115 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 98 表　第 115 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	3.5	[7.2]	長石・石英・スコリア・雲母	明赤褐	良好	ロクロナデ　内面放射状のヘラミガキ 口縁部横位のヘラミガキ　内面赤彩 体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り	東部床面	25% 写真図版58
2	土師器	坏	—	(1.8)	5.6	長石・石英・スコリア・雲母	にぶい褐	良好	ロクロナデ　内面横位のヘラミガキ 下端２方向のヘラミガキ　内面黒色処理 体部下端斜位のナデ　底部回転糸切り不調製	竈前覆土下層	
3	須恵器	坏	—	(4.0)	7.4	長石・石英	褐	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	Ｐ２内	30%
4	土師器	高台付坏	—	(1.6)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　内面一方向のヘラミガキ 内面黒色処理　底部回転ヘラ削り	南東部床面	10%
5	土師器	甑	—	5.5()	[13.6]	長石・石英・スコリア・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り 上位斜位の平行叩き　内面横位のヘラナデ 底部５孔式　体部下端焼成後の穿孔	覆土中	10%
6	須恵器	甑	[37.0]	(7.2)	—	長石・石英・スコリア・雲母	灰褐	普通	ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き 内面横位のナデ　５孔式	中央部床面	5% 新治窯

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	紡錘車	5.8	2.0	0.8	(78.0)	細砂	明褐灰	器面ナデ　黒色処理ヵ　使用による摩滅	西壁溝内	写真図版58

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	刀子	(6.6)	(0.6 ～ 1.3)	0.3	(8.0)	鉄	刃部の長さ 5.6cm　茎部の長さ 1.0cm	覆土中	写真図版58

第 116 号竪穴建物跡 (SI-116)(第 217・218 図　写真図版 24)

位置　調査区西部 H41、I41 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 149 号竪穴建物跡、第 12 号土坑を掘り込み、第 115 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は 3.12 m、短軸は 2.92 mで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 52°－Ｅである。壁は確認面から最大高 64cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北西壁と南西壁で、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 10cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

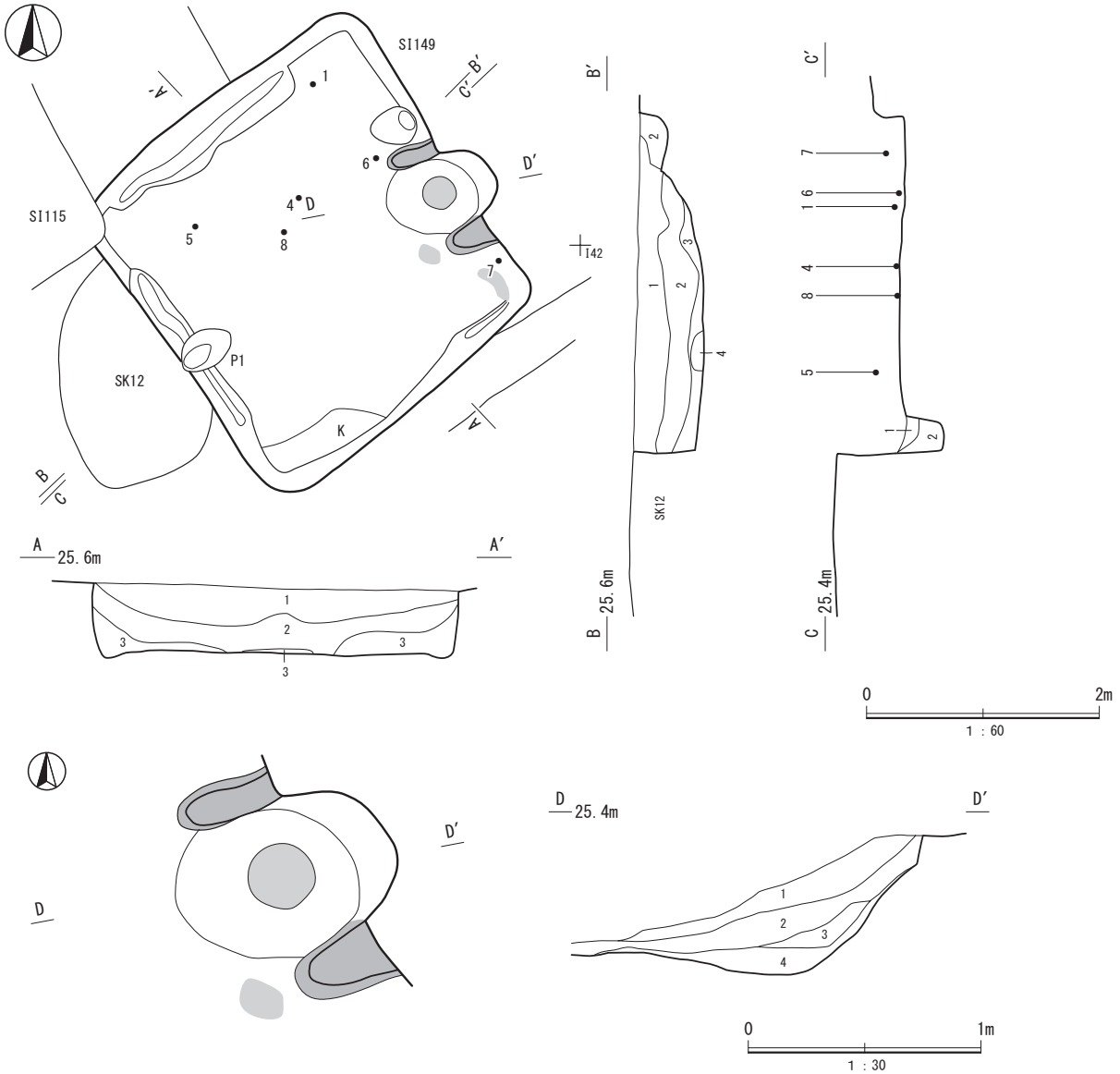
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北東壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 90cmである。袖部の基部の最大幅は 108cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１は出入口施設と考えられる。Ｐ１：50 × 30cm、深さ 28 cmである。

遺物出土状況　土師器片 244 点 [坏 116 点 (111g)、甕 228 点 (3,224g)]、須恵器片 67 点 [坏 29 点 (629g)、高台付坏５点 (130g)、蓋５点 (246g)、高坏１点 (18g)、甕 27 点 (852g)、甑１点 (42g)]、灰釉陶器３点 (26g)、礫７点 (1,859g)。１の須恵器坏は北隅の覆土下層、４の須恵器坏は中央部の床面、５の須恵器蓋は西部の覆土中層から出土している。６の須恵器蓋は竈前の床面、７の須恵器鉢は東壁の覆土中層、８の土師器甕は中央部の床面から出土している。２・３の須恵器坏は覆土中から出土している。



土層解説

1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

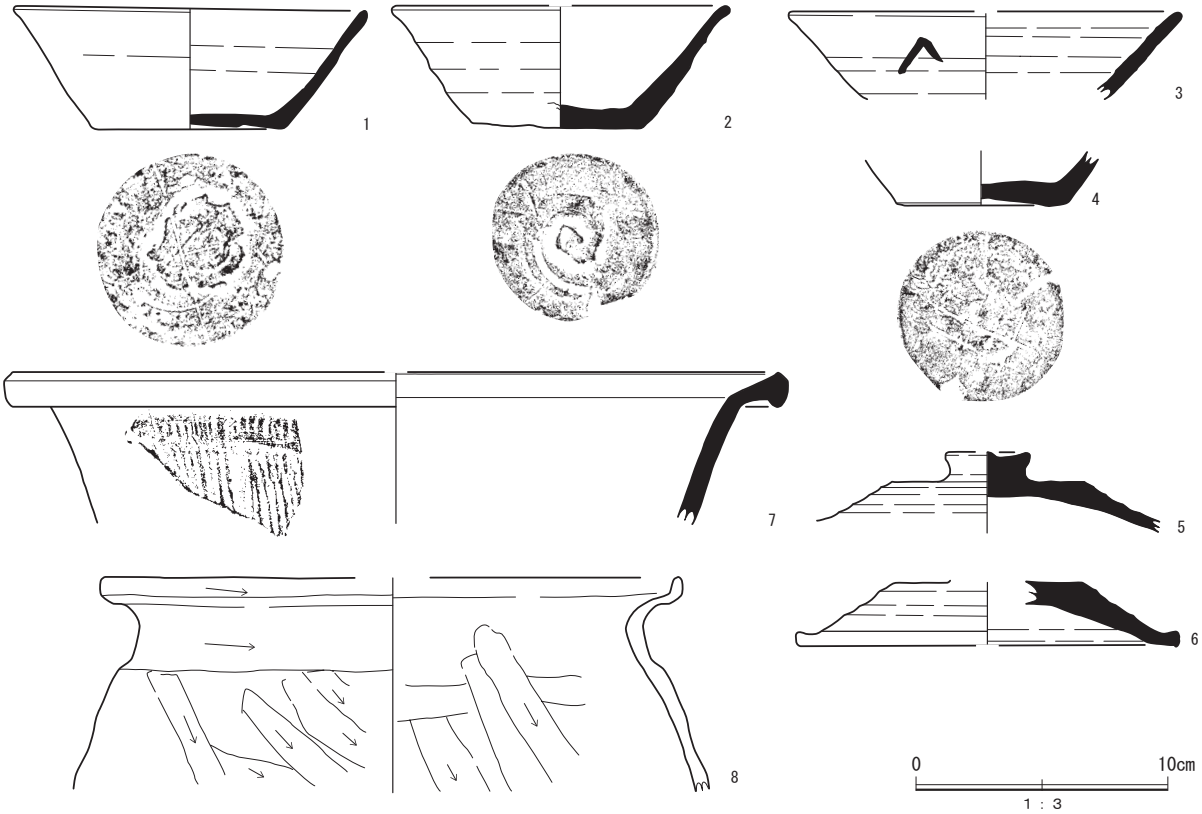
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量　粘土ブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　ロームブロック・粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

第 217 図　第 116 号竪穴建物跡実測図

所見　時期は、出土土器から９世紀前葉と考えられる。東壁付近で焼土の塊を確認したことから焼失家屋と考えられる。



第 218 図　第 116 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 99 表　第 116 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.9	4.7～4.9	7.5	長石･石英･チャート	赤灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後中央部一方向のヘラナデ　内外面重ね焼き痕 底部「+」のヘラ記号	北部覆土下層	80% 木葉下窯 写真図版58
2	須恵器	坏	[13.2]	4.9	6.8	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	覆土中	60% 木葉下窯 写真図版58
3	須恵器	坏	[15.4]	(3.4)	—	長石･石英･雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 体部外面「□」墨書文字不明	覆土中	15% 新治窯
4	須恵器	坏	—	(2.1)	6.8	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後不定方向のナデ　底部に「井」のヘラ記号	中央部床面	30% 木葉下窯
5	須恵器	蓋	—	(3.1)	—	長石･石英･雲母	黄灰	普通	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り 摘まみロクロナデ	西部覆土中層	20% 新治窯 写真図版58
6	須恵器	蓋	—	(2.6)	[15.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り 摘まみ欠損　頂部に「□」のヘラ記号	左袖床面	30% 新治窯
7	須恵器	鉢	[30.5]	(6.0)	—	長石･石英･雲母	オリーブ黒	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位の平行叩き	東壁覆土中層	3% 新治窯
8	土師器	甕	[23.0]	(9.0)	—	長石･石英･スコリア･雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラナデ 内面斜位のヘラナデ	中央部床面	10%

第 121 号竪穴建物跡 (SI-121)(第 219・220 図)

位置　調査区西部 I39・40、J39・40 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 114 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は3.10 m、短軸は2.94 mで、平面形は方形である。主軸方位はN − 20° − Wである。壁は確認面から最大高 50cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

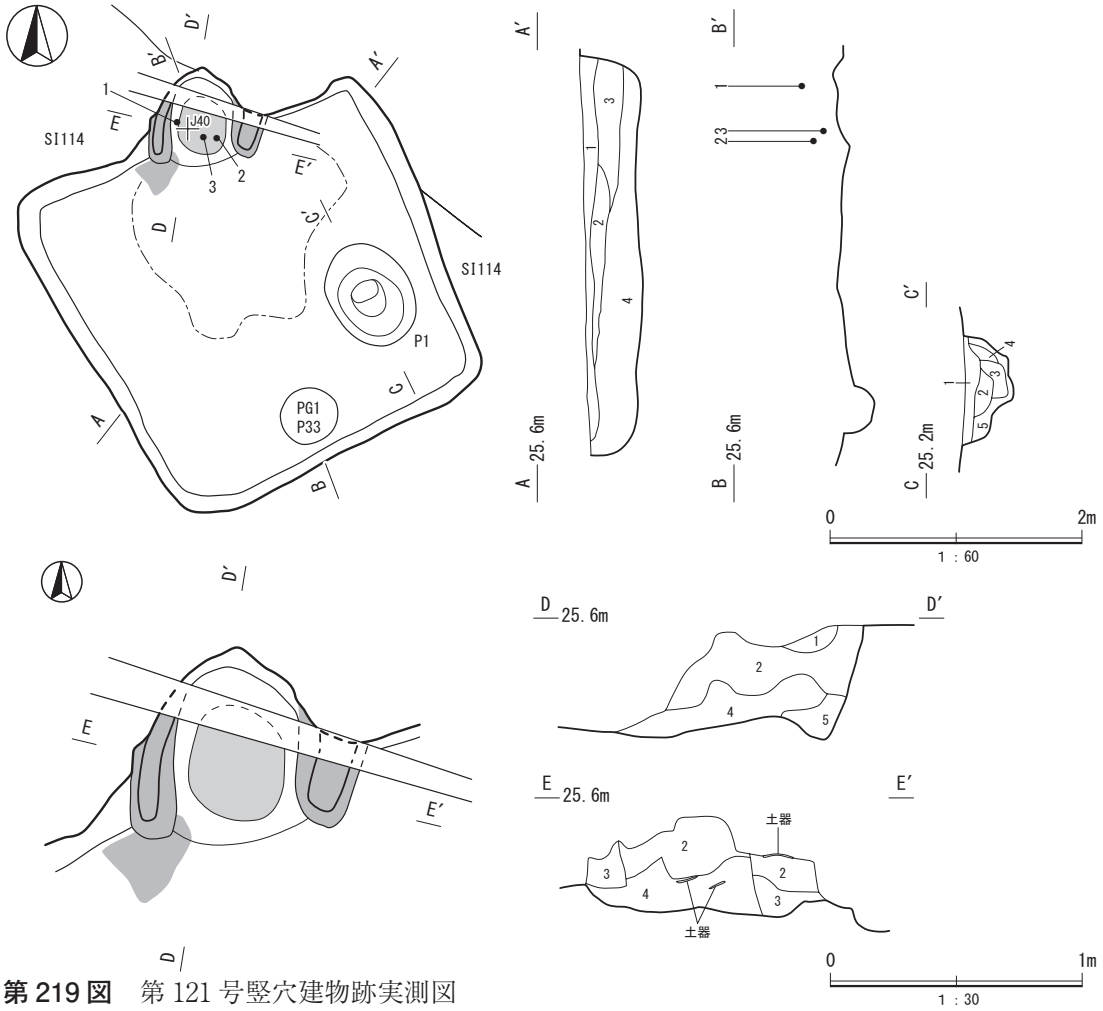
竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 80cmである。袖部の基部の最大幅は約 89cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面を 5 cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　4 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　1 か所を検出した。P 1 ：80 × 60cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 45 点 [坏 3 点 (27g)、高坏 3 点 (65g)、甕 39 点 (804g)]、須恵器甕片 3 点 (308g)、石 3 点 (1,869g)。1 ・ 2 の土師器甕・ 3 の須恵器甕は竈内から出土している。4 の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。

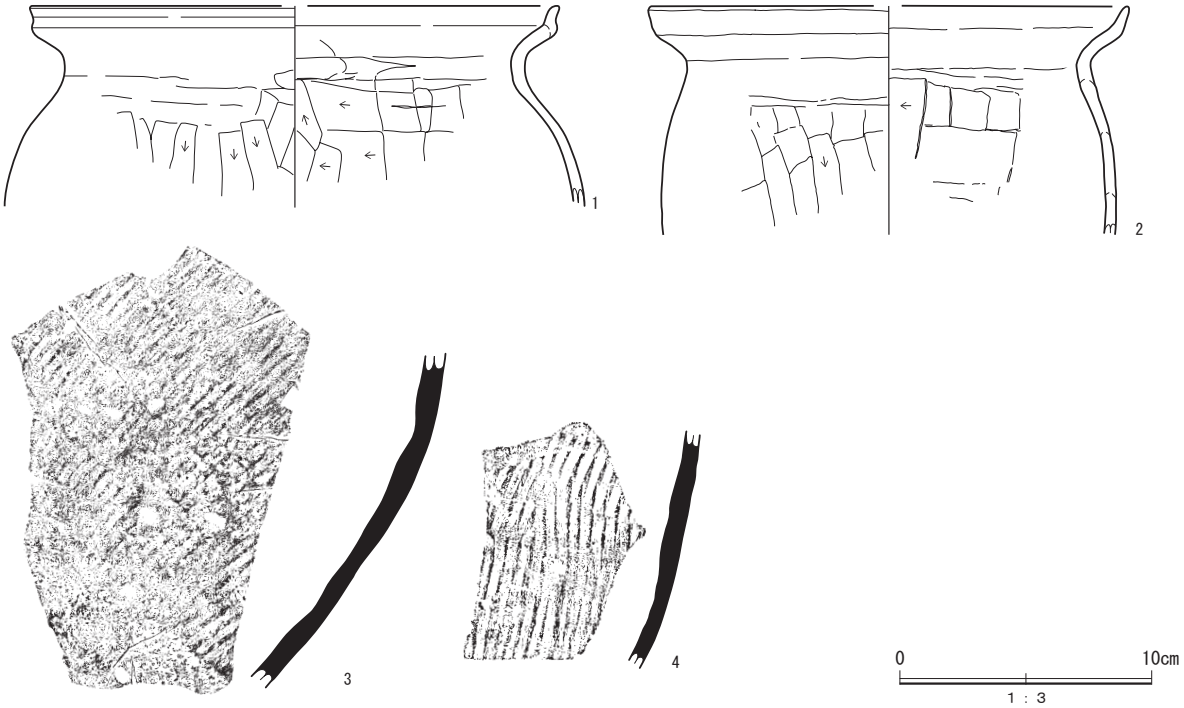


第 219 図　第 121 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説
1　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量　粘土ブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　ロームブロック・粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子微量　ロームブロック少量・粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 220 図　第 121 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 100 表　第 121 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.8]	(8.0)	—	長石・石英・雲母・スコリア・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	竈内	10%
2	土師器	甕	[18.8]	(9.1)	—	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	竈内	5％
3	須恵器	甕	—	(12.5)	—	長石・石英・雲母・スコリア	褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	竈内	5％
4	須恵器	甕	—	(8.6)	—	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	5％

第 125 号竪穴建物跡 (SI-125)(第 221・222 図　写真図版 26・27)

位置　調査区中央部 B31・32、C31 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 126・235 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は 4.15 m、短軸は 4.00 mである。平面形は方形で、主軸方位はN － 25° － W である。壁は確認面から最大高 46cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた壁で全周し、上幅 12 ～ 22cm、下幅６～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110cmである。袖部の基部の最大幅は約 160cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を５cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット７か所が検出でき、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:60 × 60cm、深さ 74cm、Ｐ２：55 × 40cm、深さ 38cm、Ｐ３：40 × 35cm、深さ 55cm、Ｐ４：60 × 45cm、深さ 50cm、Ｐ５：60 × 60cm、深さ 20cm、Ｐ６：30 × 15cm、深さ 10cm、Ｐ７：30 × 30cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 227 点 [坏６点 (21g)、壺１点 (202g)、甕 222 点 (5,474g)、甑１点 (58g)]、須恵器片 38 点［坏 21 点 (333g)、高台付坏１点 (31g)、盤１点 (392g)、蓋１点 (180g)、甕 14 点 (271g)］、縄文土器片１点 (12g)、弥生土器片 10 点 (109g)、鉄製品１点 (７g)、土製品１点 (33g)、馬歯 (159g)、礫 28 点 (4,000g)。１の須恵器坏は中央部の床面、２の須恵器盤・５の土師器甕・９の鉄鏃は南東部の覆土下層、３の須恵器蓋は北西部の床面から出土している。４の土師器壺は東壁壁溝内、６・７の土師器甕は竈前の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀後葉と考えられる。

土層解説

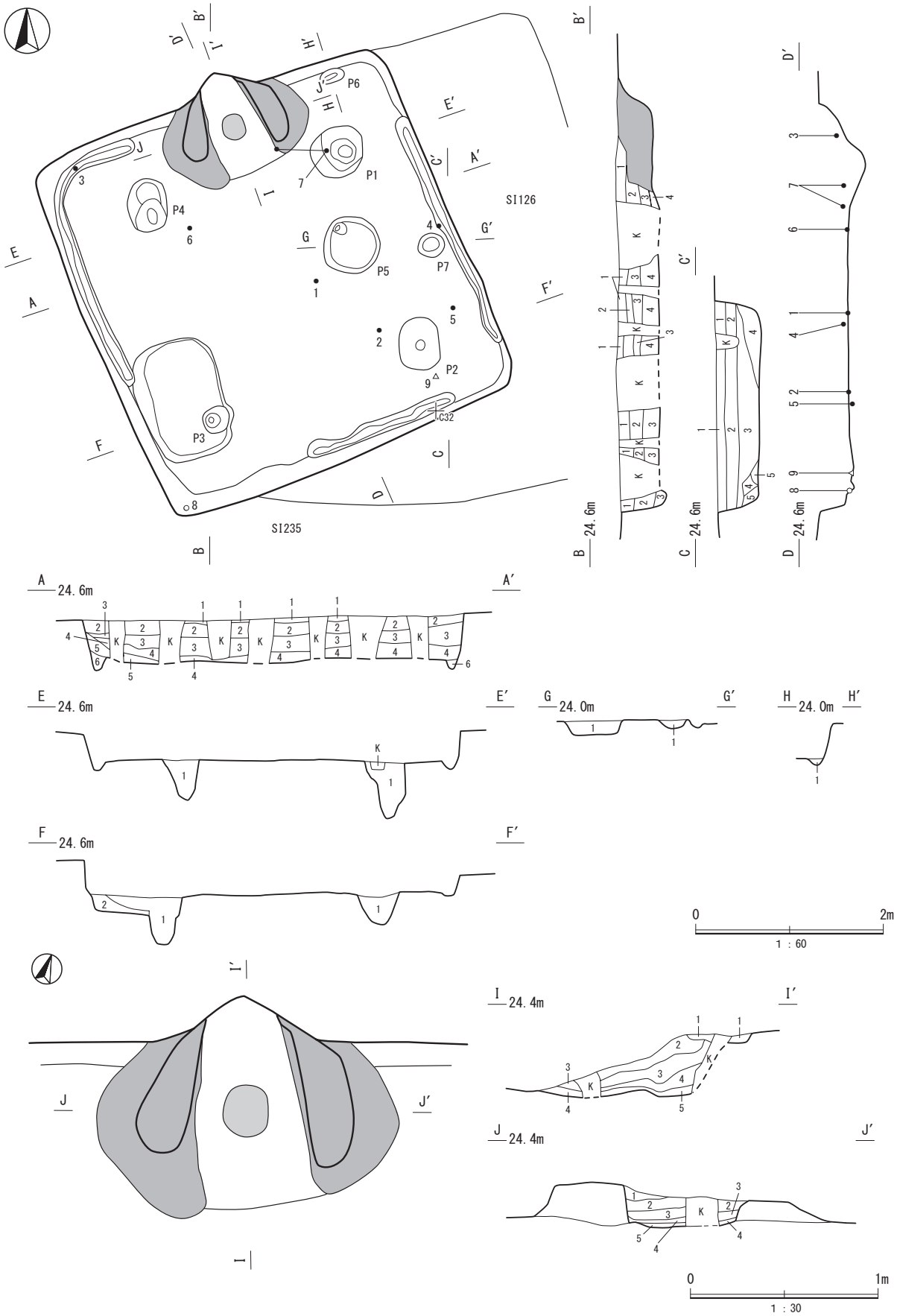
1	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック・粒子少量	粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	2/2	黒 褐 色	ローム粒子微量	炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	2/2	黒 褐 色	ロームブロック多量・粒子微量	粘土ブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	2/2	黒 褐 色	ロームブロック・粒子少量	粘土粒子多量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	3/2	黒 褐 色	ロームブロック・粒子少量	粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
6	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ローム粒子少量	粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

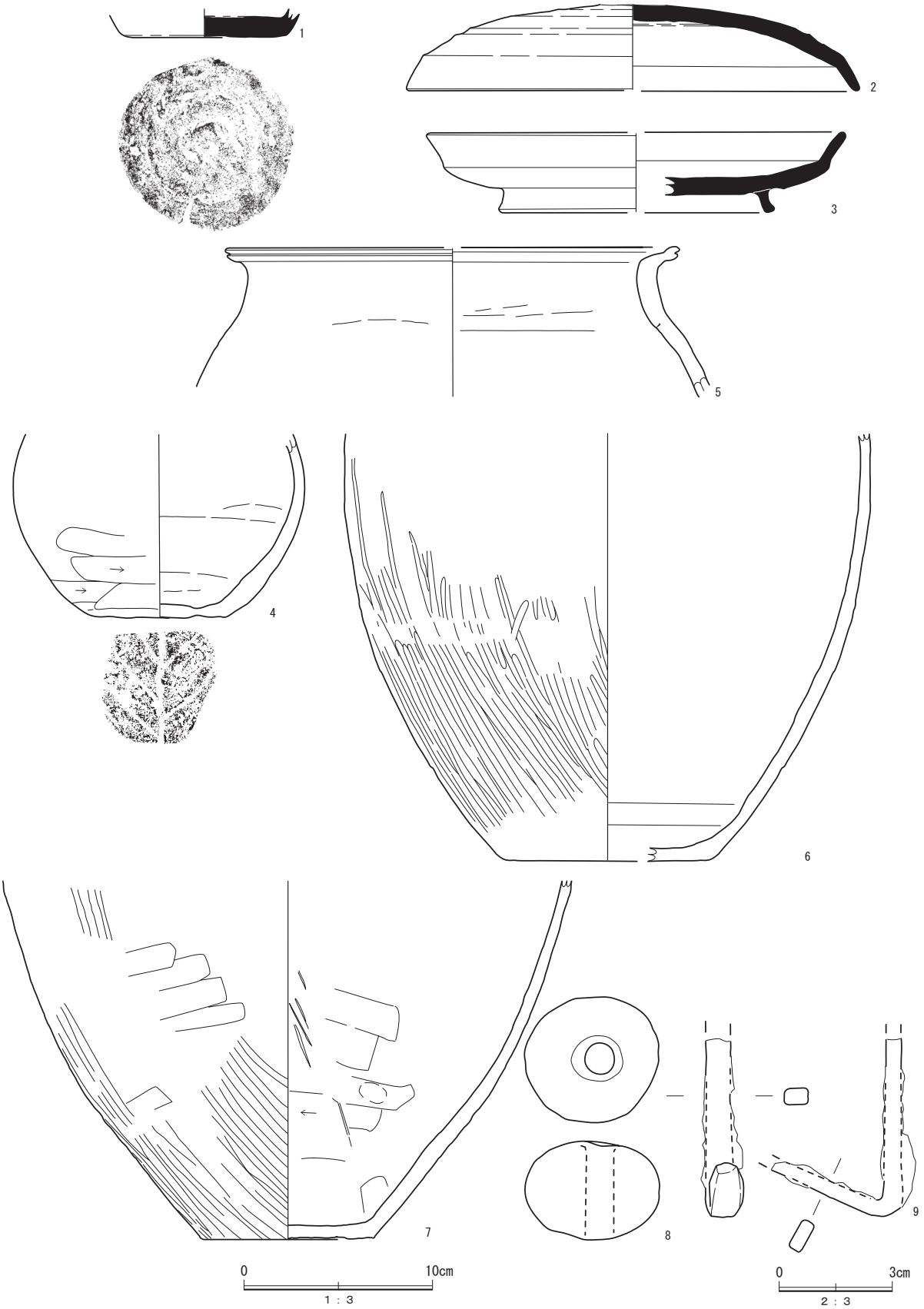
1	7.5YR	4/6	褐　色	ロームブロック多量	炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	5YR	6/4	にぶい橙色	炭化粒子微量	粘土ブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
2	5YR	3/3	暗 赤 褐 色	炭化粒子微量	粘土ブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりあり
3	5YR	4/1	褐　灰　色	焼土粒子少量	炭化粒子微量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4	5YR	4/4	にぶい赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5	5YR	3/3	暗 赤 褐 色	焼土粒子微量	ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 221 図　第 125 号竪穴建物跡実測図



第 222 図　第 125 号竪穴建物跡出土遺物実測

第 101 表　第 125 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	—	(1.5)	8.8	長石･石英･チャート･針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のナデ	中央部床面	30% 木葉下窯
2	須恵器	高盤蓋	—	(4.5)	[23.6]	長石･石英･針状鉱物	オリーブ灰	普通	ロクロナデ　頂部回転ヘラ削り 摘まみ剥離　内面に火襷痕	北東部床面	25% 木葉下窯 写真図版58
3	須恵器	盤	[22.0]	4.25	[14.6]	長石･石英･チャート･鉄分吹き出し	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	南東部覆土下層	60% 木葉下窯 写真図版58
4	土師器	壺	—	(9.7)	7.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ 底部木葉痕	東壁溝内	10%
5	土師器	甕	[23.5]	(7.9)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	東壁床面	5%
6	土師器	甕	—	(22.6)	[11.0]	長石･石英･スコリア･雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のナデ	南西部覆土下層	15% 写真図版58
7	土師器	甕	—	(19.0)	9.0	長石･石英･スコリア･雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面横位のナデ後縦位のヘラミガキ 内面横位のナデ　底部木葉痕	竈内・Ｐ１内	15%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	土玉	3.3～3.6	2.6	0.8	33	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	南西壁覆土下層	

番号	種別	那珂さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	鏃	(4.7)	0.6～0.9	0.4	(7.3)	鉄	屈折部 4.5cm	南東部覆土下層	

第 127 号竪穴建物跡 (SI-127)(第 223 図　写真図版 27)

位置　調査区西部 D24・25 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 72・74 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は2.74 m、短軸は2.70 mで、平面形は方形である。主軸方位はN－30°－Wである。壁は確認面から最大高 10cmで、外傾して立ち上がっている。

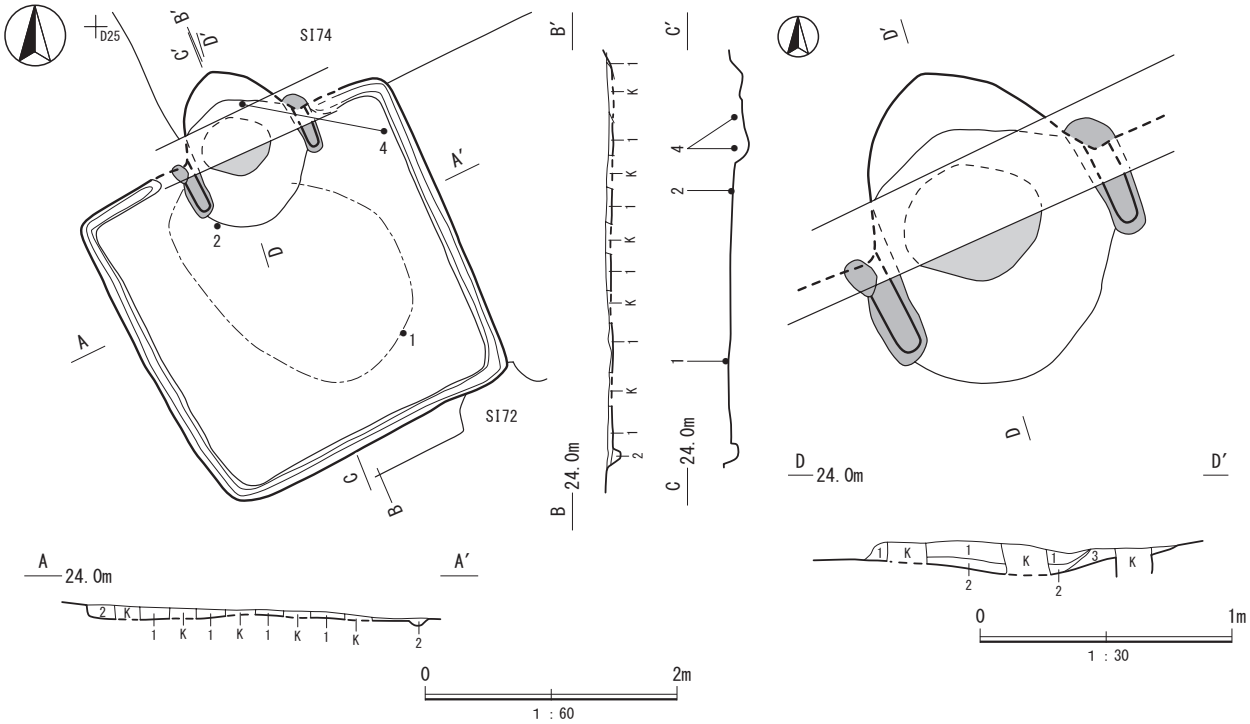
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 127cmである。袖部の基部の最大幅は 118cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　２層に分層できる。

遺物出土状況　土師器片 94 点 [坏２点 (33g)、高台坏１点 (86g)、甕 91 点 (549g)]、須恵器片 10 点 [坏２点 (８g)、高台付坏１点 (22g)、甕７点 (205g)]、弥生土器片 18 点 (100g)、礫３点 (107g)。１の土師器高台付坏は東部の覆土中層から下層、２の須恵器高台付坏は竈左袖前、４の須恵器甕は竈内と東壁の覆土下層から出土している。３の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀後葉と考えられる。床面南西部で焼土が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

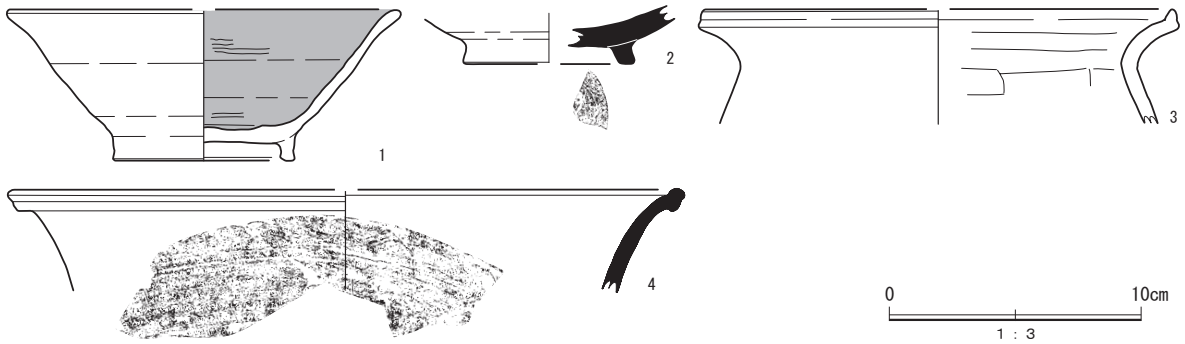


土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説

1　2.5YR　3/4　暗赤褐色　焼土粒子中量　粘土粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　3/2　暗赤褐色　粘土粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　2.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし



第 223 図　第 127 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 102 表　第 127 号竪穴建物跡出土遺物観察表

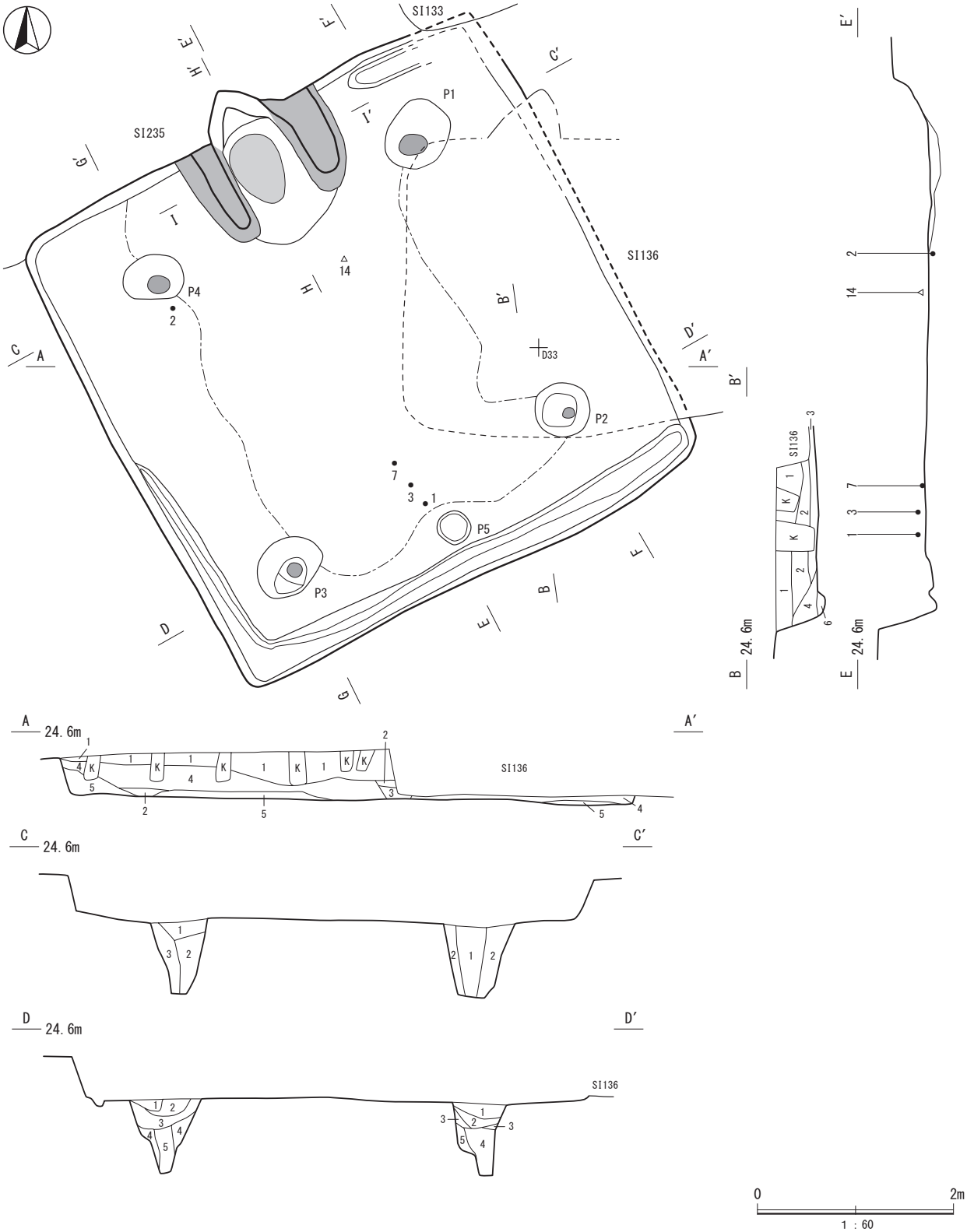
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	[15.5]	6	6.9	長石・石英	にぶい橙	良好	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り　内面黒色処理	東部床面	20%
2	須恵器	高台付坏	—	(2.3)	[6.7]	長石・石英・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り 底部ヘラ「□」記号	竈左袖前床面	3% 木葉下窯
3	土師器	甕	[18.6]	(4.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　内面横位のナデ	覆土中	5%
4	須恵器	甕	[26.4]	(4.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ　口縁部内面に「×」のヘラ記号	竈内上層 東壁下層	3% 新治窯

第 135 号竪穴建物跡 (SI-135)(第 224・225・226 図　写真図版 29)

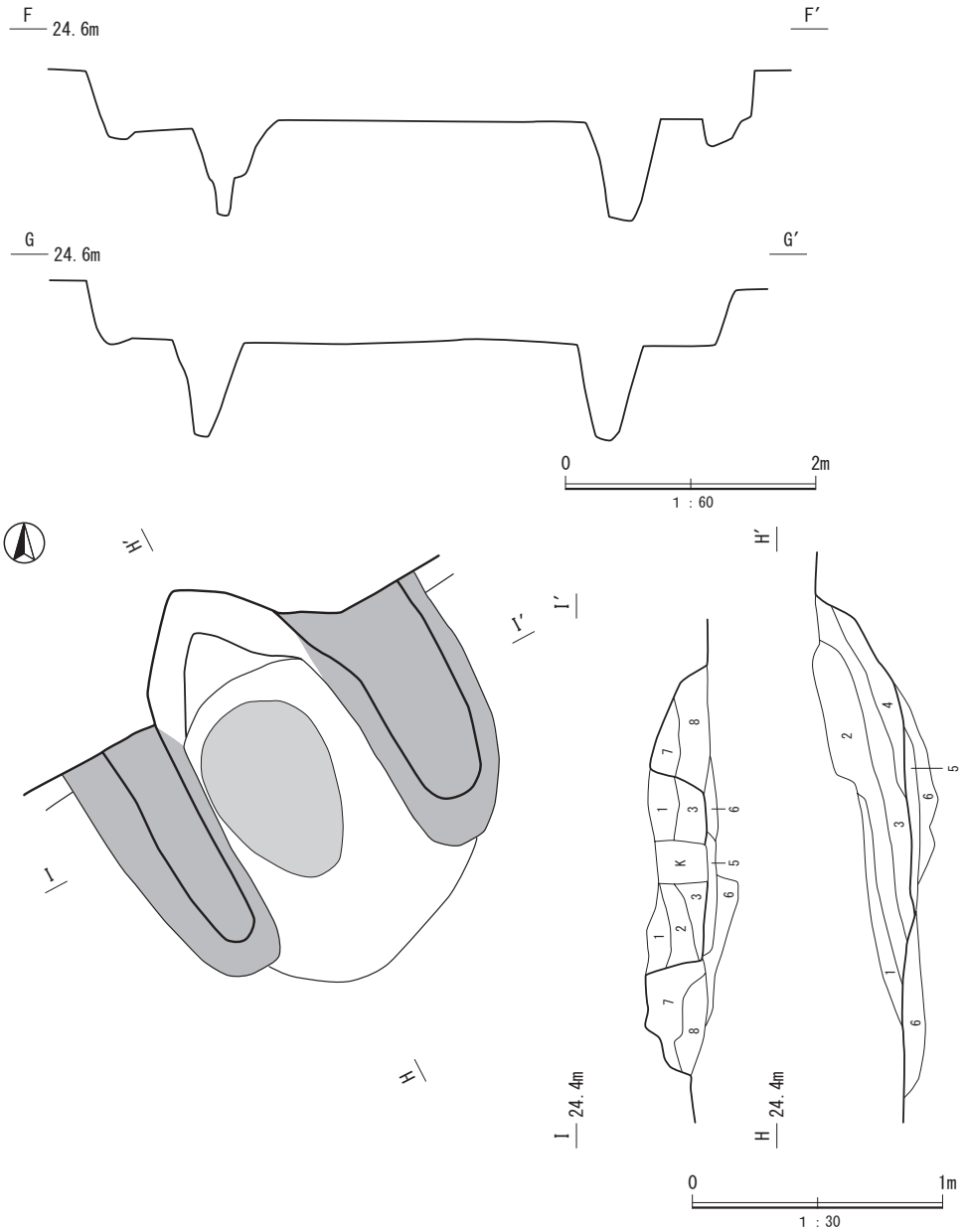
位置　調査区中央部 C31･32･33、D32･33 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 133・235 号竪穴建物跡を掘り込み、第 136 号竪穴建物に掘り込まれている。



第 224 図　第 135 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 225 図　第 135 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

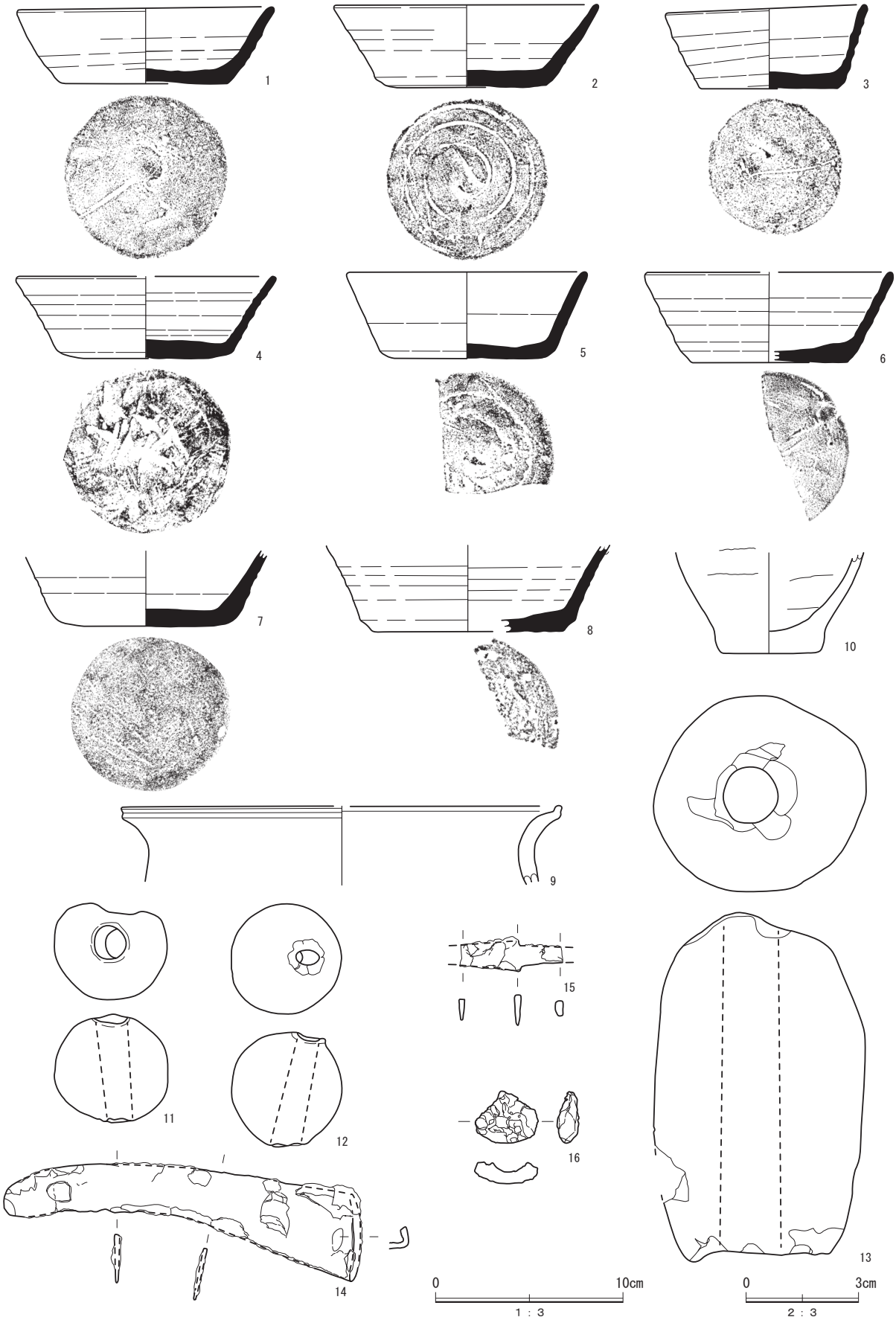
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　5YR　5/2　にぶい赤褐色　炭化粒子微量　粘土ブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　7/1　明 褐 灰 色　焼土ブロック・粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　炭化粒子微量　粘土粒子多量　ローム粒子多量／粘性なし　締まりあり
5　5YR　2/2　黒　褐　色　焼土粒子微量　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
6　5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子少中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり (火床部)
7　5YR　5/1　灰　褐　色　焼土粒子微量　粘土粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり (袖部)
8　5YR　6/3　にぶい橙色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子少量　ローム粒子多量／粘性あり　締まりあり (袖部)



第 226 図　第 135 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 103 表　第 135 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.4	3.9 ～ 4.1	8.8	長石・石英・チャート・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	南部覆土中層から床面	98% 木葉下窯 写真図版 59
2	須恵器	坏	13.8	4.4	8.5	長石・石英・チャート	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り痕を残す不定方向のヘラナデ	P 4 南床面	70% 木葉下窯 写真図版 59
3	須恵器	坏	10.5	4.0 ～ 4.5	7.3	長石・石英・角閃石	灰白	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	南部覆土下層	70% 木葉下窯 写真図版 59
4	須恵器	坏	[13.6]	4.4	8.8	長石・石英・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ　底部不定方向のヘラ削り 底面に重ね焼き痕あり	覆土中	65% 木葉下窯 写真図版 59
5	須恵器	坏	[12.6]	4.6	[8.0]	長石・石英・チャート・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転糸切リ不調整	覆土中	30% 木葉下窯
6	須恵器	坏	[12.9]	4.8	[8.3]	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	覆土中	30 % 木葉下窯
7	須恵器	坏	—	(4.0)	9.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ　底部一方向のヘラ削り	南部覆土下層	新治窯
8	須恵器	坏	—	(4.6)	[10.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	覆土中	30%
9	土師器	甕	[23.0]	(4.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
10	土師器	甕	—	(5.4)	[5.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面横ナデ　底部ヘラ削り	覆土中	20%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土玉	2.9	3.0	0.9	28.0	長石・石英・雲母	橙	外面ナデ	覆土中	
12	土玉	3.0	2.9	0.6 ～ 0.8	24.0	長石・石英・雲母	明赤褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
13	管状土錘	9.2	5.6 ～ 5.7	1.5	148.0	長石・石英・雲母	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	95%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	鎌	19.0	6.5	0.2	(86.5)	鉄	ほぼ完品で、刃部中央部は砥ぎ減り	西部覆土中層	
15	刀子	(5.5)	0.8 ～ 1.6	0.4	(8.8)	鉄	刃部の長さ 3.2cm	覆土中	写真図版 59
16	鉄滓	2.75	3.34	1.2	6.2	鉄		覆土中	写真図版 59

規模と形状　長軸は 5.35 m、短軸は 5.30 mである。平面形は方形で、主軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 56cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた壁で全周し、上幅 12 ～ 22cm、下幅 6 ～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央部が踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 170cmである。袖部の基部の最大幅は 110cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘り窪めて火床面が構築されている。火床部から煙道部に緩やかに立ち上がっている。

土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット５か所が検出でき、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 60cm、深さ 77cm、Ｐ２：50 × 50cm、深さ 82cm、Ｐ３：70 × 52cm、深さ 80cm、Ｐ４：52 × 42cm、深さ 64cm、Ｐ５：35 × 35cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 685 点 [坏 20 点 (510g)、高台付坏 1 点 (38g)、高坏 5 点 (85g)、甕 660 点 (10,300g)]、須恵器片 88 点［坏 64 点 (1,797g)、盤 1 点 (42g)、甕 23 点 (541g)］、縄文土器片 2 点 (57g)、弥生土器片 37 点 (353g)、陶器片 2 点 (18g)、鉄製品 3 点 (101g)、土製品 3 点 (300g)、礫 38 点 (3,200g)。１・３・7 の須恵器坏は南部の覆土中層から下層、２の須恵器坏はＰ４南側の床面から出土している。５の須恵器坏・４～６・８の須恵器坏・９・10 の土師器甕・11・12 の土玉・13 の管状土錘・14 の鎌・15 の刀子・16 の鉄滓は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀中葉と考えられる。

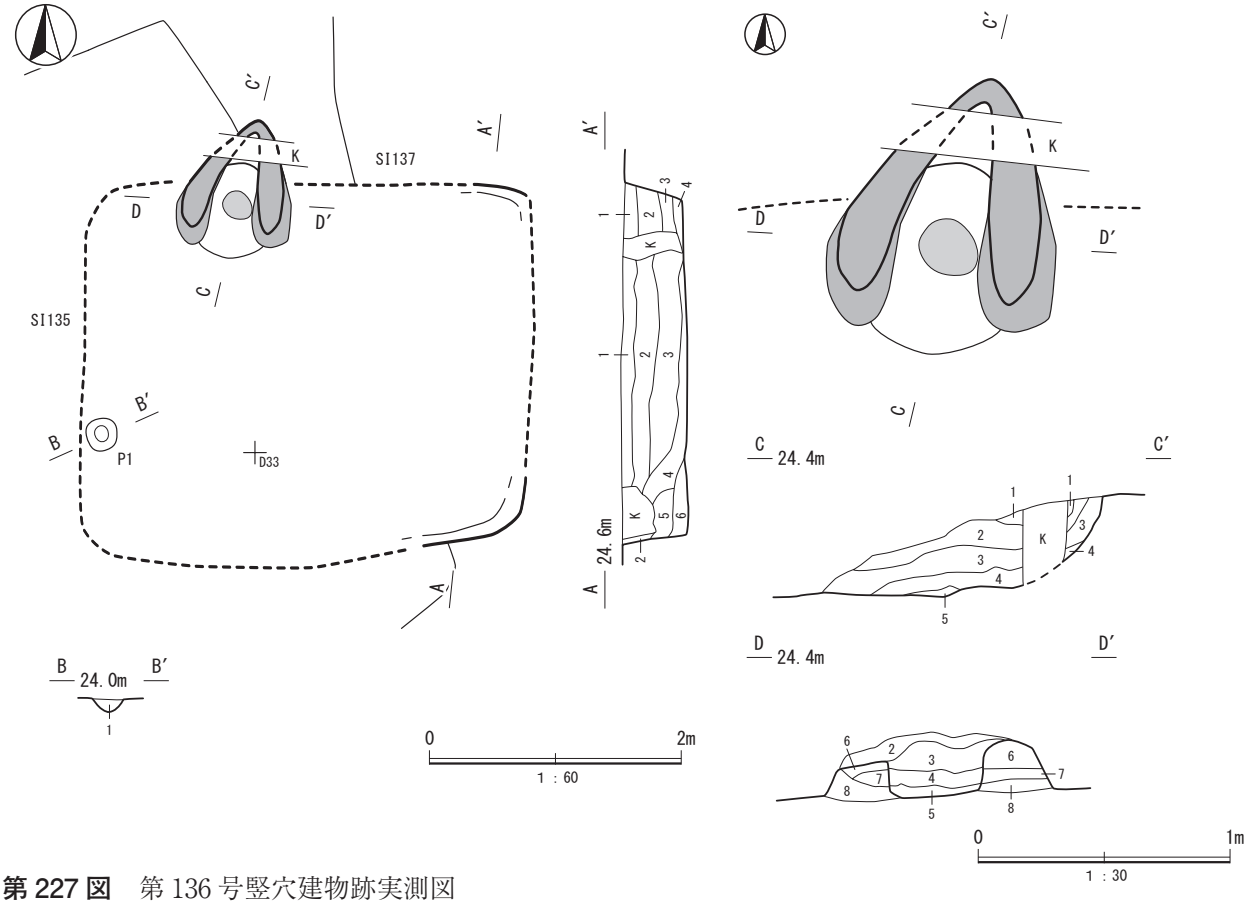
第 136 号竪穴建物跡 (SI-136)(第 227・228 図　写真図版 29)

位置　調査区中央部 C32・33、D32・33 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 135・137 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南北軸は 2.90 mで、東西軸は推定 3.50m で平面形は長方形である。主軸方位はＮ－10°－Ｅである。壁は確認面から最大高 52cmで、外傾して立ち上がっている。



第 227 図　第 136 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　5/3　にぶい赤褐色　炭化粒子少量　粘土ブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　5YR　4/4　にぶい赤灰色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　5YR　4/1　灰　褐　色　焼土粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)
7　5YR　5/1　灰　褐　色　焼土粒子微量　粘土粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり(掘方)
8　5YR　5/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(掘方)

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

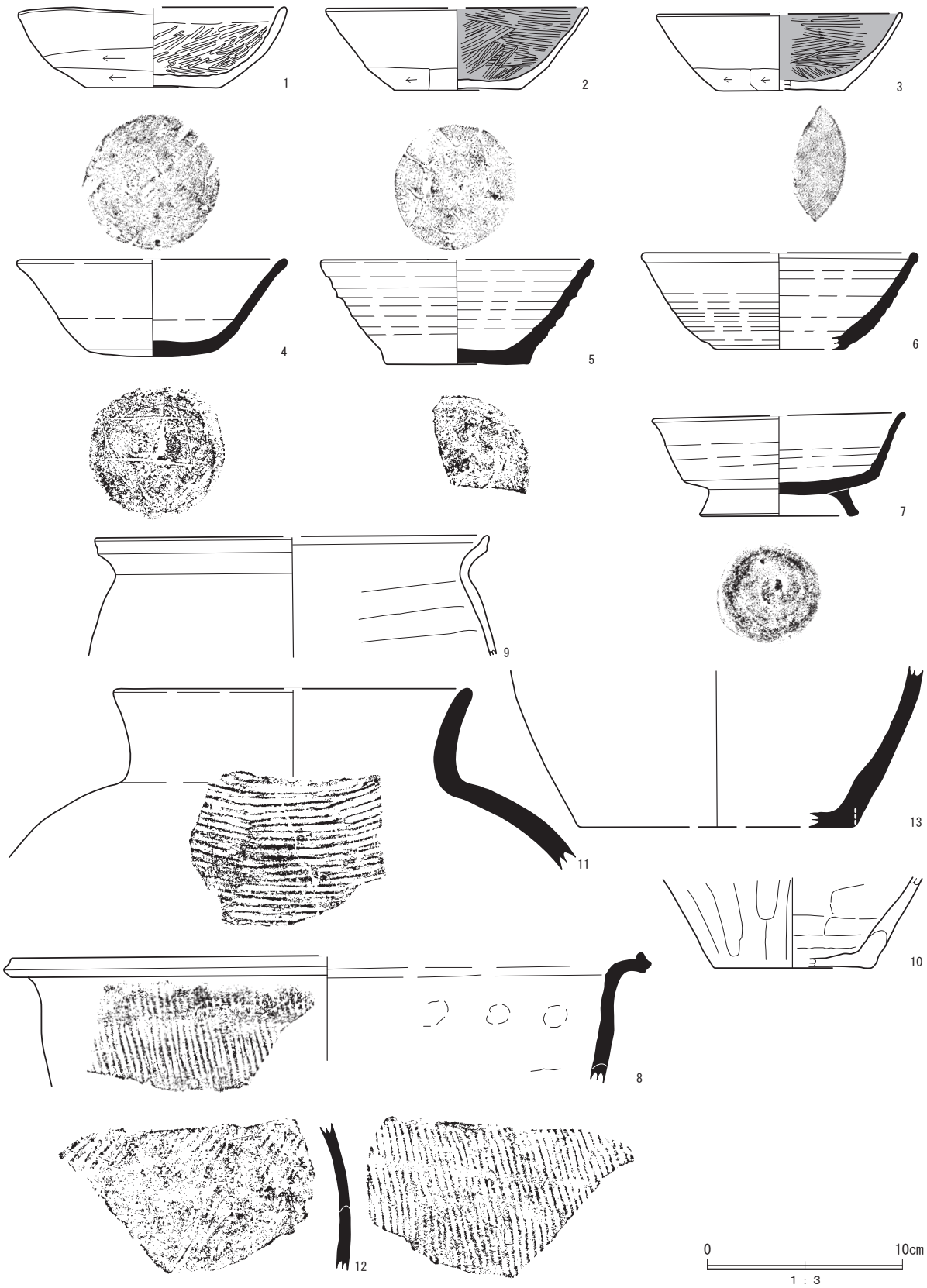
竈　北壁西寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cmである。袖部の基部の最大幅は90cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面を５cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　６層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：25 × 25cm、深さ11cmである。

遺物出土状況　土師器片384点[坏20点(140g)、高坏４点(182g)、器台１点(95g)、甕359点(1,100g)]、須恵器片59点[坏25点(371g)、鉢１点(100g)。甕33点(1,100g)]、縄文土器片１点(17g)、弥生土器片20点(177g)、礫12点(1,226g)。１・２の土師器坏・８の須恵器鉢は北西部の覆土下層、３の土師器坏・７の須恵器高台付坏は竈西側のの覆土下層、４・５の須恵器坏・９の土師器甕・10の土師器甕・11・12の須恵器甕は竈内から出土している。６の須恵器坏・８の須恵器鉢・13の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 228 図　第 136 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 104 表　第 136 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.5]	4.1	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ 底部回転糸切り	北西部覆土下層	60% 写真図版59
2	土師器	坏	13.1	4.2	6.4	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ　体部下端横位のヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　内外面黒色処理	北西部覆土下層	30% 写真図版59
3	土師器	坏	[12.4]	4.0～4.5	[6.5]	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ　体部下端横位のヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　内面黒色処理	竈西側覆土下層	30%
4	須恵器	坏	[13.5]	4.95	[6.7]	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部不定方向のヘラ削り 底部に「コ」のヘラ記号	竈内	30% 木葉下窯
5	須恵器	坏	[13.7]	5.35	[7.4]	長石・石英・チャート	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り跡を残すヘラナデ 底部にヘラ記号ヵ	竈内	20% 木葉下窯
6	須恵器	坏	[13.8]	4.95	[7.0]	長石・石英	灰白	やや不良	ロクロナデ　底部に「□」のヘラ記号	覆土中	20% 生産地不明 写真図版59
7	須恵器	高台付坏	12.7	5.0～5.3	8.1	長石・石英・チャート・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り 回転ヘラ削り後高台貼り付け	竈西側覆土下層	90% 木葉下窯 写真図版59
8	須恵器	鉢	[32.4]	(6.6)	—	長石・石英・雲母・スコリア	灰黄	普通	口縁部ロクロナデ　体部縦位の平行叩き 内面横位のナデ　指頭跡	北西部覆土下層	5% 新治窯
9	土師器	甕	[20.0]	(6.2)	—	長石・石英・チャート	明赤橙	普通	口縁部ロクロナデ　体部内面横ナデ	竈内	10%
10	土師器	甕	—	(4.6)	[8.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面縦位のナデ　内面横位のナデ	竈内	5%
11	須恵器	甕	［18.0］	(9.3)	—	長石・石英・雲母	灰黄	やや不良	口縁部ロクロナデ　体部外面横位の平行叩き 内面横位のナデ　二次焼成	竈内	10% 新治窯
12	須恵器	甕	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面斜位の当て具痕	竈内	3% 新治窯
13	須恵器	甕	—	(8.2)	［14.3］	長石・石英・スコリア	にぶい黄橙	普通	体部内外面横位のナデ　底部ナデ	覆土中	10%

第 145 号竪穴建物跡 (SI-145)(第 229・230 図　写真図版 31・32)

位置　調査区中央部 D33・34、E33・34 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 83・141・146 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

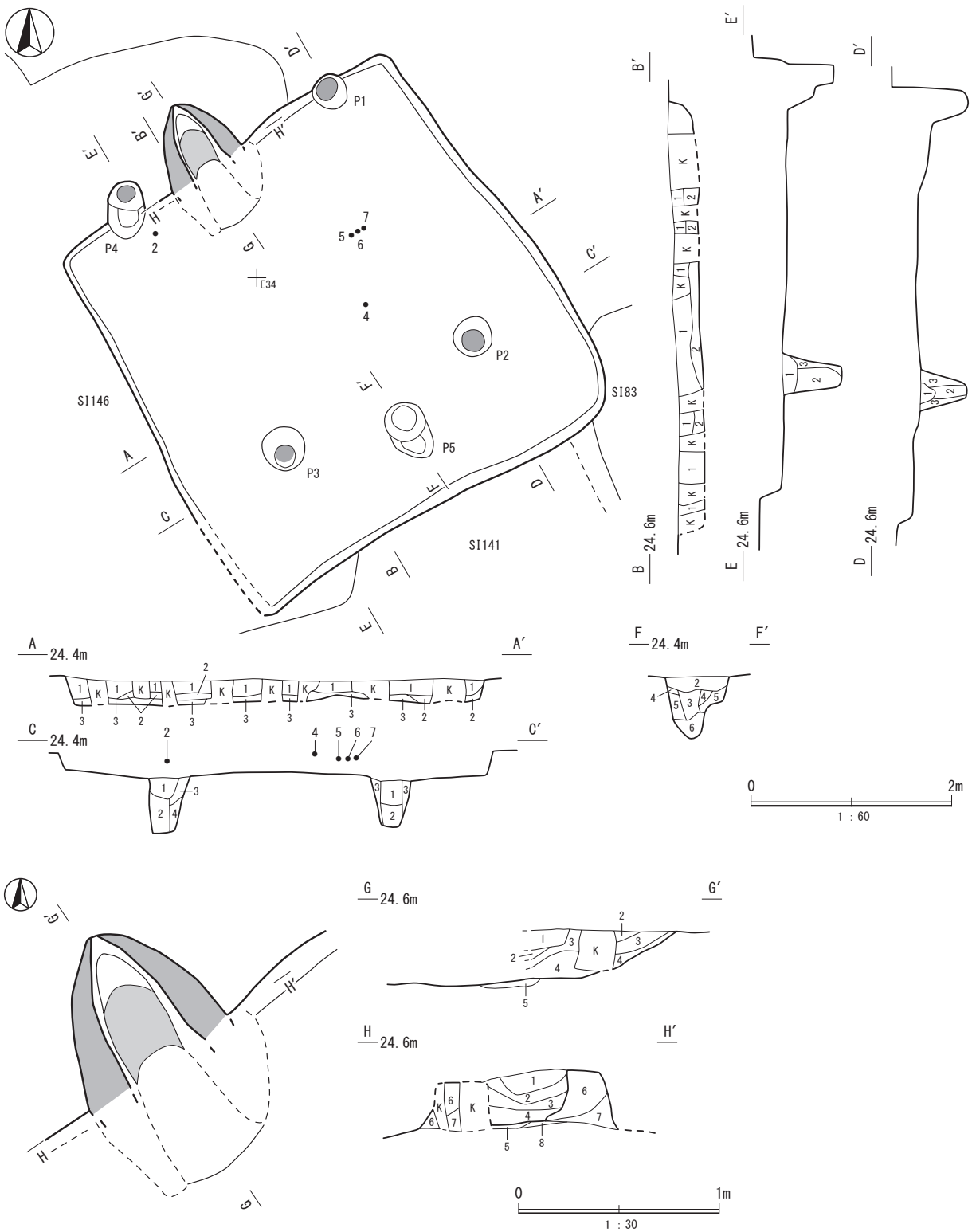
規模と形状　長軸は4.20 m、短軸は4.18 mである。平面形は方形で、主軸方位はN－35°－Wである。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。袖部は削平されているが、焚口部から煙道部まで 133cmである。袖部の基部の最大幅は 92cmと推定される。内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を若干掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：30 × 30cm、深さ 46cm、Ｐ２：40 × 36cm、深さ 48cm、Ｐ３：42 × 40cm、深さ 58cm、Ｐ４：70 × 38cm、



第 229 図　第 145 号竪穴建物跡実測図

深さ 52cm、Ｐ５：60 × 38cm、深さ 60cmである。

遺物出土状況　土師器片 642 点 [坏 35 点 (297g)、高台付坏 1 点 (13g)、高坏 7 点 (75g)、甕 598 点 (7,400g)、甑 1 点 (24g)]、須恵器片 44 点［坏 25 点 (244g)、短頸壺 4 点 (139g)、甕 15 点 (445g)］、陶磁器 4 点 (32g)、弥生土器片 15 点 (147g)、礫 7 点 (618g)。４の土師器皿は中央部の覆土中層、７の

土層解説

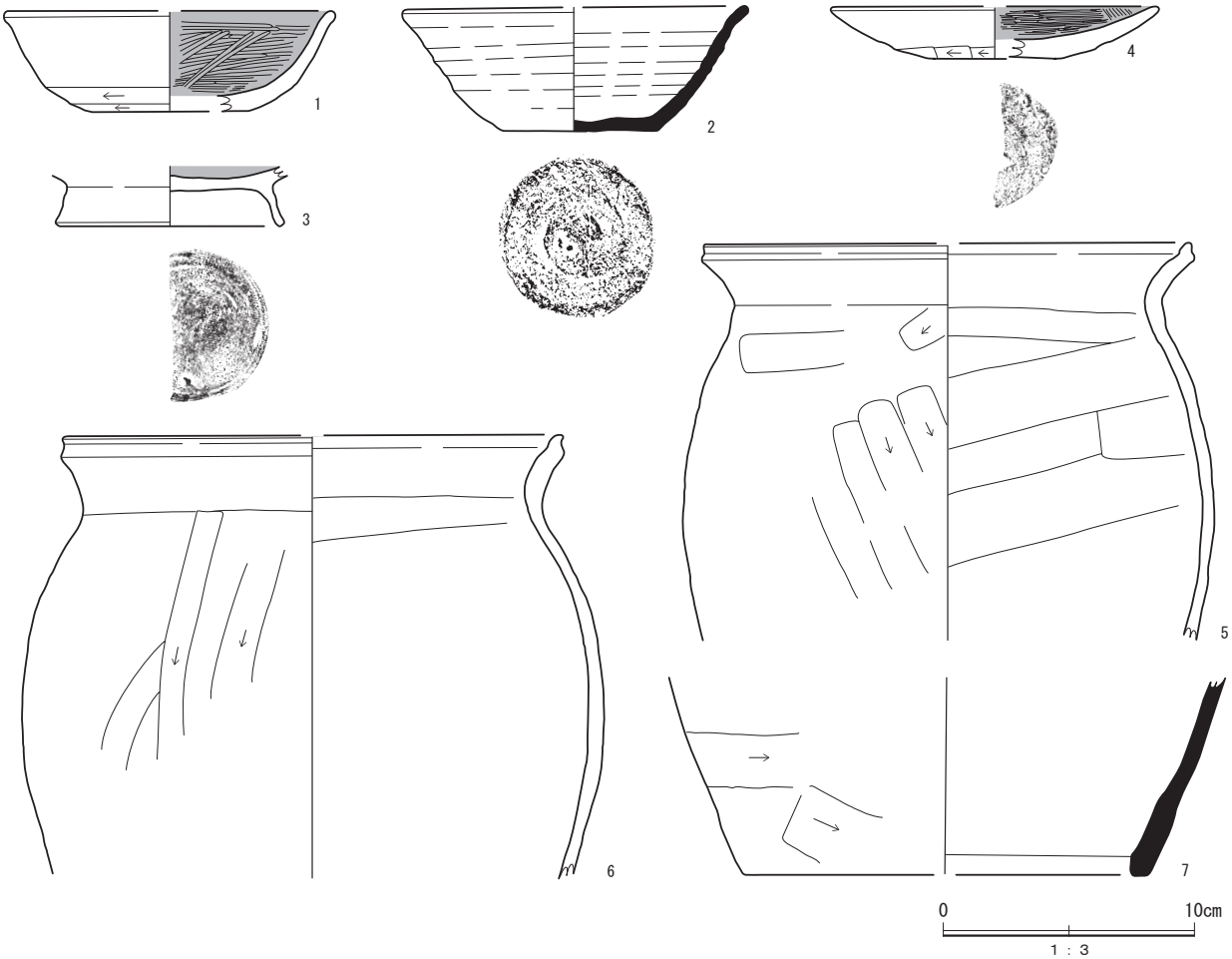
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロッシ少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YE　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　2/4　極暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　2.5YR　5/3　にぶい赤褐色　粘土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　2.5YR　4/6　赤　褐　色　粘土ブロック・粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　2.5YR　4/2　灰　赤　色　焼土ブロック微量・粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　2.5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子　粘土粒子中量量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量／粘性あり　締まりあり
7　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
8　2.5YR　4/1　赤　灰　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性なし　締まりあり (火床部)



第 230 図　第 145 号竪穴建物跡出土遺物実測図

須恵器甑、５・６の土師器甕は中央部の覆土中層、２の須恵器坏は竈左側の覆土下層から出土している。１の土師器坏・３の土師器高台付坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。

第 105 表　第 145 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	4.0	[3.2]	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 内面横位・斜位のヘラミガキ　内面黒色処理 底部回転ヘラ切り	覆土中	30% 写真図版 59
2	須恵器	坏	13.4	4.8 ～ 5.0	8.3 ～ 8.5	長石･石英･針状鉱物	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後一方向のナデ 底部「□」のヘラ記号	竈西側覆土下層	5% 木葉下窯 写真図版 59
3	土師器	高台付坏	—	(2.4)	[8.8]	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 体部内面横位のヘラミガキ　内面黒色処理	覆土中	10%
4	土師器	皿	[12.8]	2.1	[5.0]	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　体部下端手持ちヘラ削り 内面多方向のヘラミガキ　内面黒色処理 底部回転糸切り	中央部覆土中層	40%
5	土師器	甕	[19.2]	(15.8)	—	長石･石英･雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り 内面横ナデ	中央部覆土中層	20%
6	土師器	甕	[19.7]	(17.6)	—	長石･石英･雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	中央部覆土中層	20%
7	須恵器	甑	—	(7.8)	[16.2]	長石･石英･スコリア･雲母	褐灰	普通	ロクロナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横位のナデ	中央部覆土下層	3% 新治窯

第 147 号竪穴建物跡 (SI-147)(第 231・232 図　写真図版 131)

位置　調査区中央部 D32・33、E32・33 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 43・146 号竪穴建物跡を掘り込み、第 44 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は 5.03 m、短軸は 4.00 mである。平面形は長方形で、主軸方位はN － 20° － Wである。壁は確認面から最大高 20cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、東壁と北・南壁の一部で、上幅 12 ～ 22cm、下幅 6 ～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央にかけて踏み固められている。

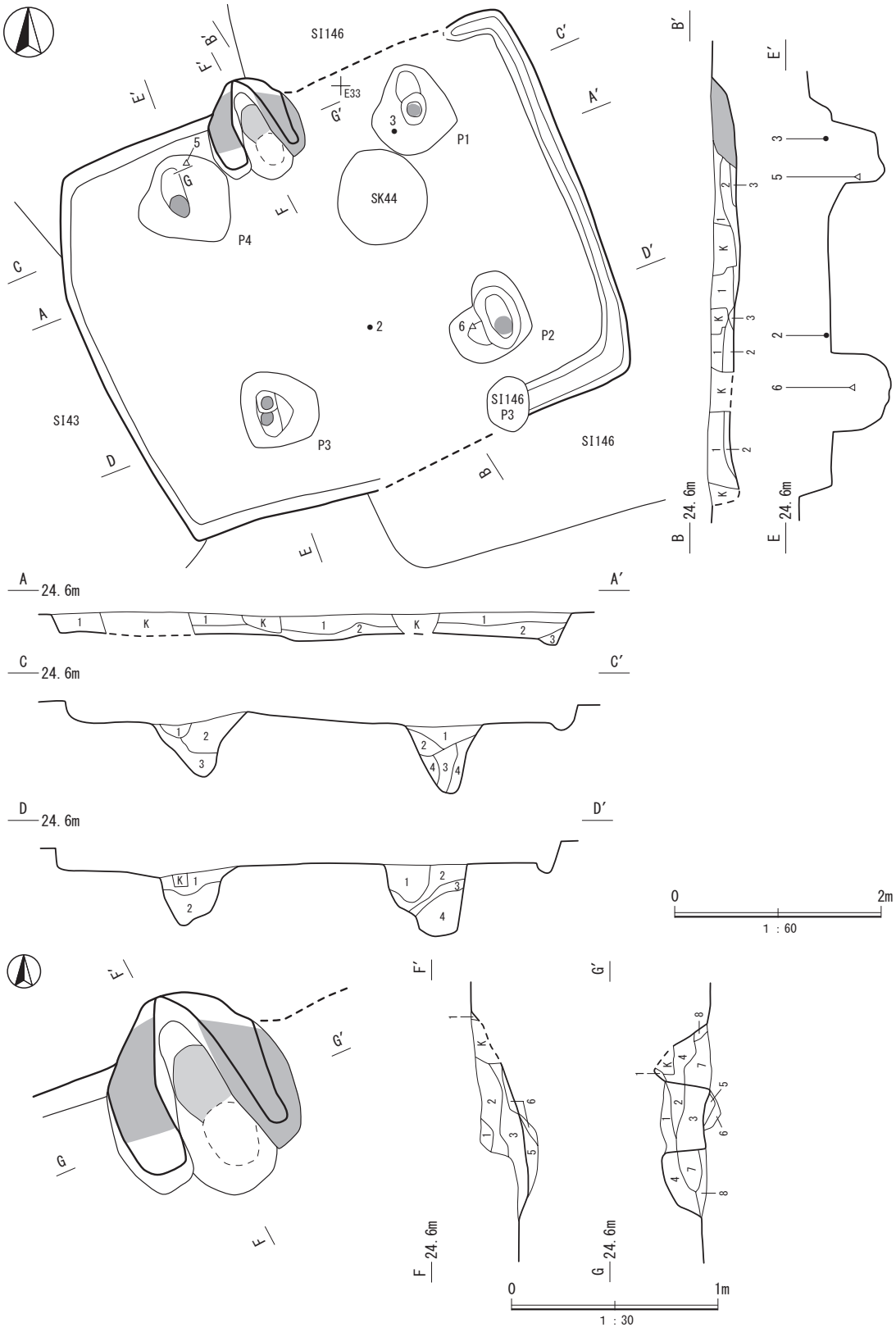
竈　北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部にかけて 105cm、袖部の基部の最大幅は 90cmである。比較的良好に遺存しており､内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:90 × 70cm､深さ 66cm、Ｐ２：80 × 50cm、深さ 72cm、Ｐ３：82 × 80cm、深さ 52cm、Ｐ４：90 × 90cm、深さ 50cmである。Ｐ１～Ｐ４は立て替えられたものと考えられる。

遺物出土状況　土師器片 66 点 [坏 1 点 (17g)、高坏２点 (19g)、甕 63 点 (1,175g)]、須恵器片 11 点［坏６点 (152g)、盤１点 (424g) 甕４点 (138g)]、縄文土器片１点 (19g)、弥生土器片５点 48g)、鉄製品２点 (20g)、土製品１点 (33g)、礫１点 (68g)。２の須恵器盤は中央部の床面、３の土師器甕はＰ１内、５の鉄鏃はＰ４内・６の不明鉄製品はＰ２内から出土している。１の須恵器坏・４の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀中葉と考えられる。柱は立て替えられている。



第 231 図　第 147 号竪穴建物跡実測図

土層解説

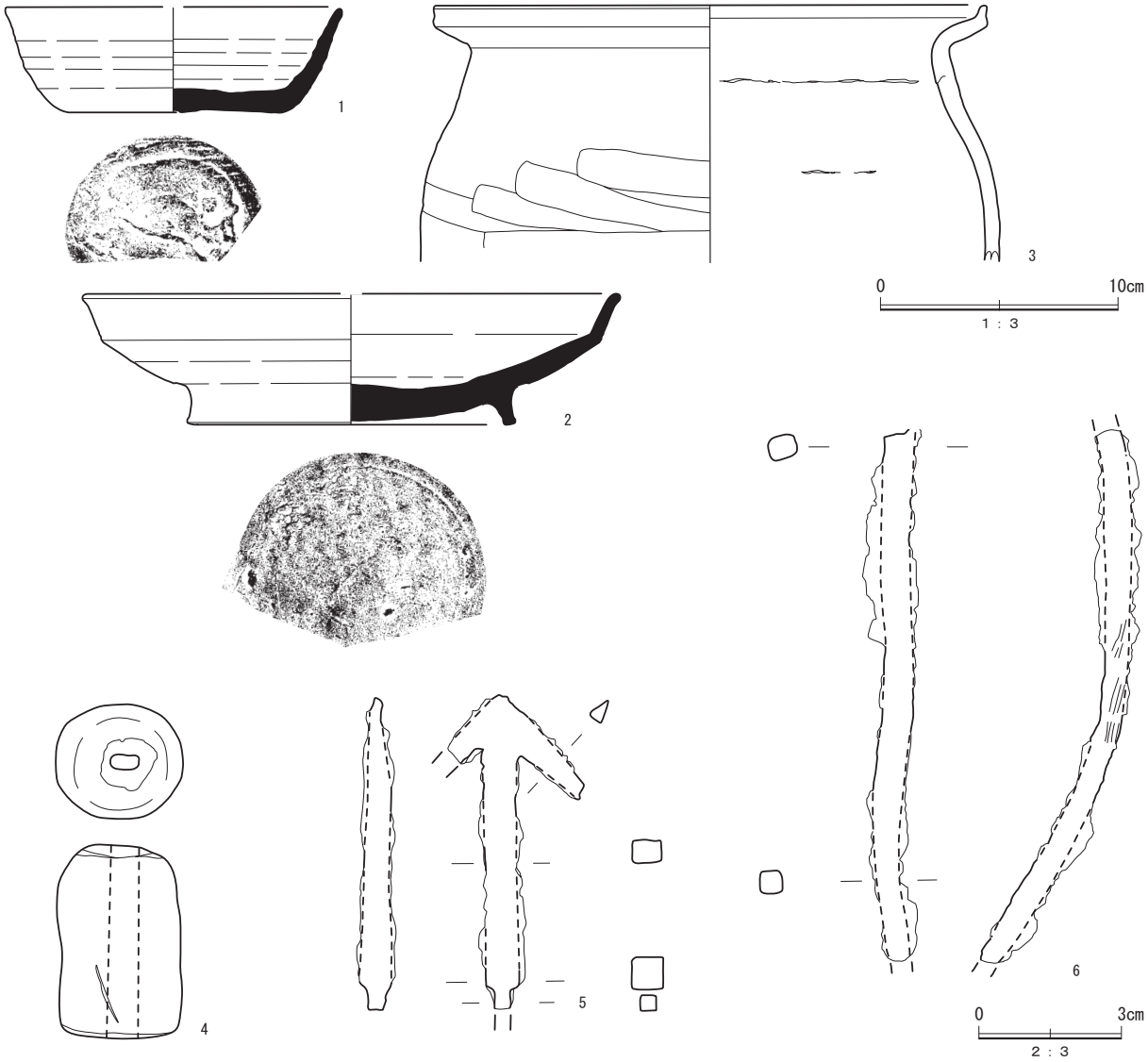
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　2/2　褐　　色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

1　5YR　7/1　明 褐 灰 色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量　ロームブロック中量／粘性なし　締まりなし
3　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化物・粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　5YR　7/2　明 褐 灰 色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　灰白色土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)
5　5YR　2/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中少量　炭化物微量・粒子中量　灰白色土粒子少量／粘性なし　締まりなし
6　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化物少量・粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
7　5YR　2/3　極 赤 褐 色　焼土粒子微量　炭化物少量・粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり(袖部)
8　5YR　4/6　赤　　褐　　色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　灰白床粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり(袖部)



第 232 図　第 147 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 106 表　第 147 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[14.0]	4.4	[10.2]	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整 底部に板目状圧痕	覆土中	45% 木葉下窯 写真図版59
2	須恵器	盤	[22.4]	(5.5)	13.8	長石・石英・針状鉱物・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	中央部床面	60% 木葉下窯 写真図版59
3	土師器	甕	[23.0]	(10.8)	―	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ	P1 内	

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	管状土錘	4.1	2.4 ～ 2.6	0.6	33	長石・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	写真図版59

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	鏃	(7.53)	(2.81)	0.28	(11.0)	鉄	鏃先幅 2.81cm	P ４内	写真図版59
6	不明	(11.10)	0.5 ～ 0.9	0.5 ～ 0.6	(9.8)	鉄	断面方形の棒状品　中央部に木質付着	P ２内	

第 151 号竪穴建物跡 (SI-151)(第 233・234 図　写真図版 33)

位置　調査区中央部 M42・43、N42 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。南部の一部が調査区外に延びている。

重複関係　第 10 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は5.28 m、短軸は5.05 mである。平面形は方形で、主軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 42cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は南東壁で確認され、上幅 15 ～ 25cm、下幅５～ 12cm、深さ 10cmの U 字形を呈している。

床　竈前面から中央部が踏み固められている。

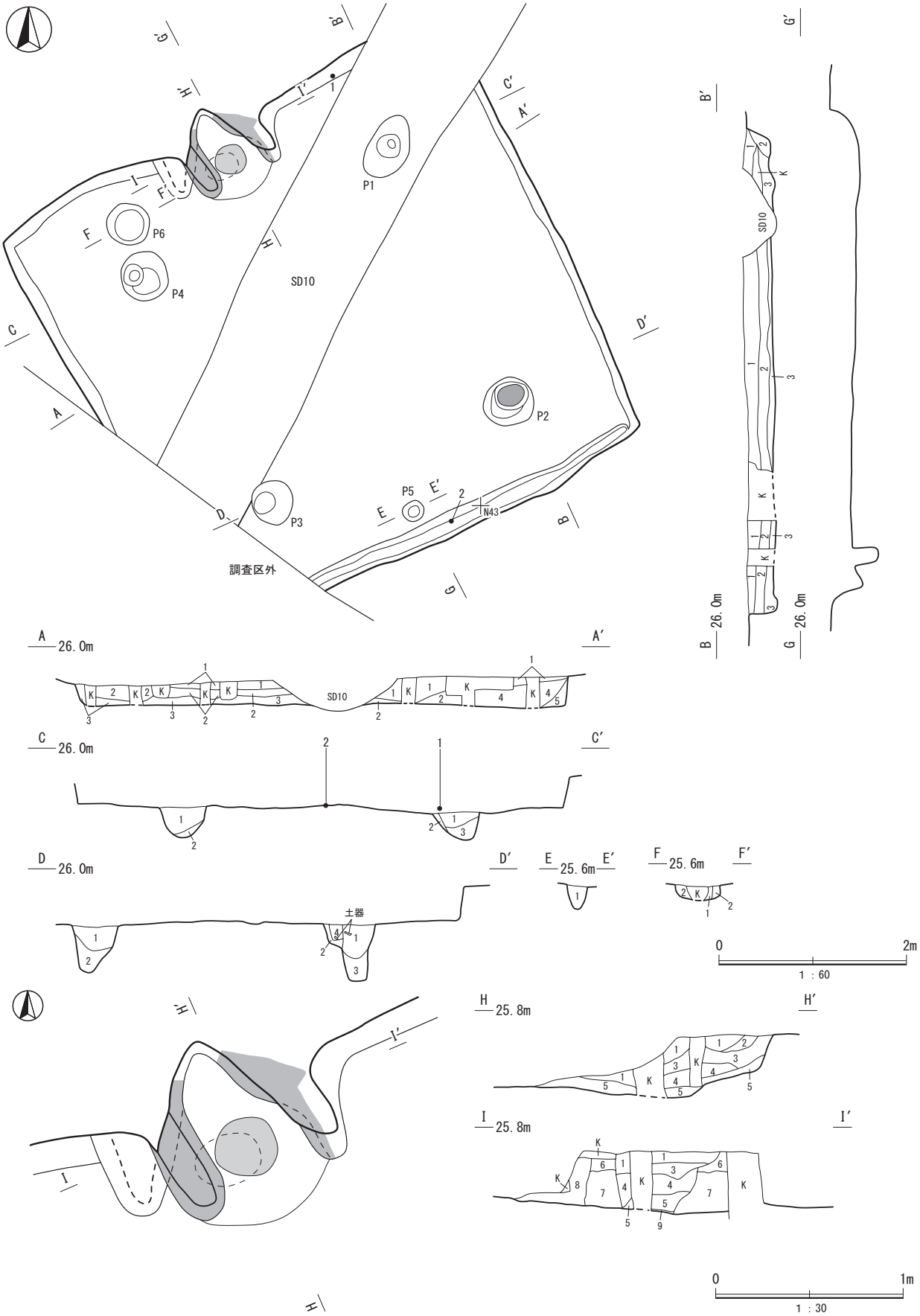
竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 104cmである。袖部の基部の最大幅は約 90cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。竈は、最初にやや西側に構築されていたものから造り代えられている

土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 35cm、深さ 70cm、Ｐ２:55 × 50cm、深さ 68cm、Ｐ３:48 × 45cm、深さ 70cm、Ｐ４:55 × 50cm、深さ 45cm、Ｐ５：35 × 30cm、深さ 50cm、Ｐ６：40 × 40cm、深さ 15cmである。

遺物出土状況　土師器片 323 点 [坏８点 (206g)、高坏 23 点 (933g)、甕 292 点 (3,356g)]、須恵器片 18 点［坏 11 点 (141g)、高台付坏２点 (57g)、蓋１点 (32g)、甕４点 (352g)］、礫 16 点 (893g)。１の須恵器坏は北東部の床面から出土している。２の須恵器坏は南壁溝内から出土している。３の土師器甕、４の槍鉋、５の鉄滓は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から８世紀後葉と考えられる。



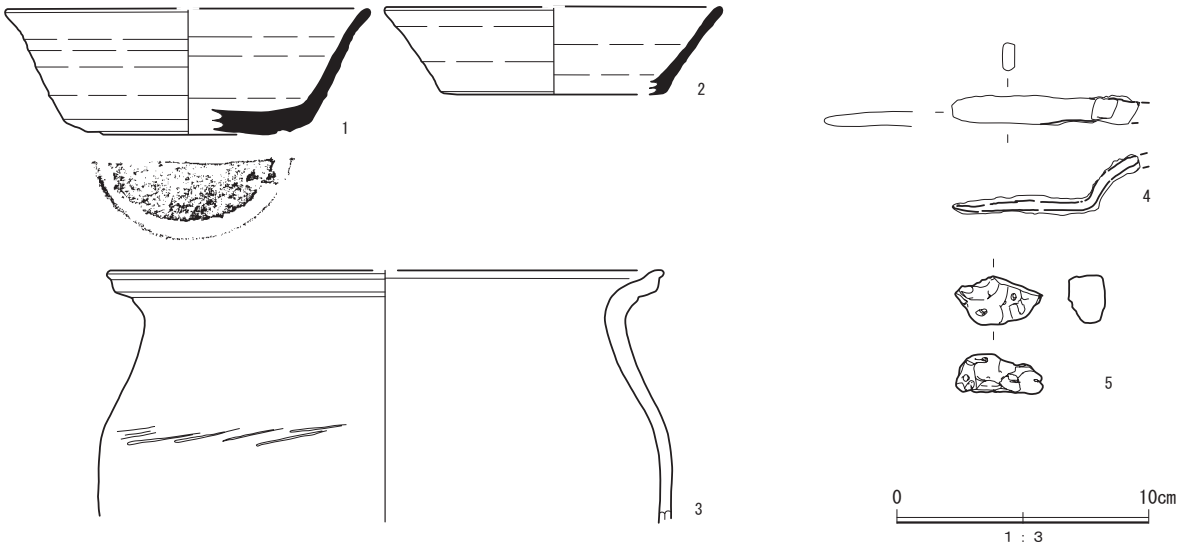
第 233 図　第 151 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　5/2　灰 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり

P1～4 ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロッシ少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

P5・6 ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説
1　5YR　2/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　2/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
3　5YR　3/1　黒　褐　色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
5　5YR　2/1　黒　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　5YR　6/6　橙　　色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)
7　5YR　5/4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり(袖部)
8　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
9　2.5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし(火床部)



第 234 図　第 151 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 107 表　第 151 号竪穴建物跡出土遺物観察

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[14.2]	5.0	[8.8]	長石・石英・チャート	黄灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	北壁床面	50% 木葉下窯 写真図版59
2	須恵器	坏	[13.3]	3.5	[9.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り 内外面に火襷	南壁溝内	20% 新治窯
3	土師器	甕	[21.5]	(10.0)	―	長石・石英	普通	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ 内面ナデ	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	槍鉋	(7.40)	1.20	0.80	(13.3)	鉄	鉋部長さ 4.8cm	覆土中	写真図版59
5	鉄滓	3.4	2.0	1.55	(10.1)	鉄	磁石に反応なし	覆土中	

第 153 号竪穴建物跡 (SI-153)(第 235・236 図　写真図版 34)

位置　調査区中央部 F39・G39 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

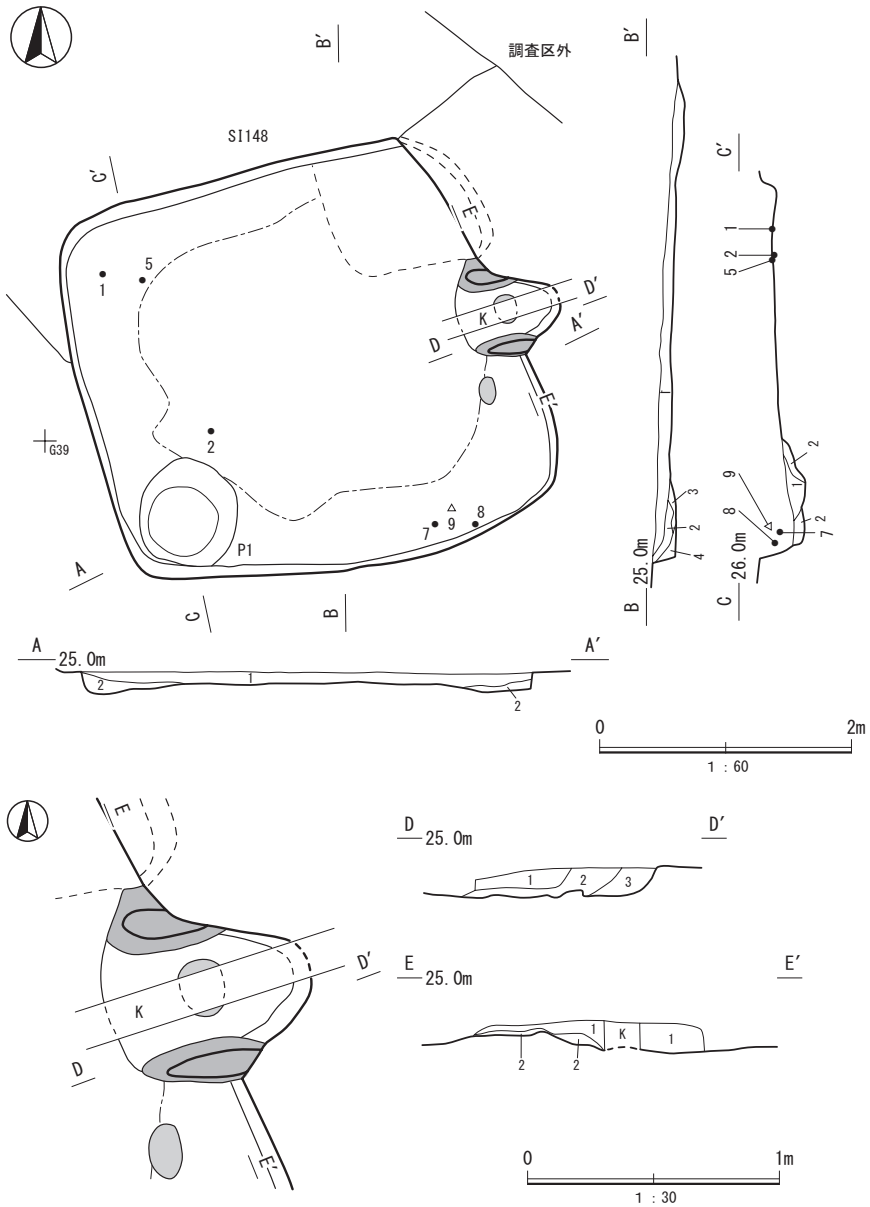
重複関係　第 148 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は3.50 m、短軸は3.31 mである。平面形は方形で、主軸方位はN − 80° − Eである。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部に暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 100cmである。袖部の基部の最大幅は 80cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を若干掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　4 層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。



第 235 図　第 153 号竪穴建物跡実測図

土層解説

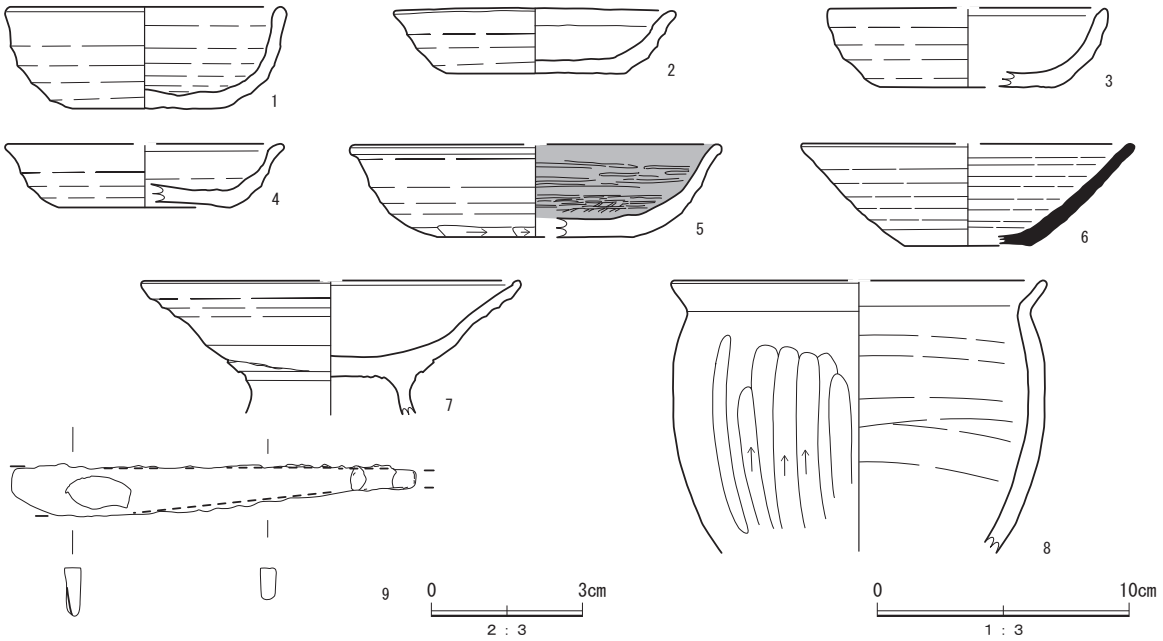
1　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

1　5YR　4/4　にぶい赤褐色　粘土ブロック多量　炭化粒子微量　ローム粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　粘土ブロック少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量　ロームブロック微量／粘性なし　締まりあり



第 236 図　第 153 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 108 表　第 153 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.4～10.7	4.1	6.4	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り　不調製	北西部床面	100%
2	土師器	坏	10.6～11.0	2.6	7.2	長石・石英・黒色粒子	淡橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り　不調製	西部床面	90% 写真図版59
3	土師器	坏	[10.8]	3.1	[7.0]	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り　不調製	覆土中	20%
4	土師器	坏	[10.8]	2.5	[6.7]	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	淡橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り　不調製	覆土中	30%
5	土師器	坏	[14.3]	3.7	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラミガキ 底部一方向のヘラ削り　内面黒色処理	北西部床面	40%
6	須恵器	坏	[13.0]	4.1	[5.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	10% 新治窯
7	土師器	高台付坏	[14.8]	(5.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	南部床面	20%
8	土師器	甕	[14.6]	(10.8)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	南部床面	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	刀子	(8.0)	1.0	0.3	(7.9)	鉄	茎部 7.0cm	南部中層	写真図版59

ピット　ピット１か所が検出でき、Ｐ１：80 × 80cm、深さ 20cmである。貯蔵穴とみられる。

遺物出土状況　土師器片 114 点 [坏 50 点 (852g)、高台付坏 13 点 (268g)、甕 61 点 (746g)]、須恵器片９点 [坏４点 (51g)、甕５点 (255g)]、鉄製品１点 (８g)、礫４点 (2,316g)。２の土師器坏は西部の床面、７の土師器高台付坏・８の土師器甕・９の刀子は南部の床面から出土している。１・５の土師器坏は北西部の床面から出土している。６の須恵器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる

第 203 号竪穴建物跡 (SI-203)(第 237・238 図　写真図版 34・35・37)

位置　調査区中央部 J44・45、K44・45 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 237 号竪穴建物跡を掘り込み、第 11 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区外に延びており、北西・南東軸は 4.80 m、北東・南西軸は 3.20 mしか確認できなかった。平面形は方形と推定され、主軸方位はＮ－ 45°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。北東部は調査区外であるが、焚口部から煙道部まで 80cmである。袖部の基部の最大幅は不明であるが、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　５層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴、Ｐ３は出入口施設と考えられる。Ｐ１：30 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ２：32 × 30cm、深さ 22cm、Ｐ３：34 × 34cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器甕片 52 点 (843g)、須恵器片４点 [坏３点 (25g)、蓋１点 (21g)]、陶器片１点 (17g)、礫３点 (235g)。１の土師器甕は竈前の床面、２の土師器甕は覆土中から出土している。

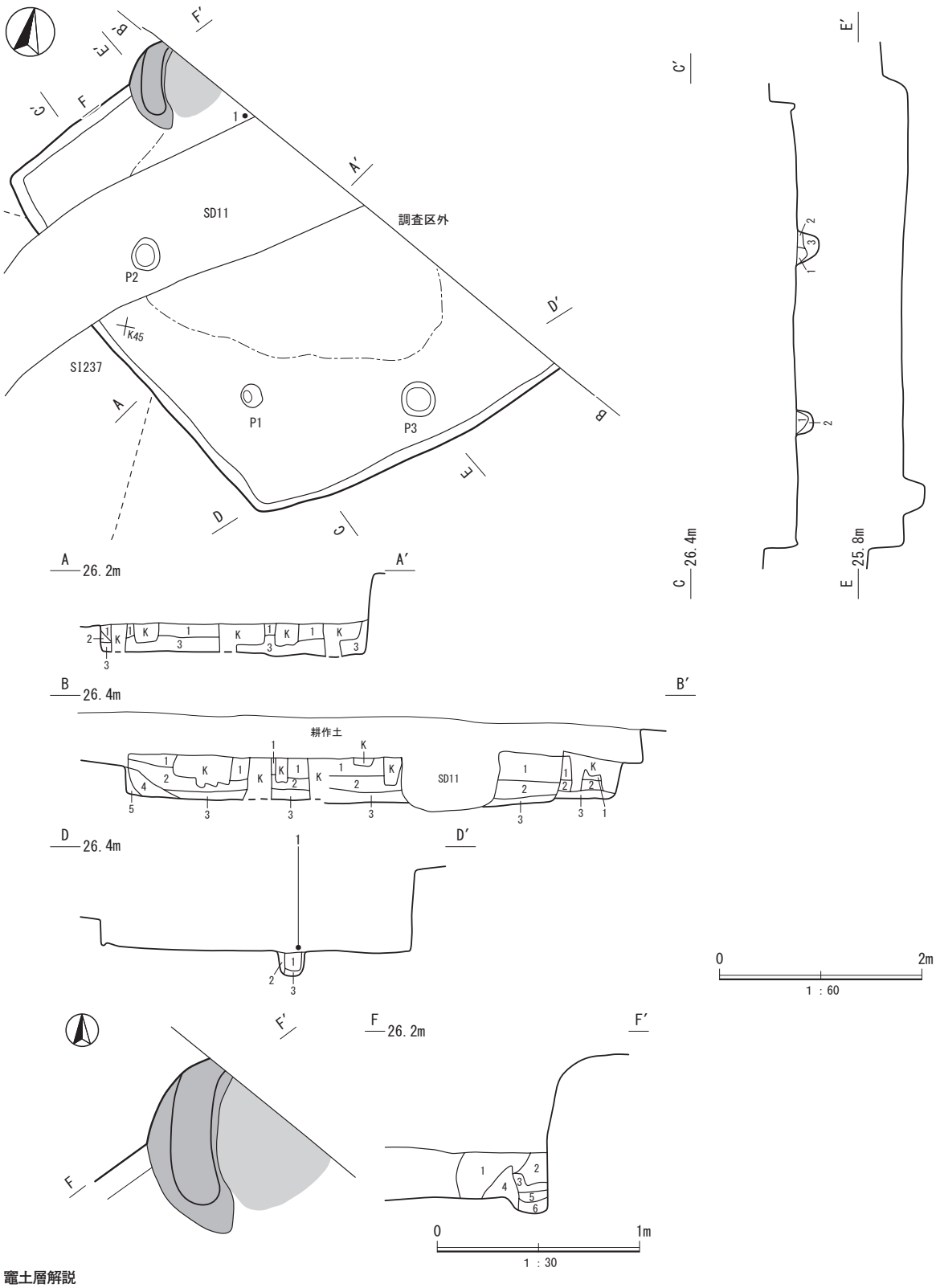
所見　時期は、出土土器から奈良時代と考えられる。

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

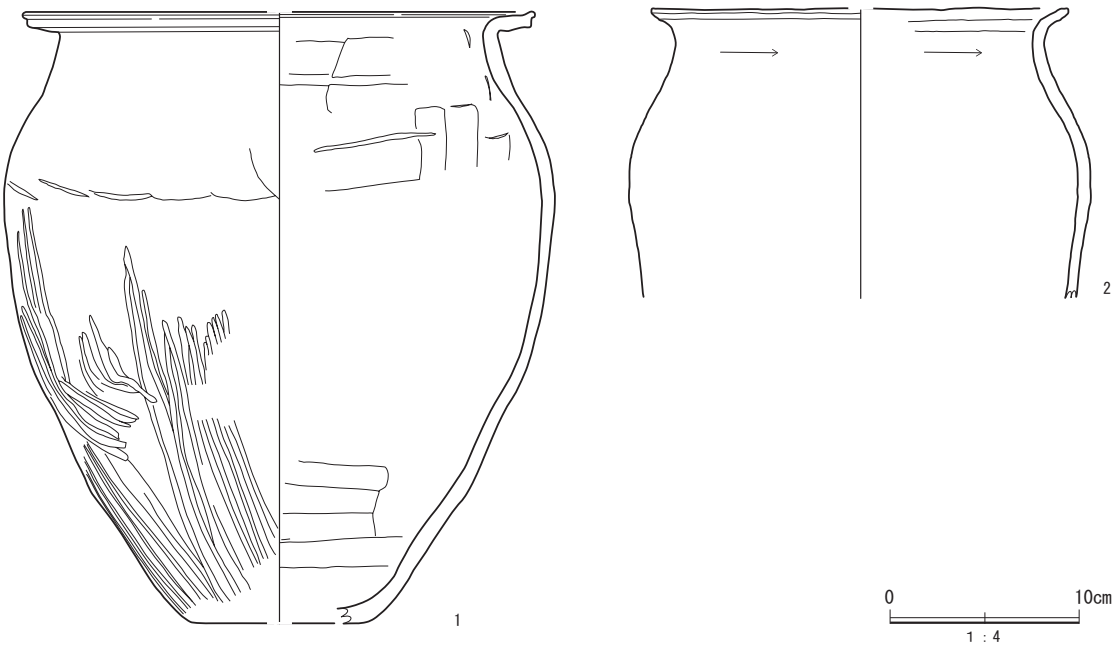
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



竈土層解説

1　5YR　6/2　灰　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子微量　暗褐色粘土ブロック多量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　暗褐色輪土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　6/4　にぶい橙色　焼土粒子中量　炭化粒子微量　暗褐色粘土ブロック多量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　5/3　な歩い橙色　暗褐色粘土ブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし
5　5YR　3/3　暗赤褐色　暗褐色粘土ブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
6　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 237 図　第 203 号竪穴建物跡実測図



第 238 図　第 203 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 109 表　第 203 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[26.8]	32.3	[9.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部下端縦位のヘラミガキ 内面横位のヘラナデ	竈前床面	40% 写真図版 60
2	土師器	甕	[22.0]	(15.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明　内面横ナデ	覆土中	15%

第 207 号竪穴建物跡 (SI-207)(第 239・240 図　写真図版 36)

位置　調査区中央部 G39・H39 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 205 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は 2.82 ｍ、短軸は 2.80 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 20°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 12cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 88cmである。袖部の基部の最大幅は 110cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。火床面は、床面と同じである。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

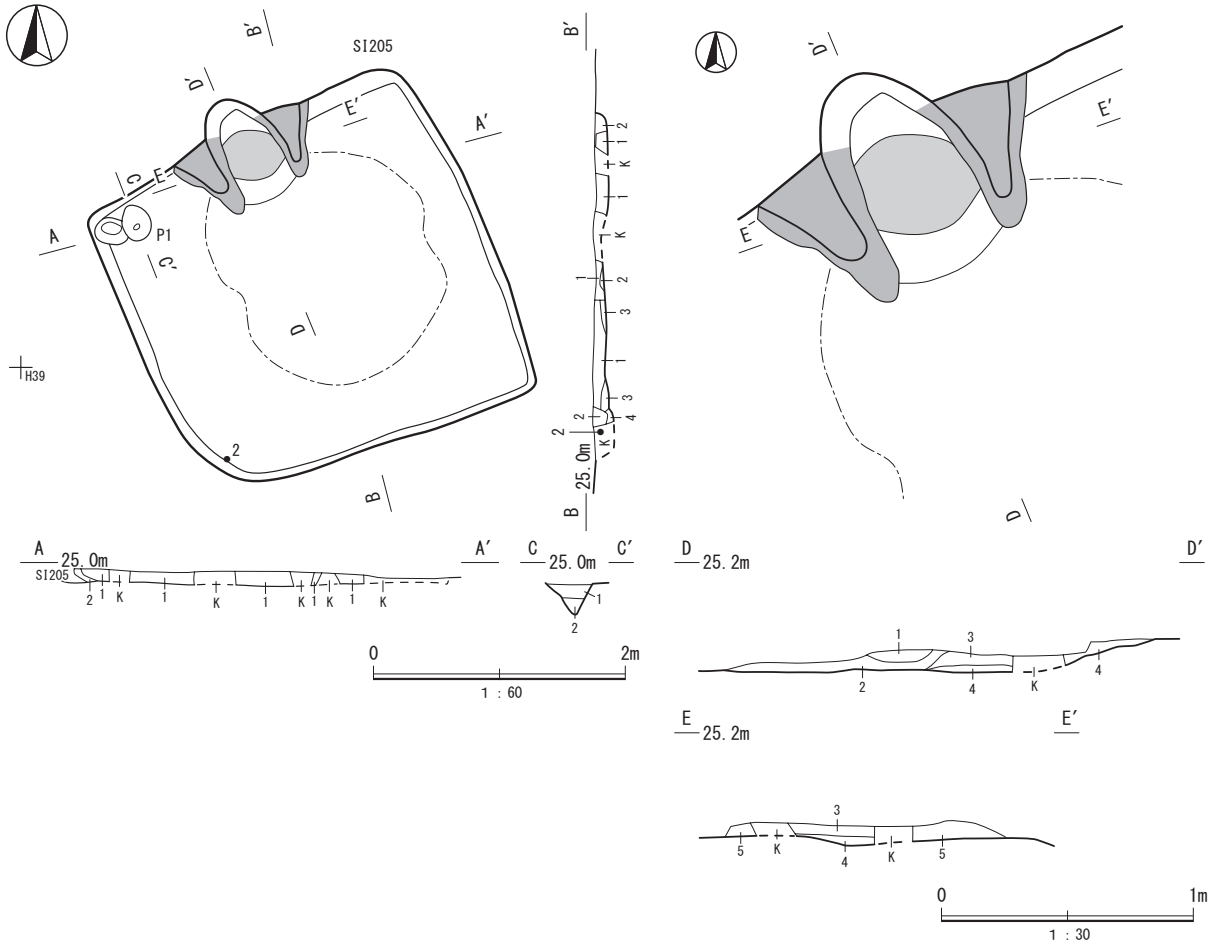
土層　４層に分層できる。粘土ブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：30 × 20cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 138 点 [坏 9 点 (174g)、高台付坏 4 点 (105g)、高坏 5 点 (99g)、甕 120 点 (1,740g)]、須恵器片 10 点［坏 2 点 (51g)、甕 8 点 (151g)］、弥生土器片 1 点 (13g)、礫 4 点 (504g)。１の土師器坏は竈内、２の土師器高台付坏は南西部の床面から出土している。３の土師器皿・４の土

師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。



土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　6/1　褐 灰 色　粘土ブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

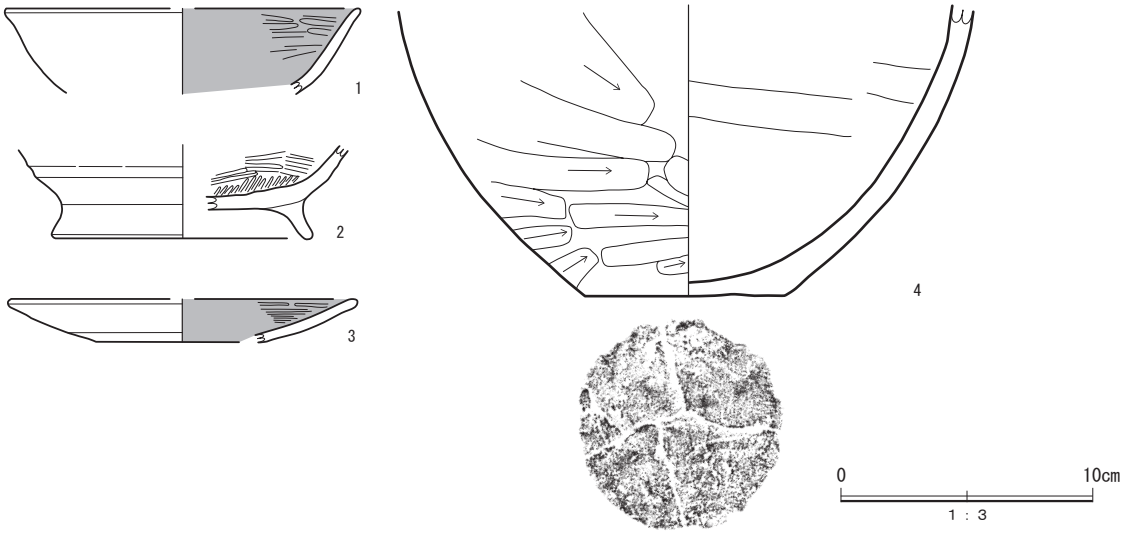
ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説

1　2.5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　2.5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
5　2.5YR　4/3　オリーブ褐色　粘土ブロック多量　砂粒少量／粘性なし　締まり強い(袖部)

第 239 図　第 207 号竪穴建物跡実測図



第 240 図　第 207 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 110 表　第 207 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(3.4)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　内面横位のヘラミガキ 内面黒色処理	竈内	10%
2	土師器	高台付坏	—	(3.7)	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼り付け　内面多方向のヘラミガキ	南西部床面	30%
3	土師器	皿	[13.6]	(1.7)	[6.8]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ　内面横位のヘラミガキ 内面黒色処理	覆土中	20%
4	土師器	甕	—	(11.5)	7.9	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ　底部２方向のヘラナデ	覆土中	20% 写真図版 60

第 111 表　奈良・平安時代の竪穴建物跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口ピット	他のピット	炉・竈	貯蔵穴			
8	I2、J2	N-80° -E	［方形］	(3.00) × (0.80)	30	平坦	—	—	—	—	東壁竈	—	土師器	奈良	本跡→ SD-1
19	F24・25 G24・25	N-30° -W	長方形	5.00 × 4.45	60	平坦	—	4	1	1	北西壁竈	—	土師器・須恵器	8C 中葉	SI18・88 →本跡
20	F26・27 G26・27	N-30° -W	［方形］	4.98 × (3.50)	40	平坦	—	2	—	1	北壁竈	—	土師器・須恵器	9C 前葉	SI-21 →本跡
24	E27~29 F27~29 G27・28	N-10° -W	［方形］	8.62 × (6.70)	30	平坦	一部	4	—	—	北西壁竈	1	土師器・須恵器	8C 中葉	本跡→ SI-35
35	F28・29 G28	N-35° -W	方形	4.92 × 4.90	54	平坦	一部	4	—	3	北西壁竈	—	土師器・須恵器	9C 前葉	SI-24 →本跡
42	F31・32 G32	—	不明	(3.20) × (1.92)	40	平坦	—	—	—	—	—	—	須恵器	8C 後葉	
51	H36 I35・36	N-25° -W	長方形	4.50 × 3.96	50	平坦	全周	4	—	—	北壁竈	—	土師器・須恵器	8C 中葉	
52	H37・38 I37・38	N-35° -W	長方形	3.52 × 2.96	54	平坦	—	2	—	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	9C 中葉	SI-144・233 →本跡
73	D25・26 E25・26	N-40° -W	方形	4.54 × 4.44	30	平坦	—	4	1	—	北西壁竈	—	土師器	8C 中葉	SI-72 →本跡

76	C26・27 D26	N-30° -W	長方形	5.20 × 4.12	30	平坦	—	4	1	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	8C 中葉	SI-75・79 →本跡
92	G7・8 H7・8	N-15° -W	方形	4.56 × 4.50	16	平坦	一部	4	1	—	北壁竈	—	土師器	鬼高期	
96	H5・6 J5・6	N-30° -W	方形	4.75 × 4.51	10	平坦	全周	4	1	—	北壁竈	—	土師器・須恵器	8C 前葉	SI-102・104 →本跡
108	D20・21	N-35° -W	［方形］	(5.20) × (3.90)	18	平坦	一部	2	—	2	—	—	土師器	10C 前葉	SI-109 →本跡 → SD-5
110	L3・L4	N-70° -E	［方形］	(2.30) × (0.75)	100	凸凹	—	—	—	2	—	—	土師器・須恵器	8 C 中葉	SI-106 →本跡
115	H40・41 I40・41	N-30° -W	長方形	3.50 × 3.12	20	平坦	一部	3	1	—	北壁竈	—	土師器・須恵器	9C 後葉	SI205 →本跡 → SI-116、SK-3
116	H41・I41	N-52° -E	方形	3.12 × 2.92	64	平坦	一部	—	1	—	北東壁竈	—	土師器・須恵器	9C 前葉	SI-149 →本跡 → SI-115
121	I39・40 J39・40	N-20° -W	方形	3.12 × 2.94	50	平坦	—	—	—	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	9C 前葉	SI-114 →本跡
125	B31・32 C31	N-25° -W	方形	4.15 × 4.00	46	平坦	全周	4	—	3	北西壁竈	—	土師器・須恵器	8C 後葉	SI-126・235 →本跡
127	D24・25	N-30° -W	方形	2.74 × 2.70	10	平坦	—	—	—	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	9C 後葉	SI-72・74 →本跡
135	C31 ～ 33 D32・33	N-30° -W	方形	5.35 × 5.30	56	平坦	全周	4	—	1	北西壁竈	—	土師器・須恵器	8C 中葉	SI-235 →本跡 → SI-136
136	C32・33 D32・33	N-10° -E	長方形	3.50 × 2.90	52	平坦	—	—	—	1	北壁竈	—	土師器・須恵器	9C 前葉	SI-137・135 →本跡
145	D33・34 E33・34	N-35° -W	方形	4.20 × 4.18	30	平坦	—	4	1	—	北西壁竈	—	土師器・須恵器	9C 中葉	SI-83・141・146 →本跡
147	D32・33 E32・33	N-20° -W	長方形	5.03 × 4.00	20	平坦	一部	4	—	—	北壁竈	—	土師器・須恵器	8C 中葉	SI-43・146 →本跡→ SK-44
151	N42 M42・43	N-30° -W	方形	5.28 × 5.05	42	平坦	一部	4	1	1	北西壁竈	—	土師器・須恵器	8C 後葉	本跡→ SD10
153	F39 G39	N-80° -E	方形	3.50 × 3.31	18	平坦	—	—	—	1	東壁竈	—	土師器・須恵器	9C 中葉	SI-148 →本跡
203	J44・45 K44・45	N-45° -W	［方形］	(4.80) × (3.20)	40	平坦	—	2	1	—	北西壁竈	—	土師器	奈良	本跡→ SD-11
207	G39・H39	N-20° -W	方形	2.82 × 2.80	12	平坦	—	—	—	1	北西壁竈	—	土師器	9C 前葉	SI-205 →本跡

(2)　土坑

第 15 号土坑 (SK-15)(第 241 図)

位置　調査区東部。J37 グリット、標高 25m ほどに位置している。

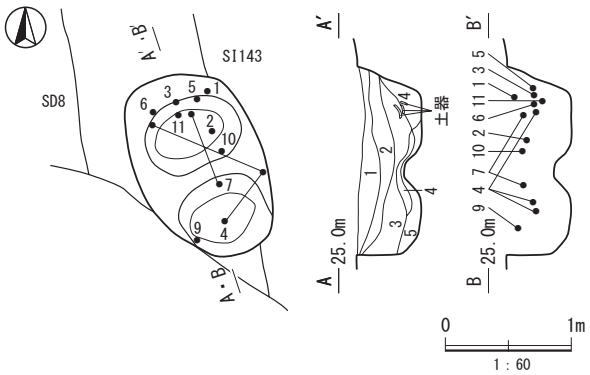
重複関係　第 143 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南西部が調査区外に延びて、長径 1.54m、短径 0.92m で、平面形は楕円形である。深さは 50㎝である。南北径方向はＮ－ 30°－Ｅである。底面は平坦でなく２つのピット状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいるが､自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 53 点 [坏 41 点 (1,017g)、高台付坏２点 (125g)、高台付皿１点 (58g)、甕９点 (149g)]、須恵器甕片 14 点 (2,192g)、縄文土器片１点 (17g)、石９点 (2,424g)。１の土師器坏は北部の覆土上層、２・４・７の土師器坏、９の土師器高台付坏、10 の土師器高台付皿、11 の須恵器甕は北部の覆土中層、３・５・６の土師器坏は北部の覆土下層から出土している。８の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。



土層解説

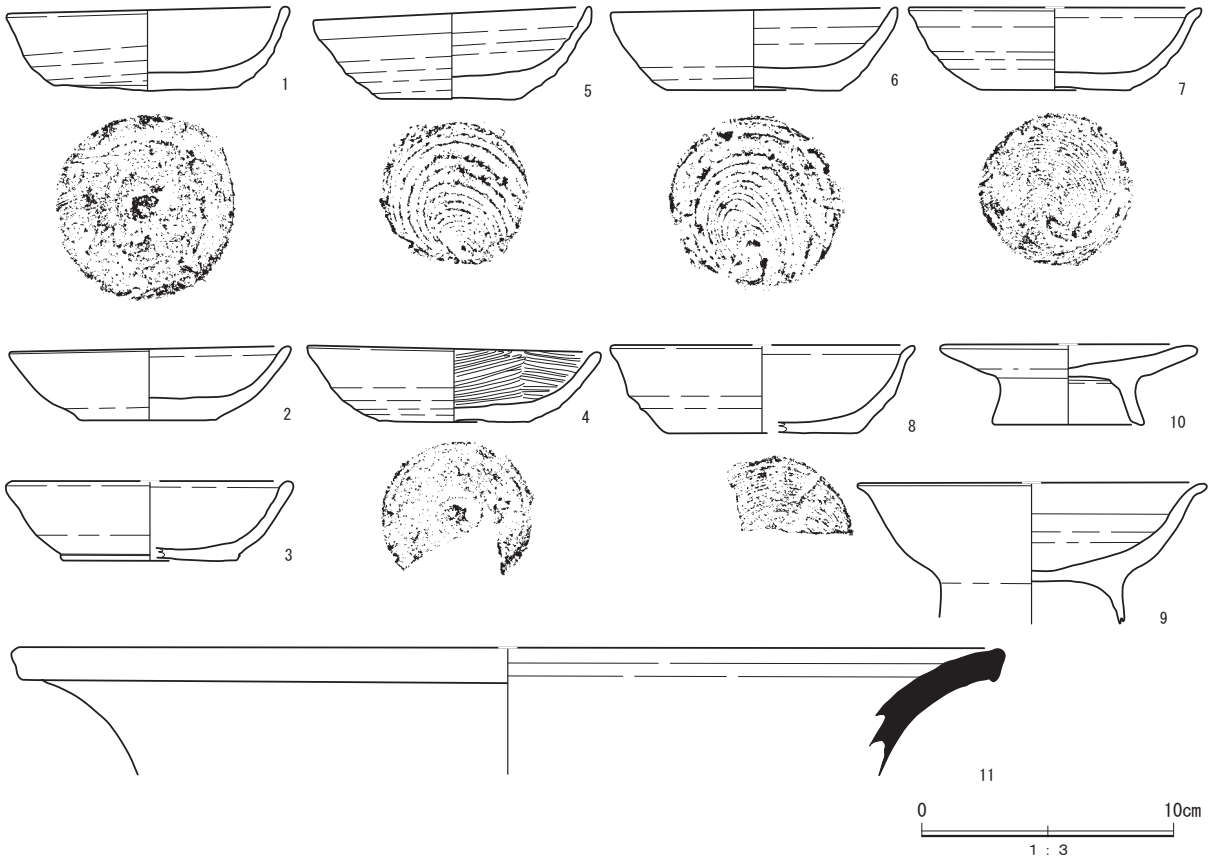
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　粘土ブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土 粒子少量／粘性あり　締まりあり

4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量　焼土粒子微量 粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　粘土ブロック多量・粒子微量　炭化粒子微量粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 241 図　第 15 号土坑・出土遺物実測図

第 112 表　第 15 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.4～11.0	3.1～3.3	7.2	長石・石英・雲母・チャート	浅黄橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	北部覆土上層	85% 写真図版60
2	土師器	坏	11.0	2.7～2.9	5.5	長石・石英・角閃石・スコリア	淡橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	北部覆土中層	85%
3	土師器	坏	[11.0]	3.15	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	北部覆土中層	20%
4	土師器	坏	11.3～11.5	2.8～3.0	6.0	長石・石英・角閃石	橙	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り不調整	北部覆土下層	70% 写真図版60

5	土師器	坏	10.7～10.9	3.1～3.7	5.7	長石･石英･チャート	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	北部覆土中層	100%写真図版60
6	土師器	坏	11.0～11.2	3.1～3.3	6.5～7.0	長石･石英･スコリア･チャート	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	北部覆土下層	100%写真図版60
7	土師器	坏	[11.4]	3.25	6.0	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	北部覆土中層	60%
8	土師器	坏	[11.8]	3.5	[7.5]	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り不調整	覆土中	20%
9	土師器	高台付坏	[13.6]	(5.6)	―	長石･石英･スコリア	浅黄橙	普通	ロクロナデ　器面摩滅	北部覆土中層	40%
10	土師器	高台付皿	[10.2]	3.2	[6.0]	長石･石英･スコリア･チャート	浅黄橙	普通	ロクロナデ	北部覆土中層	50%写真図版60
11	須恵器	甕	[39.0]	(5.0)	―	長石・石英	黄灰	普通	口縁部横ナデ　内面剥離	北部覆土下層	3%

第 71 号土坑 (SK-71)(第 242 図　写真図版 39)

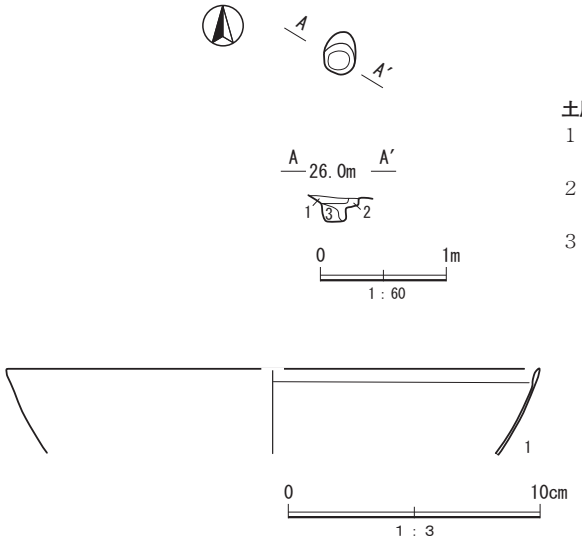
位置　調査区東部。K46 グリット、標高 25m ほどに位置している。

規模と形状　長径 0.54m、短径 0.32m の楕円形で、深さは 30cmである。南北径方向は N － 10° － E である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層でき、ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　金属製品１点 (7.8g)。１の銅鋺は覆土下層から出土している。

所見　時期は、銅鋺の形状から７世紀以降と考えられる。



土層解説

1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり

2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性なし　締まりあり

3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 242 図　第 71 号土坑・出土遺物実測図

第 113 表　第 71 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	銅鋺	[21.2]	(3.4)	―	(7.8)	青銅	口縁部内面わずかに肥厚　ロクロ挽きｯ	中央部覆土下層	5%写真図版60

5　中世以降の遺構と遺物

中世以降の遺構は、掘立柱建物跡１棟、土坑１基、溝跡３条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

（１）掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第 243・244 図　PL　）

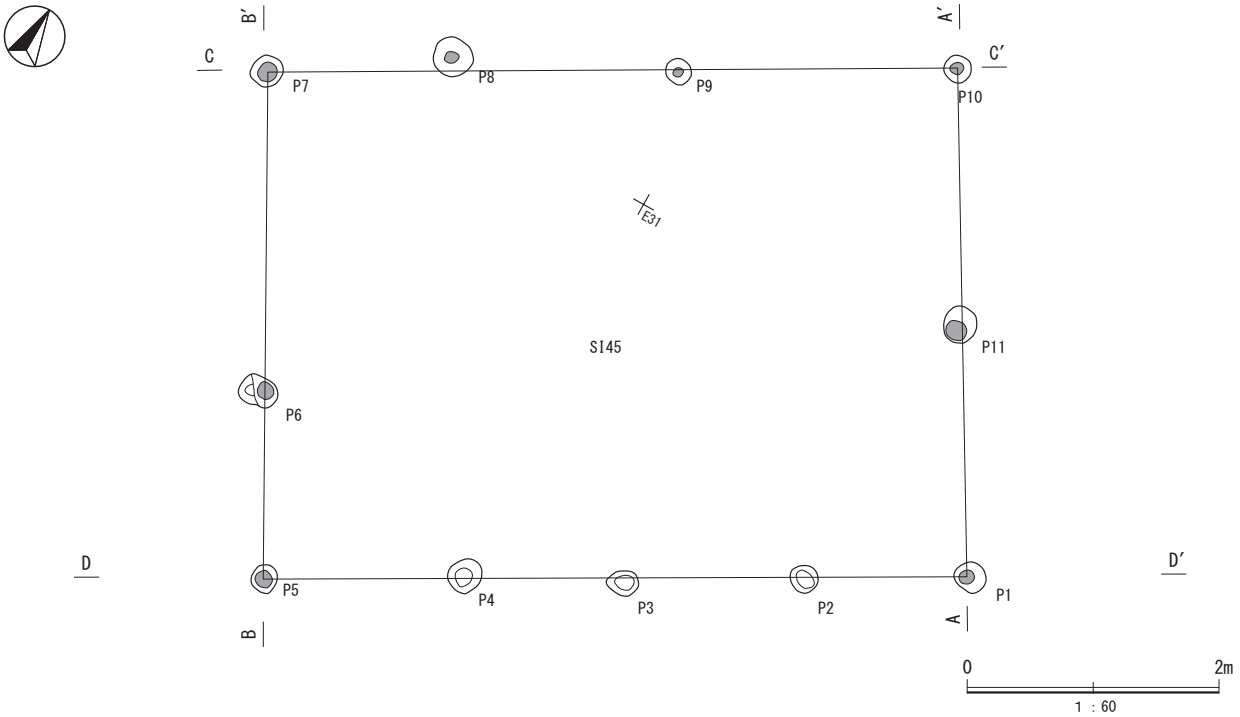
位置　調査区中央部 D30 ～ E31 グリット、標高 25m ほどの平坦地に位置している。

重複関係　第 45 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

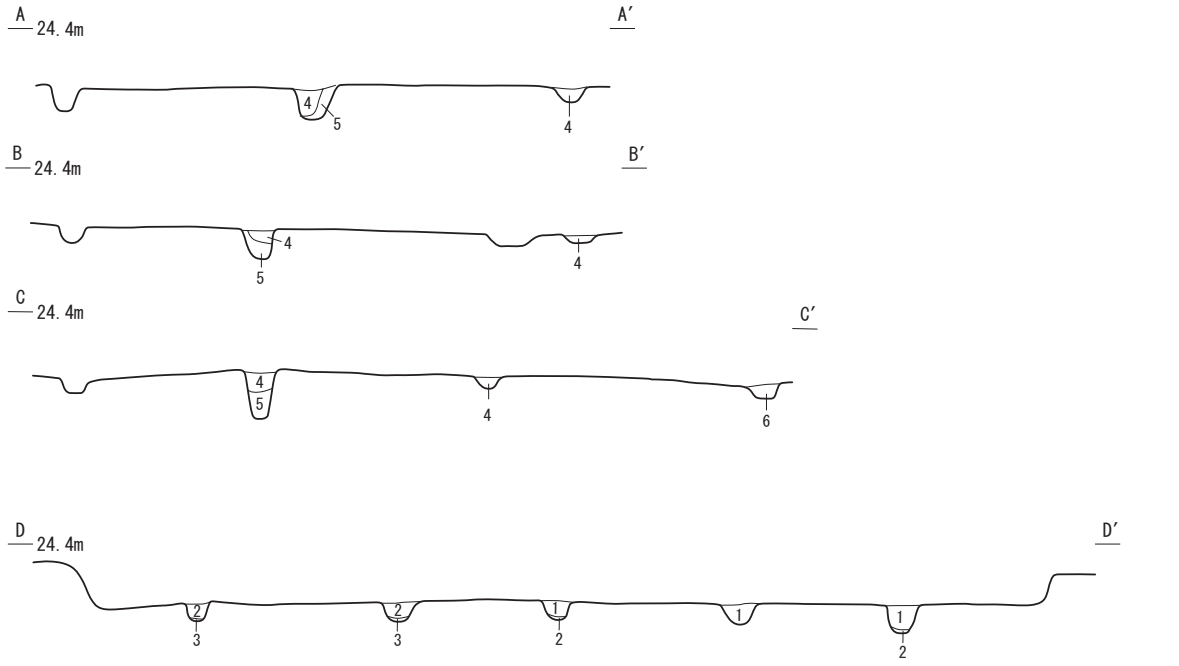
規模と構造　桁行５間、梁行２間の側柱建物跡で、桁行方向Ｎ－ 60°－Ｅの東西棟である。規模は 5.5m、梁行 4.0m で、面積は 20.4㎡である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から 1.5m（５尺）、1.7m（６尺）、2.1m（７尺）、南平が西妻から 1.5m.（５尺）、1.3m（４尺）、1.4m（５尺）、1.3m（４尺）で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、東妻が 2.0m（７尺）、2.0m（７尺）、西妻が 2.5m（８尺）、1.5m（５尺）である。

柱穴　11 か所。掘方の平面形は円形で、長径 25 ～ 30㎝、短径 20 ～ 25㎝である。深さ 15 ～ 40㎝で掘方の壁は直立または外傾している。第３～５層は掘方への埋土で、第１・２層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　土師器片２点［坏１点（６g）、甕１点 (25g)］、縄文土器片１点（７g）が出土している。



第 243 図　第１号掘立柱建物跡実測図



土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/6　暗赤褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 244 図　第 1 号掘立柱建物跡実測図 (2)

(2)　土坑

第 1 号土坑 (SK-01)(第 245・246 図)

位置　調査区西部。H41 グリット、標高 20m ほどに位置している。

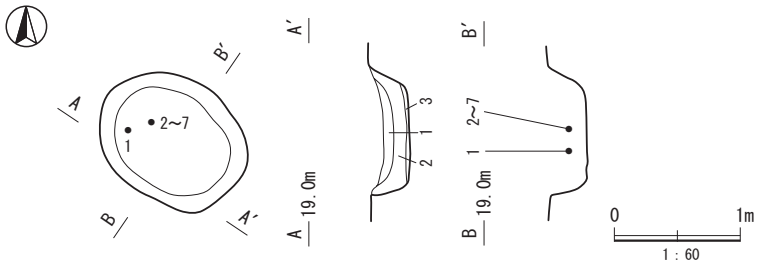
重複関係　第 2 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.25m、短径 1.00m で、平面形は楕円形である。深さは 20cmである。長径方向はＮ－ 30°－ W である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

遺物出土状況　古銭 (永楽通寶・皇宋通寶・熙寧元寶ヵ) 6 枚、青銅製品（匙）1 点が中央部覆土中層から出土している。

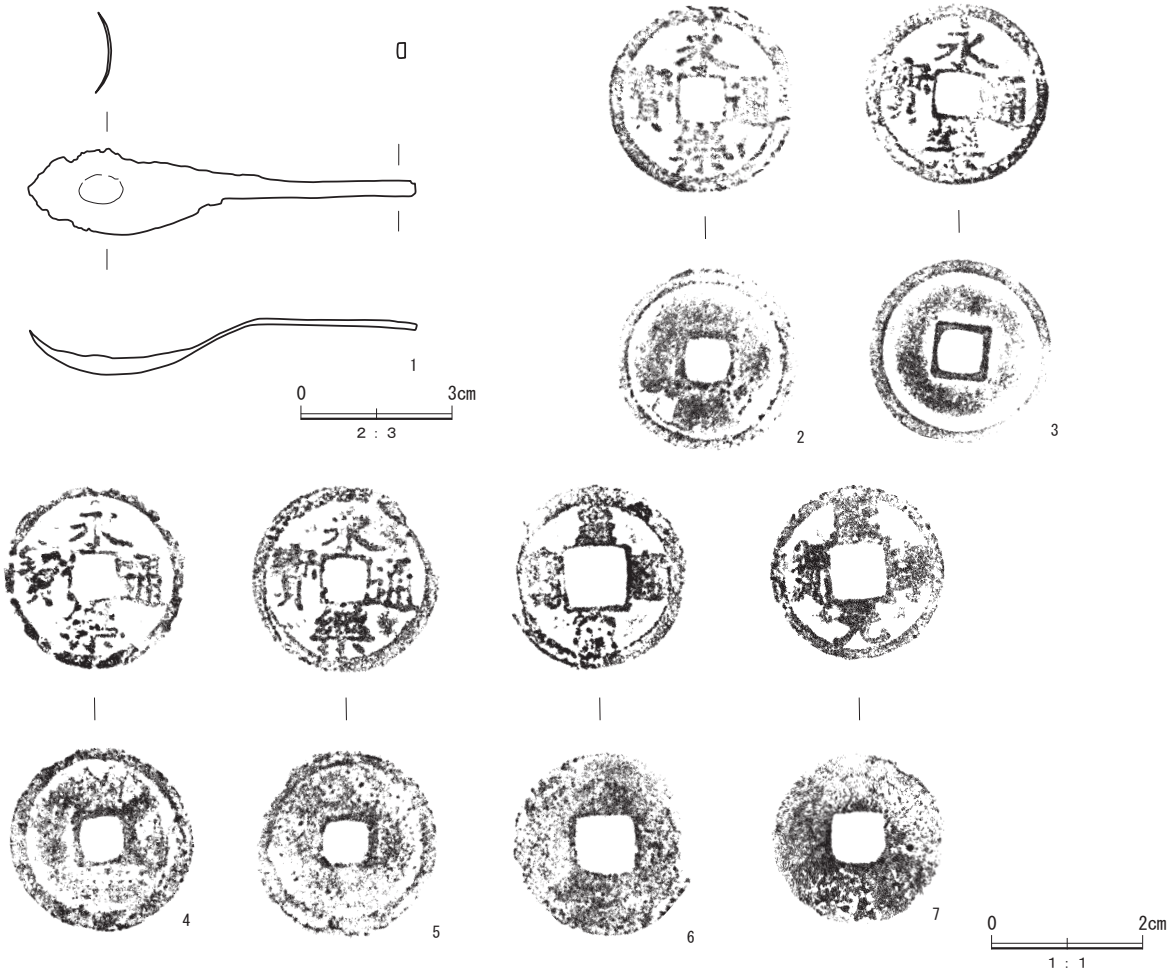
所見　時期は、銭貨が宋銭と明銭であることから室町時代後半と考えられる。



第 245 図　第 1 号土坑実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　骨粉少量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量　骨粉中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　骨粉少量／粘性あり　締まりなし



第 246 図　第１号土坑出土遺物実測図

第 114 表　第１号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	匙	7.65	1.65	0.05	2.60	銅		覆土中層	写真図版60

番号	銭名	銭径	孔径	厚さ	重さ	特徴	出土位置	備考
2	永楽通寳	2.54～2.48	0.6	0.15	3.1	明銭　初鋳１４０８年	覆土中層	写真図版60
3	永楽通寳	2.5	0.5	0.14	3.1	明銭　初鋳１４０８年	覆土中層	写真図版60
4	永楽通寳	2.45～2.46	0.5	0.18	3.3	明銭　初鋳１４０８年	覆土中層	写真図版60
5	永楽通寳	2.49～2.5	0.5～0.54	0.16	3.5	明銭　初鋳１４０８年	覆土中層	写真図版60
6	皇宋通寳ヵ	2.46～2.5	0.76～0.77	0.15	3.0	北宋銭　初鋳１０３４年	覆土中層	写真図版60
7	熙寧元寳ヵ	2.3	0.67～0.71	0.14	2.9	北宋銭　初鋳１０６８年	覆土中層	写真図版60

(3) 溝跡

第１号溝跡 (SD-01)(第 247 図　写真図版 40)

位置　調査区西部Ｇ２～Ｊ２グリット、標高 18m ほどの斜面部に位置している。

重複関係　第５・８・100 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　西部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 26.0m である。上幅 1.6 ～ 2.1m、下幅 0.1 ～ 0.3m、深さは 1.3m である。断面形は逆台状である。台地を回るように湾曲している。

覆土　５層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 76 点［坏 17 点 (127g)、甕 58 点 (716g)、甑 1 点 (42g)］、須恵器片 11 点［坏２点 (54g)、高台付坏 1 点 (37g)、蓋 1 点 (26g)、甕 7 点 (397g)］、弥生土器片 5 点 (74g)、陶器片 7 点 (111g)。１の陶器碗・２の陶器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土遺物は流れ込みと考えられるが、形状から中世と推測される。城館に関わる堀と考えられる。

第２号溝跡 (SD-02)(第 248・249 図　写真図版 40)

位置　調査区西部Ｇ３～５、Ｈ３・４、Ｉ２～４、Ｊ２・３グリット、標高 19m ほどの斜面部に位置している。

重複関係　第１・６・９・10・11 号竪穴建物跡を掘り込み、第１号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延びおり、確認できた長さは 21m である。上幅 4.6 ～ 6.0m、下幅 2.5 ～ 2.8m、深さは 1.3m である。断面形は逆台状で、直線状に延びている。走行方位はＮ－ 20°－Ｅである。

覆土　14 層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 166 点［坏５点 (54g)、高坏 1 点 (14g)、坩 3 点 (73g)、157 点 (1,763g)］、須恵器片５点［坏 1 点 (7 g)、蓋２点 (65g)、甕２点 (42g)］、弥生土器片 17 点 (190g)、陶器片２点 (68g)。土製品２点 (22g)。１の陶器甕、２・３の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土遺物は流れ込みで、形状から中世と推測される。城館に関わる堀と考えられる。

第 12 号溝跡 (SD-12)(第 250 図　写真図版 41)

位置　調査区中央部 B33 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

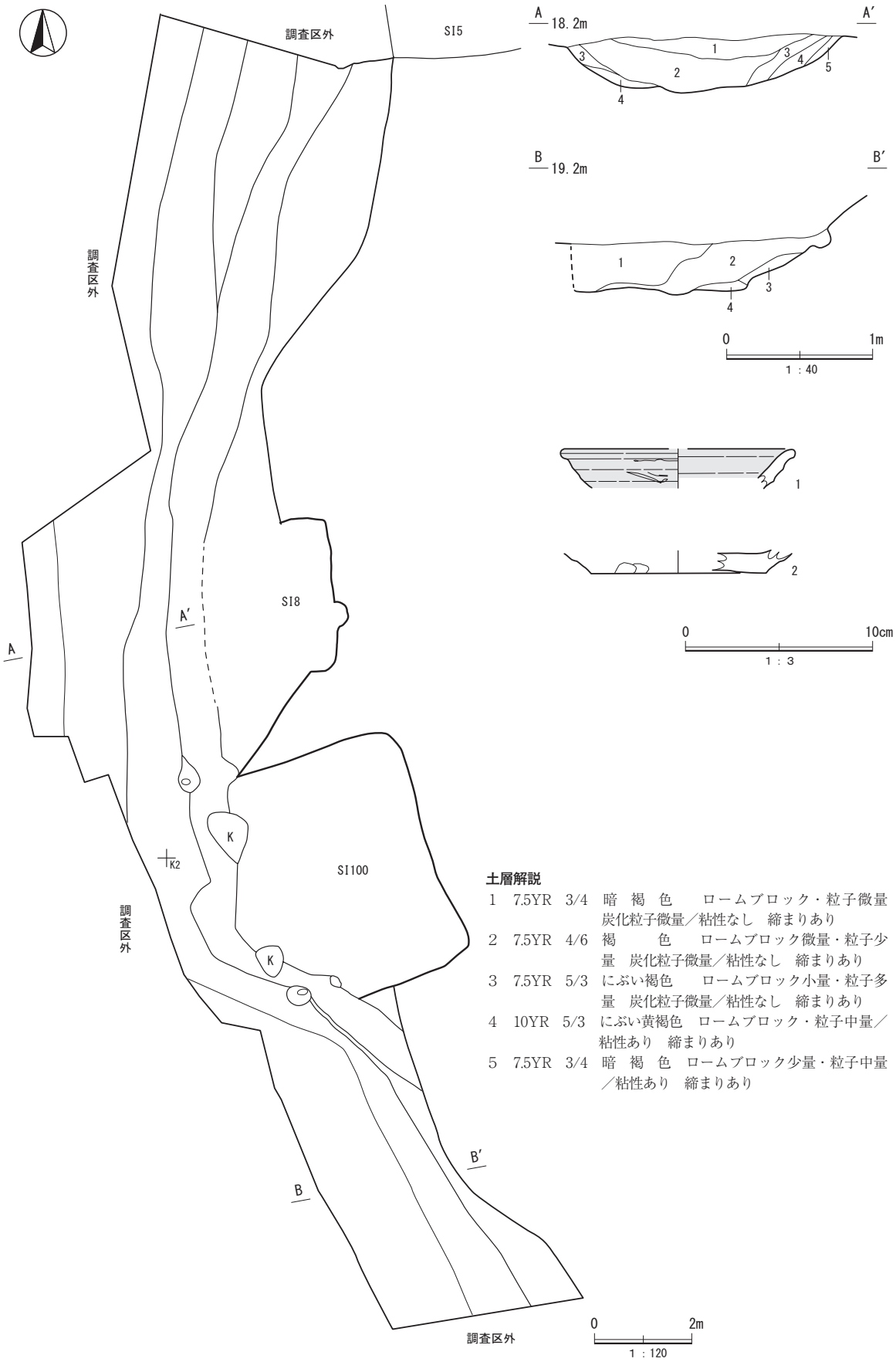
重複関係　第 133 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区外に延びており、確認できた長さは２m である。上幅 1.1m、下幅 0.6m、深さは 0.3m である。断面形は逆台形状で、直線状に延びている。走行方位はＮ－ 20°－Ｅである。

覆土　４層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 100 点［坏６点 (35g)、高台付坏 1 点 (20g)、高坏５点 (81g)、坩２点 (30g)、甕 85 点 (1,007g)、甑 1 点 (26g)］、須恵器片 19 点［坏６点 (101g)、蓋４点 (62g)、瓶 1 点 (28)、甕８点 (255g)］、弥生土器片 1 点 (6 g)、陶器片 3 点 (136g)、礫 1 点 (15g)。１の須恵器甕・２の陶器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、遺物は流れ込みと考えられるが、常滑産甕が出土していることから中世と推測される。



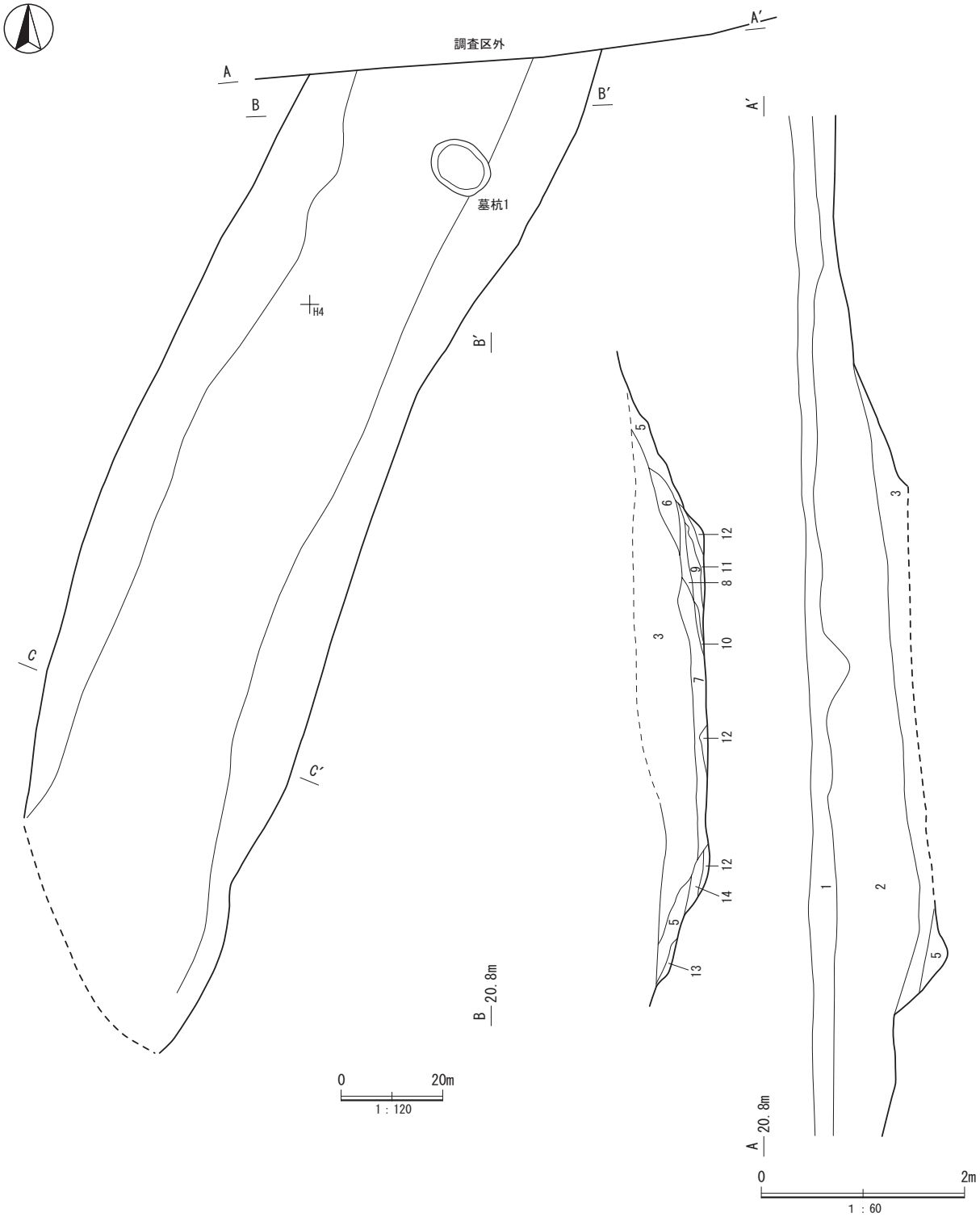
土層解説

1　7.5YR　3/4　暗　褐　色　　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/6　褐　　色　　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　5/3　にぶい褐色　　ロームブロック小量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　10YR　5/3　にぶい黄褐色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり

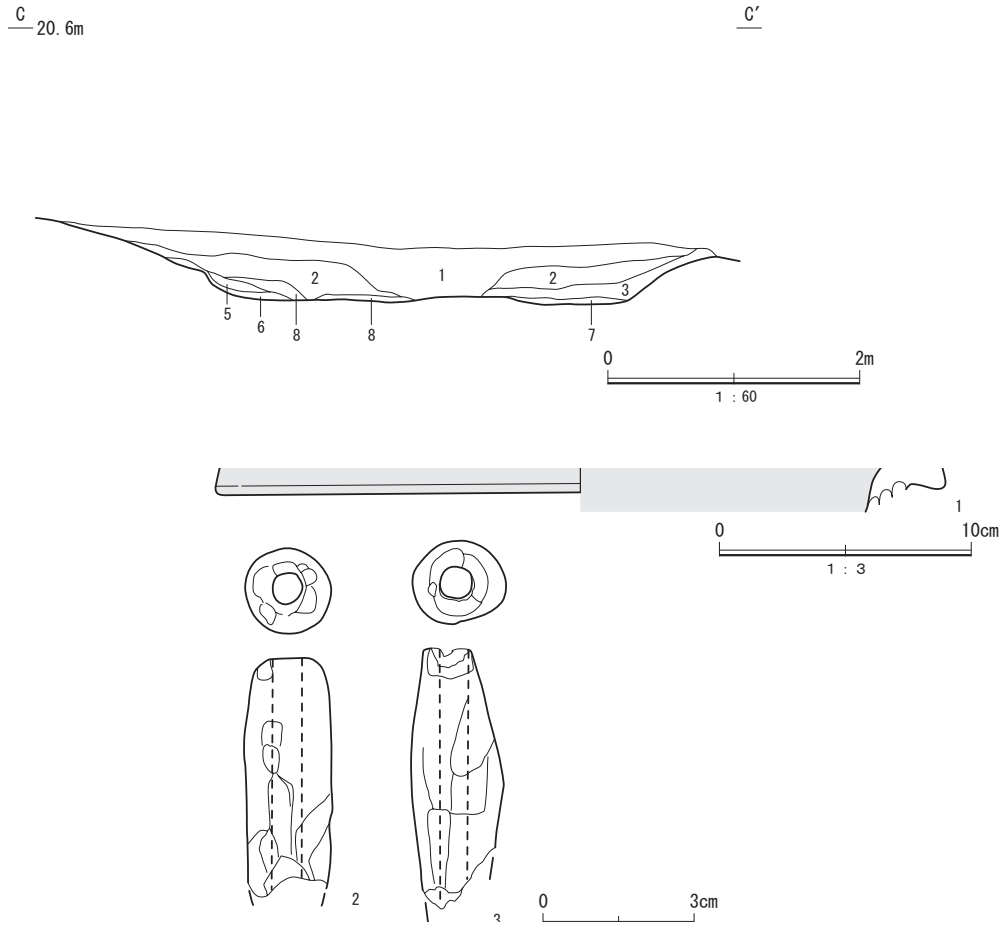
第 247 図　第 1 号溝跡・出土遺物実測図

第 115 表　第１号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	陶器	碗	[11.2]	(2.0)	―	長石	灰白	普通	ロクロナデ　釉色　灰白	覆土中	5% 瀬戸美濃
2	陶器	碗	[11.2]	(2.0)	―	長石	灰白	普通	ロクロナデ　釉色　灰白	覆土中	5% 常滑産



第 248 図　第２号溝跡実測図 (1)



土層解説

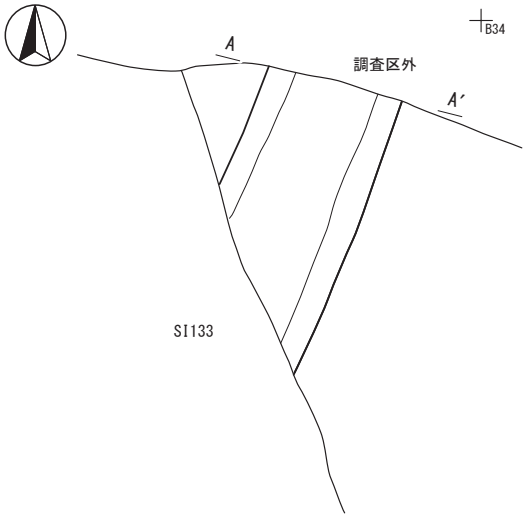
1　10YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　10YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量　灰白色粘土粒子微量／粘性あり　締まり強い
5　7.5YR　5/6　橙　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
8　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
9　10YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
10　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
11　7.5YR　5/6　明　褐　色　ロームブロック・粒子中量　鹿沼パミス少量／粘性あり　締まりあり
12　10YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
13　10YR　5/4　にぶい黄褐色　ロームブロック・粒子中量　鹿沼パミス少量／粘性あり　締まりあり
14　10YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子少量　鹿沼パミス少量／粘性あり　締まりあり

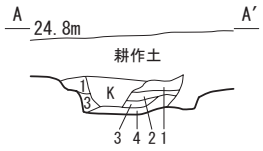
第 249 図　第２号溝跡・出土遺物実測図

第 116 表　第２号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	陶器	甕	[27.5]	(2.9)	―	長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部ロクロナデ　釉色　にぶい赤褐	覆土中	5％ 常滑産

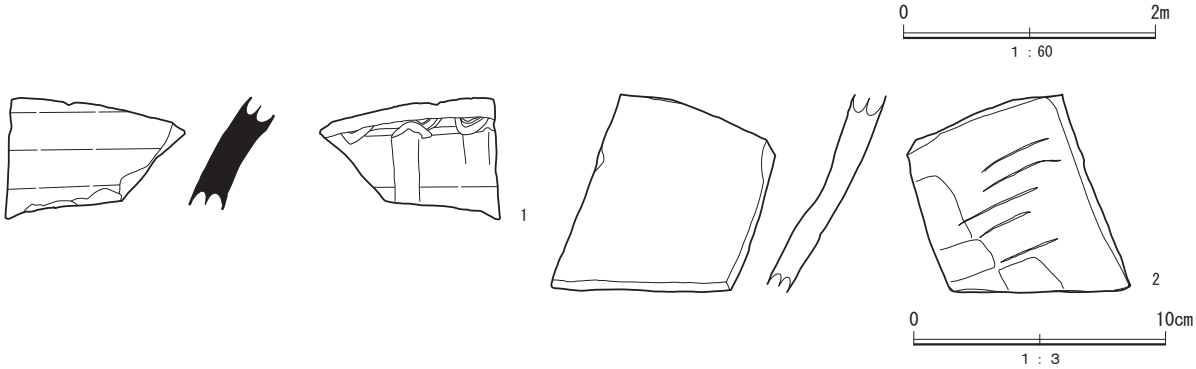
番号	機種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	管状土錘	(4.7)	1.7	0.6	(12.1)	石英・スコリア	橙	全面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	写真図版60
3	管状土錘	5.1	1.62～1.8	0.6	(10.4)	長石・石英	橙	全面ナデ	覆土中	写真図版60





土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームフロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 250 図　第 12 号溝跡・出土遺物実測図

第 117 表　第 12 号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(4.8)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　外面波状文	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2	陶器	甕	—	(7.8)	—	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	良好	ヘラナデ	覆土中	5% 常滑窯 写真図版60

第 118 表　中世以降　溝跡一覧表

番号	位置	走行方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 旧→新
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
1	G1 ～ L3	N-10° -E	湾曲	(26.0)	(1.6 ～ 2.1)	(0.1 ～ 0.3)	130	逆台形	平坦	自然	土師器・陶器	SI-100・110 →本跡
2	G3 ～ J3	N-20° -E	直線	(21.0)	4.6 ～ 6.0	2.5 ～ 2.8	130	逆台形	平坦	自然	陶器	SI-1・4・6・9・10・11 →本跡→ SK-1
12	B33	N-20° -E	直線	(2.0)	1.1	0.6	30	逆台形	平坦	自然	陶器	SI-133 →本跡

６　時期不明の遺構と遺物

時期不明の遺構は、竪穴建物跡 11 棟、柱穴列４条、溝跡８条、土坑 12 基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第６号竪穴建物跡 (SI-06)(第 251 図　写真図版２)

位置　調査区西部Ｇ３、Ｈ３グリット　標高 19 ｍほどの傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第１・２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部を第１号溝に、東部を第２号溝に掘り込まれ、東西軸は 2.60 ｍ、南北軸は 2.50 ｍしか確認できなかった。平面形は、確認できた壁の状況から隅丸長方形と推測され、主軸方位はＮ－ 85°－Ｅと推定できる。壁は確認面から最大高 12cmで、外傾して立ち上がっている。

床　貼床で、全体が固く締まっている。

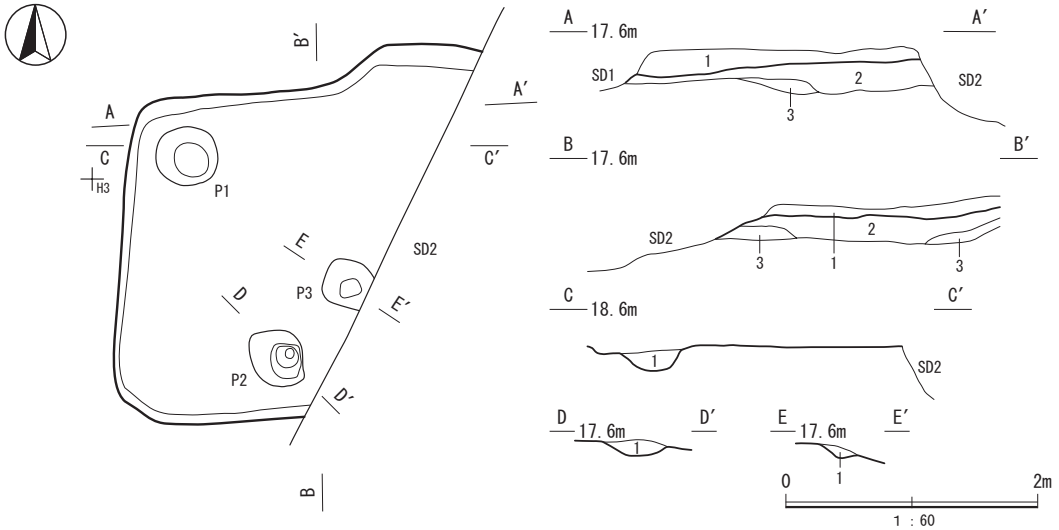
炉　確認できなかった。

土層　単一層である。２・３層は掘方の土層である。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１：50 × 50cm、深さ 20cm、Ｐ２：50 × 42cm、深さ 12cm、Ｐ３：42 × (32)cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 41 点 [坏５点 (45g)、坩１点 (９g)、甕 35 点 (1,240g)]。弥生土器片９点 (91g)、礫１点 (51g)。掲載できる遺物は検出できなかった。

所見　時期は、不明である。



第 251 図　第６号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし (掘方土層)
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり (掘方土層)

ピット土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 18 号竪穴建物跡 (SI-18)(第 252 図　写真図版５)

位置　調査区中央部 F25、G25 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 19 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西部は第 19 号竪穴建物に掘り込まれ、南部が調査区外に延びており、南北軸は 3.20 m、東西軸は 2.30 mしか確認できず、平面形・主軸方向は不明である。壁は確認面から最大高 12cmで、外傾して立ち上がっている。

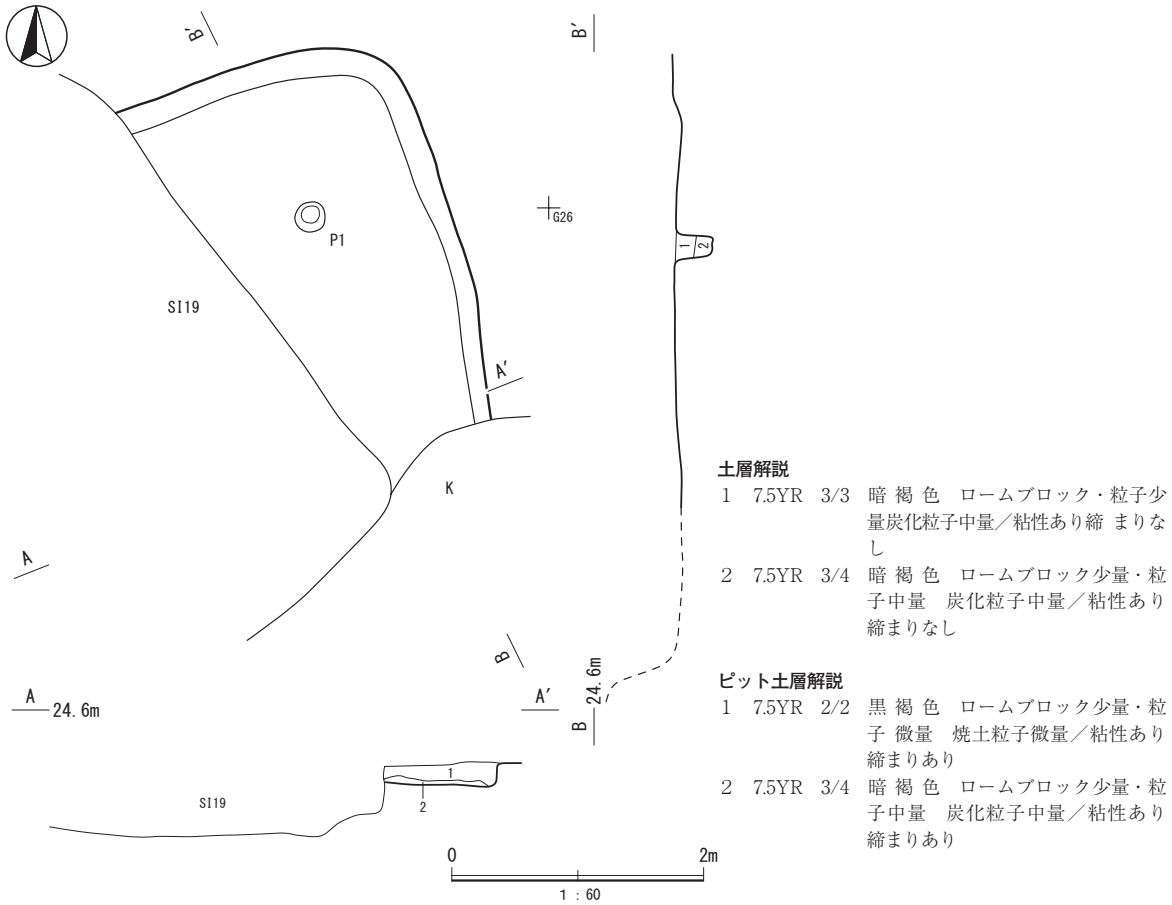
床　確認面できた部分はやや踏み固められている。

土層　２層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為的な堆積状況である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１:30 × 30cm、深さ 40cm、Ｐ２:30 × 20cm、深さ 36cmである。主柱穴とみられる。

遺物出土状況　土師器甕片 11 点 (117g)、須恵器甕片２点 (17g)] のみである。

所見　時期は、出土土器が細片のため不明である。



第 252 図　第 18 号竪穴建物跡実測図

第 61 号竪穴建物跡 (SI-61)(第 253 図　写真図版 12・31)

位置　調査区西部 G37・38 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 144 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　大半が第 144 号竪穴建物に掘り込まれ、北東・南西軸は 3.20 m、北西・南東軸は 2.00 mしか確認できたのみで、平面形・主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

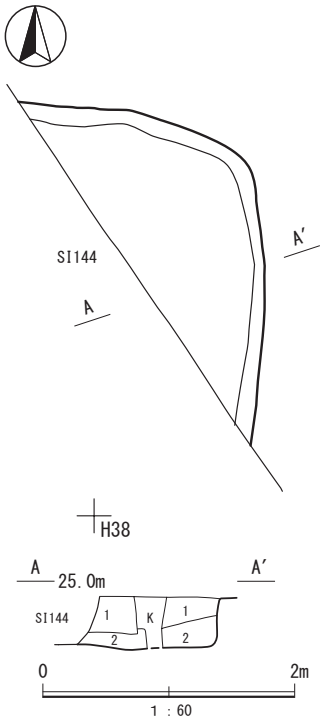
床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　２層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　検出できなかった。

遺物出土状況　土師器片 108 点 [高坏 36 点 (832g)、甕 72 点 (1,238g)]、須恵器甕片 2 点 (14g)、弥生土器片 4 点 (58g)、礫 3 点 (504g)。掲載できる遺物はなかった。

所見　重複関係と僅かな出土遺物から古墳時代中期と考えられるが、詳細な時期は不明である。



土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし

2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

第 253 図　第 61 号竪穴建物跡実測図

第 85 号竪穴建物跡 (SI-85)(第 254 図　写真図版 16)

位置　調査区中央部 E24・25、F24・25 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

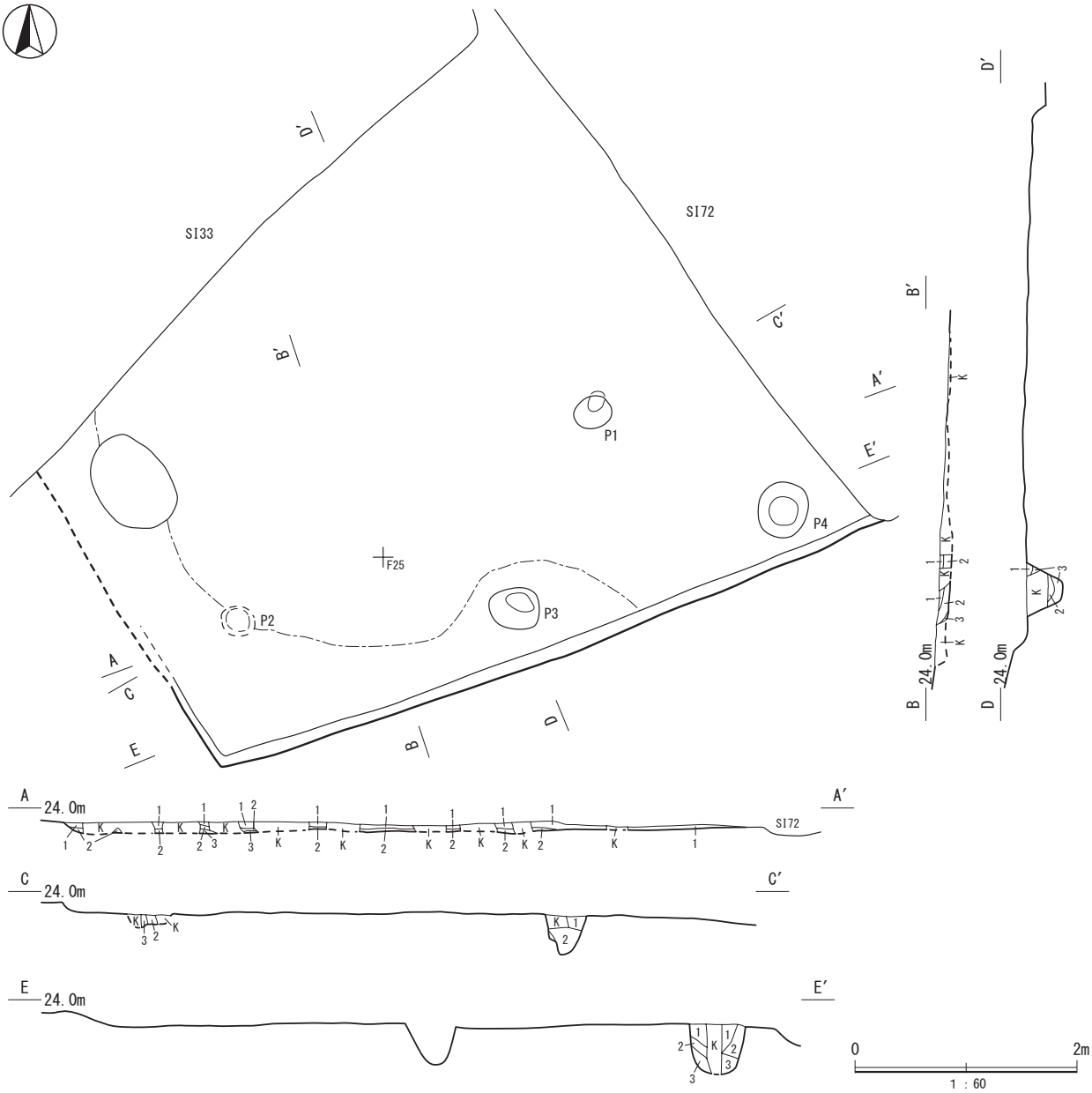
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 33・72 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第 33 号竪穴建物に、北東部を第 72 号竪穴建物に掘り込まれ、北東・南西軸

は 6.00 m、北西･南東軸は 5.60 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推測され。北西・南東主軸方位はN － 35° － W である。壁は確認面から最大高 10cmで、外傾して立ち上がっている。

床　全体的に踏み固められている。



第 254 図　第 85 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粒子微量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積とみられる。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ３は出入口施設と考えられる。Ｐ１:40 × 32cm、深さ 36cm、Ｐ２：34 × 32cm、深さ 12cm、Ｐ３：42 × 40cm、深さ 32cm、Ｐ４：50 × 40cm、深さ 40cmである。

遺物出土状況　土師器片 15 点 [坏 4 点 (30g)、甕 11 点 (163g)］である。

所見　重複関係から古墳時代後期以前であるが、出土土器が少なく詳細な時期は不明である。

第 109 号竪穴建物跡 (SI-109)(第 255 図)

位置　調査区中央部 C21・D21 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 108 号竪穴建物、第５号溝に掘り込まれている。

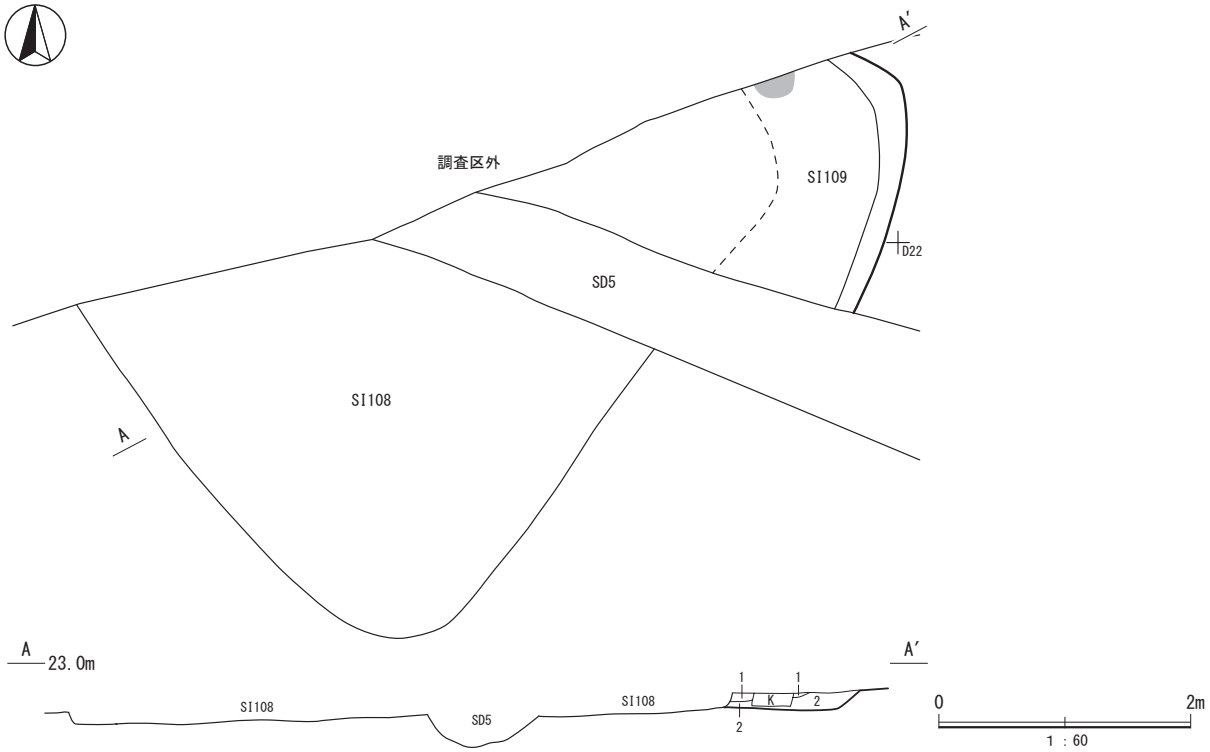
規模と形状　北部が調査区外に延びて西部を第 108 号竪穴建物に掘り込まれ、南北軸は 1.90 m、東西軸は 1.60 mしか確認できなかった。平面形・主軸方位とも不明である。壁は確認面から最大高 15cmで、外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　２層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

ピット　検出できなかった。

遺物出土状況　出土しなかった。



第 255 図　第 109 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし

所見　時期は、重複関係から９世紀後葉以前と推測できるが、出土土器がなく時期は不明である。東部で焼土が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

第 122 号竪穴建物跡 (SI-122)(第 256 図)

位置　調査区東部 L39・40 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 120 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区外に延びて、北部を第 120 号竪穴建物に掘り込まれ、北西・南東軸は 4.00 mで、北東・南西軸 2.30 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で、北西・南東軸方位はN － 30° － W である。壁は確認面から最大高 28cmで、外傾して立ち上がる。

床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　単一層である。

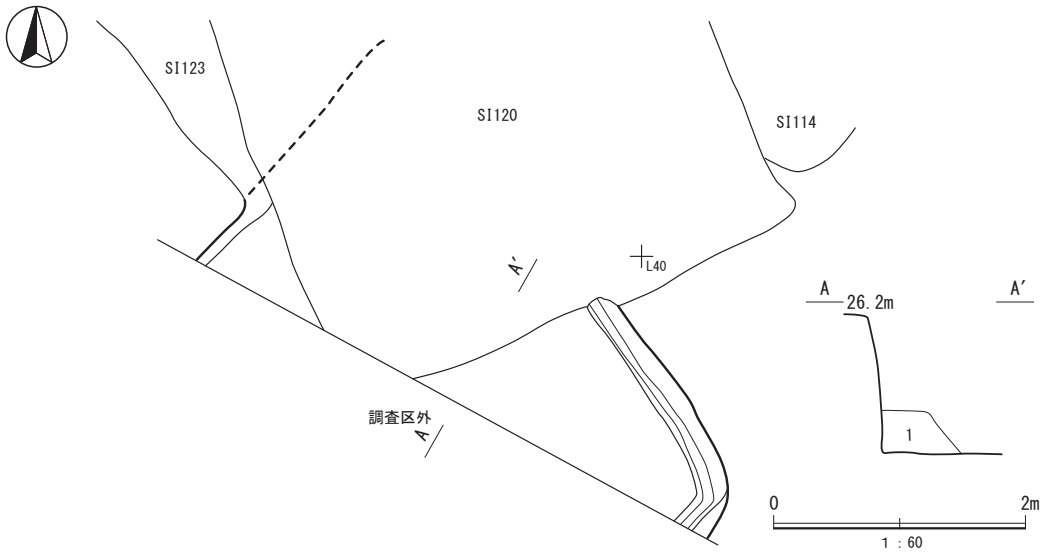
ピット　検出できなかった。

遺物出土状況　出土しなかった。

所見　時期は、重複関係から古墳時代後期以前と考えられるが詳細は不明である。

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり



第 256 図　第 122 号竪穴建物跡実測図

第 231 号竪穴建物跡 (SI-231)(第 257 図　写真図版 36)

位置　調査区中央部 L47・48 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。北部の大半が調査区外に延びている。

規模と形状　南北軸は 1.50 m、東西軸は 1.30 mしか確認できず、平面形・主軸方位はともに不明である。壁は確認面から最大高 45cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝が確認された壁で上幅 16 ～ 20cm、下幅 10 ～ 12cm、深さ 6 cmの U 字形を呈している。

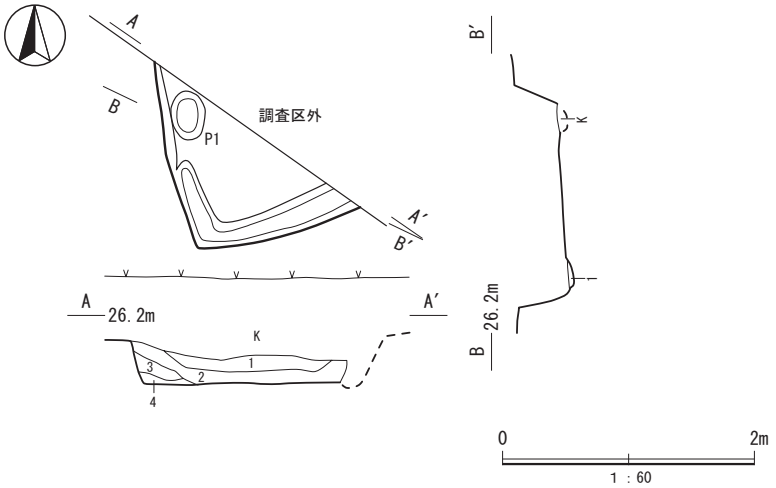
床　確認できた部分は踏み固められている。

土層　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

ピット　ピット 1 か所が検出された。Ｐ１：40 × 35cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器片 8 点 [坏 1 点 (14g)、甕 7 点 (78g)]、礫 1 点 (8g) である。

所見　時期は、出土土器が少なく不明である。



第 257 図　第 231 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

第 233 号竪穴建物跡 (SI-233)(第 258 図　写真図版 37)

位置　調査区中央部 H37・38、I37・38 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 52・142・143 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第 52 号竪穴建物に掘り込まれ、南東部を第 142 号竪穴建物に掘り込まれ、北東･南西軸は 5.05 mで、北西･南東軸は推定 5.50m である。平面形は長方形と推測される。北西･南東軸方位はＮ－ 40°－ W である。壁は確認面から覆土がなく立ち上がりを確認できなかった。

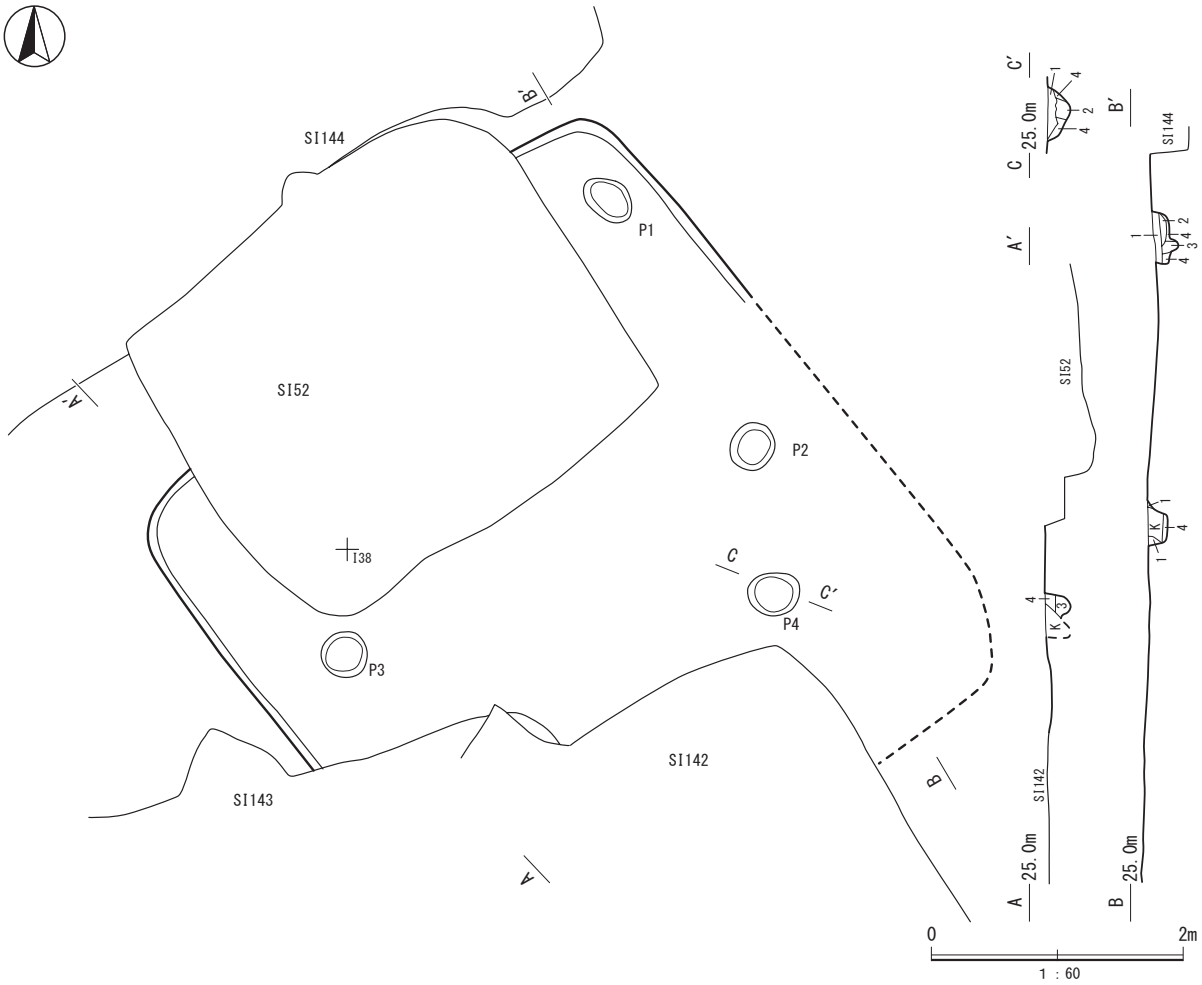
床　確認した部分は踏み固められている。

土層　確認できなかった。

ピット　ピット４か所が検出できた。Ｐ１：40 × 32cm、深さ 12cm、Ｐ２：30 × 28cm、深さ 18cm、Ｐ３：30 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ４：40 × 36cm、深さ 16cmである。

遺物出土状況　土師器甕片７点 (132g)、須恵器甕片１点 (15g)、弥生土器片１点 (21g) である。

所見　時期は、出土土器が少なく掲載できる遺物がないため不明である。



第 258 図　第 233 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 236 号竪穴建物跡 (SI-236)(第 259 図　写真図版 37)

位置　調査区中央部 B33・34、C34 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。北部が調査区外に延びている。

重複関係　第 133・137 ～ 139 号竪穴建物・第 12 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部を第 133 号竪穴建物と第 12 号溝に掘り込まれ、南東部を第 137 ～ 139 号竪穴建物に掘り込まれ、南北軸は 5.40 m、東西軸は 4.50 mしか確認できず、平面形は不明である。北東・南西軸方位はＮ－ 15°－ Ｅである。壁は確認面から覆土がなく立ち上がりを確認できなかった。

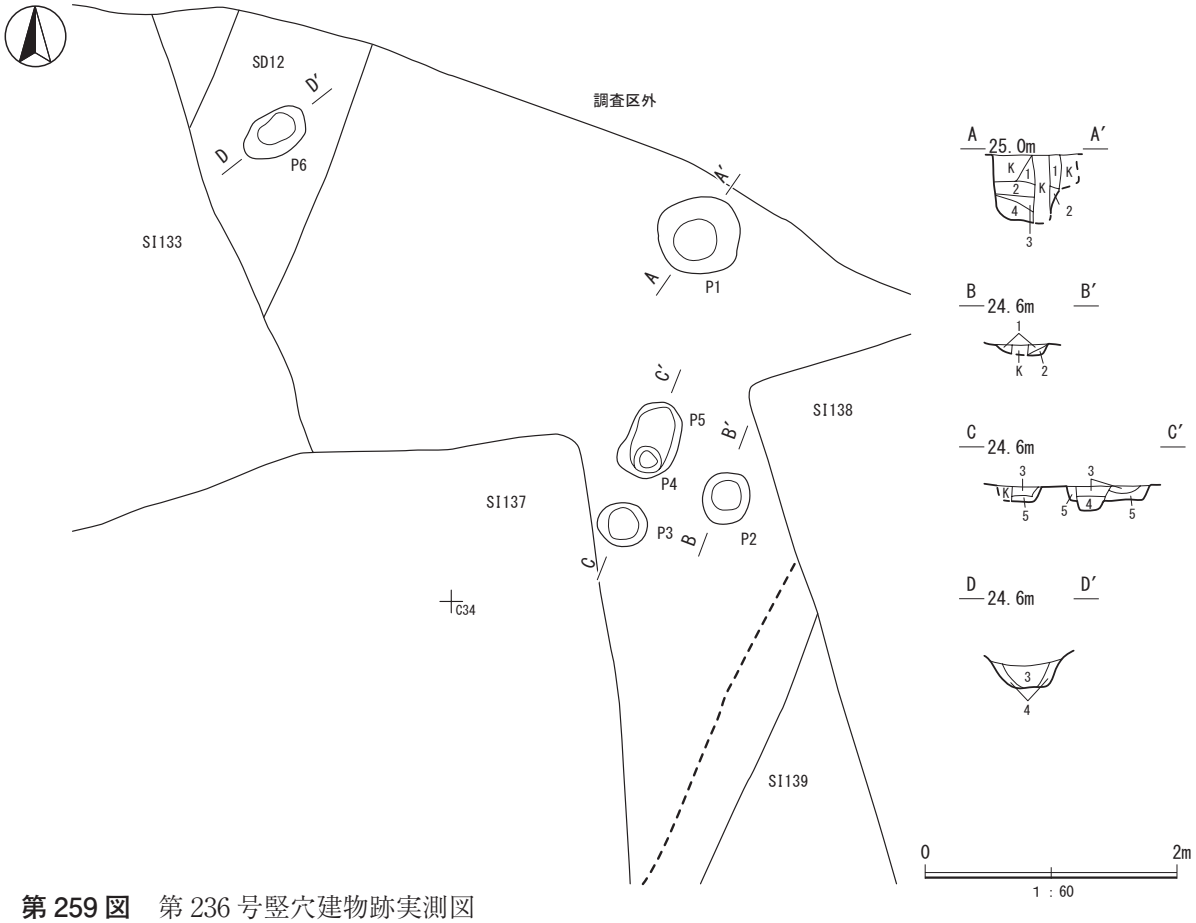
床　確認できた部分は踏み固められている。

土層　確認できなかった。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１：46 × 44cm、深さ 55cm、Ｐ２：40 × 38cm、深さ９cm、Ｐ３：40 × 36cm、深さ 12cm、Ｐ４：30 × 34cm、深さ 20cm、Ｐ５：62 × 40cm、深さ 12cm、Ｐ６：56 × 36cm、深さ 12cmである。

遺物出土状況　土師器甕片 12 点 (257g)、須恵器甕片１点 (50g)、陶器片１点 (２g) である。

所見　時期は、出土土器が少なく不明である。



第 259 図　第 236 号竪穴建物跡実測図

ピット**土層解説**

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 239 号竪穴建物跡 (SI-239)(第 260 図)

位置　調査区中央部 D29・30、E29 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 45 号竪穴建物・第 10 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁が確認できなかったことから、北東・南西軸は 4.20 mで、北西・南東軸は 3.60 m しか確認できず、平面形は隅丸長方形、主軸方位はN － 30° － E と推測される。

床　中央部が僅かに踏み固められている。

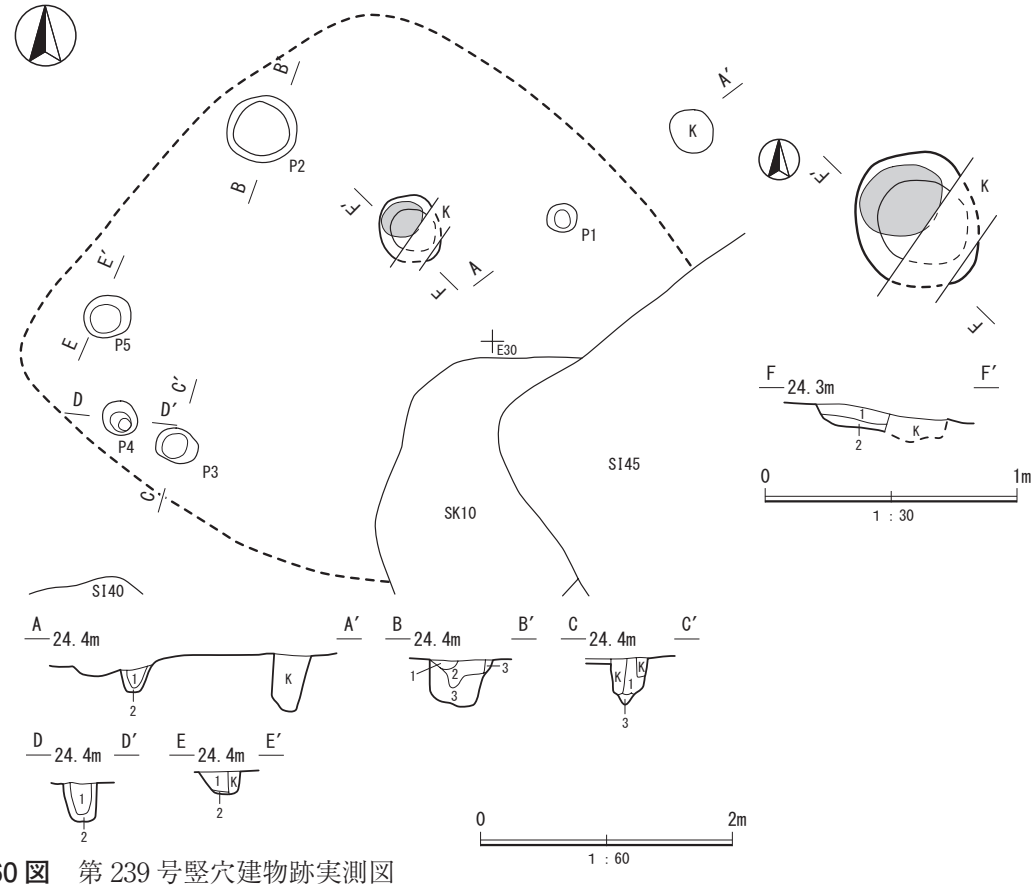
土層　確認できなかった。

炉　中央部東寄りで長径 70cm、短径 60cmの円形で、床面を５cm程掘りくぼめられて使用されている。

ピット　ピット５か所が検出でき、Ｐ１:24 × 24cm、深さ 20cm、Ｐ２:40 × 38cm、深さ 36cm、Ｐ３:24 × 24cm、深さ 24cm、Ｐ４：28 × 22cm、深さ 30cm、Ｐ５：26 × 26cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器甕片 4 点 (57g)、縄文土器片 1 点 (26g)、弥生土器片 6 点 (45g)]。

所見　時期は、出土土器が少ないことから不明である。



第 260 図　第 239 号竪穴建物跡実測図

炉土層解説
1　2.5YR　4/6　赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 243 号竪穴建物跡 (SI-243)(第 261 図　写真図版 26)

位置　調査区中央部 A30、B30･31、C31 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦地に位置する。

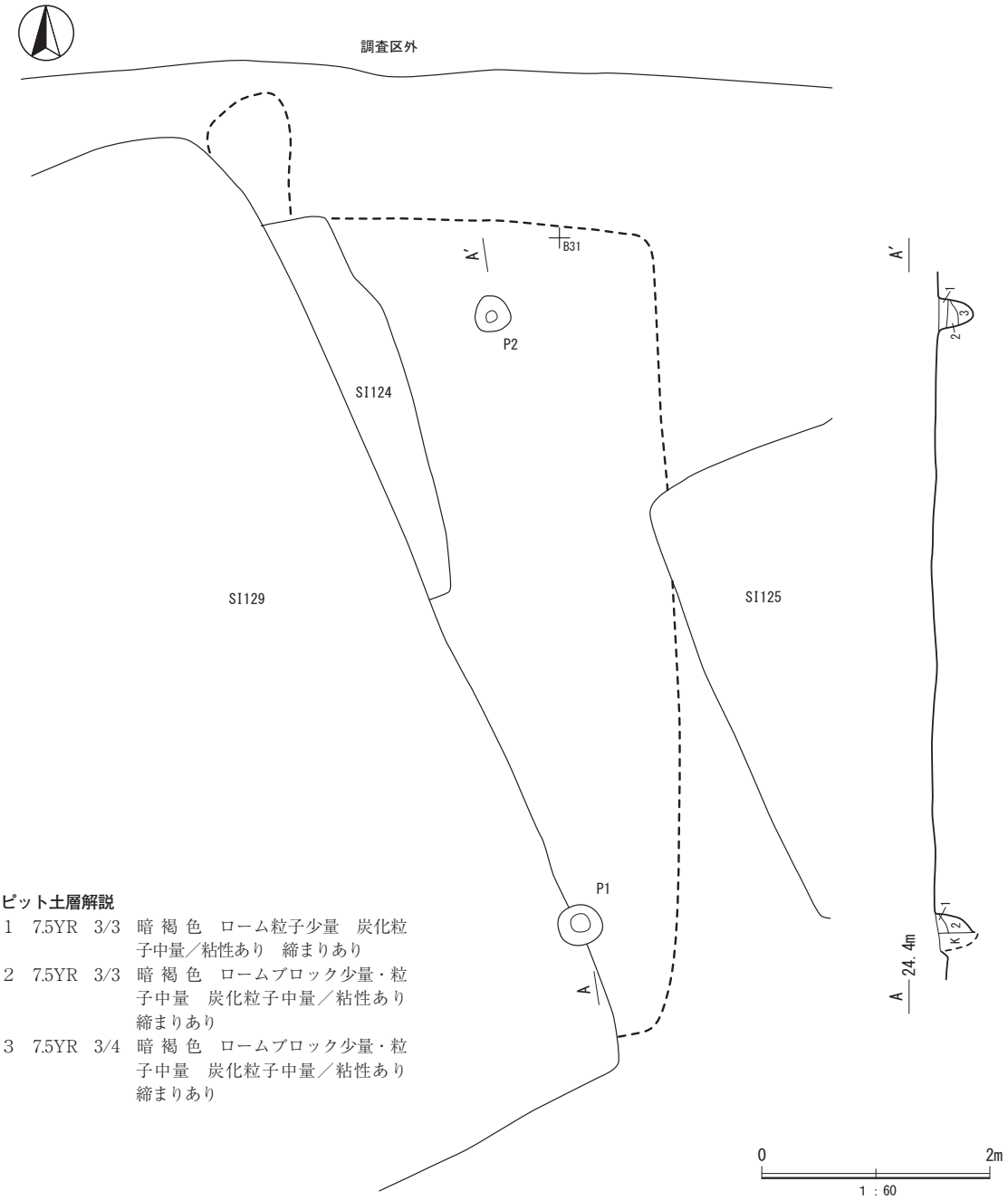
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 124・125・129 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　壁が確認できなかったことから、南北軸は推定 7.00 mで、東西軸は 4.00 mしか確認できず、平面形は長方形で、主軸方位はＮ－０°と推測される。

床　中央部が僅かに踏み固められている。

土層　堆積状況は確認できなかった。



第 261 図　第 243 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁の中央に竈と考えられる痕跡が確認できたのみである。

ピット　ピット２か所が検出できた。Ｐ１:30 × 30cm、深さ 28cm、Ｐ２:30 × 30cm、深さ 32cmである。

遺物出土状況　土師器片 10 点［高坏３点 (51g)、甕７点 (47g)］、瓦片１点 (31g)、礫２点 (16g)。

所見　時期は、出土土器が少なく不明である。

第 119 表　時期不明　竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口ピット	他のピット	炉・竈	貯蔵穴			
6	G3・H3	N-85°-E	〔隅丸方形〕	2.60) × (2.50)	12	平坦	—	—	2	—	—	—	土師器	不明	本跡→ SD-2
18	F25、G25	N-10°-W	不明	(3.20) × (2.30)	12	平坦	—	—	1	—	—	—	土師器 須恵器	不明	本跡→ SI-19
61	G37・38	—	不明	(2.30) × (2.00)	40	平坦	—	—	—	—	—	—	土師器 須恵器	不明	本跡→ SI-144
85	E24・25 F24・25	N-35°-W	〔方形〕	(6.00) × (5.60)	10	平坦	—	1	1	1	—	—	土師器	不明	本跡→ SI-33・72
109	C21、D21	—	不明	(1.90) × (1.60)	15	平坦	—	—	—	—	—	—	—	不明	本跡→ SI-108,SD-5
122	L39・40	N-30°-W	〔方形〕	(4.00) × (2.30)	28	平坦	—	—	—	—	—	—	—	不明	SI-123 →本跡 → SI-120
231	L47・48	—	不明	(1.50) × (1.30)	45	平坦	—	—	1	—	—	—	土師器	不明	
233	L39・40	N-15°-W	〔長方形〕	(5.50) × (5.05)	0	平坦	—	—	4	—	—	1	土師器 須恵器	不明	本跡→ SI-52・142・143
236	B33・34 C34	N-15°-E	〔長方形〕	(5.40) × (4.50)	0	平坦	—	—	6	—	—	—	土師器 須恵器	不明	本跡→ SI-1-133・137~139 → SD-12
239	D29・30 E29	N-30°-E	〔隅丸方形〕	(4.20) × (3.60)	0	平坦	—	—	5	炉	—	—	土師器	不明	本跡→ SI-45、SK-10
243	A30,B30・31, C31	N-0°	〔長方形〕	(7.00) × (4.00)	0	平坦	—	—	2	—	—	—	土師器	不明	本跡 → SI-124・125・129

(3)　柱穴列

第１号柱穴列 (SA-01)(第 262 図　写真図版 38)

位置　調査区中央部 F34・35 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

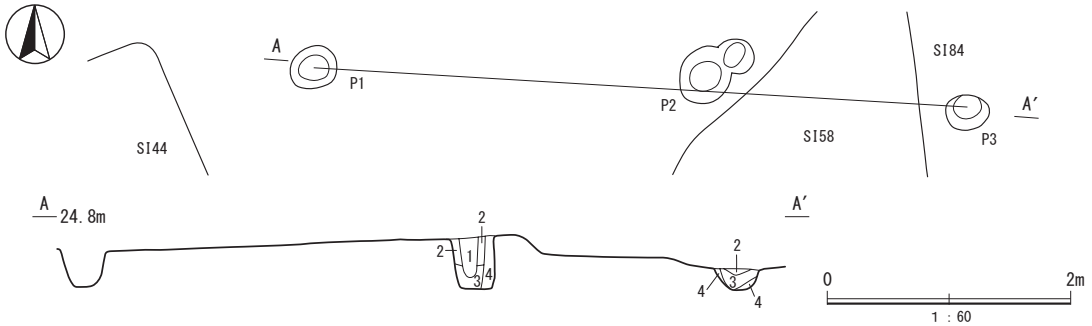
重複関係　第 58・84 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　東西方向 5.40m の間に並ぶ柱穴３か所を確認した。配列方向はN―90°―Wである。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 3.20m(９尺)、Ｐ２－Ｐ３間が 2.20m(７尺) である。Ｐ２・３の底面で柱の当たりを確認する。

柱穴　３か所。平面形は円形で、径 36 ～ 44cmである。深さ 20 ～ 40cmで、掘方の壁は直立している。第２・３層は掘方への埋土で、第１層は柱抜き取り後の覆土である。

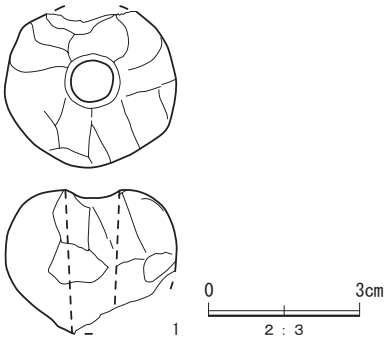
遺物出土状況　土師器坏片１点 (30g)、土製品１点 (23g)。１の外面ナデの土玉はＰ２内から出土している。

所見　時期は、出土遺物が細片のため不明である。



土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　暗 褐 色　ロームブロック粒子中量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 262 図　第１号柱穴列・出土遺物実測図

第２号柱穴列 (SA-02)(第 263 図　写真図版 39)

位置　調査区中央部 I40、J40、K41 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

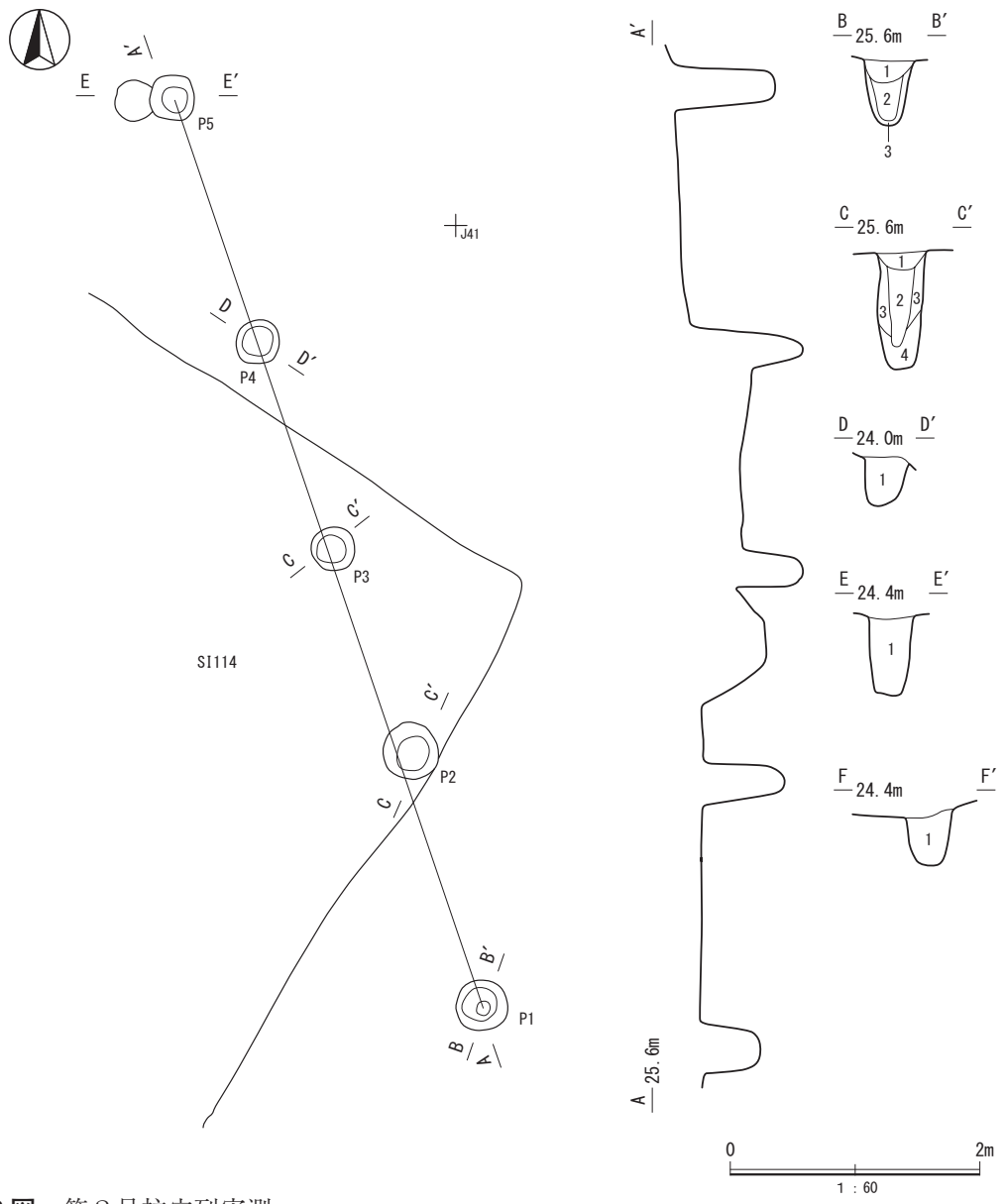
重複関係　第 114 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南北方向 7.80m の間に並ぶ柱穴５か所を確認した。配列方向は N―20°―Wである。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 2.00m(７尺)、Ｐ２－Ｐ３間が 1.80m(６尺)、Ｐ３－Ｐ４間が 1.80m(６尺)、Ｐ４－Ｐ５間が 2.00m(７尺) である。

柱穴　５か所。平面形は円形で、径 40 ～ 50㎝である。深さ 24 ～ 100㎝で、掘方の壁は外傾している。第３・４層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　検出できなかった。

所見　時期は、出土遺物がないため不明である。



第 263 図　第２号柱穴列実測

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

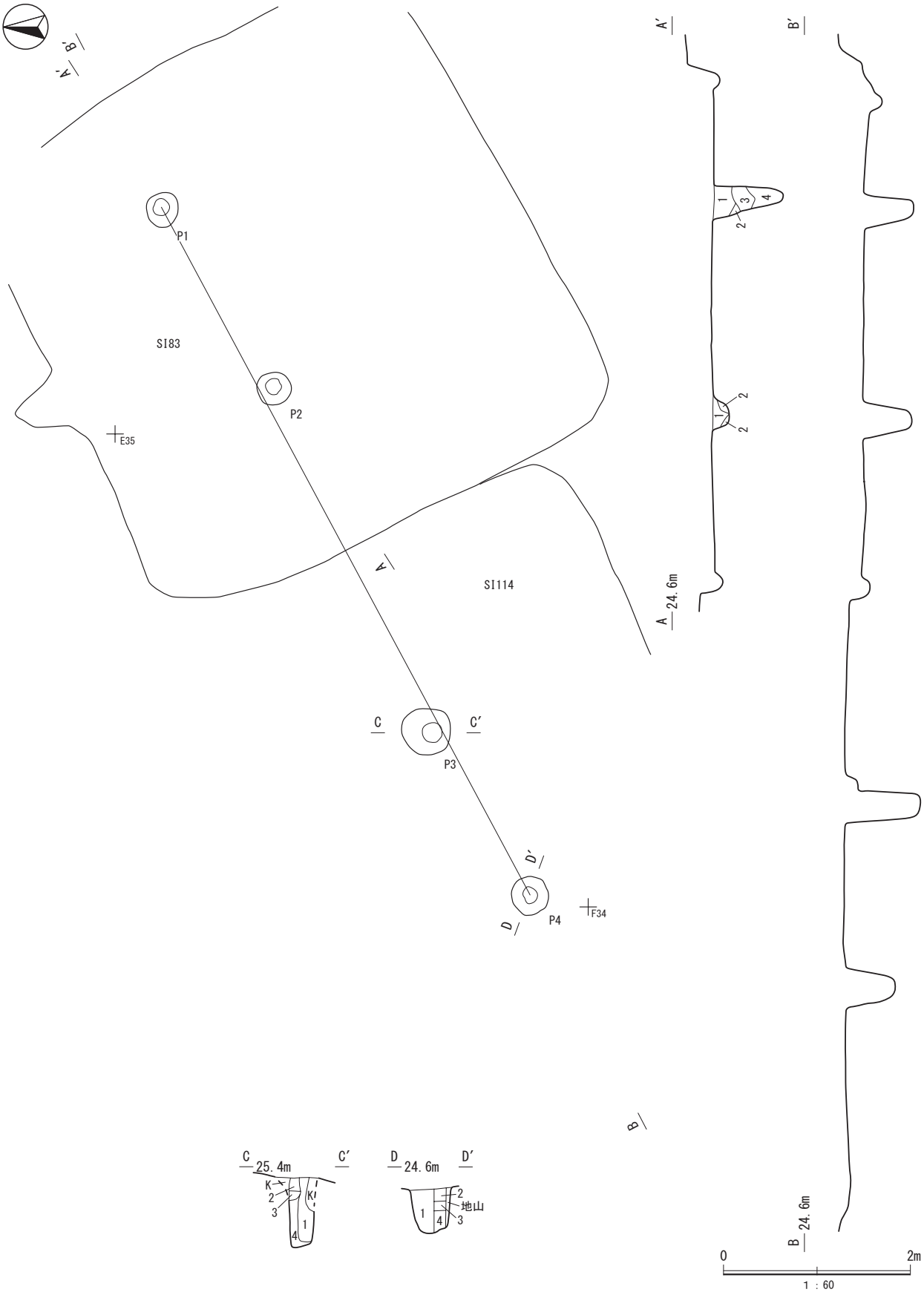
第３号柱穴列 (SA-03)(第 264 図　写真図版 39)

位置　調査区中央部 E34・35 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 83・141 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　東西方向 7.50m の間に並ぶ柱穴４か所を確認した。配列方向は N―60°―E である。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 2.10m(７尺)、Ｐ２－Ｐ３間が 3.20m(11 尺)、Ｐ３－Ｐ４間が 2.10m(７尺) である。Ｐ１～４の底面で柱の当たりが確認できた。



第 264 図　第３号柱穴列実測

柱穴　４か所。平面形は円形で、径 30 ～ 50cmである。深さ 50 ～ 70cmで、掘方の壁は外傾している。第３層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　検出されなかった。

所見　出時期は、土遺物がないため不明である。

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし (柱痕部)
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり (掘方)
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり (掘方)
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり (掘方)

第７号柱穴列 (SA-07)(第 265 図　写真図版 39)

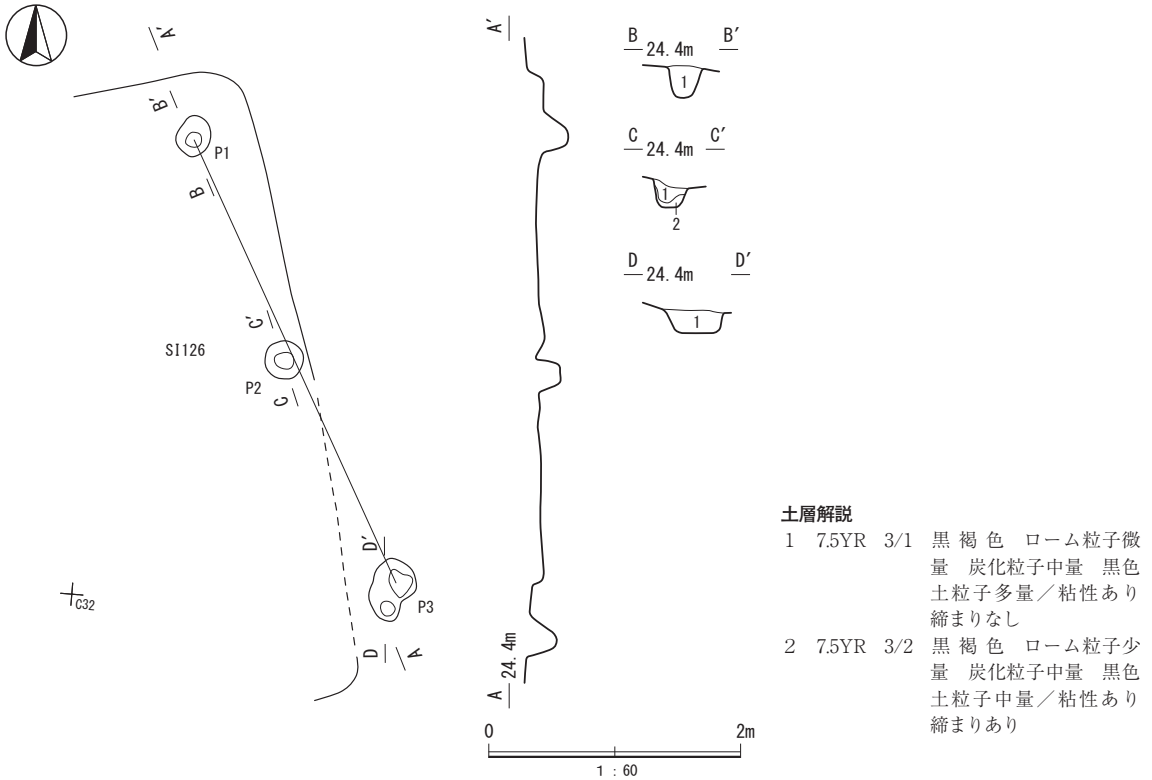
位置　調査区西部 B32 グリット、標高 25m ほどの平坦地に位置している。

重複関係　第 126 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南北方向 3.80m の間に並ぶ柱穴３か所を確認した。方向は N―15°―W である。柱間寸法はＰ１－Ｐ２間が 1.80m(６尺)、Ｐ２－Ｐ３間が 2.00m(７尺) である。Ｐ１～３の底面で柱の当りは確認できなかった。

柱穴　３か所。平面形は円形で、径 20 ～ 30cmである。深さ 20cmで、掘方の壁は外傾している。第１層は掘方への埋土である。

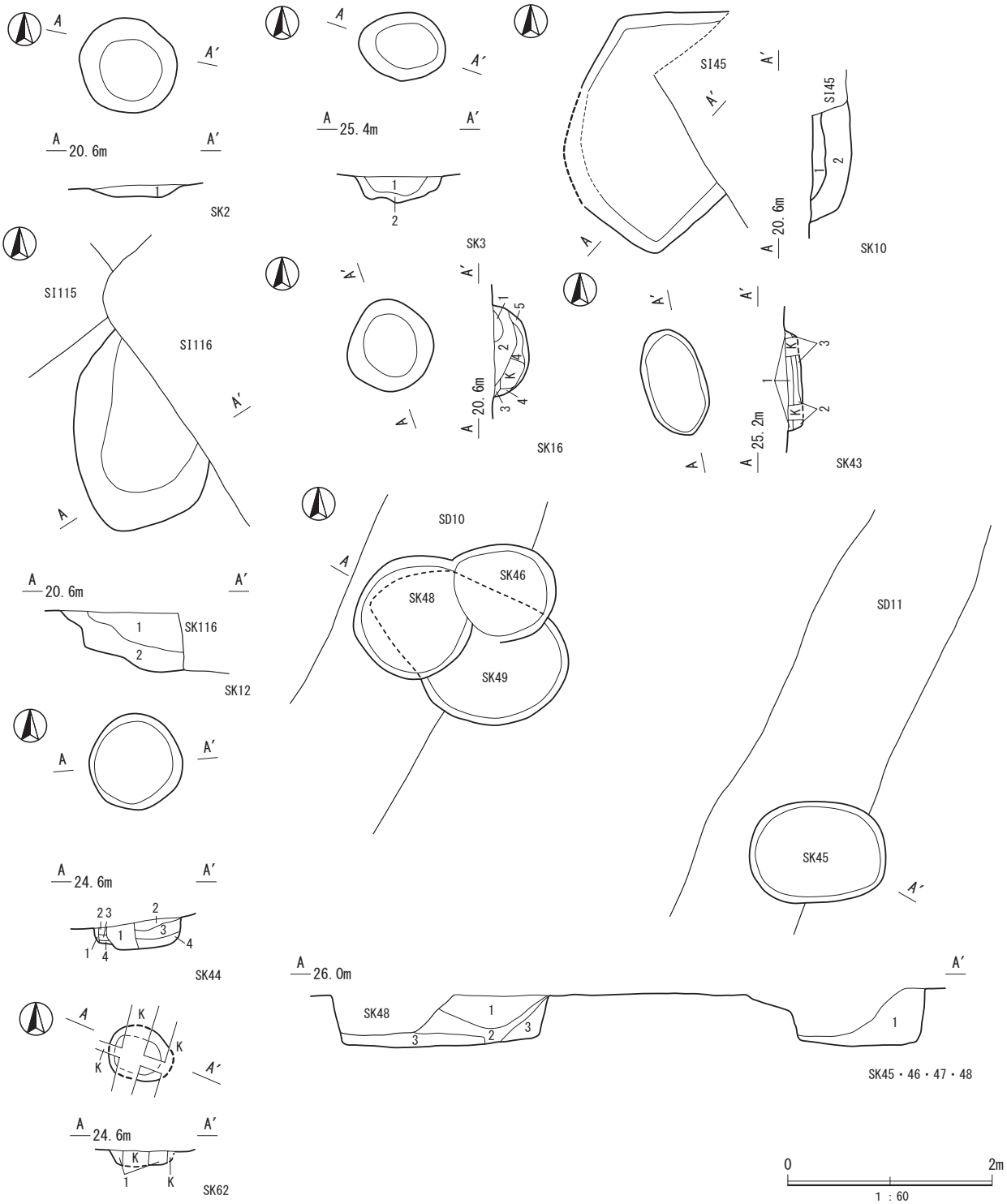
所見　時期は、第 126 号竪穴建物跡より後出であるが、不明である。



第 265 図　第７号柱穴列実測図

(3)　土坑

時期不明の土坑は 12 基である。遺構図と土層観察表を掲載する。



第 266 図　時期不明の土坑実測図

第２号土坑土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第３号土坑土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

第 10 号土坑土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 12 号土坑土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 16 号土坑土層解説
1　7.5YR　4/2　灰褐色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗褐色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/3　褐　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 43 号土坑土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

第 44 号土坑土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　黒色土ブロック中量／粘性あり　締まりあり

第 45 号土坑土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 49 号土坑土層解説
1　7.5YR 3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR 3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR 3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 62 号土坑土層解説
1　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化物微量・粒子多量／粘性なし　締まりあり

第 120 表　時期不明　土坑一覧

番号	位置	方 位	形状	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
2	H6 I6	N － 30° － E	円形	0.94 × 0.92	10	直立	平坦	人為		SI-96 →本跡
3	H40	N － 70° － W	楕円形	0.80 × 0.60	28	直立	平坦	人為		SI-115 →本跡
10	E30	N － 20° － W	楕円形	(2.30) × 1.60	34	外傾	平坦	人為	土師器　縄文土器	SI-45 →本跡
12	I41	N—10°—E	楕円形	(2.12) × 1.20	55	外傾	平坦	人為		SI-116 →本跡
16	J41	N － 20° － W	円形	0.92 × 0.90	36	外傾	平坦	人為	土師器	
43	H39	N － 10° － W	楕円形	1.02 × 0.60	16	外傾	平坦	人為	土師器　須恵器	
44	E33	N － 20° － W	円形	0.96 × 0.90	30	直立	平坦	人為		SI-147 →本跡
45	L43・44	N － 80° － W	楕円形	1.36 × 1.10	56	直立	平坦	人為		SD-11 →本跡
46	L43	N － 80° － E	円形	1.10 × 1.00	40	直立	平坦	人為		SD-10,SK49 →本跡
48	L43	N － 40° － E	円形	1.20 × 1.10	40	直立	平坦	人為		SK-49 →本跡
49	L43	N － 60° － W	楕円形	1.96 × 1.30	50	直立	平坦	人為	土師器	SD-10 →本跡→ SK-46・48
62	D36	N － 60° － W	円形	0.70 × 0.60	16	外傾	凸凹	人為	土師器	

(4) 溝跡

第３号溝跡 (SD-03)(第 267 図　写真図版 40)

位置　調査区西部 F14・15、G15、H15・16 グリット、標高 21m ほどの斜面部に位置している。

規模と形状　北部と南部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 22m で、直線状に延びている。上幅 1.0 ～ 1.2m、下幅 0.5 ～ 0.6m、深さは 0.4m である。断面形は U 字状である。走行方位はＮ－ 20°－ W である。

覆土　４層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 22 点［坏 4 点 (32g)、甕 18 点 (153g)］、弥生土器片 1 点 (11g)、礫 4 点 (2,102g)。

所見　時期は、伴う遺物もなく不明である。区画溝と考えられる。

第５号溝跡 (SD-05)(第 268 図　写真図版 40)

位置　調査区中央部 C21、D21・22・23 グリット、標高 19m ほどの斜面部に位置している。

重複関係　第 108・109 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区外に延びおり、確認できた全長は８m で直線状に延びている。上幅 0.5 ～ 1.0m、下幅 0.1 ～ 0.2m、深さは 0.4m である。断面形は U 字状である。走行方位はＮ－ 70°－ W である。

覆土　４層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 50 点［坏 7 点 (62g)、坩 1 点 (17g)、甕 42 点 (304g)］、須恵器片 6 点［坏 3 点 (19g)、瓿 1 点 (65g)、長頸壺 1 点 (42g)、甕 2 点 (37g)］、弥生土器片 3 点 (13g)、土師質土器片 1 点 (27g)。１の須恵器長頸瓶は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土遺物が流れ込みと考えられることから不明である。30m 東方に第 14 号溝が同じ方向に走行しており、同一溝であったと見られる。

第６号溝跡 (SD-06)(第 269 図　写真図版 40)

位置　調査区中央部 E38・39、F37・38、G36・37、H36 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

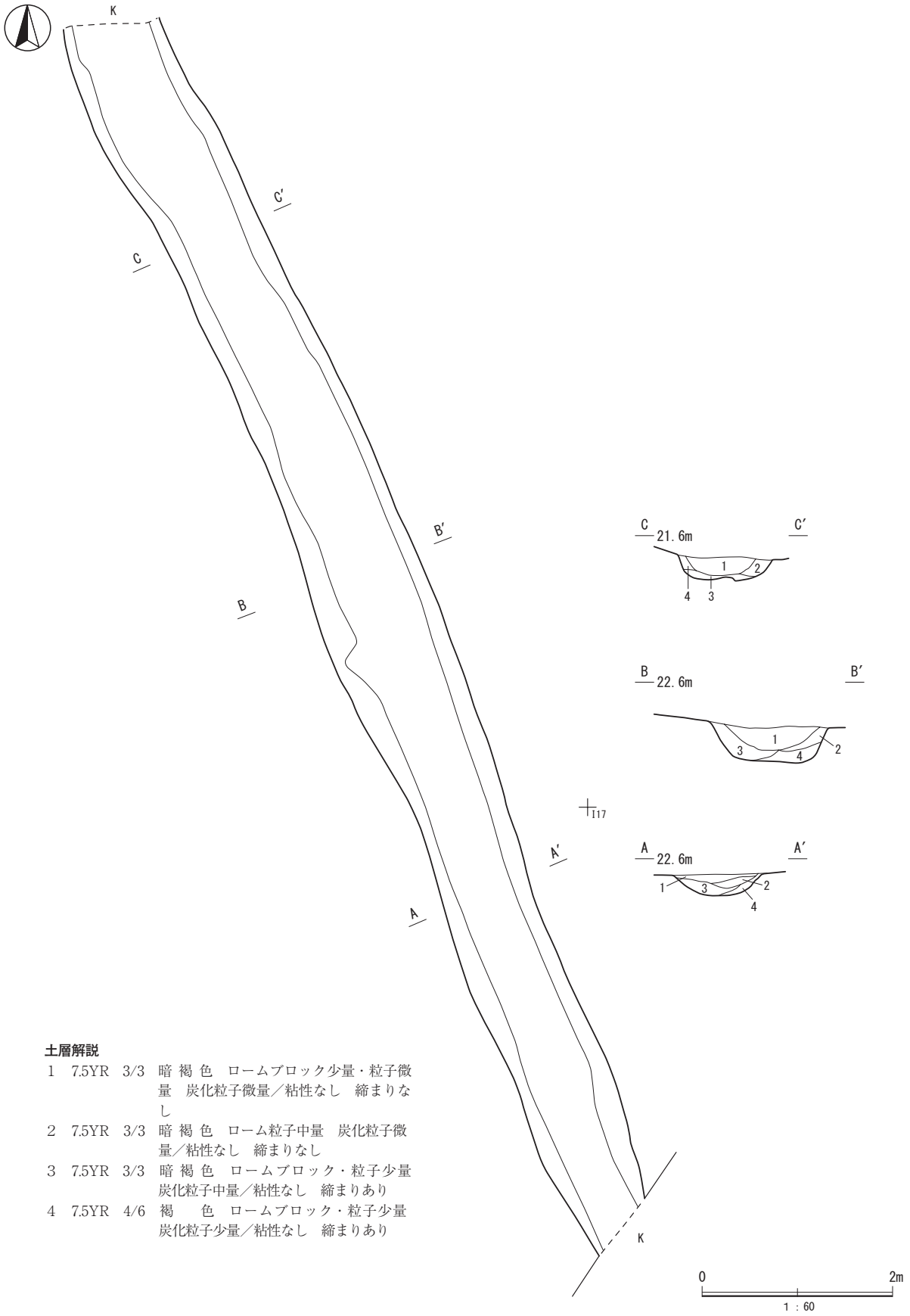
重複関係　第 82・144・148・206 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 17m で直線状に延びている。上幅 0.6 ～ 0.9m、下幅 0.4 ～ 0.6m、深さは 0.4m である。断面形は U 字状である。走行方位はＮ－ 40°－ E である。

覆土　４層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 22 点［坏 4 点 (26g)、坩 1 点 (11g)、甕 17 点 (199g)］、須恵器甕片 1 点 (9 g)、弥生土器片 2 点 (14g)、礫 1 点 (118g)。

所見　時期は、出土遺物が流れ込みと考えられることから不明である。



土層解説

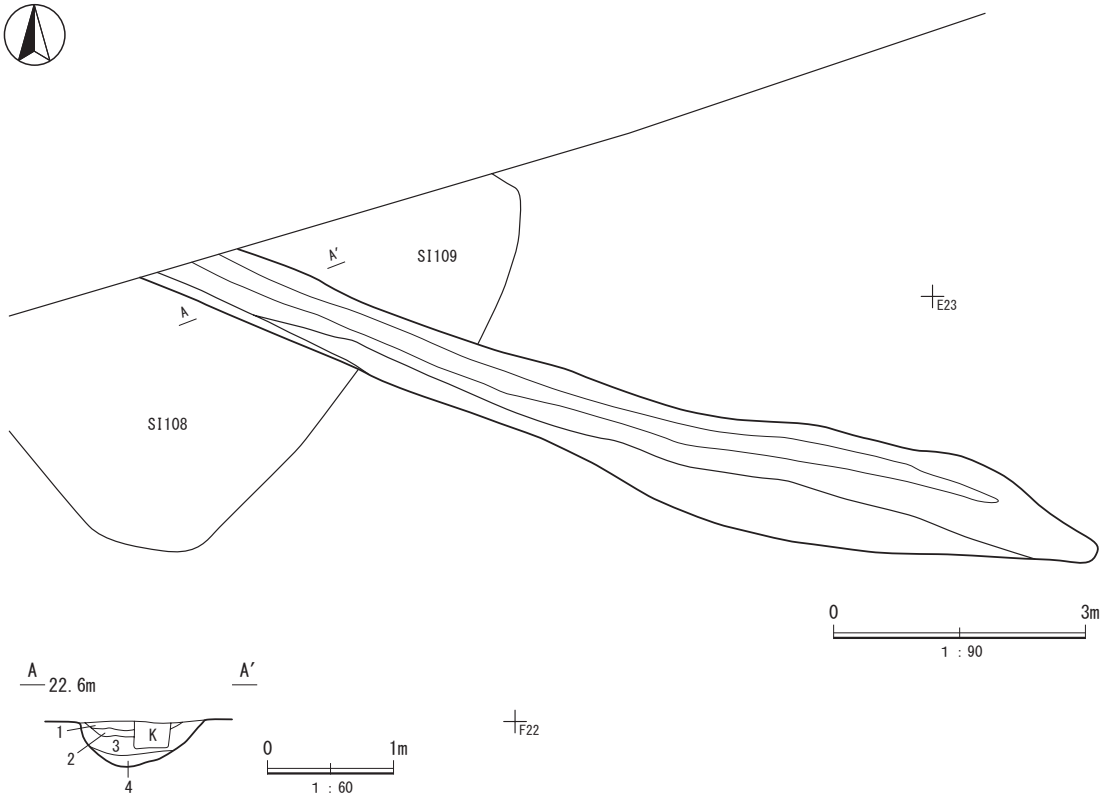
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし

2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし

3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり

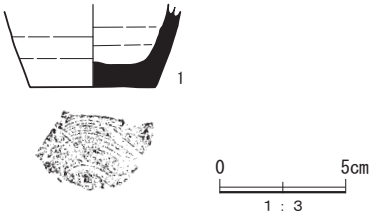
4　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

第 267 図　第３号溝跡実測図



土層解説

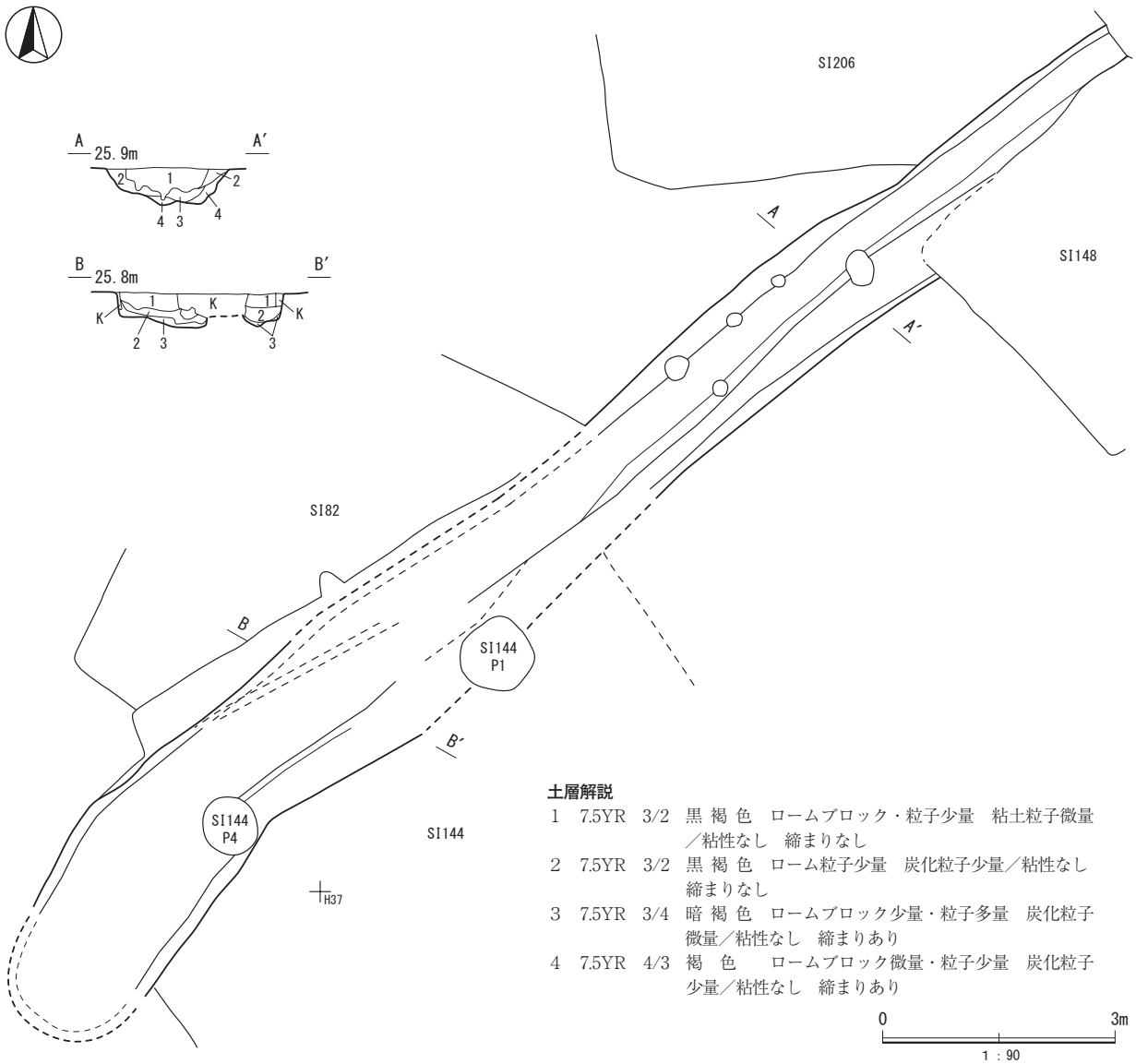
1　10YR　4/2　灰　黄　褐　色　ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　10YR　3/4　暗　　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　10YR　3/2　黒　　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 268 図　第５号溝跡・出土遺物実測図

第 121 表　第５号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	壺	―	(3.3)	[4.9]	長石・石英・スコリア	灰白	良好	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	10% 写真図版60



第 269 図 第６号溝跡実測図

第８号溝跡 (SD-08)(第 270 図 写真図版 41)

位置 調査区中央部 H37、I37、J37 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

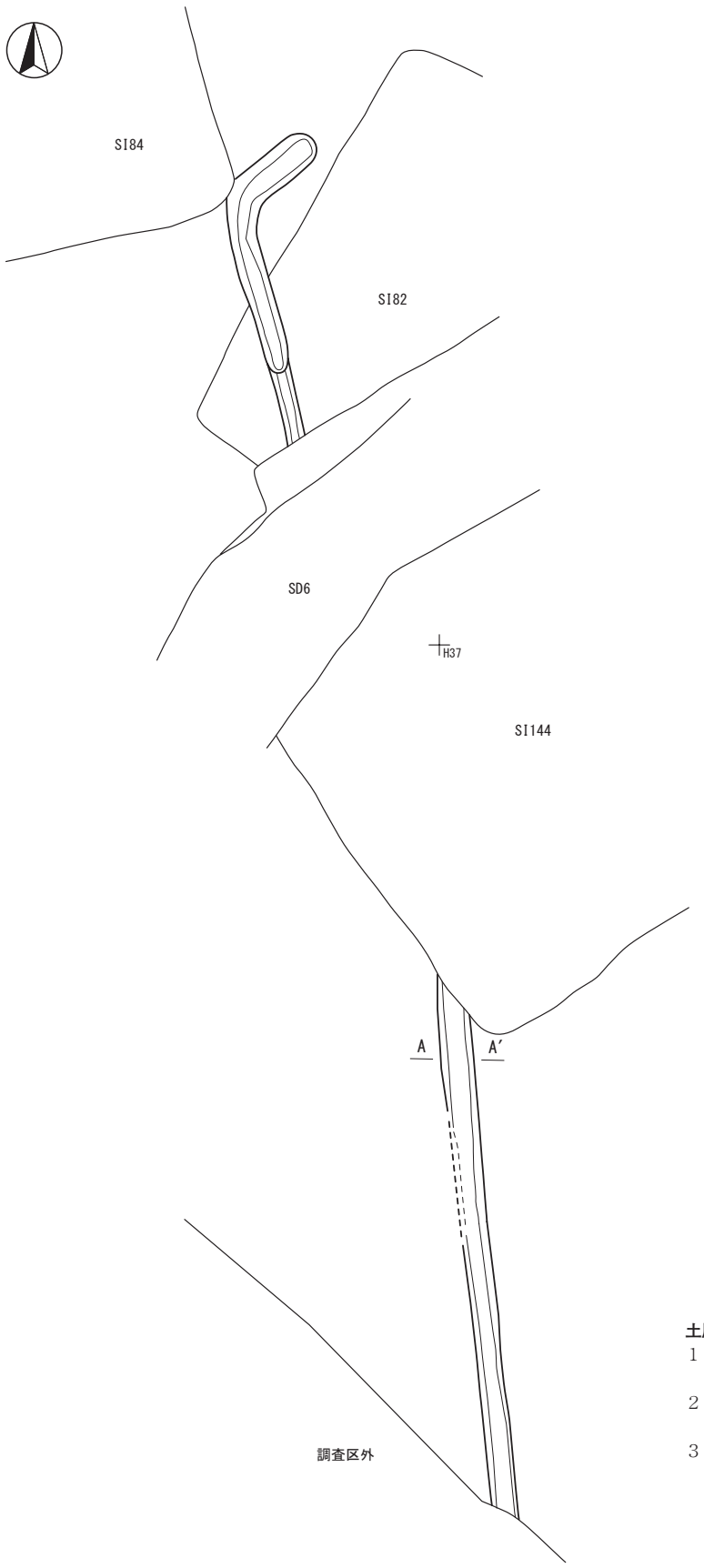
重複関係 第 51・82・144 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

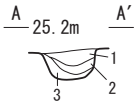
規模と形状 南部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 18m で直線状に延びている。上幅 0.4 ～ 0.8m、下幅 0.2 ～ 0.6m、深さは 0.2m である。断面形は U 字状である。走行方位はN － 0°である。

覆土 ３層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 出土しなかった。

所見 時期は不明である。





0　1m
1：60

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

0　3m
1：90

第 270 図　第８号溝跡実測図

第 10 号溝跡 (SD-10)(第 271 図　写真図版 40)

位置　調査区中央部 J43・44、K43、L42・43、M42・43 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

重複関係　第 119・151 号竪穴建物跡を掘り込み、第 46・48・49 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部と南部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 22m で、直線状に延びている。上幅 1.1 ～ 1.6m、下幅 0.5 ～ 0.6m、深さは 0.5m である。断面形は U 字状である。走行方位はN － 30° － E である。

覆土　３層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 118 点[坏 10 点 (140g)、高坏２点 (31g)、甕 106 点 (1,814g)]、須恵器片４点[坏２点 (64g)、甕２点 (118g)]、弥生土器片１点 (５g)、陶磁器片２点 (12g)、礫５点 (1,990g)。

所見　時期は、出土遺物が流れ込みと考えられることから不明である。第 11 号溝と並行していることから同じ性格の区画溝と考えられる。

第 11 号溝跡 (SD-11)(第 271 図　写真図版 41)

位置　調査区中央部 J44･45、K44、L43･44、M43 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

重複関係　第 203・237 号竪穴建物跡を掘り込み、第 45 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部と南部が調査区外に延びおり、確認できた全長は 22m で直線状に延びている。上幅 0.8 ～ 1.4m、下幅 0.4 ～ 0.8m、深さは 0.6m である。断面形は U 字状である。走行方位はN － 30° － E である。

覆土　３層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片３点［坏１点 (16g)、甕２点 (18g)]、須恵器甕片１点 (36g)。

所見　時期は、出土遺物が流れ込みと考えられることから不明である。

第 13 号溝跡 (SD-13)(第 272 図　写真図版 41)

位置　調査区中央部 G34・35、H35・36 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

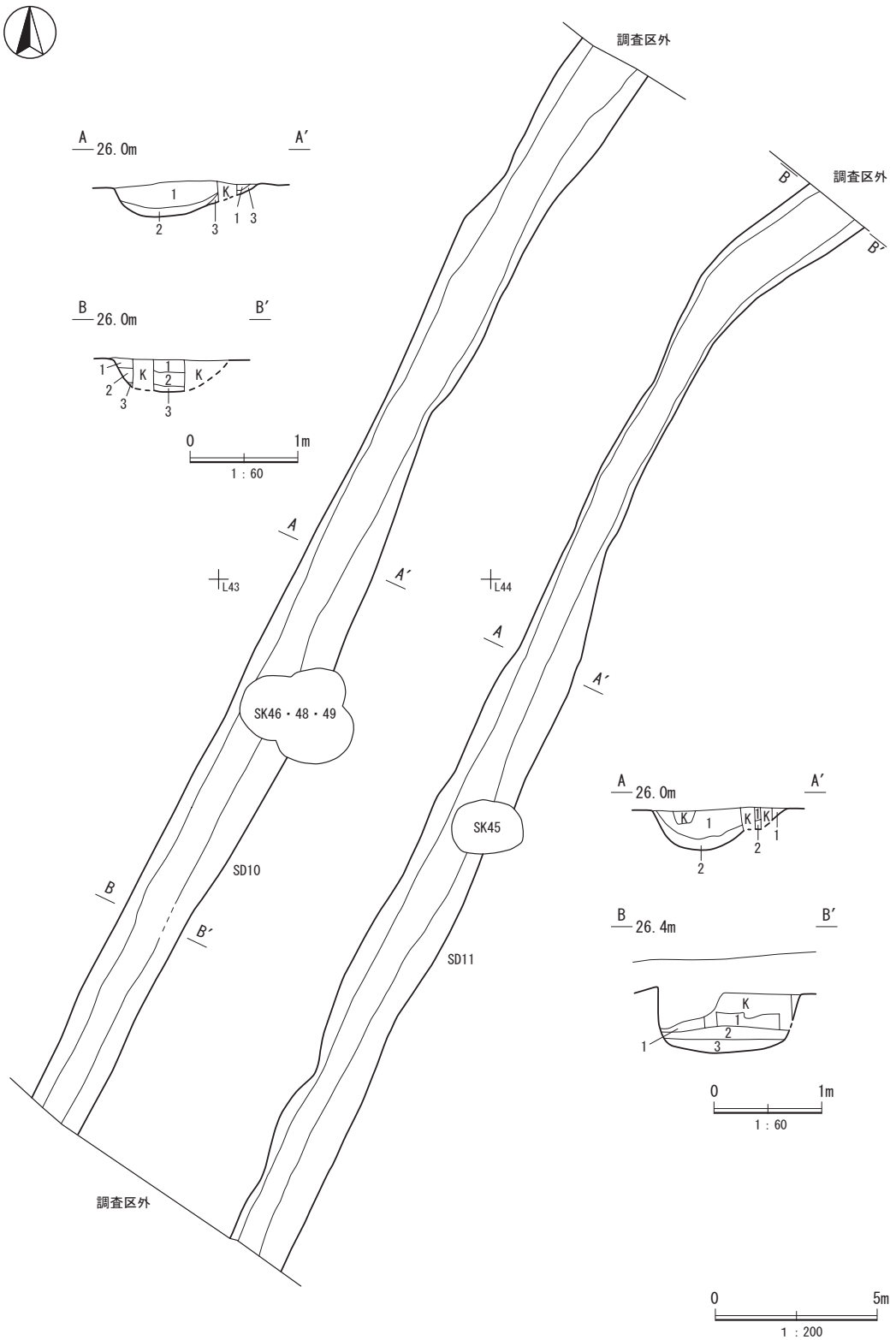
重複関係　第 44 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第６号溝と合流している。

規模と形状　確認できた長さは８m で、直線状に延びている。上幅 0.5 ～ 1.0m、下幅 0.3 ～ 0.4m、深さは 0.2m である。断面形は U 字状である。走行方位はN － 70° － W である。

覆土　単一層である。

遺物出土状況　出土しなかった。

所見　時期は不明である。西方 20㎝に同方向に延びる第 14 号溝があり、本来同一溝であったとみられる。



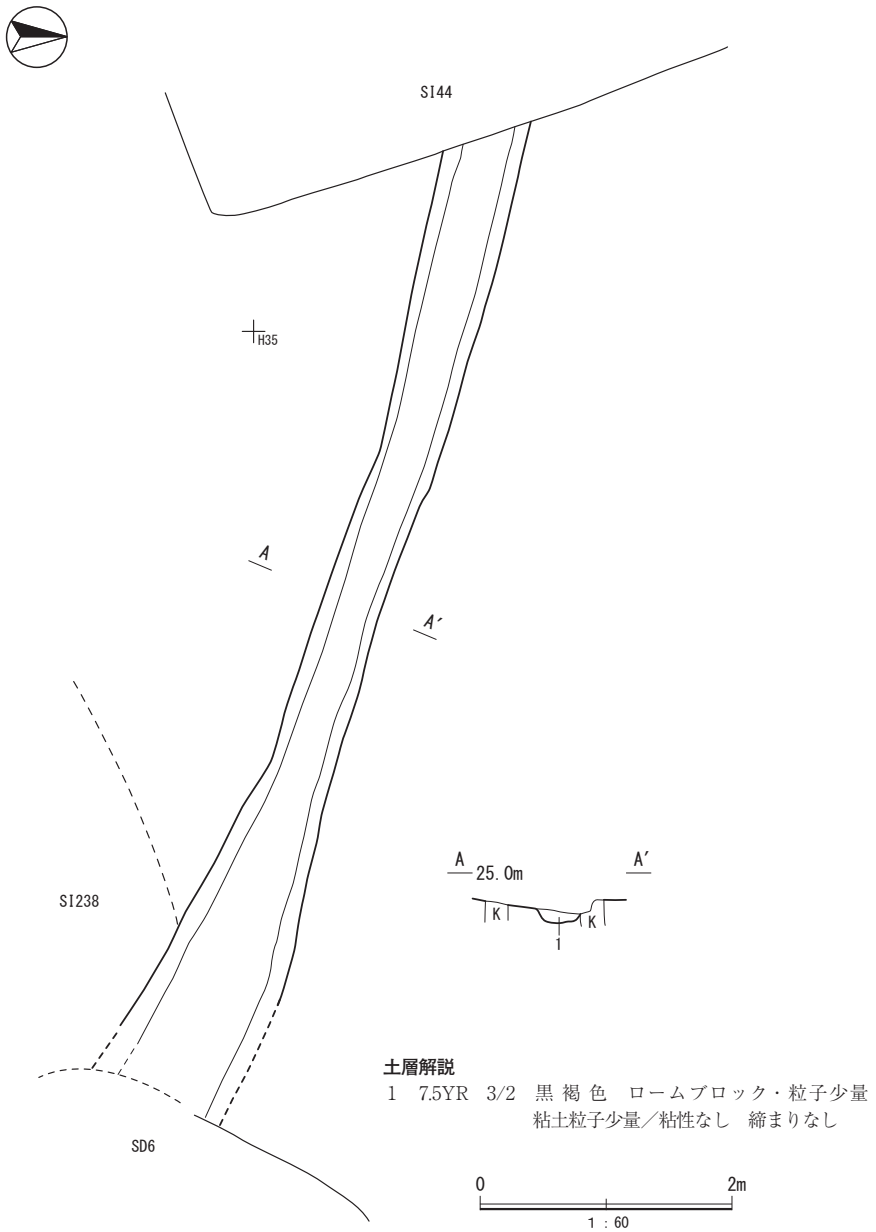
第 271 図　第 10・11 号溝跡実測図

第 10 号溝跡　土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロッシ少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

第 11 号溝跡　土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 272 図　第 13 号溝跡実測図

第 14 号溝跡 (SD-14)(第 273 図　写真図版 41)

位置　調査区中央部 F29・30 グリット、標高 25m ほどの斜面部に位置している。

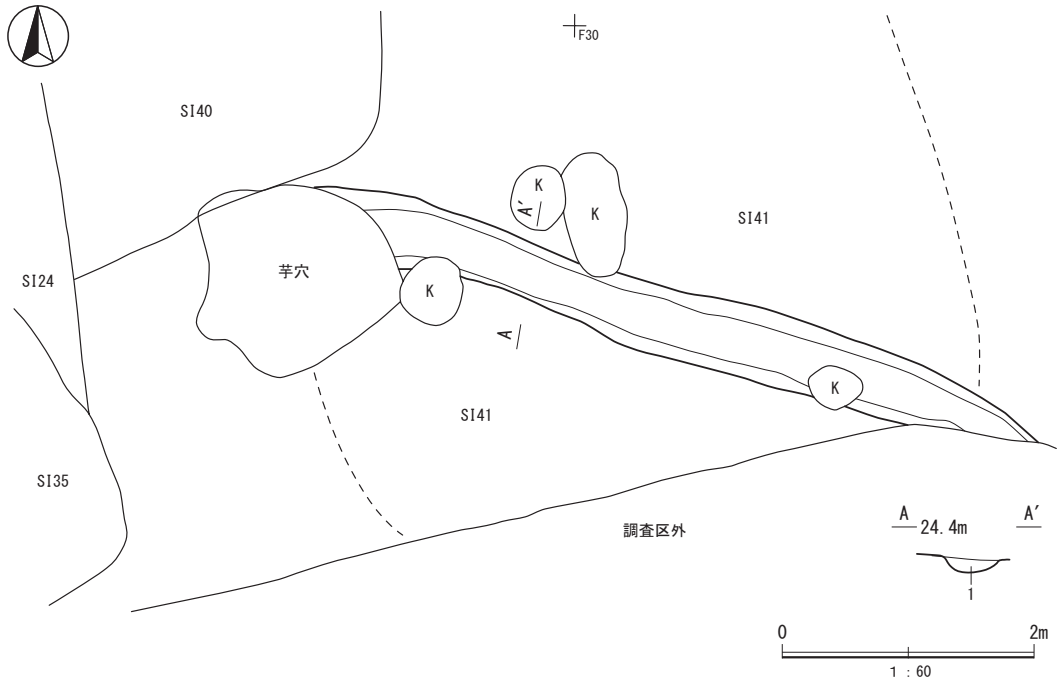
重複関係　第 29・40・41 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区外に延びおり、確認できた長さ６ｍで、直線状に延びている。上幅 0.4 ～ 0.6m、下幅 0.3m、深さは 0.1m である。断面形はＵ字状である。走行方位はＮ－ 70°－ Ｗである。

覆土　単一層である。

遺物出土状況　出土しなかった。

所見　時期は不明である。第５・13・14 号溝跡は同一方向に延びており同一溝であったとみられ、何らかの区画溝と考えられる。



第 273 図　第 14 号溝跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし

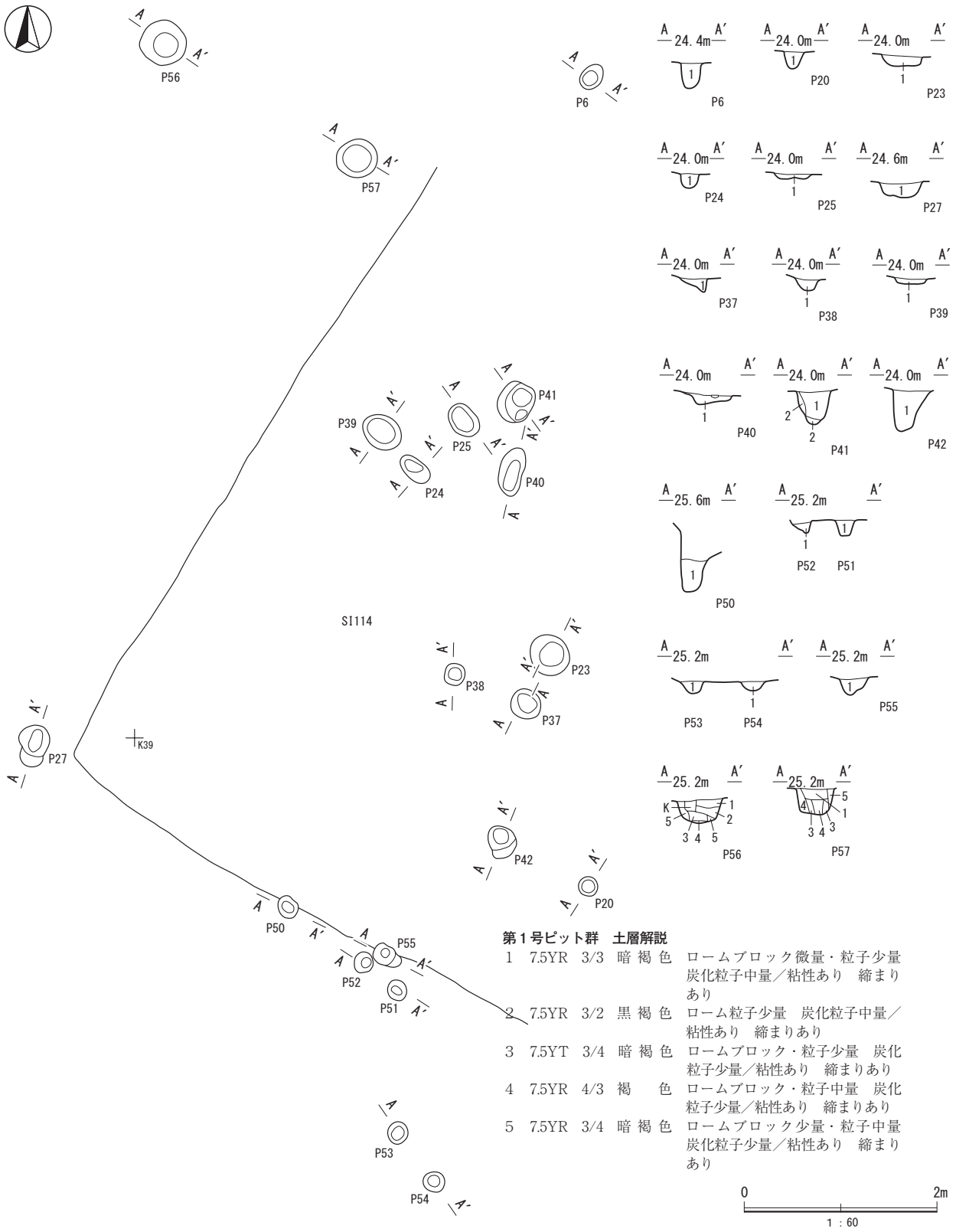
第 122 表　時期不明　溝跡一覧

番号	位置	走行方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 旧→新
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
3	F14 ～ H16	N-20° -W	直線	(22.0)	1.0 ～ 1.2	0.5 ～ 0.6	40	U 字形	平坦	自然	土師器	
5	C21 ～ D23	N-70° -W	直線	(8.0)	0.5 ～ 1.0	0.1 ～ 0.2	40	U 字形	平坦	自然	須恵器	SI-108・109 →本跡
6	E38 ～ H36	N-40° -E	直線	(17.0)	0.6 ～ 0.9	0.4 ～ 0.6	40	U 字形	平坦	自然	土師器	SI-82・144・206 →本跡→ SI-148
8	E37 ～ J37	N-0°	直線	(18.0)	0.4 ～ 0.8	0.2 ～ 0.6	20	U 字形	平坦	自然	—	SI-82 →本跡 → SI-84・144、 SD-6
10	J43 ～ M43	N-30° -E	直線	(22.0)	1.1 ～ 1.6	0.5 ～ 0.6	50	U 字形	平坦	自然	土師器	SI-119・151 →本跡
11	J44 ～ M43	N-30° -E	直線	(22.0)	0.8 ～ 1.4	0.4 ～ 0.8	60	U 字形	平坦	自然	土師器	SI-203・237 →本跡→ SK-45
13	G34 ～ G36	N-70° -W	直線	(8.0)	0.5 ～ 1.0	0.3 ～ 0.4	20	U 字形	平坦	自然	—	本跡→ SI-44
14	F29・F30	N-70° -W	直線	(6.0)	0.4 ～ 0.6	0.3	10	U 字形	平坦	自然	—	SI-41 →本跡

(5) ピット群 (第 274・275・276・277・278・280 図　写真図版 41)

ピット群は 4 か所確認した。平面図と計測値を掲載する。

第 1 号ピット群は、第 114 号竪穴建物跡の周辺に位置しピット 52 か所を確認した。



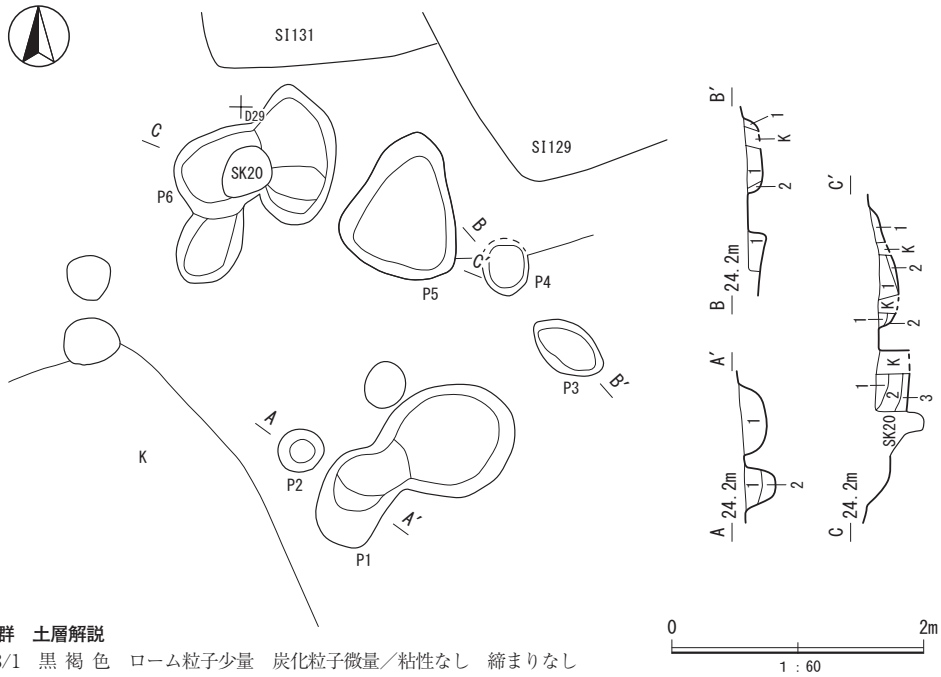
第 274 図　第 1 号ピット群実測図 (1)

第 275 図　第 1 号ピット群実測図 (2)

第 123 表　第１号ピット群一覧

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
4	I40	円形	0.32 × 0.32	26
5	I40	円形	0.20 × 0.20	10
6	J39	円形	0.30 × 0.24	26
7	J40	円形	0.20 × 0.18	30
8	K40	円形	0.22 × 0.20	40
9	K40	楕円形	0.30 × 0.20	12
10	K40	円形	0.40 × 0.34	30
11	K41	円形	0.20 × 0.20	18
12	K41	円形	0.30 × 0.30	14
13	K41	円形	0.34 × 0.30	18
14	K40	円形	0.28 × 0.28	14
15	K40	円形	0.22 × 0.20	12
16	K40	円形	0.22 × 0.20	28
17	K40	円形	0.32 × 0.28	24
18	J40	円形	0.28 × 0.28	30
19	K40	円形	0.22 × 0.20	30
20	K41	円形	0.24 × 0.22	18
21	I40	円形	0.20 × 0.20	10
22	J40	円形	0.20 × 0.18	16
23	J39	円形	0.42 × 0.40	10
24	J39	楕円形	0.38 × 0.20	12
25	J39	楕円形	0.36 × 0.20	8
26	K41	円形	0.40 × 0.40	10
27	K38	楕円形	0.40 × 0.30	12
29	J40	円形	0.30 × 0.30	18
30	J41	円形	0.20 × 0.20	20

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
31	J41	円形	0.12 × 0.12	8
32	J41	円形	0.22 × 0.20	22
33	J40	楕円形	0.50 × 0.36	30
34	J40	円形	0.32 × 0.30	16
35	J40	円形	0.30 × 0.30	10
36	J40	楕円形	0.30 × 0.20	14
37	J39	円形	0.30 × 0.30	16
38	J39	円形	0.22 × 0.20	12
39	J39	楕円形	0.40 × 0.30	8
40	J39	楕円形	0.50 × 0.36	10
41	J39	円形	0.42 × 0.40	36
42	K39	円形	0.36 × 0.30	42
43	K41	楕円形	0.70 × 0.40	40
45	K40	円形	0.20 × 0.20	30
46	K40	円形	0.24 × 0.20	20
47	K40	円形	0.40 × 0.40	20
48	K41	円形	0.40 × 0.40	18
49	K40	円形	0.32 × 0.30	38
50	K39	円形	0.22 × 0.20	30
51	K39	円形	0.20 × 0.20	10
52	K39	円形	0.20 × 0.18	12
53	K39	楕円形	0.30 × 0.20	12
54	K39	円形	0.22 × 0.20	10
55	K39	円形	0.20 × 0.20	20
56	I39	円形	0.50 × 0.50	26
57	I39	円形	0.42 × 0.40	24



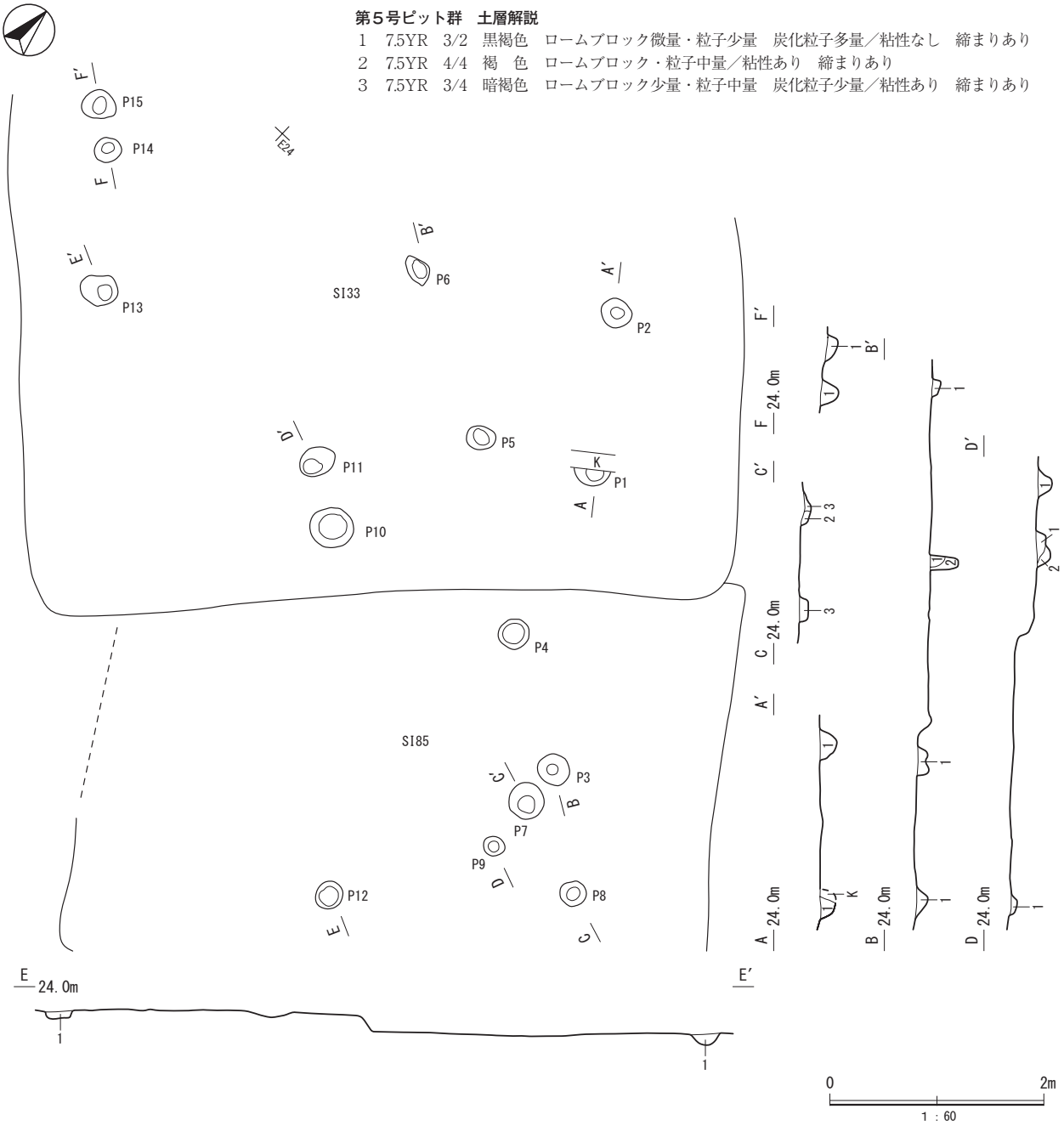
第４号ピット群　土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 276 図　第４号ピット群実測図

第 124 表　第４号ピット群一覧

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	D29	円形	0.32 × 0.30	22
2	D29	楕円形	0.70 × 0.50	26
3	D29	楕円形	0.60 × 0.40	12
4	D29	円形	0.42 × 0.40	12
5	D28	楕円形	0.96 × 0.70	20
6	D29	楕円形	1.20 × 0.50	26



第 277 図　第５号ピット群実測図

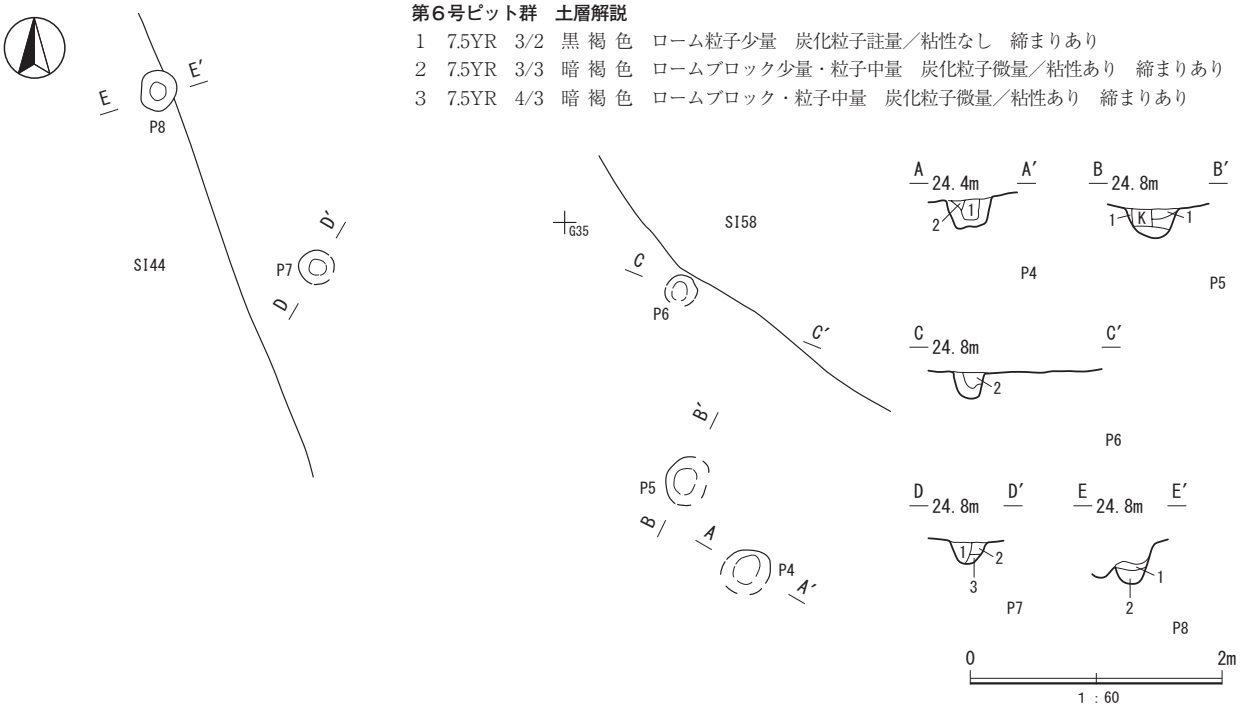
第 125 表　第５号ピット群一覧

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	F22	円形	0.32 × 0.32	18
2	E22	円形	0.24 × 0.24	18
3	F23	円形	0.30 × 0.30	10
4	F22	円形	0.30 × 0.28	10
5	F22	円形	0.28 × 0.22	30
6	F22	楕円形	0.30 × 0.20	8
7	F23	円形	036 × 0.34	8
8	F23	円形	0.22 × 0.22	10

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
9	F23	円形	0.20 × 0.18	6
10	F22	円形	0.40 × 0.38	12
11	F22	楕円形	0.40 × 0.24	12
12	F23	円形	0.22 × 0.20	8
13	F21	円形	0.36 × 0.30	12
14	F21	楕円形	0.28 × 0.24	14
15	F21	円形	0.36 × 0.30	10

第６号ピット群　土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子註量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 278 図　第６号ピット群実測図

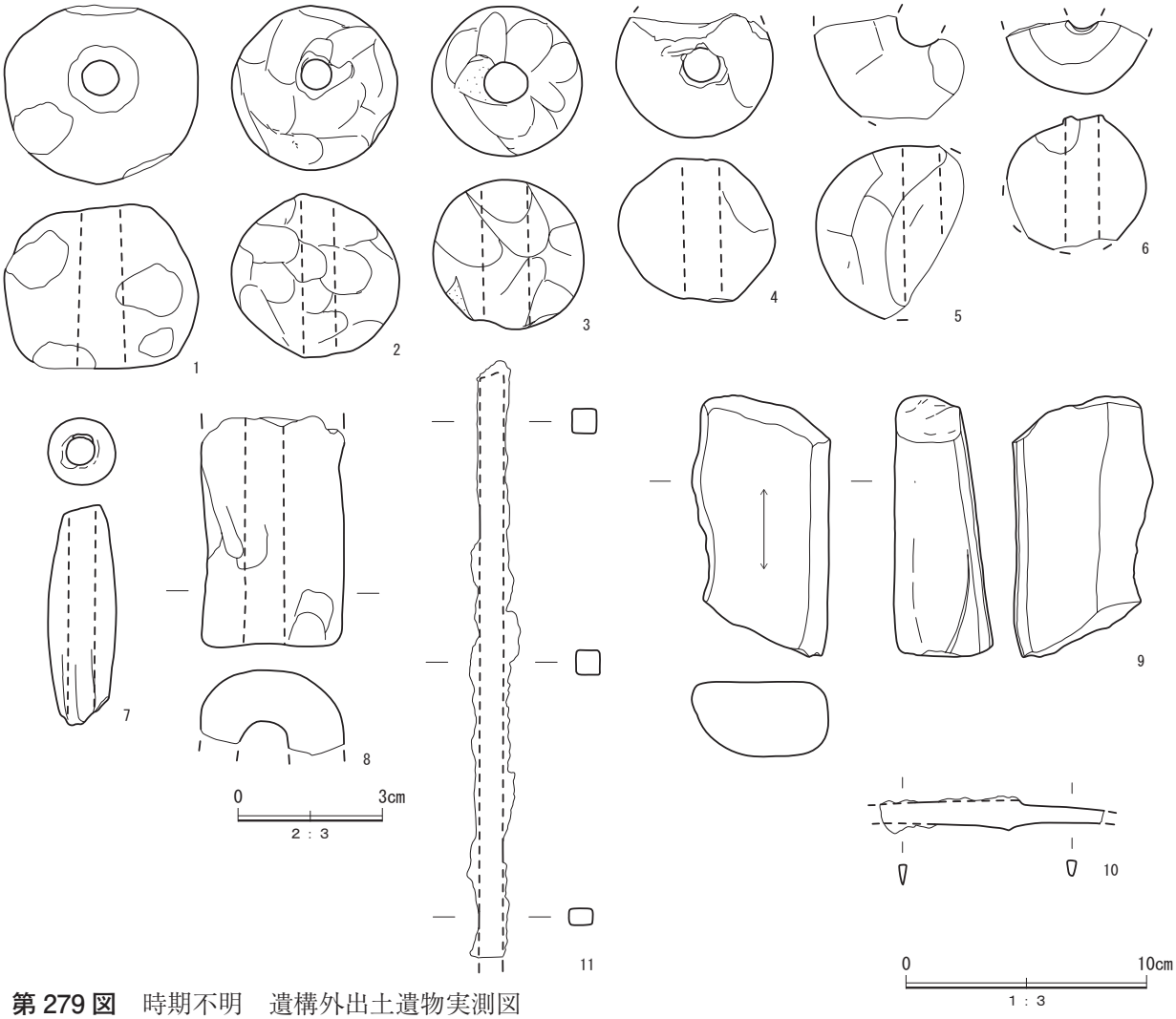
第 126 表　第６号ピット群一覧

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
4	G35	[円形]	0.34 × (0.20)	22
5	G35	［円形]	0.34 × (0.20)	24
6	G35	［円形]	0.20 × (0.20)	20

番号	位置	規模		
		形状	長径×短径 (m)	深さ (cm)
7	G34	［円形]	0.28 × (0.20)	20
8	F34	円形	0.32 × 0.30	20

(6)　遺構外出土遺物

時期不明の出土遺物を、実測図と観察表で掲載する。



第 279 図　時期不明　遺構外出土遺物実測図

第 127 表　時期不明　遺構外出土遺物観察表

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	土玉	3.4	4.0	0.8～1.0	48.5	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ	SI-110	
2	土玉	3.4	3.4	0.7	35.1	石英	にぶい橙	外面ナデ	表土	
3	土玉	3.1	3.1	0.95	29.0	長石・石英	橙	外面ナデ	SI-211	
4	土玉	2.9	3.3	0.7	(21.6)	石英	にぶい黄橙	外面ナデ	遺構外	
5	土玉	3.6	(3.1)	(0.8)	(19.1)	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	遺構外	
6	土玉	2.7	(2.9)	(0.7)	(9.5)	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	遺構外	
7	管状土錘	4.5	1.4	(0.6)	(7.4)	石英	にぶい橙	外面ナデ	SI-80	
8	管状土錘	(4.8)	(2.9)	(0.8)	(22.9)	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	遺構外	

番号	機種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	砥石	(10.8)	5.8	4.1	(375.0)	砂岩	砥面 1 面		

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	刀子	(9.3)	1.2	0.4	(11.0)	鉄	刃部長 5.2cm	覆土中 SI-35	
11	不明	(24.2)	1	1.0	(159.2)	鉄	断面方形の棒状品	北東部 覆土下層 SI-35	

第４節　まとめ

今回の調査で、弥生時代の竪穴建物跡７棟、古墳時代の竪穴建物棟 70 軒、古墳１基、土坑１基、奈良・平安時代の竪穴建物跡 27 棟、土坑１基、中世の掘立柱建物跡１棟、土坑１基、柱穴列４条、溝跡７条、ピット群４か所を確認した。以下、確認した遺構と遺物について、時代ごとに概要を記しまとめとする。なお、調査区中央部と西端部の間に、北側から入り込む埋没谷の谷頭があり、またその南側は地山が削平されており、遺構が失われている。

１　集落の構造と変遷

(1)　縄文時代

当時代の遺構は確認できなかったが、後世の遺構から当時代の遺物が出土した。早期の天矢場式土器・三戸式土器・田戸下層式土器、前期の浮島式土器、及び石器、土器片錘が少量ではあるが出土している。このことから、早期から前期にかけての遺構が、周辺に存在していたと推測される。

(2)　弥生時代

当時代の遺構は、竪穴建物跡９棟が確認できた。ただ、後世の建物に掘り込まれているものが多く、全容が確認できたものは少ない。建物跡は、調査区中央部の東西 50 m内に５～ 15 m の間隔をもって第 21・40・41・58・130・134・141・211 号竪穴建物跡[1]である。また、調査区西端の斜面部に第 107 号竪穴建物跡１軒が存在している。その東側は遺構が失われていることから、他にも竪穴建物跡が存在していたと推測でき、二つの単位群の存在が想定できる。

(3)　古墳時代

当時代の遺構は、竪穴建物跡 70 棟、古墳１基である。竪穴建物跡はその出土土器から、前期、中期、後期に区分することができる。

前期（五領式期）の建物跡は６棟確認でき、出土土器から４世紀中葉と後葉に区分できるが、一括して記述する。第 118 号竪穴建物跡は調査区の東端部に１棟のみで存在している。そこから 50 mほど離れた調査区中央部には、第 36・80・139・235 号竪穴建物跡の棟が８～ 30 mの間隔でまとまりをみせている。その内の第 139 号竪穴建物跡は大型の建物である。さらに調査区東端部に第 10・104 号竪穴建物跡が近して存在している。このことから、今回の調査区における在り方として、三つの単位が存在したことがわかる。

古墳時代中期 (和泉式期) の竪穴建物跡は 26 棟確認でき、出土土器の様相から３期に細分することができる。５世紀前葉のⅠ期の建物跡は、調査区の東端部に５～ 20 mの間隔で存在している第 114・119・201 号竪穴建物跡の３棟と、そこから約 80 m離れた調査区中央部に位置する第 14 号竪穴建物跡の１棟である。そのうち第 114・119・14 号竪穴建物跡は大形建物跡である。また、第 114 号竪穴建物跡は鍛冶工房跡で、第 201 号竪穴建物跡もその可能性がある建物跡である。以上のように、Ⅰ期は鉄製品を製作する鍛冶操業グループと一般集落の２つの単位群の存在が確認できた。前者をＡ単位群、後者をＣ単位群と仮称しておく。

次の５世紀中葉のⅡ期の建物跡は、Ａ単位群に第230号竪穴建物跡の１棟、Ａ単位群の西側に２～10ｍの間隔で第43・44・82・140・210・238号竪穴建物跡の６棟が存在し、これをＢ単位群と仮称する。その西側に位置するＣ単位群に東西40ｍの範囲に第32・88・131・124・240号竪穴建物跡の５棟が４～10ｍの間隔で存在している。次の５世紀後葉のⅢ期の建物跡は、Ａ単位群に143号竪穴建物跡、Ｂ単位群に第87・148号竪穴建物跡、Ｃ単位群に第79・124・240号竪穴建物跡が存在している。さらに調査区の西端部に第11・103号竪穴建物跡が存在しておりＤ単位群と仮称する。当単位群は出土土器が少なく詳細な時期は不明であるが、Ⅱ期に属するものとみられる。以上、古墳時代中期の集落は、前期から継続し、中葉に拡大し、後葉には衰退しているとみられる。各単位群ともに大形の建物１棟が存在している。

古墳時代後期(鬼高式期)の竪穴建物跡は38棟確認でき、出土土器の様相から４期に区分することができる。Ⅰ期は６世紀前半で、調査区中央部に大形の第133号竪穴建物跡が単独で存在している。Ⅱ期は６世紀後葉で、調査区東端に第200号竪穴建物跡が単独で存在している。これをＡ単位群と仮称する。これより約25ｍ西側に第117・142・144・150A・205・206号竪穴建物跡の６棟が、東西約30ｍの範囲に群在しており、そのうち第142・144・205・206号竪穴建物跡は大形の建物である。当群Ｂ単位群と仮称する。これより約20ｍ西側の調査区中央部に第45・138・146竪穴建物跡の３棟が東西約30ｍの範囲に群在しており、Ⅰ期の第133号竪穴建物跡を含めてＣ単位群と仮称する。当群のうち第138号竪穴建物跡以外は大形の建物である。これより約20ｍ西方に、第17・75号竪穴建物跡が、それぞれ単独存在している。両建物跡も大形の建物で、異なる単位群の可能性があり、前者をＤ単位群、後者をＥ単位群と仮称する。さらに、西方へ約70ｍ離れた調査区西端部に第１・９・94・247・248号竪穴建物跡の５棟が群在している。このうち第94号竪穴建物跡は大形の建物である。これをＦ単位群と仮称する。Ⅲ期は７世紀前葉で、Ｂ単位群に第120号竪穴建物跡の１軒、Ｃ単位群に第84・126・129・137号竪穴建物跡の４軒、Ｄ単位群に第74号竪穴建物跡、Ｅ単位群に第13号竪穴建物跡の各１棟、Ｆ単位群に第５・90・91・93・95・100・102・106号竪穴建物跡の８棟が群在している。このうち第129号竪穴建跡は、後期で最大の大形建物である。Ⅳ期は７世紀中葉で、Ｂ単位群に第152号竪穴建物跡、Ｄ単位群に第72号竪穴建物跡の各１棟がみられる。

以上、後期の集落は、６世紀前半に若干の建物がみられ程度で、６世紀後葉に建物が急増し、各単位群に大形の建物が設けられている。７世紀前葉には調査区中央部で希薄となり、西端部に集中するようになる。そして７世紀中葉には建物が大幅に減少て、集落が廃絶している。そうした中で、各単位群もそれぞれ消長をみせている。

なお、第１号墳は、詳細な時期は不明であるが、集落が廃絶した頃に築造されたものとみられる。

(4) 奈良・平安時代

当時代の遺構は、竪穴建物跡27棟を確認した。その出土土器から７期に区分できる。

Ⅰ期は８世紀前葉で、調査区西端部に位置する第92・96号竪穴建物跡が該当する。

Ⅱ期は８世紀中葉で、調査区東端部に位置する第203号竪穴建物跡、その西方35ｍに位置

する第51号竪穴建物跡、その北西方約20ｍに位置する第135・147号竪穴建跡、その西方25ｍに位置する第73・76号竪穴建物跡、さらに西方110ｍの調査区西端部に単独位置する第110号竪穴建物跡の7棟が該当する。第135号竪穴建物跡は中形の建物で、他は小形の建物である。主軸方向は、西へ20度～30度振れている。分布状況から5つほどの単位群の存在が想定できる。

Ⅲ期は8世紀後葉で、調査区東部に単独で位置する第151号竪穴建物跡、そこから約60ｍ西方の調査区中央部に位置する第19・20・24・42号竪穴建物跡、さらにその北方に位置する第125号竪穴建物跡の6棟が該当する。第24号竪穴建物跡は大形、第151号竪穴建物跡は中形の建物で、他は小形の建物である。分布状況から、二つないし三つの単位群が想定できる。この時代の集落は、調査区中央部を中心に営まれていたと想定できる。

Ⅳ期は9世紀前葉で、調査区東部に位置する第116・121号竪穴建物跡の2棟である。約5ｍ離れて主軸方向を同じくして存在している。

Ⅴ期は9世紀中葉で、調査区東部に2ｍほどの間隔を持って位置する第52・153・207号竪穴建物跡、その西方約20ｍに位置する第136・145号竪穴建物跡、さらにその西方20ｍに単独で位置する第35号竪穴建物跡の6棟が該当する。いずれも小形の建物で、状況から三つの単位群が想定できる。

Ⅵ期は9世紀後葉で、調査区中央部に位置する第127号竪穴建物跡、調査区西端部に位置する第8号竪穴建物跡の2棟が該当する。両者とも小形の建物で、単独で存在しており。集落しての構造は有していない。

Ⅶ期は10世紀前葉で、調査区中央部の埋没谷の谷頭付近に位置する第108号竪穴建物跡が該当する。単独で存在していることから、何らかの目的で設けられたものとみられる。

以上、当時代の集落の変遷を述べてきたが、建物の構築は8世紀前葉に開始され、10世紀前葉まで継続しているが、8世紀中葉から9世紀前葉にかけて若干棟数が増えるものの、相対的に古墳時代後期のような集落の拡大はみられず、小規模な集落あるいは散村の様相を呈している。

なお、調査区東部に10世紀中葉の土師器坏類が出土した土坑が1基存在していることから、調査区の南側に同時期の建物跡などが存在している可能性がある。また、調査区の東端部に位置する第71号土坑から、銅鋺が出土している。銅鋺は仏具の一つであり、終末期の古墳に副葬されていることが多いが、仏教の浸透に伴って律令時代の集落跡からの出土もみられる。管見したところ本県域に於いては、つくば市東岡中原遺跡から2点2)、結城市下り松遺跡3)、桜川市犬田神社前遺跡4)、辰海道遺跡5)、かすみがうら市サイカチ遺跡、行方市木工台遺跡から各1点の計7点出土している。これらの遺跡は、郡領層に関わる集落跡か、交易の拠点となるような大規模な集落跡であり、時期的には、7世紀前半から10世紀前半に亘っている。当遺跡出土の銅鋺の詳細な時期は不明であるが、この時期のものと想定できる。当地は字が宮田であり、当集落が古代の宮田郷の中心的な集落であった可能性も考えられ、今後の調査・研究に期待したい。

以上、弥生時代から平安時代にかけての集落の構造と変遷について概観してきた。当地には、最初に弥生時代後期に単世代あるいは２世代の集落が営まれている。集落は一度断絶し、古墳時代前期中葉に再び形成され、古墳時代中期まで継続して営まれている。中初頭には鍛冶工房が営まれ鉄製品の製作を行っている。集落としては古墳時代後期初頭で再度断絶し、6 世紀後葉に大規模な集落が再形成されている。その集落も 7 世紀には縮小し、中葉をもって廃絶している。その後、8 世紀初頭に集落が形成されるが、小規模な集落が 10 世紀前葉まで継続し、終焉を迎えている。

今回の調査は道路幅という限られた範囲であり、調査区の南側及び北側に集落が広がっていたことは明らかである。よって、前述した内容は今回の調査区における建物跡の在り方などの様相で、集落としての全容ではないことをお断りしておく。

２　漁網錘について

今回の調査によって、一般に土玉といわれている球状及び管状を呈する漁網の錘が多量に出土した。土錘は、古墳時代前期から平安時代にかけての竪穴建物跡 35 棟及び溝・表土から、球状土錘 117 点、管状土錘 22 点の計 139 点を確認することができた。多量の土錘が出土していることは、遺跡が所在する台地の西側に涸沼川が北流し、北方約 1.3㎞で那珂川に注いでおり、こうした漁労に適した環境に起因するものとみられる。時期的な内訳は、古墳時代前期が竪穴建物跡３棟から 12 点、古墳時代中期が竪穴建物跡４棟から球状土錘６点、古墳時代後期が竪穴建物跡 19 棟から 87 点、奈良時代が竪穴建物跡７棟から 22 点、平安時代が竪穴建物跡２棟から２点、時期不明が 10 点である。この内、古墳時代後期が最多であることは、確認できたこの時期の竪穴建物跡が 38 棟と最も多いことと、その内の 75 号竪穴建物跡から 48 点が纏まった状態で出土していることに起因する。

本県における漁網錘に関しては、佐々木義則氏によって詳細な論考があり、その形状によって管状・細形管状・球状に三つに大別されている。さらにその長さ及び重量を指標として、下記のように細分している[8)]。

管状土錘

大型管状土錘：長さ７～ 13㎝、孔径 1.5㎝内外、重量 100 ～ 350 ｇ

ＩＡ類：長さ 6.5 ～ 10㎝、孔径 0.6㎝内外、重量 30 ～ 60 ｇ

ＩＢ類：長さ５～ 9㎝、孔径 1.1㎝内外、重量 40 ～ 70 ｇ

ＩＣ類：長さ４～ 7.5㎝、孔径 0.6㎝内外、重量 30 ～ 70 ｇ

ⅡＡ類：長さ 5.5 ～８㎝、孔径 0.6㎝内外市重量 10 ～ 25 ｇ

ⅡＢ類：長さ 3.5 ～５㎝、孔径 0.6㎝内外、重量 10 ～ 25 ｇ

Ⅲ類　：長さ 2.5 ～ 3.5㎝、孔径 0.3 ～ 0.7㎝、重量５～ 15 ｇ

細形管状土錘

Ⅰ類：長さ４～６㎝、孔径 0.4㎝内外、重量５～８ｇ

Ⅱ類：長さ３～５㎝、孔径 0.2㎝内外、重量１～５ｇ

球状土錘状

Ⅰ類：長さ３～４㎝、孔径 0.4 ～ 0.9㎝、重量 40 ～ 60 ｇ

Ⅱ類：長さ２～ 3.5㎝、孔径 0.4 ～ 0.7㎝、重量 10 ～ 35 ｇ

Ⅲ類：長さ２～ 3.5㎝、孔径 0.3 ～ 0.6㎝、重量２～ 10 ｇ

ここでは、佐々木氏の分類を参考にし、各時期のあり方について見ていくことにする。

先ず、古墳時代前期に関しては、管状土錘ＩＣ類１点、球状土錘Ⅱ類が 11 点で、そのうち第 104 号竪穴建物跡の南東部床面から管状土錘１点と球状土錘９点が比較的纏まって出土している。球状土錘Ⅱ類は、長さ 3㎝内外、重量 25 ～ 35 ｇほどで、海に近い水流域でしようされる刺網の錘で、漁獲対象魚はボラ・スズキ・ニシン等がであったとみられている。

古墳時代中期に関しては、大型管状・管状土錘ⅡＢ類・球状土錘Ⅰ類が各１点、球状土錘Ⅱ類が３点である。各竪穴建物跡から１点ほどであることから、刺網の補充用の可能性がある。

古墳時代後期に関しては、大型管状土錘５点、管状土錘ＩＣ類３点、管状土錘ⅡＢ類１点、球状土錘Ⅰ類１点、球状土錘Ⅱ類 76 点である。前期より出土竪穴建物跡、出土量ともの大幅に増加していることから、当集落において漁労が盛行したものとみられる。そのうち第 75 号竪穴建物跡の南西壁際の床面から、球状土錘Ⅱ類が 47 点纏まって出土している。これは、概ね刺網１反に装着されていた数の可能性があり、そこに刺網が置かれていたか、壁面に掛けられていたことが想定できよう。その他、第 93 号竪穴建物跡から球状土錘Ⅰ類･管状土錘ＩＣ類各１点、球状土錘Ⅱ類４点、第 95 号竪穴建物跡から球状土錘Ⅱ類４点、第 129 号竪穴建物跡から球状土錘Ⅱ類７点、第 200 号竪穴建物跡から球状土錘Ⅱ類５点が出土している。これらは、その数から補充用のものと想定できる。なお、大型管状土錘が、第５号竪穴建物跡・第 72 号竪穴建物跡から各２点、第 120 号竪穴建物跡から１点出土している。これらは、長さ 10㎝前後、重量 100 ～ 300 ｇほどで、曳き網の錘で、漁獲対象魚はサケとみられている。各竪穴建物跡から１、２点の出土で、いずれも一部欠損していることから、破損によって取り外されたものの可能性がある。さらに、第 120・150･210 号竪穴建物跡から管状土錘ＩＣ類が各１点出土している。管状土錘ＩＣ類は長さ３～７㎝、重量 30 ～ 70 ｇで、タテキリ網、葭まき網の錘で、漁獲対象魚はコイやフナとみられている。いずれも補充用のものとみられる。

奈良時代に関しては、大型管状土錘４点、管状土錘ＩＣ類１点、球状土錘Ⅱ類 17 点であり、前期より出土建物跡数、出土量ともに減少している。このうち大型管状土錘３点が第 51 号竪穴建物跡から出土している。いずれも一部欠損しているので、網から取り外されたものの可能性がある。また、第 76 号竪穴建物跡から球状Ⅱ類 12 点出土している。そのうちの６点には使用痕が認められ、かつ一部が欠損している。このことから、これらも損傷によって網から取り外されたものとみられる。

平安時代に関しては、球状土錘Ⅱ類、細形管状土錘Ⅰ類各１点であり、出土竪穴建物跡も減少していることから、漁労は下火になった可能性がある。

以上、出土した漁網錘の様相について概観してきたが、当集落において古墳時代前期から海に近

い水流域で刺網を使用してボラ・スズキ・ニシン等を対象とした漁労が行われた。後期には曳き網を使用してサケを対象とした漁労、またタテキリ網、葭まき網を使用してコイやフナを対象とした漁労も行われていたことが明らかになった。

漁網錘は、当大洗町に所在する他の集落遺跡からも多数の出土例が認められる。常福寺遺跡では、竪穴建物跡47棟から大型管状土錘10点、管状土錘51点、球状土錘271点、計332点と、当遺跡における出土量の2.4倍ほど出土している[9)]。常福寺遺跡においては、古墳時代前期の竪穴建物跡からの出土量が多く、後期、奈良時代、平安時代と出土量が減少し、当遺跡における在り方とは様相を異にしている。また、古墳時代前期の竪穴建物跡1軒当たりの出土量も多く、第98号竪穴建物跡からは、刺網1反に装着されていたとみられる管状土錘21点、球状土錘55点が出土している。大型管状土錘は、大多数が古墳時代後期の竪穴建物跡からの出土である。また、落神遺跡では、竪穴建物跡71棟から大型管状土錘6点、管状土錘18点、球状土錘190点、計214点出土している[10)]。落神遺跡においては、古墳時代前期と後期からの出土量が多く、奈良時代、平安時代と出土量が減少している。ほかに、田子内遺跡[11)]、長峯遺跡[12)]、飛城遺跡[13)]、官女平遺跡[14)]、千天遺跡[15)]からも球状土錘を主体とする漁網錘が少量出土している。

以上のように、多量の漁網錘の出土は、当大洗町域が、前述したように西側に涸沼川が北流し、北に那珂川、東に鹿島灘が存在し、猟場としての環境には恵まれた立地であり、古代から漁労が盛んな地域であったことによるものとみられる。

3　鍛冶工房跡について

今回の調査で、古墳時代中期（和泉式Ⅰ期）の鍛冶炉を有する第114号竪穴建物跡を確認した。当竪穴建物跡は一辺８ｍほどで、主柱穴４か所、貯蔵穴１か所を有し、間仕切り溝６条が確認されたことから、本来は居住用の建物である。炉は３か所確認でき、炉１は煮炊きや照明用とみられる地床炉で、二次精錬に転用された可能性もあるが、詳細は不明である。炉３は、炉壁上部が削平され炉床のみが遺存していることから、最初に操業された鍛冶炉で、その後、炉２に造り替えられたものとみられる。炉２は、炉壁が高温と還元により灰色に変色しており、最後に操業された鍛冶炉である。炉２の周辺には、性格不明のピット状のが土坑が数か所確認されており、鍛冶操業に関わる土坑の可能性がある。また当竪穴建物跡からは、土師器高坏の円筒形の脚部を転用した羽口が18点、金床石、大型砥石のほか、微量の鍛冶滓・鍛造剥片が出土していることから、金床石を据えて、鍛冶炉で加熱した鉄製品を鍛打する鍛冶作業が操業され、その後研磨作業が実施されたことを示唆している。羽口が18点確認できたことは、最低18回は操業が行われたと推定できる。出土した金床石は、炉２の上部に置かれた状態で出土していることから、鍛冶作業が終了した段階で、竈塞ぎと同様に鍛冶炉の上に金床石を置いて炉塞ぎを行い、羽口もその場に遺棄したものと想定できる。当竪穴建物跡からは鉄製鎌･刀子各１点.が出土しており､当工房で製作された可能性がある。なお、出土した鉄滓の分析を行ったところ、鍛錬鍛冶滓であるが、鉄素材は砂鉄の可能性があるとのことである。分析の結果については、附章に掲載している。

また、第114号竪穴建物跡の南東約30ｍ離れて存在する同時期の第201号竪穴建物跡は、大部

分が後世の建物に掘り込まれており炉跡は確認できなかったが、土師器高坏の円筒形の脚部を転用した羽口８点、鍛冶滓６点が出土していることから鍛冶工房跡であった可能性が大である。当竪穴建物跡からは棒状鉄製品２点が出土している。さらに、201 号竪穴建物跡の南方約４ｍに位置する同時期の第 230 号竪穴建物跡からも土師器高坏の転用羽口１点が出土しており、工房であった可能性がある。なお、第 114 号竪穴建物跡の東側に隣接している第 117 号竪穴建物跡からも転用羽口が２点出土しているが、当建物跡は古墳時代後期のものであることから流れ込みとみられる。

これらの遺構が確認できたことから、当集落において鉄製品が製作または補修が行われていたことが明らかである。この時期は、当地域において鉄の生産は未だ不可能で、鉄鋌あるいは半製品から製品を製作していた段階である。よって、外部から訪れた鍛冶工人が鍛冶炉を設け、工人が持参したか他から入手した鉄鋌あるいは半製品を素に製品を製作・補修していたと想定できる。なお、第 201 号竪穴建物跡から出土した棒状鉄製品は、素材である鉄鋌の可能性がある。

当地域における、この時期すなわち古墳時代中期の鍛冶工房跡は、稀少ながらも確認が相次いでおり、最古の鍛冶工房跡は、古墳時代前期に遡るものが確認されている。以下に管見できた確認例を表示した。その確認例の分布状況をみると、県央部から県南部に多く、県北部、鹿行部は稀少で、県西部は皆無である。このことは、県央部や県南部は開発に伴う遺跡調査が多いことも反映しているものとみられるが、４世紀代の例は県南部に多くみられることから、県北部へはやや遅れて普及したものとみられる。

大洗町において古墳時代前期の集落は常福寺遺跡や落神遺跡、古墳時代中期の遺跡は落神遺跡などで確認されているが、鍛冶遺構はいずれの遺跡でも確認されていない。このことは、鍛冶遺構が調査区外に存在する可能性もあるが、両遺跡は集落のかなり広い部分の調査であることから、当時は全ての集落において鍛冶作業が行われなかったことも想定できよう。当遺跡の調査は、道路建設幅と限られたものであり、集落の全容は不明であるが、一般集落の様相を呈しており、一般集落において鍛冶工房が操業されていたことが確認できた意義は大きいと思われる。

茨城県域に於ける鍛冶工房跡一覧（古墳時代前・中期）

遺跡名	所在地	遺構名	炉形態	出土遺物	時期
八幡脇遺跡 16)	土浦市	第１号住居跡	鍛冶炉	羽口・鉄滓・金床石	4 世紀中葉
尻替遺跡 17)	土浦市	第７号住居跡	鍛冶炉	鉄滓・鍛造剥片・粒状滓	4 世紀後葉
薬師入遺跡 18)	阿見町	第 78 号住居跡	地床炉	転用羽口・粒状滓	4 世紀前葉
南小割遺跡 19)	茨城町	第 178 号住居跡	地床炉	羽口・金床石	4 世紀前半
十万原遺跡 20)	水戸市	第１号鍛冶工房跡	地床炉	羽口・鉄滓・鍛造剥片	5 世紀中葉
三反田下高井遺跡 21)	ひたちなか市	第１号鍛冶工房跡	地床炉		5 世紀中～後
〃	〃	第 2A 号鍛冶工房跡	地床炉	転用羽口・鉄滓・鍛造剥片・粒状滓・金床石	5 世紀後
〃	〃	第 2B 号鍛冶工房跡	地床炉	第 2A 号工房跡と重複	〃
〃	〃	第３号鍛冶工房跡	地床炉	転用羽口・鉄滓・鍛造剥片	5 世紀中～後

〃	〃	第 4 号鍛冶工房跡	地床炉	転用羽口・鉄滓・鍛造剥片	5 世紀末
武田西塙遺跡 [22]	ひたちなか市	第 60 号住居跡	地床炉	鍛造剥片・粒状滓	5 世紀
〃	〃	第 232 号住居跡	地床炉	羽口・転用羽口・椀形滓・鍛造剥片	〃
森戸遺跡 [23]	那珂市	第 70 号住居跡	地床炉	転用羽口・鉄滓	5 世紀中葉
厨台遺跡ＬＲ 12[24]	鹿嶋市	第 11 号住居跡	地床炉	羽口・鉄滓・鍛造剥片	6 世紀初頭

おわりに

以上、今回の当遺跡における調査成果について若干の考察を行った。弥生時代から平安時代にかけての集落の在り方についていくつかの成果を挙げることができた。今回の調査結果が、本県並びに当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

註

1）竪穴建物跡の規模は、床面積が 30㎡以上を大形、20㎡～ 30㎡を中形、20㎡未満を小形とした。
2）a 成島一也ほか「中原・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―中原遺跡２―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 159 集　2000.3
b 高野節夫「中原・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ―中原遺跡Ⅳ―中原遺跡４」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 170 集　2001.3
3）川津法伸ほか「一般国道 50 号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書―下り松遺跡・油内遺跡―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 145 集　1999.3
4）鴨志田祐一ほか「犬田神社前遺跡２―北関東自動車道 (協和～友部) 建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ｘ―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 248 集　2005.3
5）鹿島直樹「辰海道遺跡４―北関東自動車道 (協和～友部) 建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 247 集　2005.3
6）間宮正光『サイカチ遺跡―携帯電話基地局に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』かすみがうら市教育委員会　2007.2
7）荒井保雄ほか「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―木工台遺跡２―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 152 集　1999.6
8）a. 佐々木義則「茨城県における奈良・平安時代漁網錘の分類とその用途」『婆良岐考古』第 38 号　婆良岐考古同人会　2016.5
b. 佐々木義則「茨城県における奈良・平安時代漁網錘の地域性 (前編)」『婆良岐考古』第 42 号　婆良岐考古同人会　2020.5
c. 佐々木義則「茨城県における奈良・平安時代漁網錘の地域性 (後編)」『婆良岐考古』第 43 号　婆良岐考古同人会　2021.5
9）井上義安ほか「飛城・常福寺遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第３冊　2000.3
10) 井上義安ほか「落神遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第４冊　大洗町大貫台地埋蔵文化財発掘調査会　2001. 6
11) 井上義安ほか『団子内遺跡―五反田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要―』大洗町団子内遺跡発掘査会　1987. 9
12) 井上義安ほか「茨城県大洗町長峯遺跡」『大洗町文化財調査報告其』第４集　大洗町教育委員会　1973.12
13) 註９に同じ
14) 小林健太郎「官女平遺跡――一般県道長岡大洗線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 221 集　財団法人茨城県教育財団　2004.3
15) 村田健二編『千天遺跡』1980. 5
16) 塩谷修ほか『八幡脇遺跡　土浦市教育委員会　2009.3
17) 関口満ほか『尻替遺跡―田村・沖宿土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書―』第 10 集　土浦市教育委員会　2007.9
18) 綿引英樹ほか「薬師入遺跡２―阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 296 集　財団法人茨県教育財団　2008.3
19) 中村敬治ほか「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書―南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚古墳・後原遺跡－」第 129 集　財団法人茨県教育財団　1998.3
20) 皆川修「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ―十万原遺跡１－」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 179 集　財団法人茨県教育財団　2001.3
21) 田所則夫ほか「一般国道６号東水戸道路改修工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ―三反田下高井遺跡－」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 128 集　財団法人茨県教育財団　1998.3
22) a 鈴木素行ほか「武田Ⅳ」『(財) ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第８集　(財) ひたちなか市文化・スポーツ振興公社　1991.3
b 稲田健一ほか「武田Ⅷ―1994 年度武田遺跡群発掘調査の成果―」『(財) ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第 11 集　(財) ひたちなか市文化・スポーツ振興公社　1994.3
23) 西野則文ほか「一般国道 349 号道路改修工事地内埋蔵文化財調査報告書―森戸遺跡－」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 55 集　財団法人茨県教育財団　1990.3
24) 風間秀和ほか「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財発掘調査報告ＸＶ―土地区画整理事業に伴う発掘調査―第２分冊」『鹿嶋市の文化財』第 93 集　財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団　1998.3

附　章

宮田遺跡出土遺物の化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宮田遺跡は茨城県大洗町に所在する。発掘調査地区では古墳時代の集落跡が確認されている。このうち竪穴建物跡（SI114）では鉄滓が出土している。そこで、遺跡内から出土した鍛冶関連遺物を分析し、遺跡内での鉄器生産の実態を検討することを目的とする。また、貯蔵穴出土から出土した炭化材について樹種同定を行い、用材選択に関する情報を得る。なお、鉄滓の分析・測定は、日鉄テクノロジー株式会社九州事業所の鈴木瑞穂氏の協力を得た。

Ⅰ.金属成分分析

1.試料

試料は、SI114 から出土した鉄滓(No.28)、鉄滓炉壁材(No.29)の 2 点である。便宜的に MYT-1・2 の分析番号を付した。表 1 に試料と調査項目を示す。

表1. 試料と調査項目

分析番号	遺構名	遺物名称	推定年代	計測値		金属探知器反応	調査項目		
				大きさ（mm）	重量（g）		マクロ組織	顕微鏡組織	化学分析
MYT-1	SI114	鉄滓（No.28）	古墳	66×48×17	69.6	なし	○	○	○
MYT-2		鉄滓炉壁材（No.29）		60×48×17	66.7	なし	○	○	○

2.分析方法

(1)外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

(2)マクロ組織

試料を切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#600、#1000、およびダイヤモンド粒子の 3μm と 1μm で順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

(3)顕微鏡組織

光学顕微鏡を用いて断面を観察した後、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影した。

(4)化学組成分析

鉄滓の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

3.結果および考察

＜MYT-1＞

(1)外観観察：やや偏平な椀形鍛冶滓の破片（69.6g）である。表層には広い範囲で薄く茶褐色の銹化鉄が付着する。ただし金属探知器反応はなく、まとまった鉄部はみられない。滓の色調は黒灰色で着磁性は弱い。上面は比較的平坦で、下面は細かい木炭痕による凹凸が目立つ。側面は図版 1 の外観写真上側が椀形鍛冶滓本来の円弧状の面、下側は不規則な破面である。

(2)マクロ組織：図 1-①に示す。観察面全体がウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）組成の鍛冶滓であった。

(3)顕微鏡組織：図 1-②③に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト、発達した淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また③左下のように、鉄滓表面に明灰色の銹化鉄がごく薄く層状に観察される。

(4)化学組成分析：表 2 に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は 55.57%と高めである。このうち金属鉄（Metallic Fe）は 0.09%、酸化第 1 鉄（FeO）が 61.94%、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）10.49%である。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は 24.43%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は 1.52%と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 0.30%、バナジウム（V）も＜0.01%と低値である。また酸化マンガン（MnO）は 0.05%、銅（Cu）も 0.01%と低値である。

当鉄滓は主に鉄酸化物と羽口や炉材粘土の溶融物（SiO_2、Al_2O_3 主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分（TiO_2、V）は低減傾向が顕著である。この特徴から、鉄素材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物（鍛錬鍛冶滓）と推定される。

＜MYT-2＞

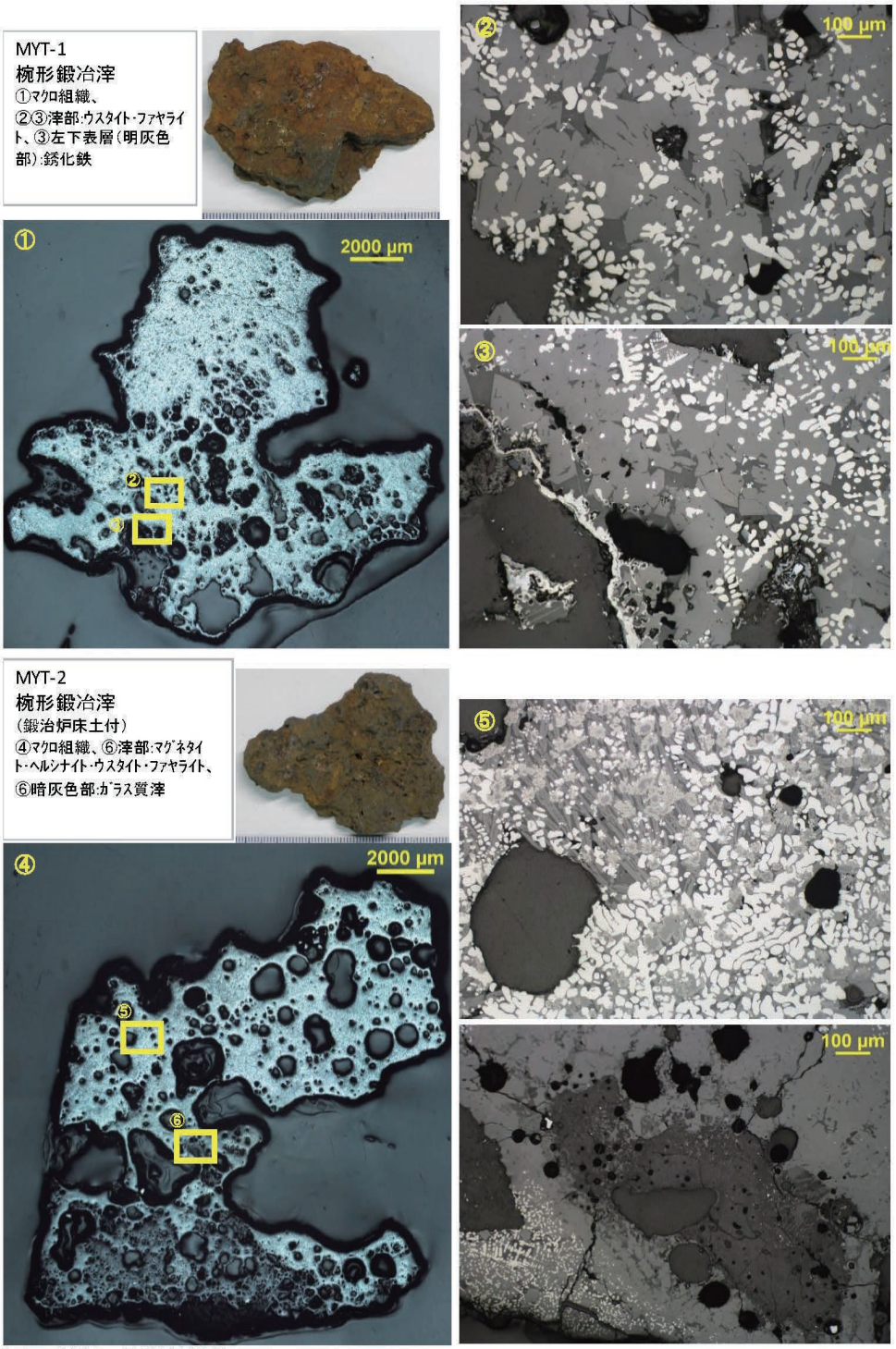
(1)外観観察：やや偏平な椀形鍛冶滓の破片（66.7g）である。側面 2 面は破面。茶褐色の銹化鉄が部分的に付着するが、金属探知器反応はなくまとまった鉄部はみられない。滓の色調は黒灰色で着磁性がある。下面表層には灰褐色の鍛冶炉床土が広い範囲で付着する。ただし端部（写真左側）では細かい木炭痕による凹凸が目立つ。

(2)マクロ組織：図 1-④に示す。素地の明灰色部は鍛冶滓である。また下面表層の暗灰色部は鍛冶炉床土である。全体に強い熱影響を受けており、ガラス質化している。

(3)顕微鏡組織：図 1-⑤⑥に示す。⑤は鍛冶滓部分の拡大である。多角形結晶はスピネル類の化合物で、色調から外側の微細な灰褐色部はマグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、内側の暗灰色部はヘルシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）に近い組成と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトも晶出する。一方、⑥中央の暗灰色部はガラス質滓である。炉材粘土の溶融物と推定される。

表2. 化学組成

試料	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素 (SiO_2) *	酸化アルミニウム (Al_2O_3) *	酸化カルシウム (CaO) *	酸化マグネシウム (MgO) *	酸化カリウム (K_2O) *	酸化ナトリウム (Na_2O) *
MYT-1	55.57	0.09	61.94	10.49	16.19	5.87	0.82	0.70	0.53	0.32
MYT-2	52.03	0.08	53.32	15.02	17.16	9.51	0.96	0.82	0.61	0.39
試料	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO_2)	酸化クロム (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO2)	造滓成分 (Σ *)
MYT-1	0.05	0.30	0.04	0.02	0.20	0.14	<0.01	0.01	<0.01	24.43
MYT-2	0.07	0.46	0.06	0.01	0.15	0.15	<0.01	<0.01	<0.01	29.45


MYT-1
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織、
②③滓部:ｳｽﾀｲﾄ･ﾌｧﾔﾗｲﾄ、③左下表層(明灰色部):錆化鉄
①
2000 μm
②
③
100 μm
MYT-2
椀形鍛冶滓
(鍛治炉床土付)
④ﾏｸﾛ組織、⑥滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ･ﾍﾙｼﾅｲﾄ･ｳｽﾀｲﾄ･ﾌｧﾔﾗｲﾄ、
⑥暗灰色部:ｶﾞﾗｽ質滓
④
2000 μm
⑤
⑥
100 μm
図1. 試料の顕微鏡組織

(4)化学組成分析：表 2 に示す。全鉄分（Total Fe）52.03%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は 0.08%、酸化第 1 鉄（FeO）が 53.32%、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）15.02%の割合である。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は 29.45%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は 1.78%と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 0.46%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値である。また酸化マンガン（MnO）は 0.07%、銅（Cu）も＜0.01%と低値である。

当鉄滓も主に鉄酸化物と羽口や炉材粘土の溶融物からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起原の脈石成分は低減傾向が顕著であった。鍛錬鍛冶滓と推定される。

4.まとめ

宮田遺跡出土鉄滓は 2 点とも鍛錬鍛冶滓に分類される。遺跡内で鉄素材を熱間で鍛打加工して、鉄器を製作していたと推定される。なお周辺地域では、ひたちなか市の後谷津製鉄遺跡で 7 世紀後半から 8 世紀代の箱形炉で製鉄関連遺物の理化学的分析も行われており、出土砂鉄のチタニア（TiO_2）の含有割合が 12.4%、製錬滓が 17.5%、19.5%と報告されている（ひたちなか市,1996）。今回宮田遺跡出土鉄滓の調査では、こうした製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の影響が残る精錬鍛冶滓は確認されない。ただし、奈良・平安時代には、製鉄遺跡から未加工の鉄塊が鍛冶原料として搬入され、鍛冶遺跡でその不純物（金属鉄と未分離の砂鉄製錬滓）を除去している状況が広い範囲で確認されている。そのため、今後町内で古代の鍛冶滓の調査がさらに進むと、こうした製鉄遺跡との関連を示す精錬鍛冶滓が確認される可能性は高いと考えられる。

Ⅱ.用材選択

1.試料

試料は、SI-131 貯蔵穴出土の炭化材および炭化材 No.22 の 2 点である。

2.分析方法

炭化材は、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3.結果

結果を表 3 に示す。検出された樹種は、コナラ亜属コナラ節である。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*） ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

表3. 炭化材同定結果

地点・番号	樹種
SI-131 貯蔵穴出土	コナラ亜属コナラ節
SI-131 No.22	コナラ亜属コナラ節

4.考察

コナラ節は、林縁、河川沿いなど明るい林地を好む種類で、人家近くにいわゆる「里山林」を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。これらの樹木は用材としても有用であるほか、種実が食用になる。

材は、重硬で強度があるので、その特徴を生かして建築材や器具材、などとして用いられる。また、火持ちが良く、火力も強いため、薪炭材として有用である。ひたちなか市鷹ノ巣遺跡の古墳時代後期住居跡(パリノ・サーヴェイ株式会社,2013)、牛久市山王前遺跡の古墳時代竪穴建物跡(パリノ・サーヴェイ株式会社,2020)を始めとして県内各地で出土しており、遺跡周辺で容易に入手できたことが考えられる。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

ひたちなか市教育委員会,1996,後谷津製鉄遺跡調査報告書－第 2 次調査報告書－. ひたちなか市教育委員会,18p.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2013,鷹ノ巣遺跡から出土した炭化材の樹種と炭化種実.財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化財調査報告第 41 集　鷹ノ巣Ⅱ－第 2・3 次調査の成果－,ひたちなか市・財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社,p.110-122.

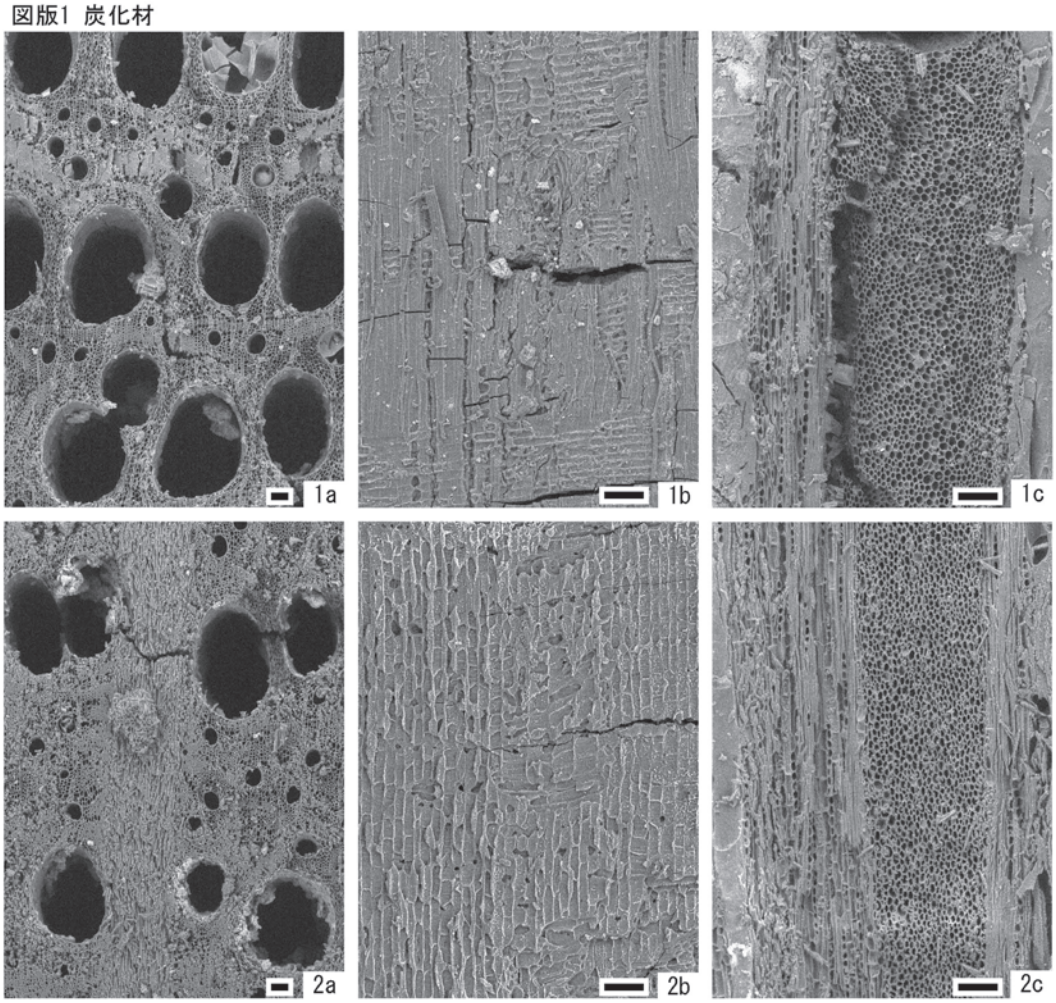
パリノ・サーヴェイ株式会社,2020,第 19 号竪穴建物跡の炭化材の分析.茨城県教育財団文化財調査報告第 441 集　小馬様台遺跡・山王前遺跡　一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書,国土交通省関東地方整備局常総国道事務所・公益財団法人茨城県教育財団,p.193.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材

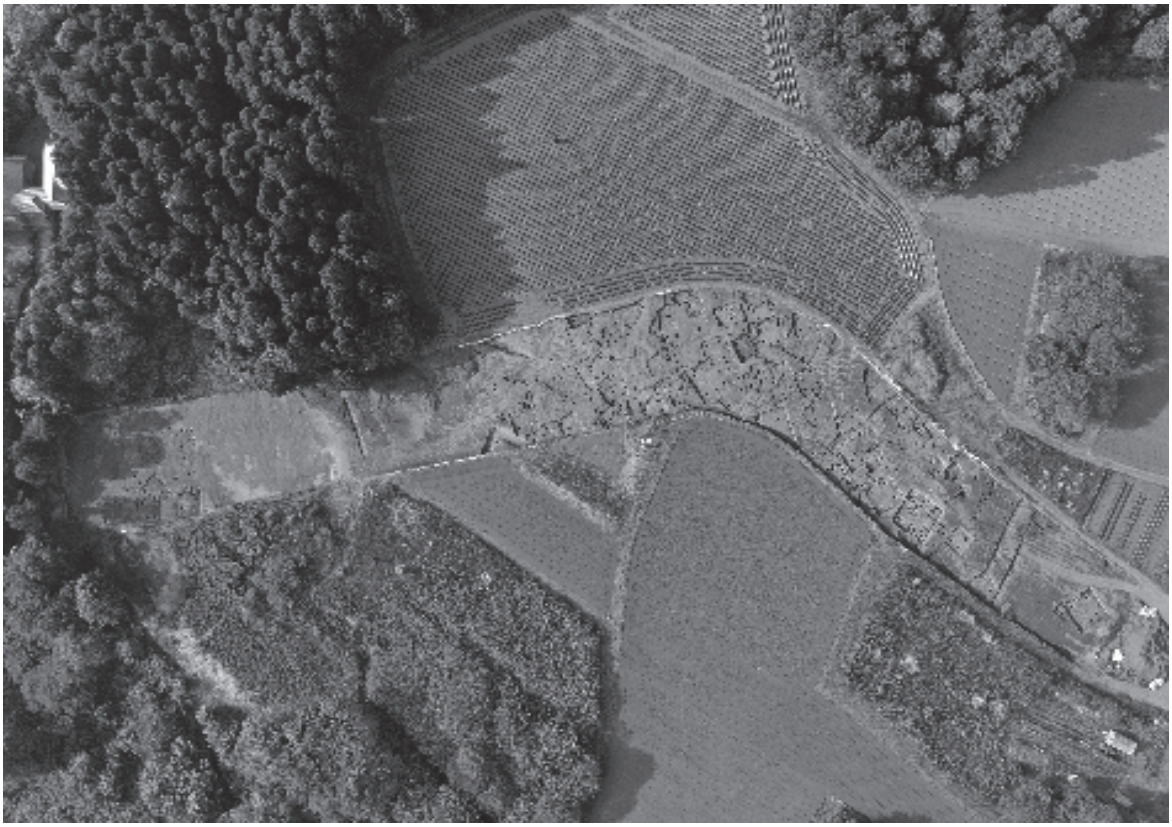


1. コナラ亜属コナラ節(SI-131 貯蔵穴出土)
2. コナラ亜属コナラ節(SI-131 No.22)

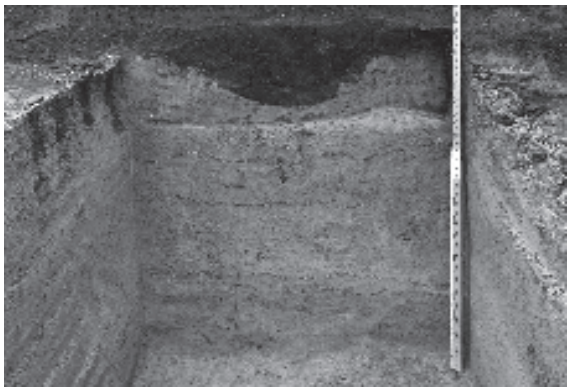
a:木口 b:柾目 c:板目
スケールは100μm

写　真　図　版

写真図版１



調査区全景（上方が北）



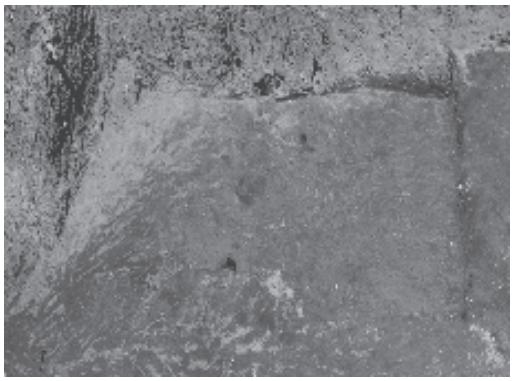
テストピット

第１号竪穴建物跡完掘状況 （南から）

第１号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第１号竪穴建物跡土層観察状況（西から）

写真図版2

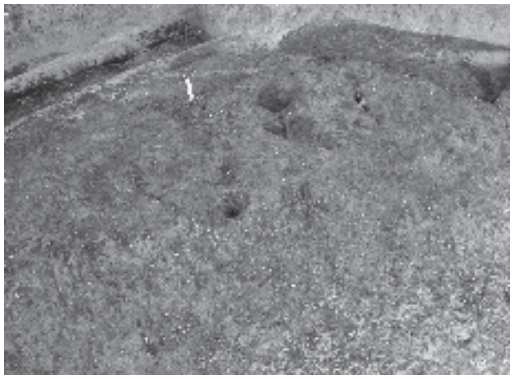


第５号竪穴建物跡完掘状況（南から）

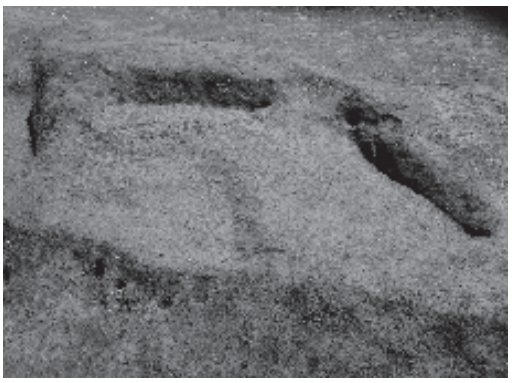
第５号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第５号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）

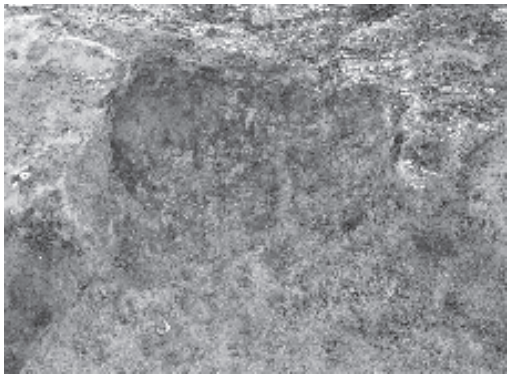
第５号竪穴建物跡土層観察状況（西から）



第６号竪穴建物跡完掘状況(南から)



第８号竪穴建物跡完掘状況（東から）



第８号竪穴建物跡竈完掘状況（西から）

第９~11号竪穴建物跡完掘状況（東から）

第９号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

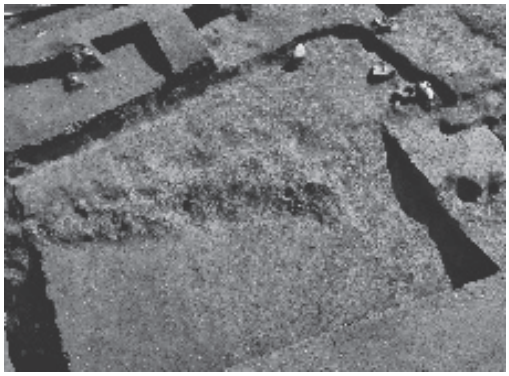
第９号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第９～11号竪穴建物跡土層観察状況（西から）

第10号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第10号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

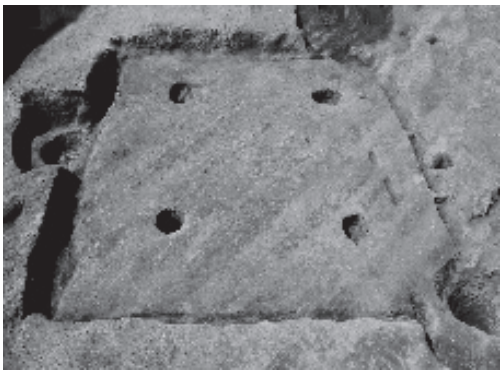
第10号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第11号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第11号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

写真図版4



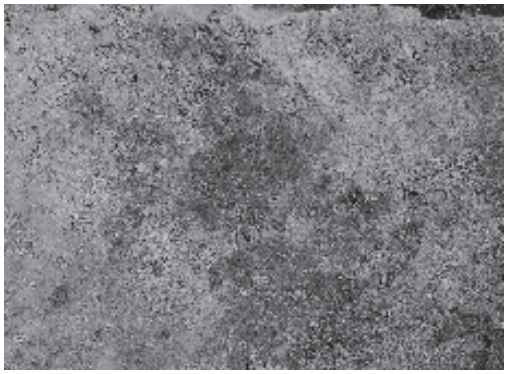
第13号竪穴建物跡完掘状況（東から）

第13号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第13号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）

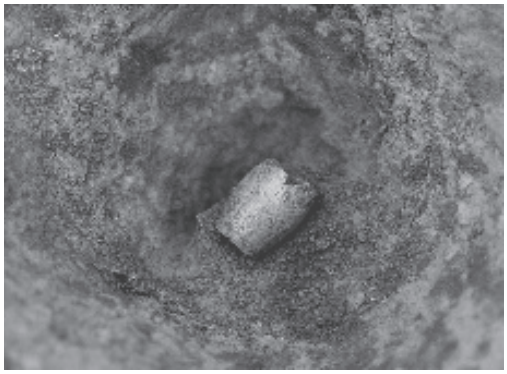
第13号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）

第13号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第13号竪穴建物跡焼土完掘状況(南から)

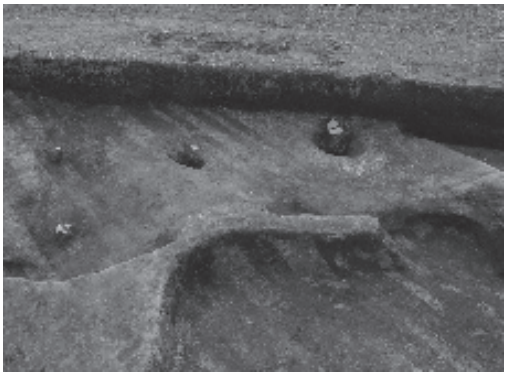
第14号竪穴建物跡完掘状況（東から）



第14号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

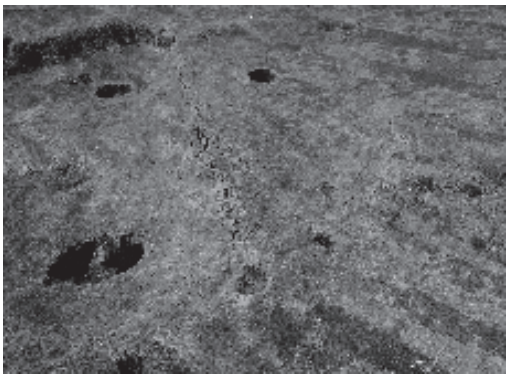
第14号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第13・17号竪穴建物跡完掘状況(南東から)

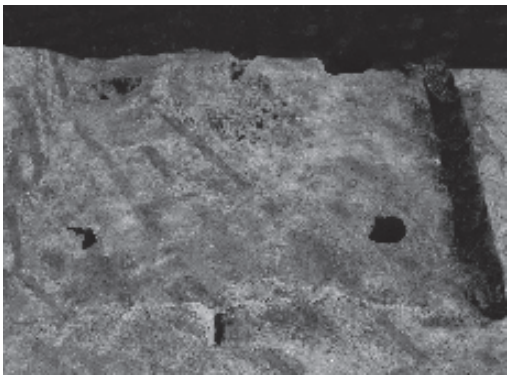


第17号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第17号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第18号竪穴建物跡完掘状況(南から)



第19号竪穴建物跡完掘状況（北から）

第20・21・24号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第20号竪穴建物跡遺物出土状況(北から)

写真図版 6

第20号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

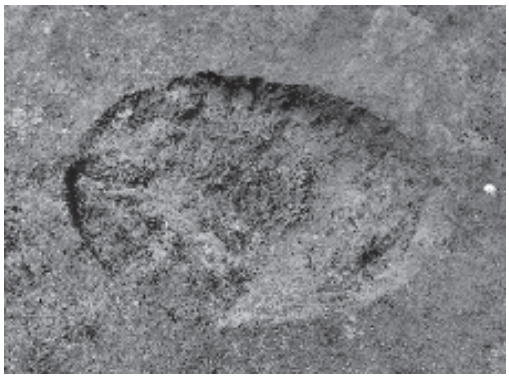
第20号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第24・35号竪穴建物跡完掘状況（直上から）

第24・35号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

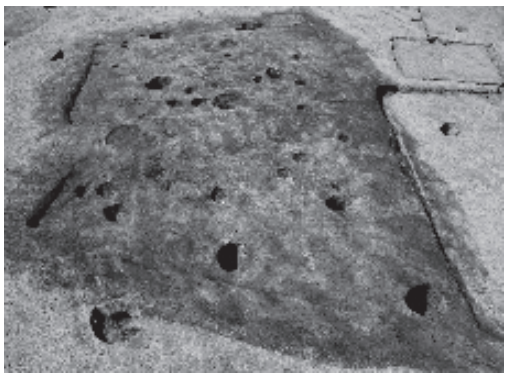
第24・35号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第32・36号竪穴建物跡完掘状況（西から）



第32号竪穴建物跡炉完掘状況（東から）

第32・36号竪穴建物跡土層観察状況（北から）



第33・85号竪穴建物跡完掘状況(南東から)

第33・85号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)

第33・85号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

第35号竪穴建物跡完掘状況（北から）

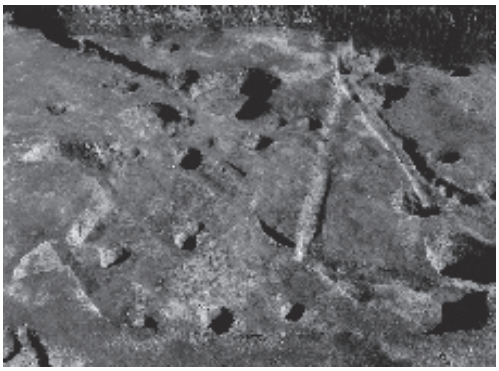
第35・24号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第35号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

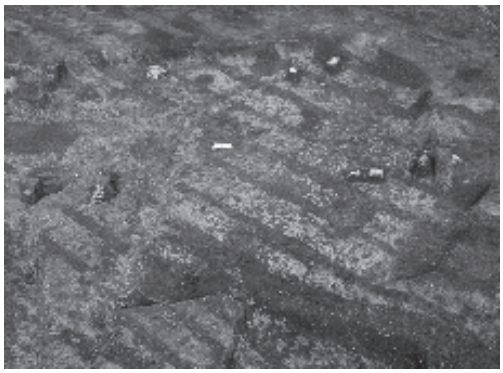
第35号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第35号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

写真図版8

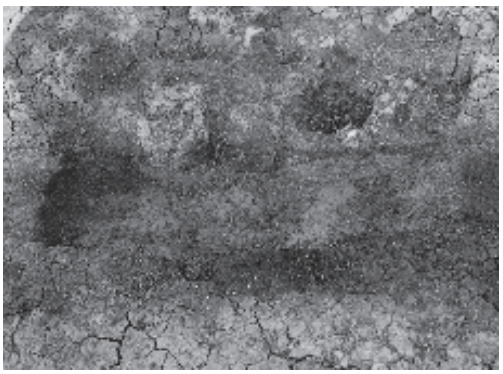


第24・40号竪穴建物跡完掘状況（北から）



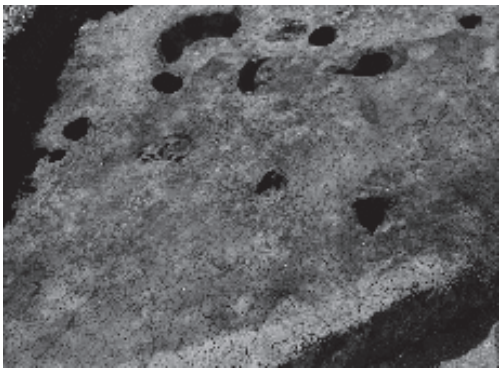
第40号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第40号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

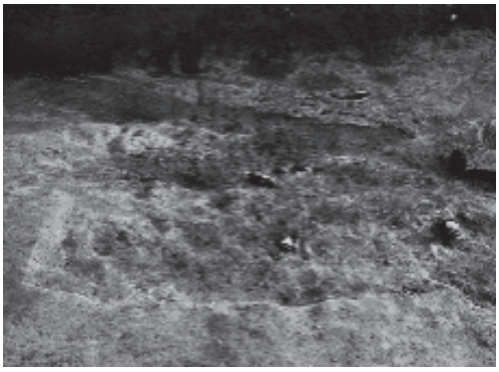


第40号竪穴建物跡炉完掘状況(南から)

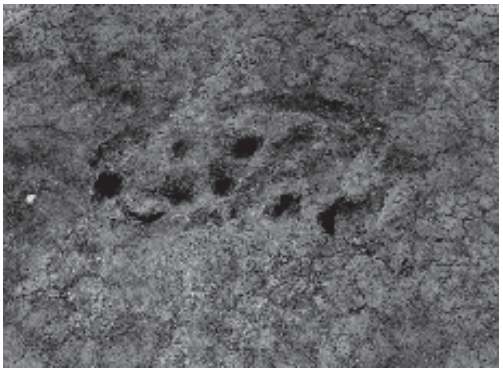
第40号竪穴建物跡土層観察状況（北から）



第41号竪穴建物跡完掘状況（東から）



第41号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

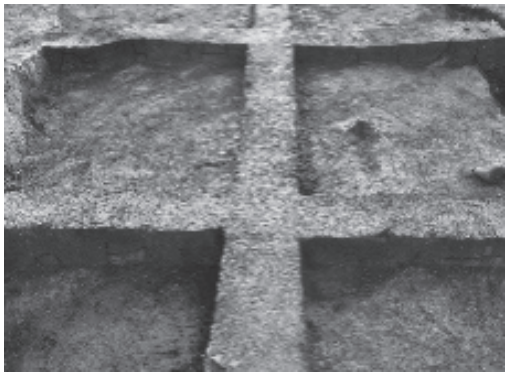


第41号竪穴建物跡炉完掘状況(南から)

第41号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

第42号竪穴建物跡完掘状況（東から）

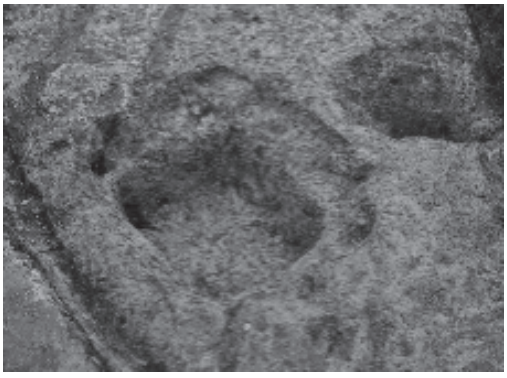
第44号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



第43号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第44号竪穴建物跡完掘状況(北西から)

第44号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）



第44号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況(北西から)

第45・128号竪穴建物跡完掘状況(南東から)

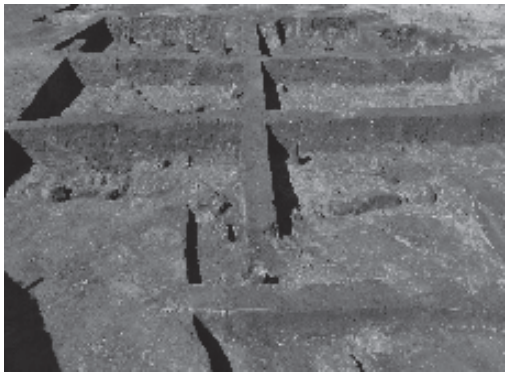
写真図版10

第45号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

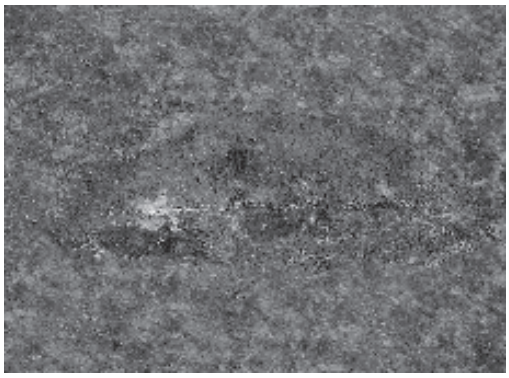
第45号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第45号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第45号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況(南から)



第45号竪穴建物跡土層観察状況(南西から)

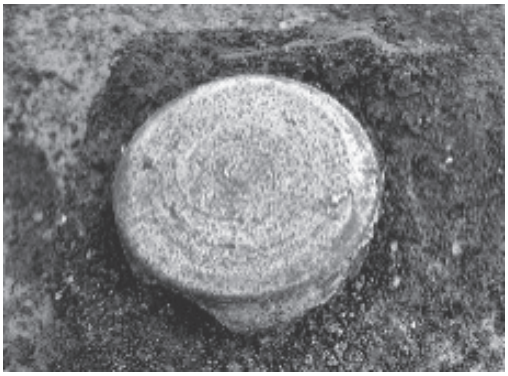


第45号竪穴建物跡焼土完掘状況(南から)

第51号竪穴建物跡完掘状況（北東から）

第51号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

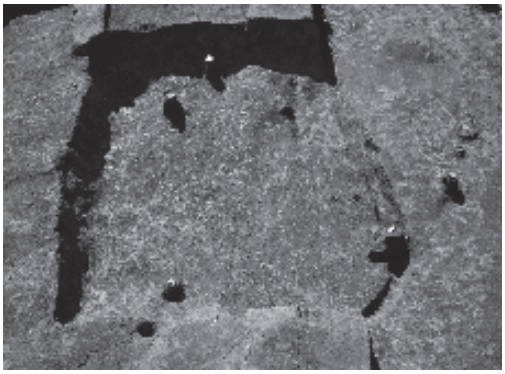
第51号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第51号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

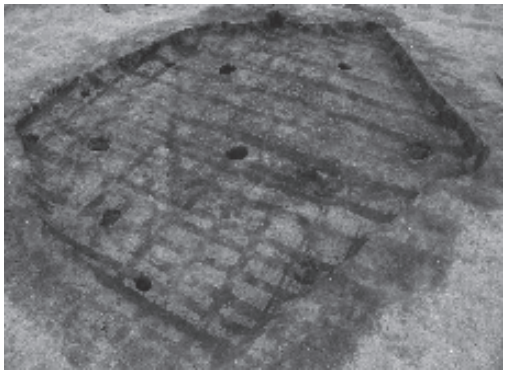
第51号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第51号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

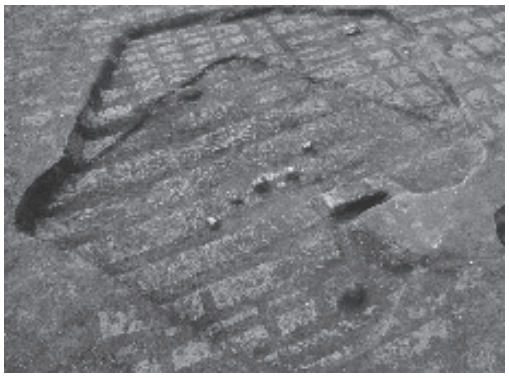


第52号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)

第52号竪穴建物跡土層観察状況（南東から）



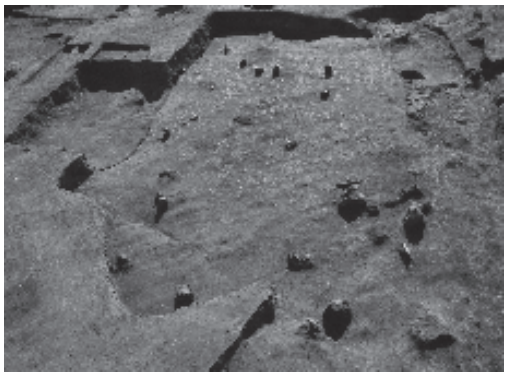
第58・84号竪穴建物跡完掘状況(南東から)



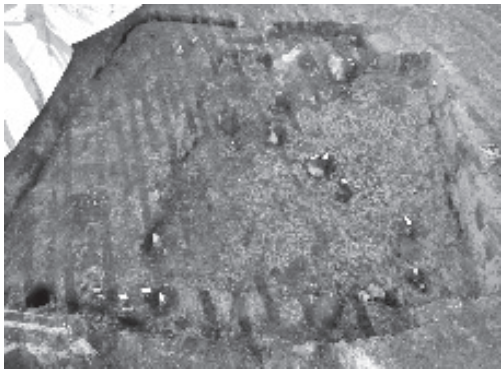
第58・84号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）

写真図版12

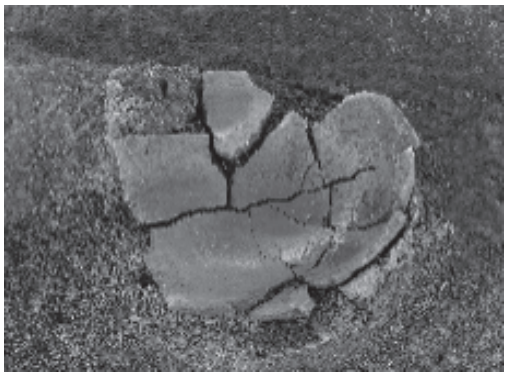
第58・84号竪穴建物跡土層観察状況(南東から)



第61・144号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）



第72・73号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第72号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第72号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第73号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第73号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

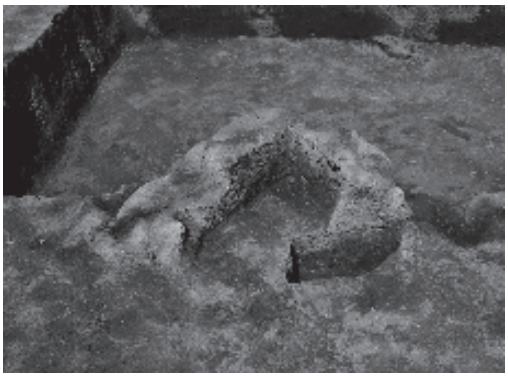
第74・75・80・210号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第74・210号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)

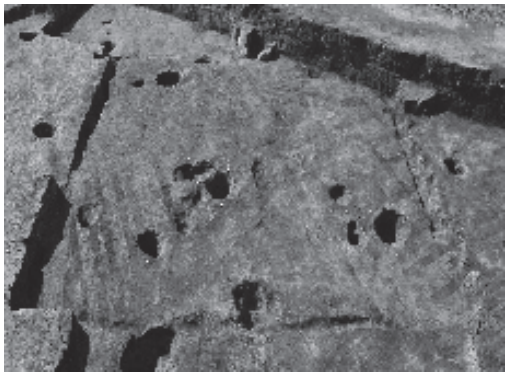
第74号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

第74号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

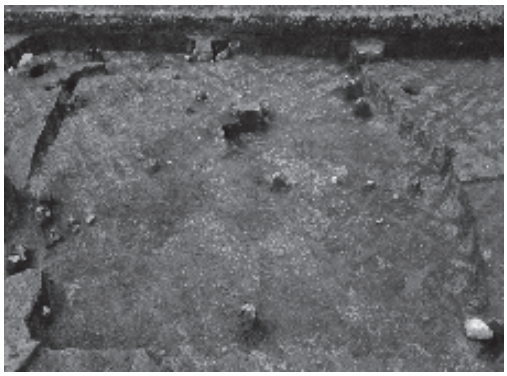
第74号竪穴建物跡遺物出土状況(西から)



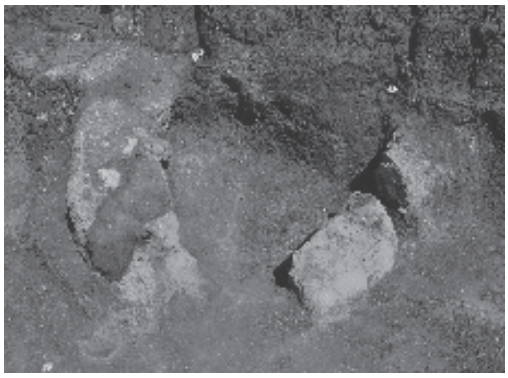
第74号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)



第75・76・80・76号竪穴建物跡完掘状況(南東から)



第75・76・79号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)



第75号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)

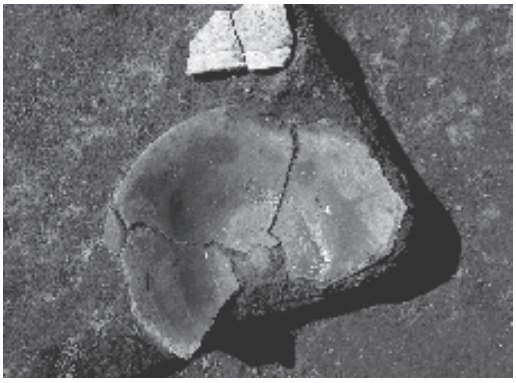
写真図版14

第75号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第75・76号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

第79号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

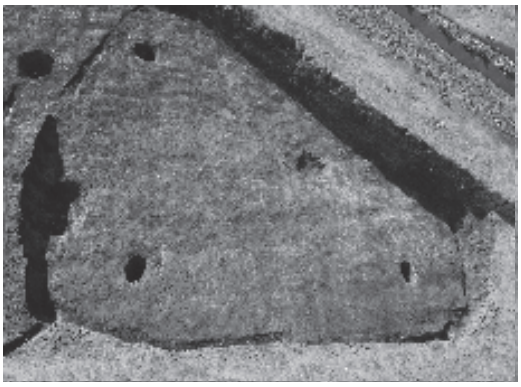
第79号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



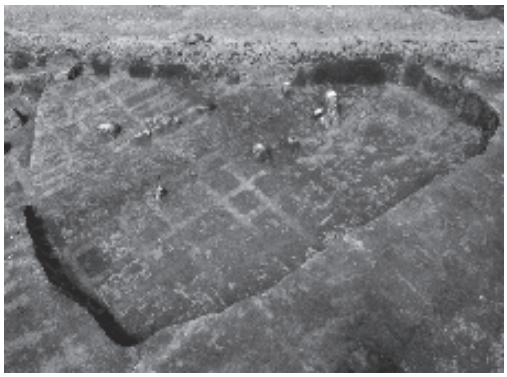
第79号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第79号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第79号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



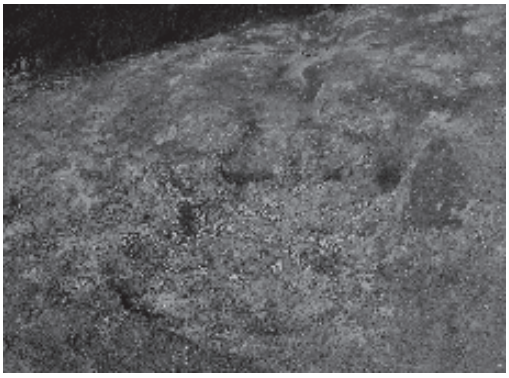
第80号竪穴建物跡完掘状況(南から)



第80号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

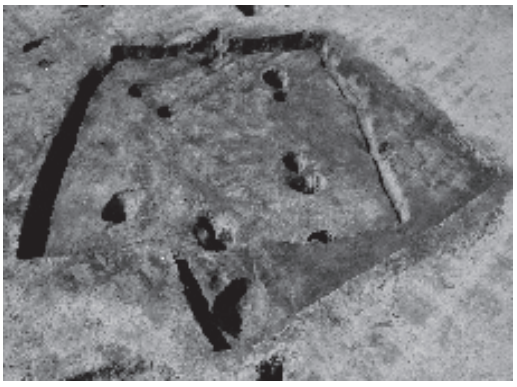
第80号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第80号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

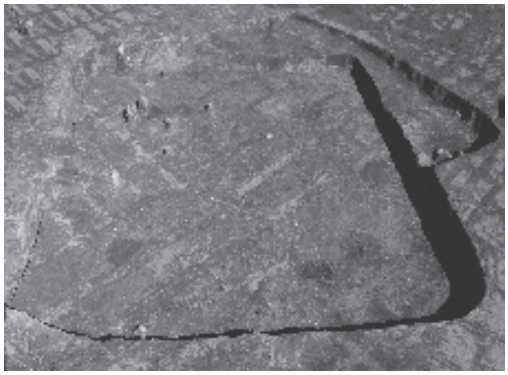


第80号竪穴建物跡炉完掘状況(南から)

第82号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



第83・140号竪穴建物跡完掘状況(南から)



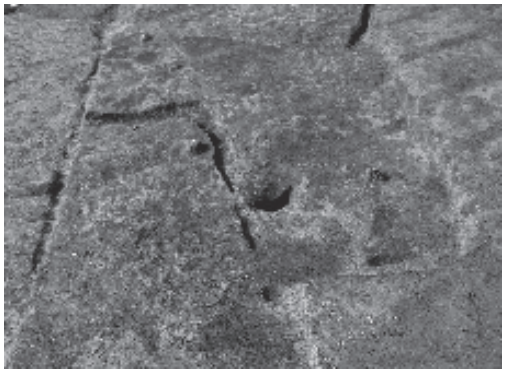
第83・140号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第83・140号竪穴建物跡土層観察状況（西から）

写真図版16

第85号竪穴建物跡完掘状況(南東から)

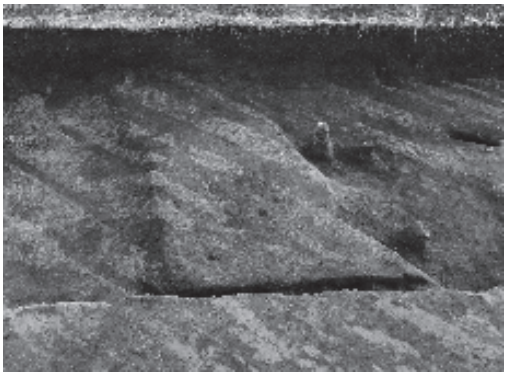
第85号竪穴建物跡土層観察状況(南から)



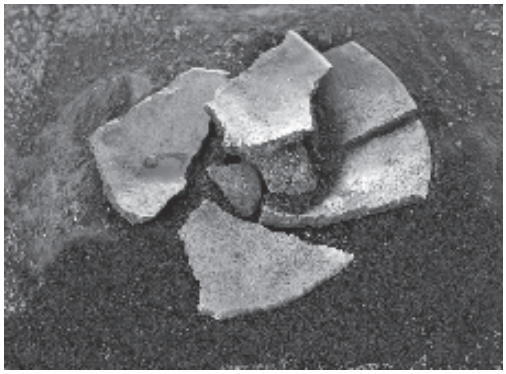
第87号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第87号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

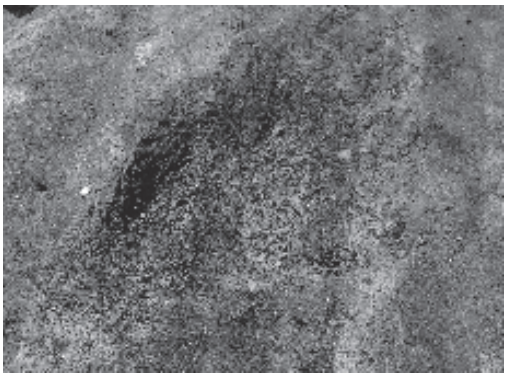
第87号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第88号竪穴建物跡完掘状況（北から）



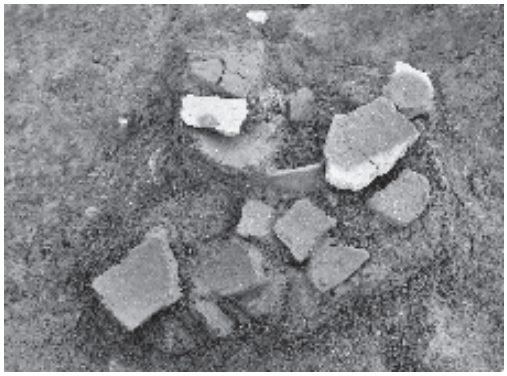
第88号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



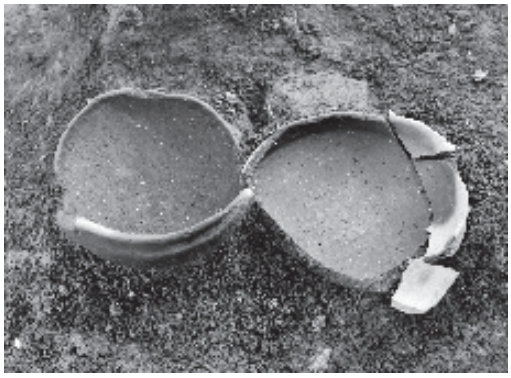
第88号竪穴建物跡炉完掘状況（西から）

第90・247号竪穴建物跡完掘状況（北から）

第90号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）



第90号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第90号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

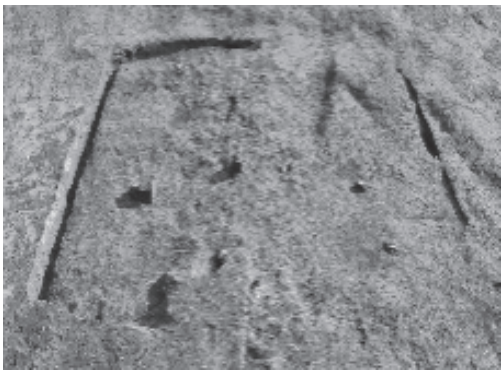
第90号竪穴建物跡土層観察状況（北から）

第91号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第91号竪穴建物跡土層観察状況（西から）

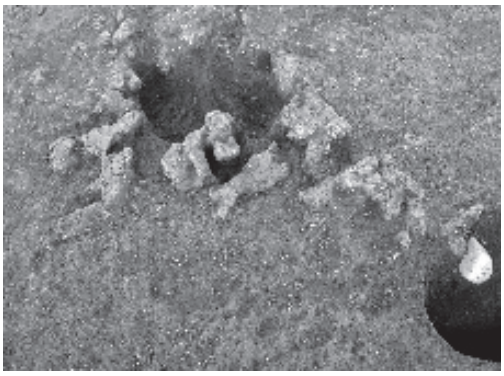
第92号竪穴建物跡完掘状況(南から)

写真図版18



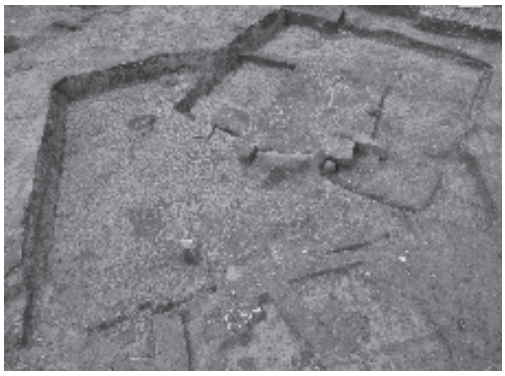
第92号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第92号竪穴建物跡土層観察状況(南から)



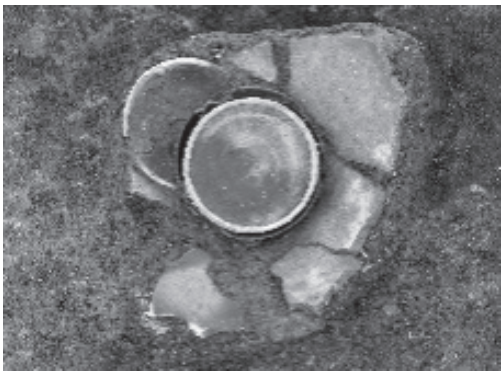
第92号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)

第93・94号竪穴建物跡完掘状況(南から)



第93・94・95号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第93号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第93号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

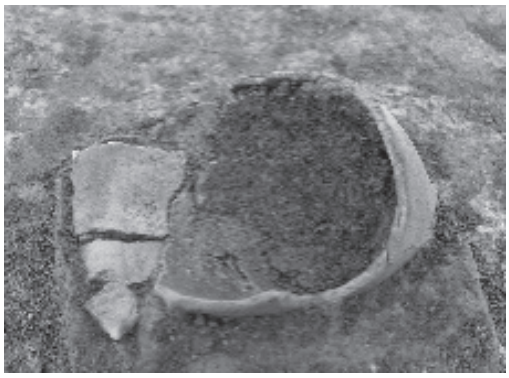
第93号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第93・94号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第94号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)

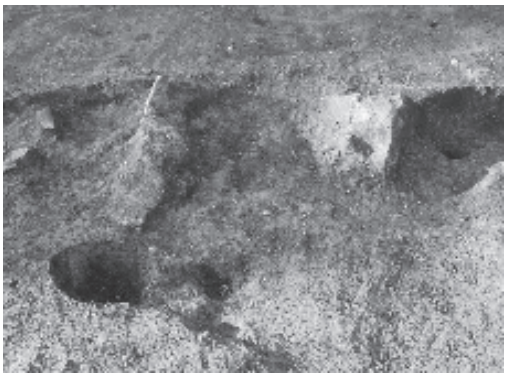
第93・95号竪穴建物跡完掘状況（東から）

第95号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

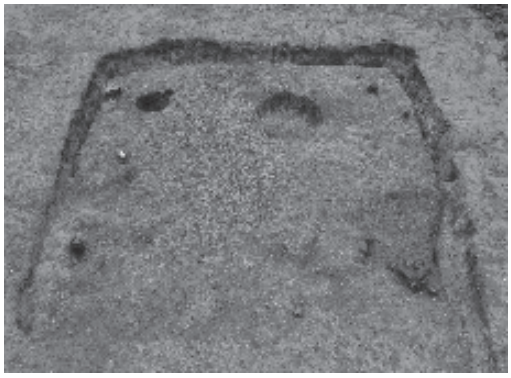


第95号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第95号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

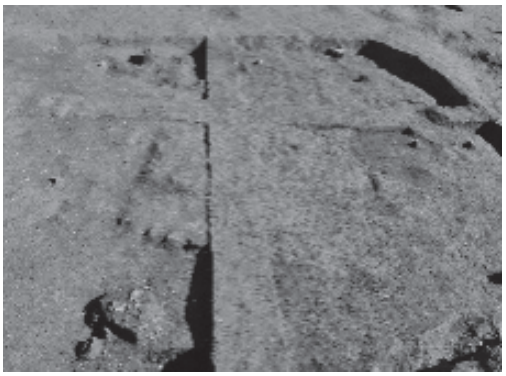


第95号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)



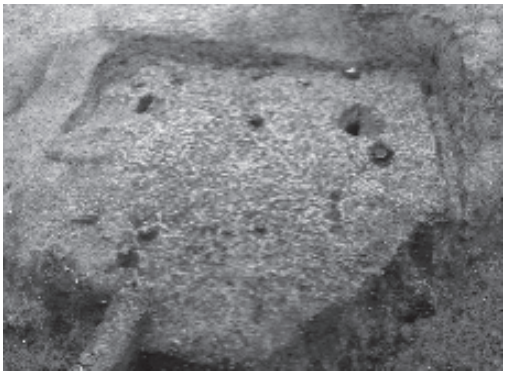
第96号竪穴建物跡完掘状況(南から)

写真図版20



第96号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

第100号竪穴建物跡完掘状況（西から）

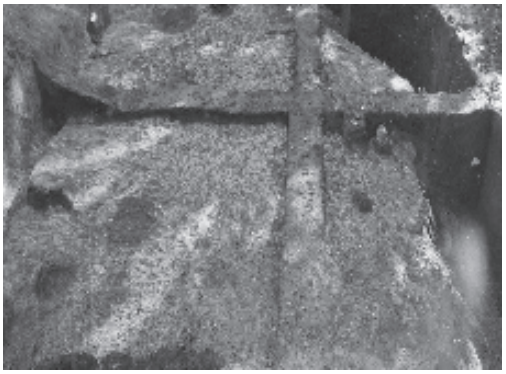


第100号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

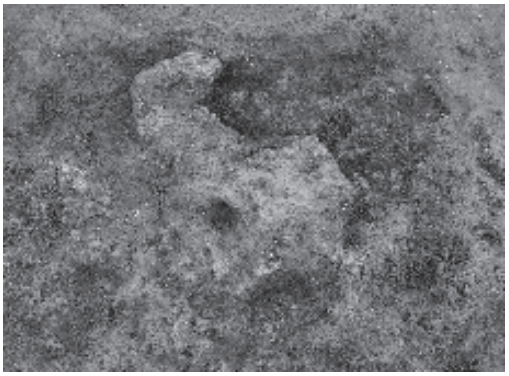
第100号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第100号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第100号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

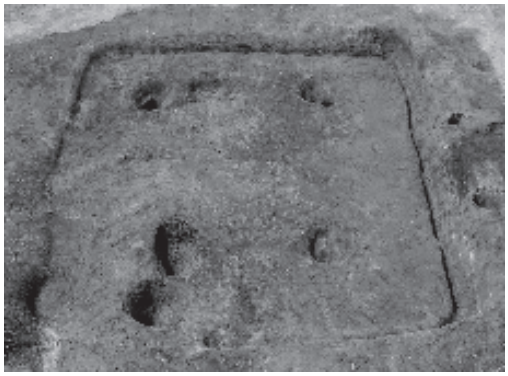


第100号竪穴建物跡土層観察状況（北から）

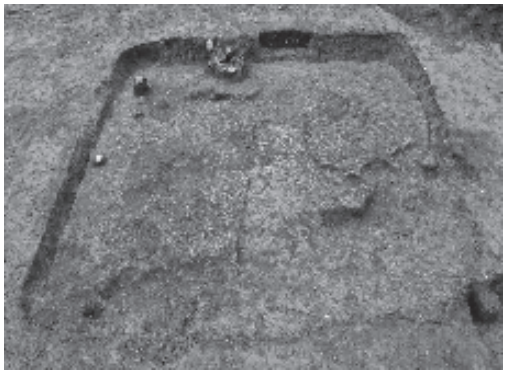


第100号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)

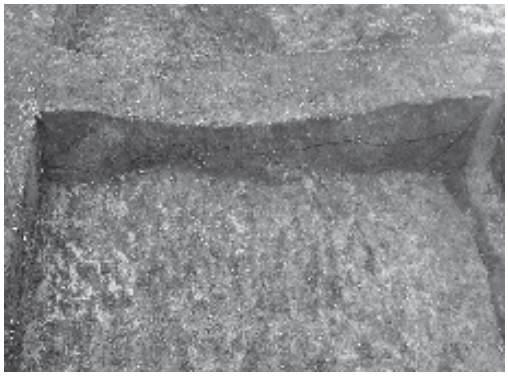
第102号竪穴建物跡完掘状況（北から）



第103号竪穴建物跡完掘状況(南から)



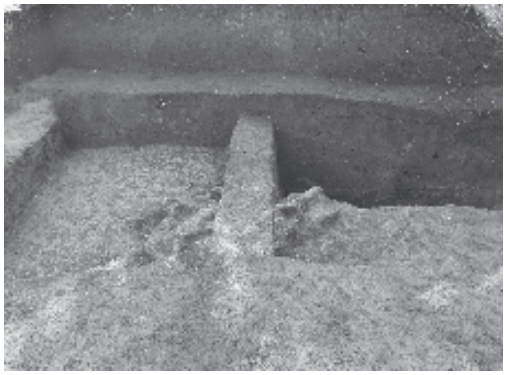
第103号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



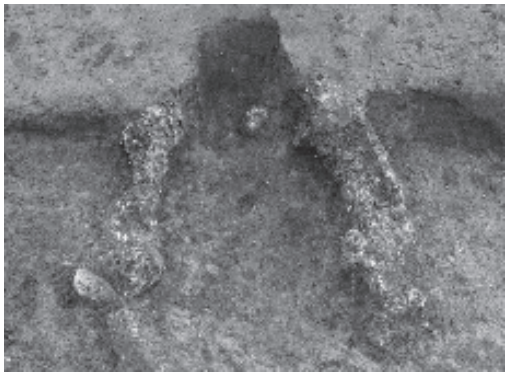
第103号竪穴建物跡土層観察状況（北から）

第106・110号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第106号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）



第106・110号竪穴建物跡土層観察状況（北から）

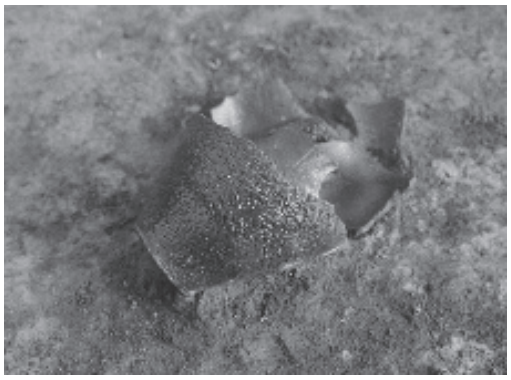


第106号竪穴建物跡竈完掘状況(南から)

写真図版22

第107号竪穴建物跡完掘状況（西から）

第107号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



第107号竪穴建物跡遺物出土状況(南から）

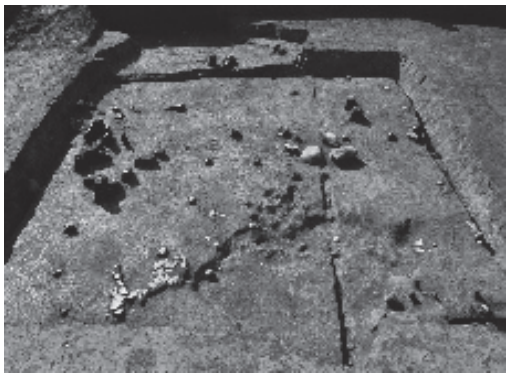
第107号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第108・109号竪穴建物跡完掘状況(南から）

第108号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第108号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第114号竪穴建物跡完掘状況（北から）

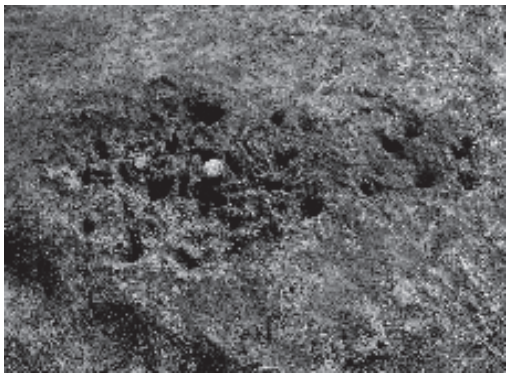


第114号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)

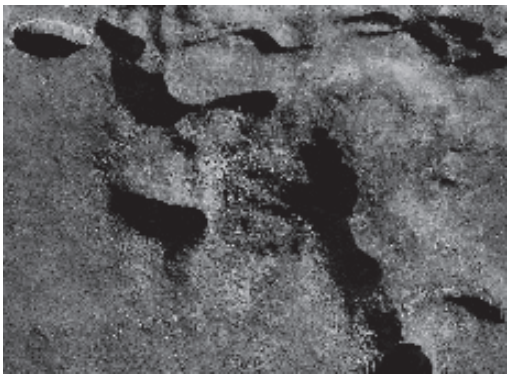
第114号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

第114号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第114号竪穴建物跡土層観察状況（北から）



第114号竪穴建物跡炉１跡完掘状況（東から）



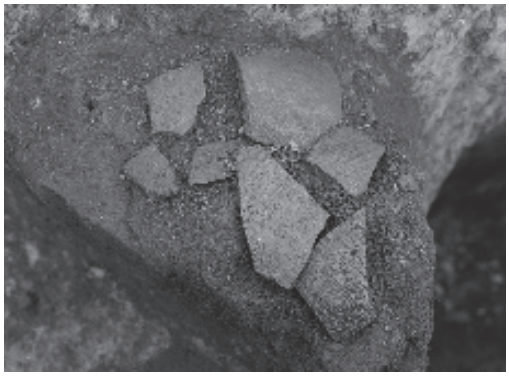
第114号竪穴建物跡炉２跡完掘状況（東から）

第115号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

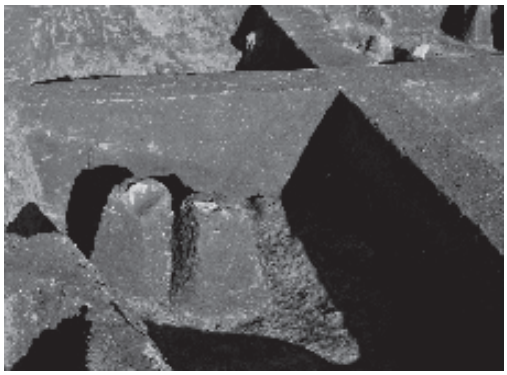
第115号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

写真図版24

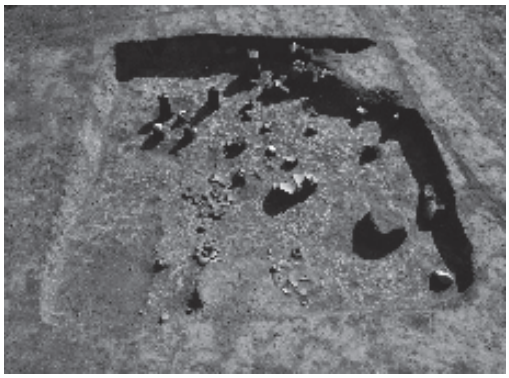
第115号竪穴建物跡土層観察状況（西から）



第116号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第116号竪穴建物跡土層観察状況　（南から）



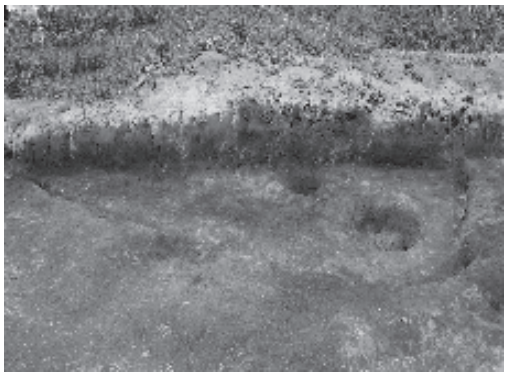
第117号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第117号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

第117号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

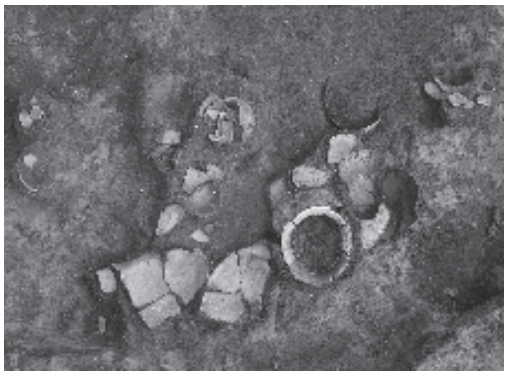
第117号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

第117号竪穴建物跡土層観察状況（西から）

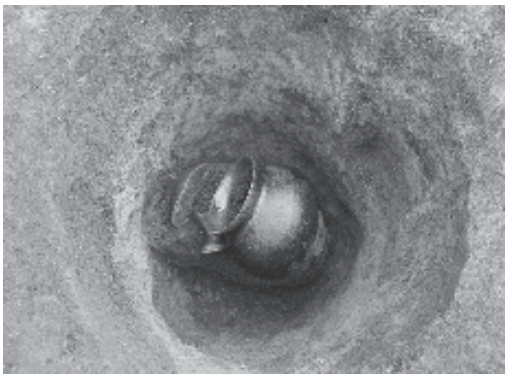


第118号竪穴建物跡完掘状況　（南西から）

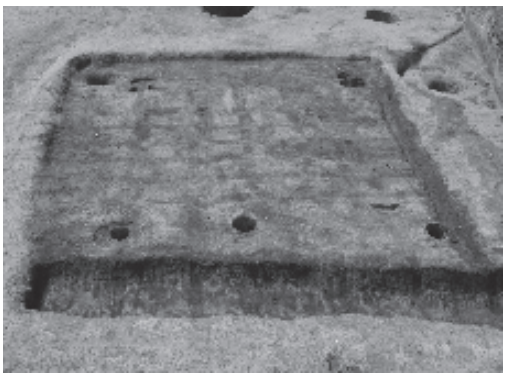
第118号竪穴建物跡土層観察状況(南西から)



第118号竪穴建物跡遺物出土状況(南西から)

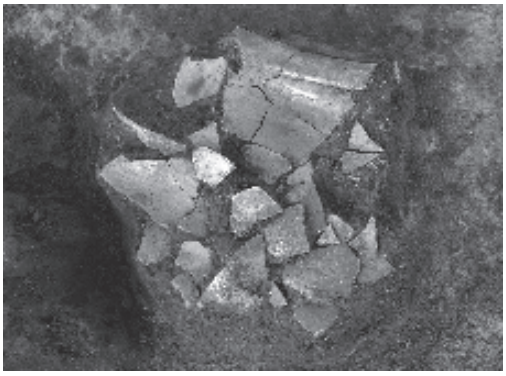


第118号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第119号竪穴建物跡完掘状況　（東から）

第119号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）



第119号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

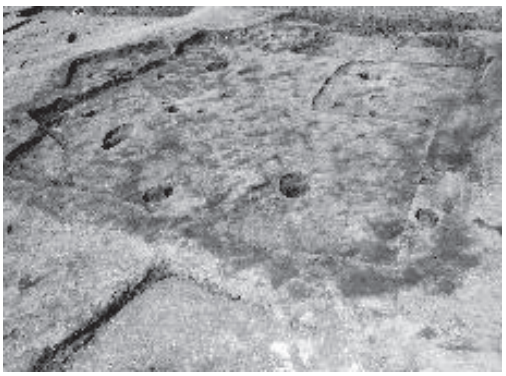
第119号竪穴建物跡土層観察状況　（南から）

写真図版26

第114・120~123号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第120号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第114・120・122号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

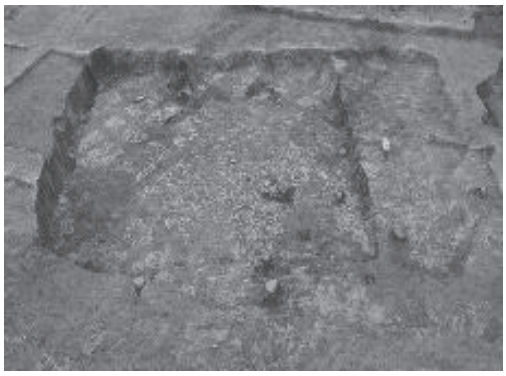


第124・129・130・131・211・243号竪穴建物跡完掘状況(南から)

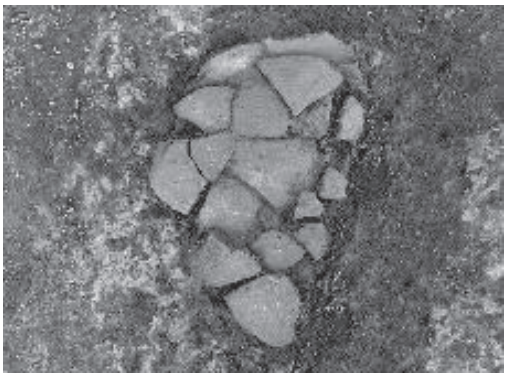
第124号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第124・129号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第125・126号竪穴建物跡完掘状況(南から)



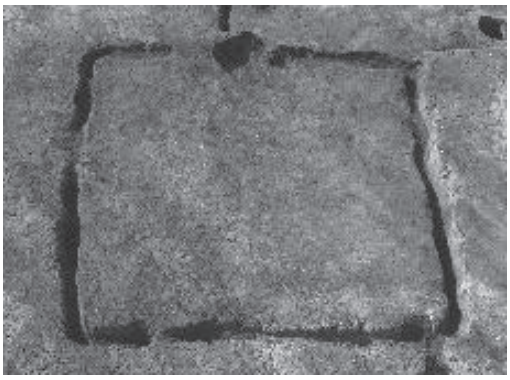
第125・126号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第125号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第125号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第125・126号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

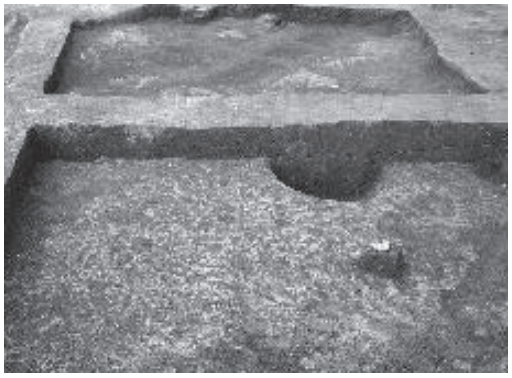


第127号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第127号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第128号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

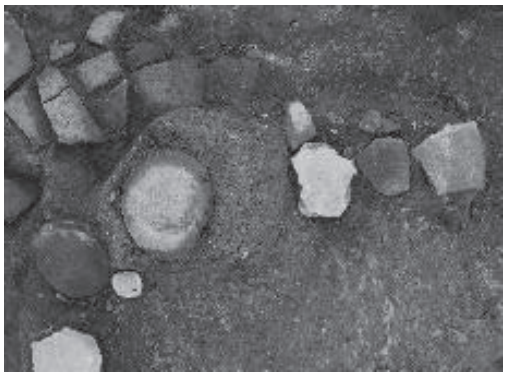
第128号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第128号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

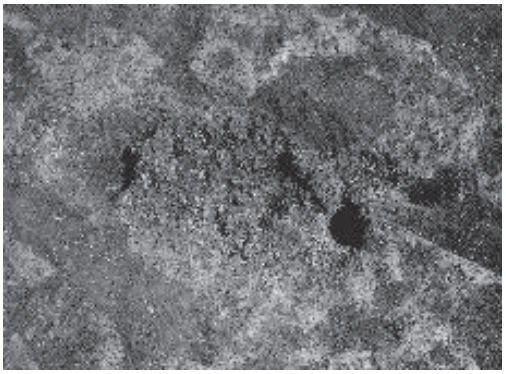
写真図版28

第129・130号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



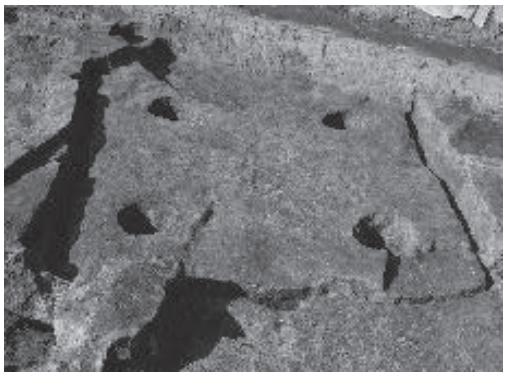
第129号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第129号竪穴建物跡土層観察状況（北から）



第131号竪穴建物跡炉跡完掘状況（西から）

第132号竪穴建物跡P3遺物出土状況（東から）



第133・134号竪穴建物跡完掘状況(南から)

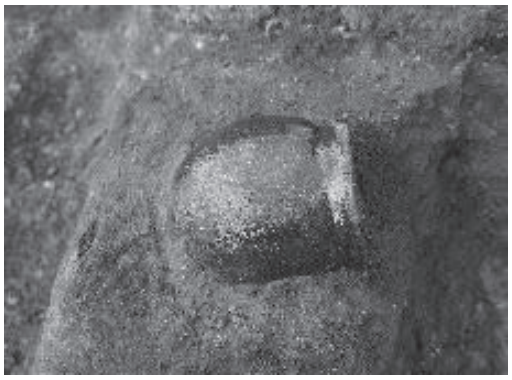
第133・134号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第133号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第133号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第135・136号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第135・136号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

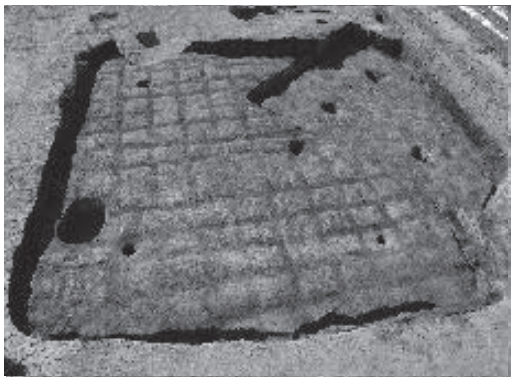


第137号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第137号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第137号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第137号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



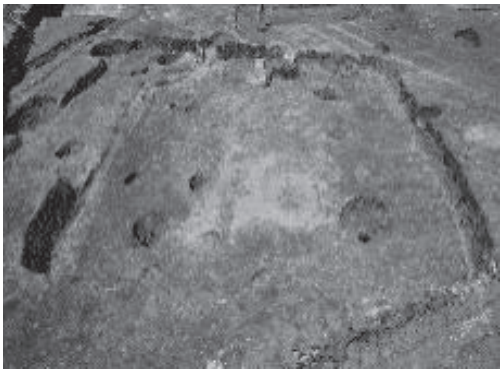
第138・139号竪穴建物跡完掘状況（東から）

写真図版30

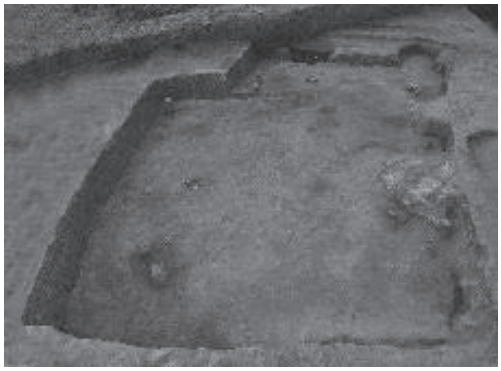
第138号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第138・139号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第138号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



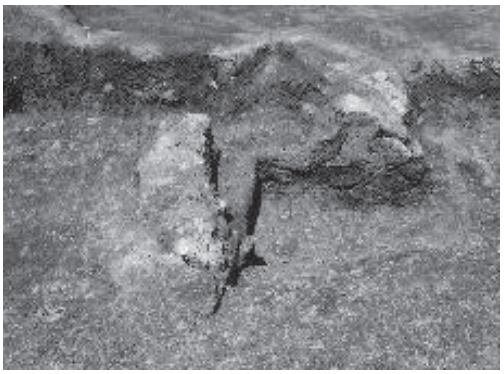
第142・143号竪穴建物跡完掘状況(南東から)



第142・143号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）

第142号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

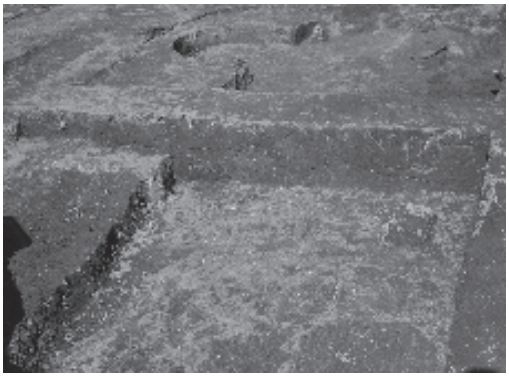
第142号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



第142号竪穴建物跡竈土層観察状況（南東から）

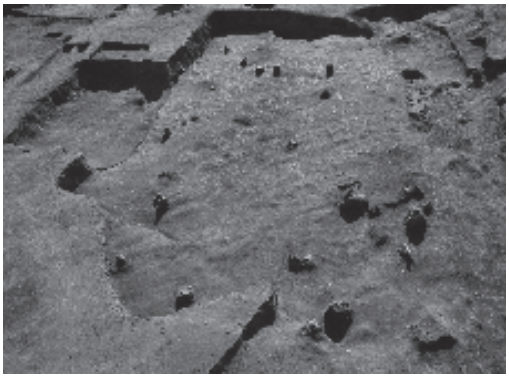
第143号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第143号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）



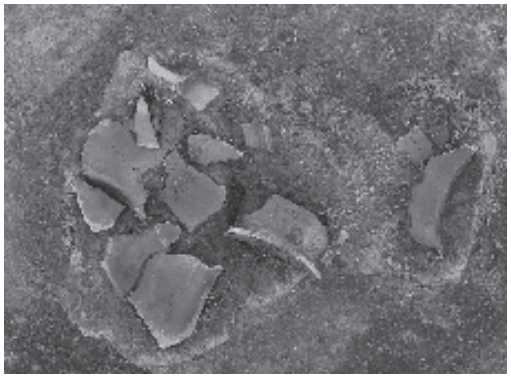
第143号竪穴建物跡土層観察状況（南から）

第143号竪穴建物跡竈遺物出土状況(南から)

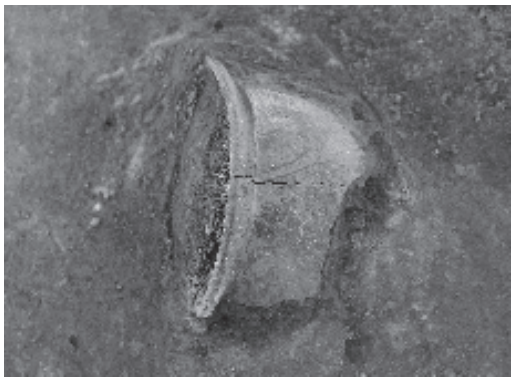


第52・61・82・144号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第145~147号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)



第145号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）



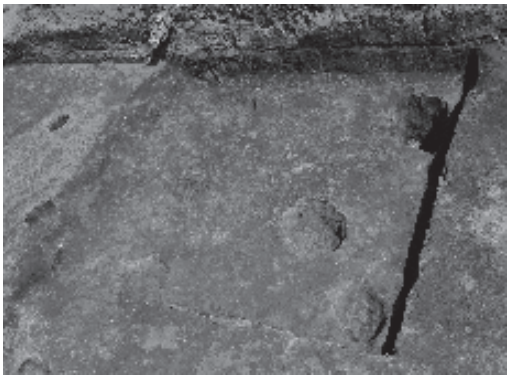
第145号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

写真図版32

第145号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

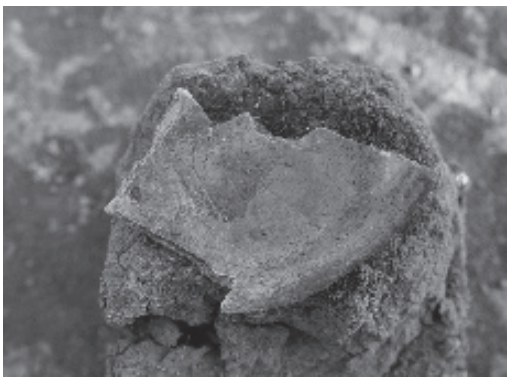
第145号竪穴建物跡竈完掘状況　（南から）

第146号竪穴建物跡竈完掘状況　（南から）



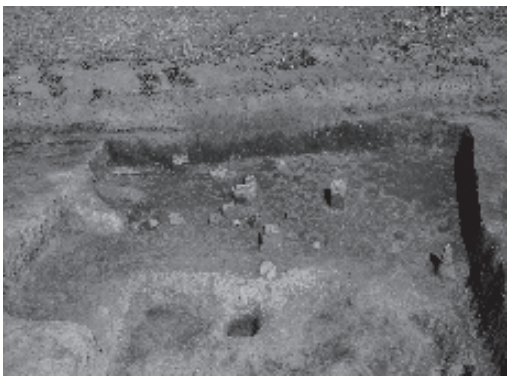
第148号竪穴建物跡完掘状況　（南から）

第148号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

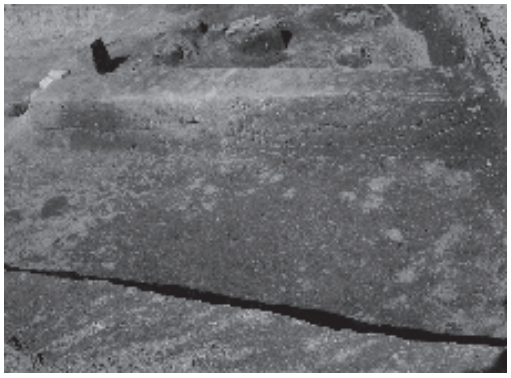


第148号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）

第148号竪穴建物跡土層観察状況(南から）

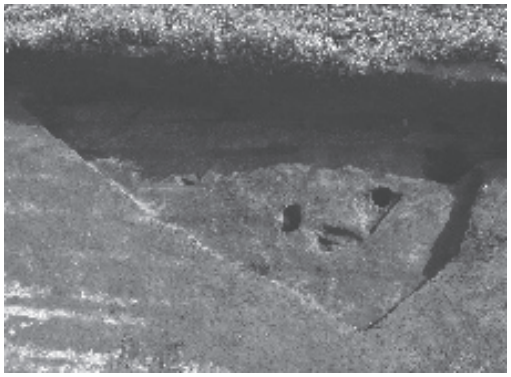


第149号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

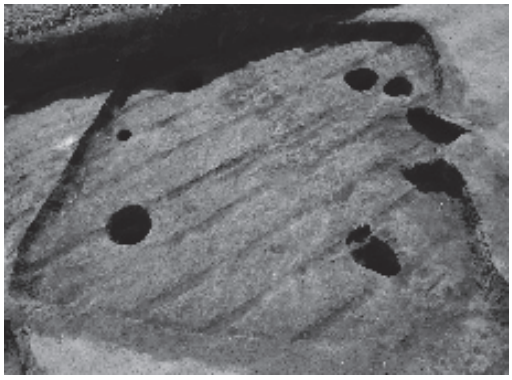


第149号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第149号竪穴建物跡竈遺物出土状況（東から）



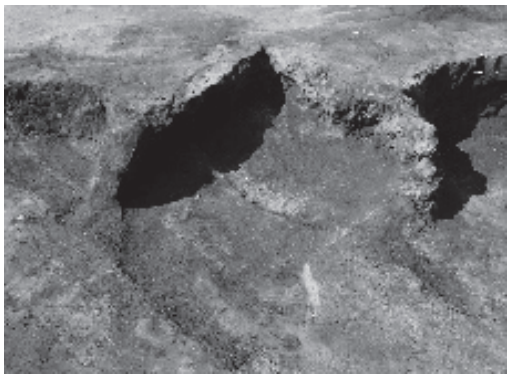
第150号竪穴建物跡完掘状況（北西から）



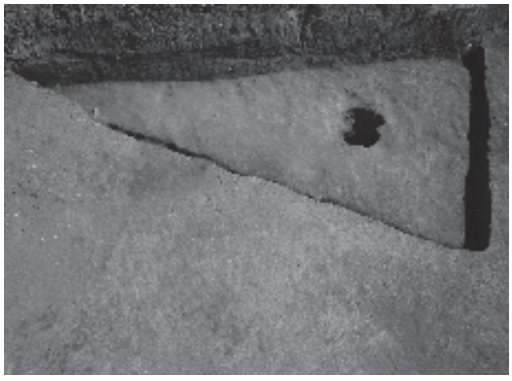
第151号竪穴建物跡完掘状況　（北から）

第151号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

第151号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



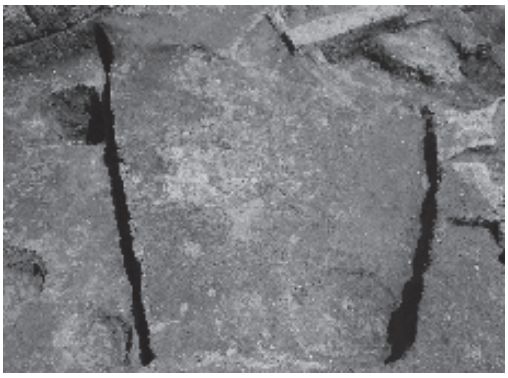
第151号竪穴建物跡竈完掘状況　（南東から）



第152号竪穴建物跡完掘状況　（南から）

写真図版34

第152号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



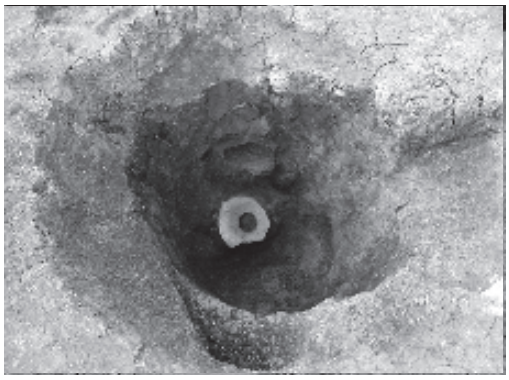
第153号竪穴建物跡完掘状況　（南から）

第200・201号竪穴建物跡完掘状況(南東から)

第200・201号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）

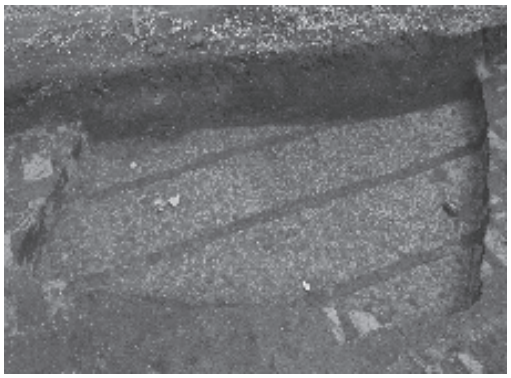
第200号竪穴建物跡土層観察状況(南東から)

第200号竪穴建物跡竈完掘状況　（南東から）

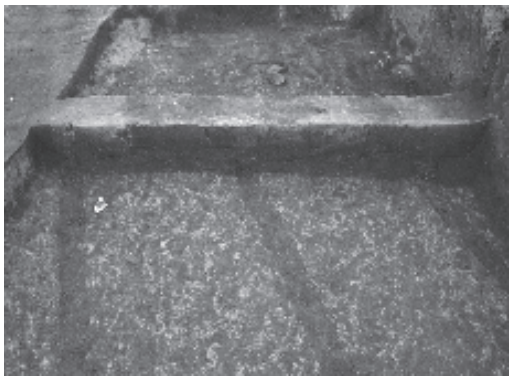


第201号竪穴建物跡遺物出土状況　（南から）

第203・237号竪穴建物跡完掘状況(南から)



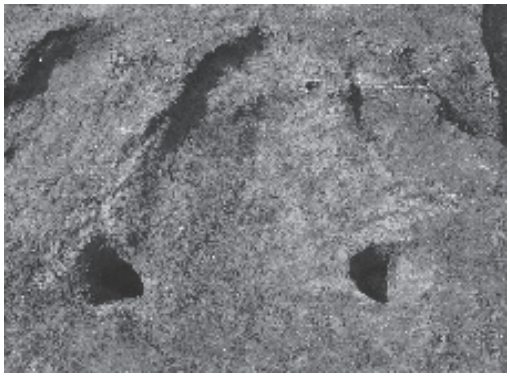
第203号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）



第203号竪穴建物跡土層観察状況（東から）

第205・207号竪穴建物跡完掘状況（北東から）

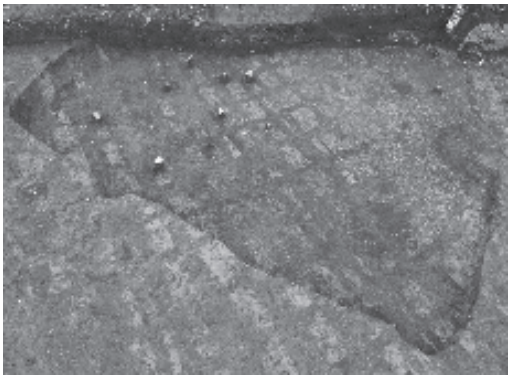
第205号竪穴建物跡竈遺物出土状況（西から）



第205号竪穴建物跡竈掘り方状況（西から）

第205号竪穴建物跡土層観察状況　（南から）

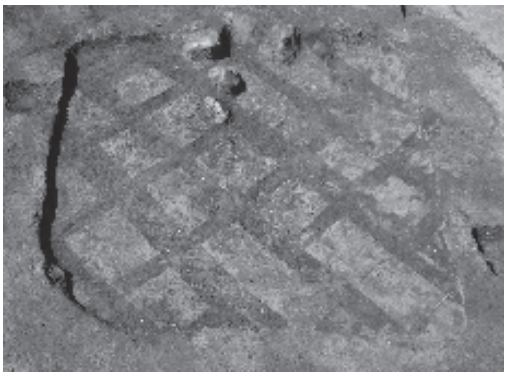
第206号竪穴建物跡完掘状況　（南西から）



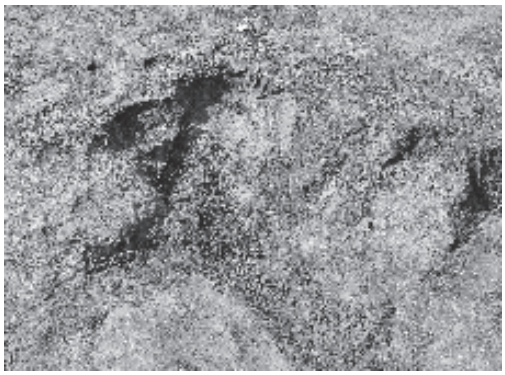
第206号竪穴建物跡遺物出土状況(南西から)

写真図版36

第206号竪穴建物跡土層観察状況（東から）



第207号竪穴建物跡遺物出土状況(南東から)



第207号竪穴建物跡竈掘り方状況(南東から)

第210号竪穴建物跡完掘状況　（南から）

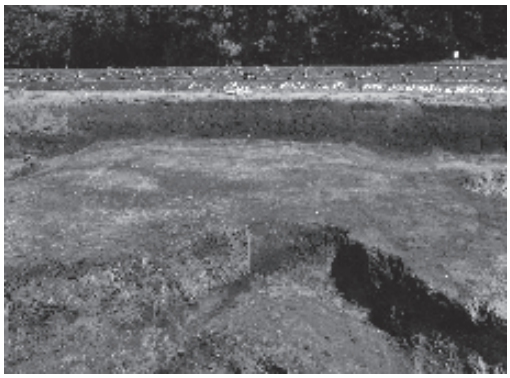
第210号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第211号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

第211号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）

第231号竪穴建物跡完掘状況　（南西から）

第233号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

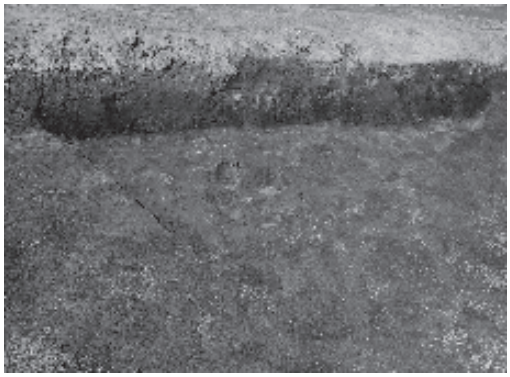


第236号竪穴建物跡土層観察状況(南から)

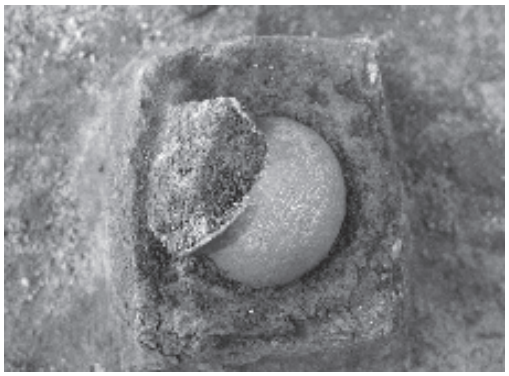
第203・237号竪穴建物跡完掘状況(南から)

第237号竪穴建物跡炉跡土層観察状況(南から)

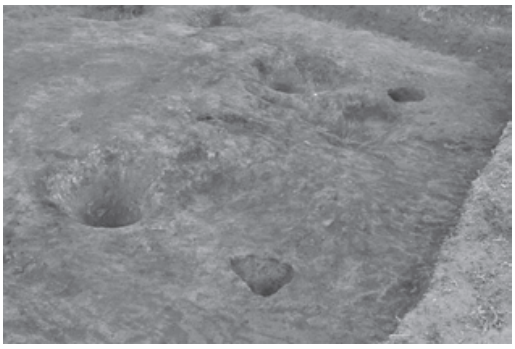
第238号竪穴建物跡完掘状況（東から）



第240号竪穴建物跡完掘状況(南から)



第240号竪穴建物跡遺物出土状況(南から)

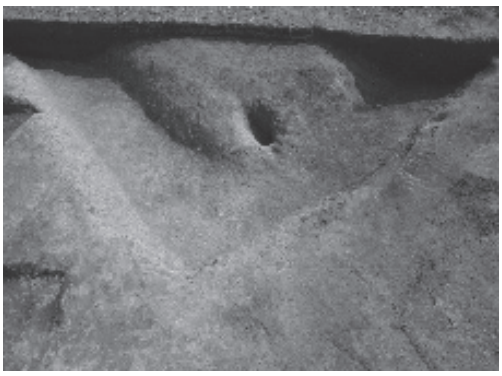


第247号竪穴建物跡完掘状況　（南西から）

写真図版38

第248号竪穴建物跡竈土層観察状況（東から）

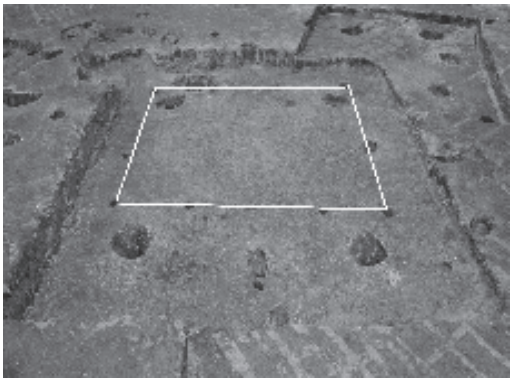
第248号竪穴建物跡完掘状況　（南から）



第1号墳完掘状況（北から）

第1号墳遺物出土状況（北から）

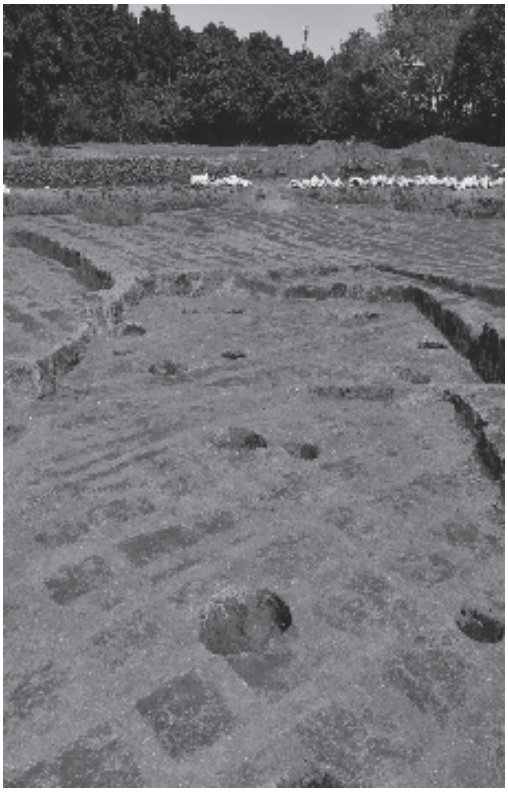
第1号墳遺物出土状況（北から）



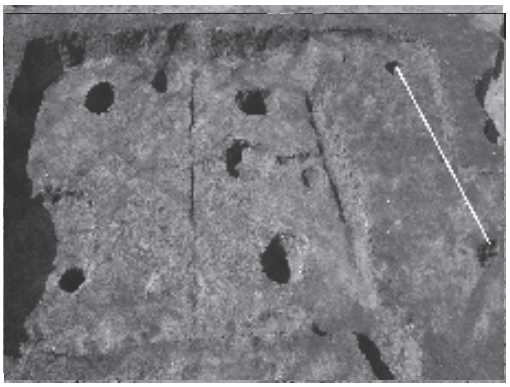
第1号掘立柱建物跡完掘状況(南東から)

第1号柱穴列完掘状況（西から）

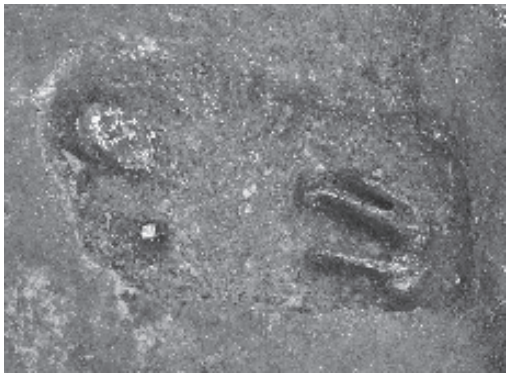
第2号柱穴列完掘状況(南から)



第3号柱穴列(南西から)

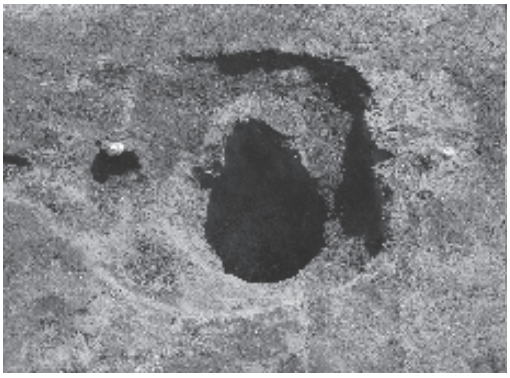


第125・126号竪穴建物跡・第7号柱穴列完掘状況(南から)



第1号土坑（墓壙）遺物出土状況(南から)

第46~48号土坑完掘状況　(南から)



第71号土坑完掘状況　(南から)

写真図版40

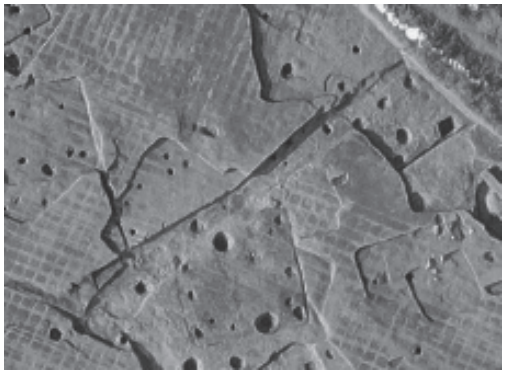
第1号溝跡完掘状況　（南から）

第2号溝跡完掘状況　（南から）

第3号溝跡完掘状況（北から）

第5号溝跡完掘状況（北西から）

第10号溝跡完掘状況　（南から）



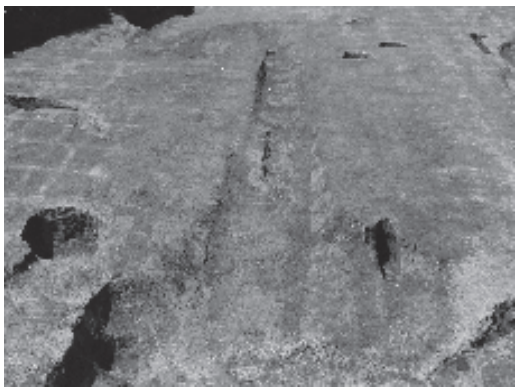
第6号溝跡完掘状況（直上）

第8号溝跡完掘状況（北西から）

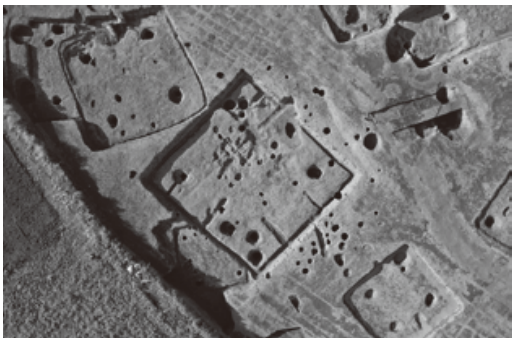
第12号溝跡(南から)

第11号溝跡完掘状況(南から)

第14号溝跡完掘状況(南東から)



第13号溝跡(南から)



第１号ピット群完掘状況(鉛直)

縄文時代遺構外 - 1

縄文時代遺構外 - 2

縄文時代遺構外 - 3

縄文時代遺構外 - 7

縄文時代遺構外 - 8

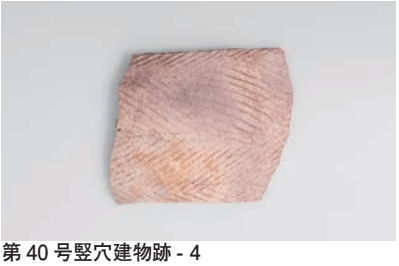
縄文時代遺構外 - 9

縄文時代遺構外 - 11

縄文時代遺構外 - 12

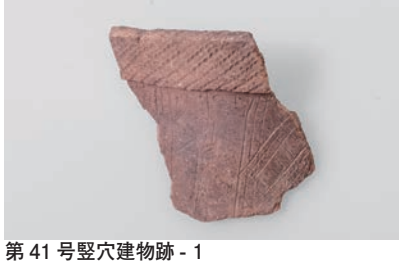
第 40 号竪穴建物跡 - 1

第 40 号竪穴建物跡 - 6


第 40 号竪穴建物跡 - 4

第 40 号竪穴建物跡 - 2

第 40 号竪穴建物跡 - 7


第 41 号竪穴建物跡 - 1

第 41 号竪穴建物跡 - 3

第 41 号竪穴建物跡 - 6

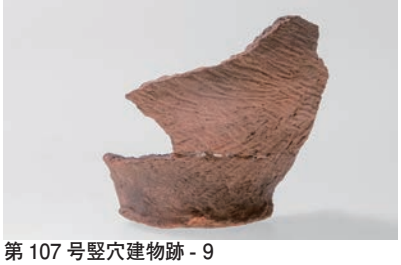
第 107 号竪穴建物跡 - 1

第 107 号竪穴建物跡 - 2

第 107 号竪穴建物跡 - 3

第 107 号竪穴建物跡 - 4

第 107 号竪穴建物跡 - 7


第 107 号竪穴建物跡 - 9

第 107 号竪穴建物跡 - 6

第 107 号竪穴建物跡 - 10

第 130 号竪穴建物跡 - 1

第 130 号竪穴建物跡 - 2

第 130 号竪穴建物跡 - 5

第 130 号竪穴建物跡 - 7

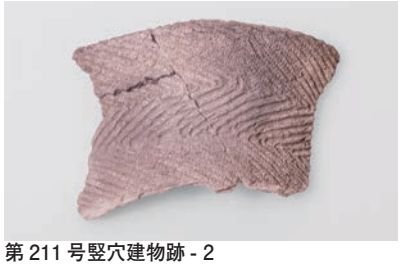
第 134 号竪穴建物跡 - 2

第 134 号竪穴建物跡 - 3

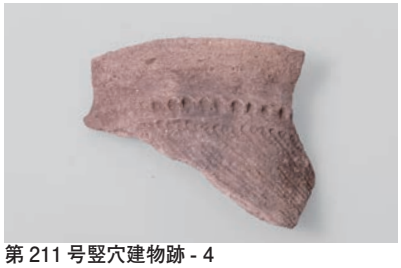
第 134 号竪穴建物跡 - 5

第 134 号竪穴建物跡 - 4

第 211 号竪穴建物跡 - 1


第 211 号竪穴建物跡 - 2

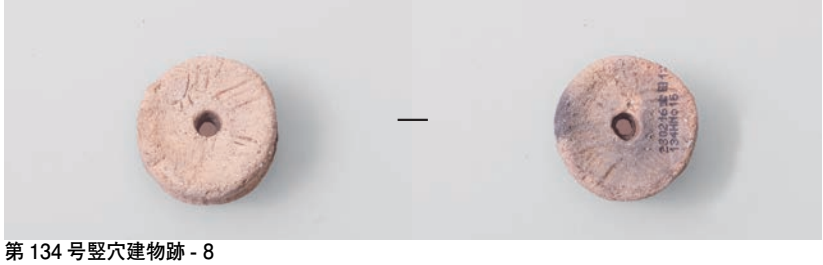
第 211 号竪穴建物跡 - 3


第 211 号竪穴建物跡 - 4

第211号竪穴建物跡 -7

第211号竪穴建物跡 -8

第 58 号竪穴建物跡 - 5


第 134 号竪穴建物跡 - 8

遺構外出土遺物 - 1

遺構外出土遺物 - 3

第 1 号竪穴建物跡 - 1

第 1 号竪穴建物跡 - 2

第 1 号竪穴建物跡 - 3

第 4 号竪穴建物跡 - 1

第 5 号竪穴建物跡 - 1

第 5 号竪穴建物跡 - 2

第 5 号竪穴建物跡 - 3

第 5 号竪穴建物跡 - 7・8

第 5 号竪穴建物跡 - 9・10

第 5 号竪穴建物跡 - 11

第 11 号竪穴建物跡 - 2

第 13 号竪穴建物跡 - 1

第 32 号竪穴建物跡 - 5

第 32 号竪穴建物跡 - 12

第 43 号竪穴建物跡 - 4

第 45 号竪穴建物跡 - 1

第 45 号竪穴建物跡 - 2

第 45 号竪穴建物跡 - 3

第 74 号竪穴建物跡 - 1

第 75 号竪穴建物跡 - 1

第 75 号竪穴建物跡 - 2

第 75 号竪穴建物跡 - 9

第 75 号竪穴建物跡 - 10

第 75 号竪穴建物跡 - 11 ～ 57

第 75 号竪穴建物跡 - 58

第 75 号竪穴建物跡 - 59

第 79 号竪穴建物跡 - 1

第 79 号竪穴建物跡 - 5

第 79 号竪穴建物跡 - 7

第 79 号竪穴建物跡 - 8

第 80 号竪穴建物跡 - 1

第 80 号竪穴建物跡 - 6

第 80 号竪穴建物跡 - 4

第 87 号竪穴建物跡 - 1

第 87 号竪穴建物跡 - 3

第 87 号竪穴建物跡 - 4

第 88 号竪穴建物跡 - 1

第 88 号竪穴建物跡 - 2

第 88 号竪穴建物跡 - 4

第 90 号竪穴建物跡 - 1

第 90 号竪穴建物跡 - 3

第 90 号竪穴建物跡 - 4

第 90 号竪穴建物跡 - 5

第 90 号竪穴建物跡 - 6

第 90 号竪穴建物跡 - 7

第 93 号竪穴建物跡 - 1

第 93 号竪穴建物跡 - 2

第 93 号竪穴建物跡 - 6

第 93 号竪穴建物跡 - 3

第 93 号竪穴建物跡 - 5

第 93 号竪穴建物跡 - 7

第 93 号竪穴建物跡 - 12 ～ 17

第 93 号竪穴建物跡 - 18

第 95 号竪穴建物跡 - 2

第 95 号竪穴建物跡 - 3

第 95 号竪穴建物跡 - 4

第 95 号竪穴建物跡 - 6

第 95 号竪穴建物跡 - 7

第 95 号竪穴建物跡 - 8

第 95 号竪穴建物跡 - 9 ～ 15

第 95 号竪穴建物跡 - 16 ～ 20

第 95 号竪穴建物跡 - 21

第 95 号竪穴建物跡 - 22

第 95 号竪穴建物跡 - 23

第 100 号竪穴建物跡 - 1

第 100 号竪穴建物跡 - 2

第 100 号竪穴建物跡 - 6

第 104 号竪穴建物跡 - 2 ～ 11

第 106 号竪穴建物跡 - 1

第 106 号竪穴建物跡 - 2

第 106 号竪穴建物跡 - 3

第 106 号竪穴建物跡 - 4

第 106 号竪穴建物跡 - 5

第 106 号竪穴建物跡 - 6

第 106 号竪穴建物跡 - 7

第 106 号竪穴建物跡 - 8

第 106 号竪穴建物跡 - 9

第 106 号竪穴建物跡 - 10

第 106 号竪穴建物跡 - 11

第 106 号竪穴建物跡 -13

第 106 号竪穴建物跡 - 12

第 106 号竪穴建物跡 - 14

第 106 号竪穴建物跡 - 15

第 106 号竪穴建物跡 - 16

第 114 号竪穴建物跡 - 2

第 114 号竪穴建物跡 - 3

第 114 号竪穴建物跡 - 5

第 114 号竪穴建物跡 - 6

第 114 号竪穴建物跡 - 8

第 114 号竪穴建物跡 - 9

第 114 号竪穴建物跡 - 10

第 114 号竪穴建物跡 - 11

第 114 号竪穴建物跡 - 13

第 114 号竪穴建物跡 - 15

第 114 号竪穴建物跡 - 21

第 114 号竪穴建物跡 - 22

第 114 号竪穴建物跡 - 24

第 114 号竪穴建物跡 - 25

第 114 号竪穴建物跡 - 26

第 114 号竪穴建物跡 - 27

第 114 号竪穴建物跡 - 29

第 114 号竪穴建物跡 - 28

第 114 号竪穴建物跡 - 30

第 114 号竪穴建物跡 - 31

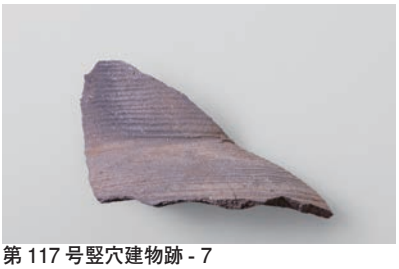
第 114 号竪穴建物跡 - 23

第 117 号竪穴建物跡 - 1

第 117 号竪穴建物跡 - 2

第 117 号竪穴建物跡 - 8

第 117 号竪穴建物跡 - 4


第 117 号竪穴建物跡 - 7

第 117 号竪穴建物跡 - 10

第 117 号竪穴建物跡 - 11

第 117 号竪穴建物跡 - 16

第 117 号竪穴建物跡 - 18

第 117 号竪穴建物跡 - 20・21

第 117 号竪穴建物跡 - 22

第 118 号竪穴建物跡 - 2

第 118 号竪穴建物跡 - 4

第 118 号竪穴建物跡 - 6

第 118 号竪穴建物跡 - 7

第 118 号竪穴建物跡 - 8

第 118 号竪穴建物跡 - 10

第 118 号竪穴建物跡 - 11

第 118 号竪穴建物跡 - 13

第 119 号竪穴建物跡 - 1

第 119 号竪穴建物跡 - 3

第 119 号竪穴建物跡 - 4

第 120 号竪穴建物跡 - 4

第 120 号竪穴建物跡 - 5

第 120 号竪穴建物跡 - 6

第 128 号竪穴建物跡 - 2

第 128 号竪穴建物跡 - 5

第 129 号竪穴建物跡 - 1

第 129 号竪穴建物跡 - 4

第 129 号竪穴建物跡 - 12

第 129 号竪穴建物跡 - 18

第 129 号竪穴建物跡 - 21

第 129 号竪穴建物跡 - 23 ～ 29

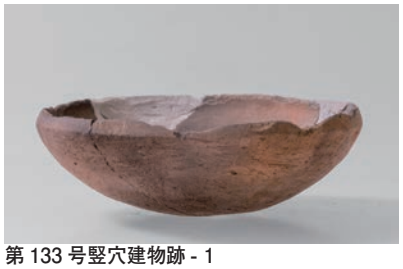
第 131 号竪穴建物跡 - 1

第 129 号竪穴建物跡 - 30

第 129 号竪穴建物跡 - 31

第 131 号竪穴建物跡 - 3

第 131 号竪穴建物跡 - 4


第 133 号竪穴建物跡 - 1

第 133 号竪穴建物跡 - 2

第 133 号竪穴建物跡 - 6

第 133 号竪穴建物跡 - 9

第 133 号竪穴建物跡 - 11

第 133 号竪穴建物跡 - 12

第 133 号竪穴建物跡 - 14

第 137 号竪穴建物跡 - 1

第 137 号竪穴建物跡 - 2

第 137 号竪穴建物跡 - 3

第 137 号竪穴建物跡 - 4

第 137 号竪穴建物跡 - 5

第 137 号竪穴建物跡 - 6

第 137 号竪穴建物跡 - 8

第 137 号竪穴建物跡 - 9

第 137 号竪穴建物跡 - 10

第 137 号竪穴建物跡 - 12

第 137 号竪穴建物跡 - 13

第 137 号竪穴建物跡 - 15

第 137 号竪穴建物跡 - 17

第 142 号竪穴建物跡 - 2

第 142 号竪穴建物跡 - 8

第 142 号竪穴建物跡 - 11

第 142 号竪穴建物跡 - 12

第 142 号竪穴建物跡 - 13

第 142 号竪穴建物跡 - 14

第 142 号竪穴建物跡 - 15

第 142 号竪穴建物跡 - 16

第 143 号竪穴建物跡 - 2

第 143 号竪穴建物跡 - 3

第 143 号竪穴建物跡 - 4

第 143 号竪穴建物跡 - 5

第 144 号竪穴建物跡 - 1

第 144 号竪穴建物跡 - 6

第 144 号竪穴建物跡 - 11

第 144 号竪穴建物跡 - 2

第 144 号竪穴建物跡 - 7

第 146 号竪穴建物跡 - 1

第 146 号竪穴建物跡 - 7

第 146 号竪穴建物跡 - 8

第 146 号竪穴建物跡 - 4

第 148 号竪穴建物跡 - 1

第 148 号竪穴建物跡 - 3

第 148 号竪穴建物跡 - 6

第 148 号竪穴建物跡 - 9

第 149 号竪穴建物跡 - 1

第 149 号竪穴建物跡 - 2

第 149 号竪穴建物跡 - 5

第 149 号竪穴建物跡 - 4

第 149 号竪穴建物跡 - 6

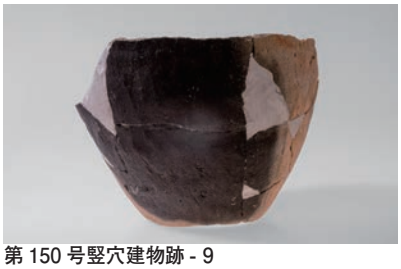
第 150 号竪穴建物跡 - 2

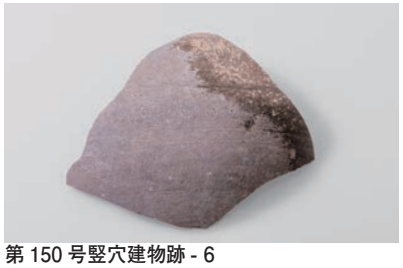
第 150 号竪穴建物跡 - 3

第 150 号竪穴建物跡 - 4

第 150 号竪穴建物跡 - 5

第 150 号竪穴建物跡 - 7


第 150 号竪穴建物跡 - 9


第 150 号竪穴建物跡 - 6

第 150 号竪穴建物跡 - 11

第 152 号竪穴建物跡 - 1

第 200 号竪穴建物跡 - 4

第 200 号竪穴建物跡 - 7

第 200 号竪穴建物跡 - 1

第 200 号竪穴建物跡 - 6

第 200 号竪穴建物跡 - 10 ～ 14

第 200 号竪穴建物跡 - 15

第 201 号竪穴建物跡 - 1

第 201 号竪穴建物跡 - 2

第 201 号竪穴建物跡 - 3

第 201 号竪穴建物跡 - 4

第 201 号竪穴建物跡 - 5

第 201 号竪穴建物跡 - 6

第 201 号竪穴建物跡 - 9

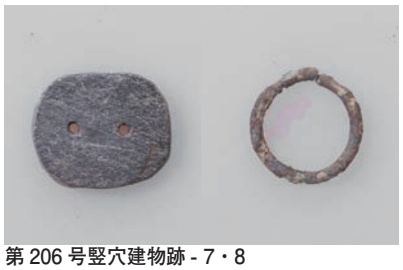
第 201 号竪穴建物跡 -13・14

第 201 号竪穴建物跡 -15 ～ 19

第 205 号竪穴建物跡 - 1

第 205 号竪穴建物跡 - 4

第 205 号竪穴建物跡 - 7


第 206 号竪穴建物跡 - 7・8

第 210 号竪穴建物跡 - 5

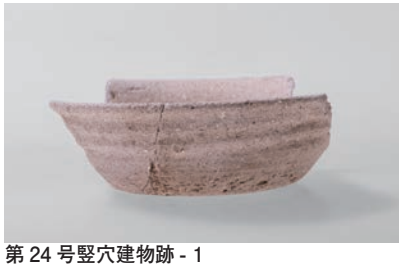
第 210 号竪穴建物跡 - 貝

第 240 号竪穴建物跡 - 1

第 248 号竪穴建物跡 - 1

第 248 号竪穴建物跡 - 4

第 248 号竪穴建物跡 - 5


第 24 号竪穴建物跡 - 1

第 19 号竪穴建物跡 - 4

第 24 号竪穴建物跡 - 12

第 35 号竪穴建物跡 - 1

第 35 号竪穴建物跡 - 2

第 35 号竪穴建物跡 - 3

第 35 号竪穴建物跡 - 7

第 35 号竪穴建物跡 - 8

第 35 号竪穴建物跡 - 13

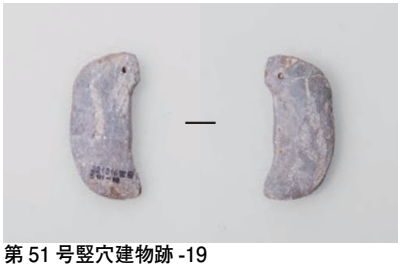
第 51 号竪穴建物跡 - 1

第 51 号竪穴建物跡 - 2

第 51 号竪穴建物跡 - 4

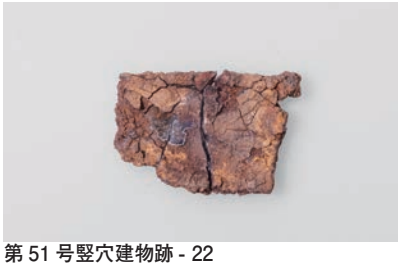
第 51 号竪穴建物跡 -15

第 51 号竪穴建物跡 - 16


第 51 号竪穴建物跡 -19

第 51 号竪穴建物跡 - 21

第 51 号竪穴建物跡 - 20


第 51 号竪穴建物跡 - 22

第 52 号竪穴建物跡 - 3

第 52 号竪穴建物跡 - 4

第 52 号竪穴建物跡 - 5

第 52 号竪穴建物跡 - 6

第 52 号竪穴建物跡 - 7

第 52 号竪穴建物跡 - 10

第 73 号竪穴建物跡 - 2

第 73 号竪穴建物跡 - 7

第 73 号竪穴建物跡 - 8

第 73 号竪穴建物跡 - 6

第 76 号竪穴建物跡 - 5 ～ 16

第 76 号竪穴建物跡 - 17

第 96 号竪穴建物跡 - 1

第 110 号竪穴建物跡 - 2

第 110 号竪穴建物跡 - 3

第 110 号竪穴建物跡 - 4

第 115 号竪穴建物跡 - 1

第 115 号竪穴建物跡 - 7

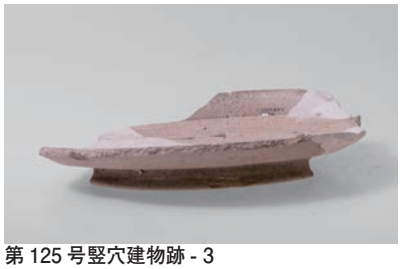
第 115 号竪穴建物跡 - 8

第 116 号竪穴建物跡 - 1

第 116 号竪穴建物跡 - 2

第 116 号竪穴建物跡 - 5

第 125 号竪穴建物跡 -2

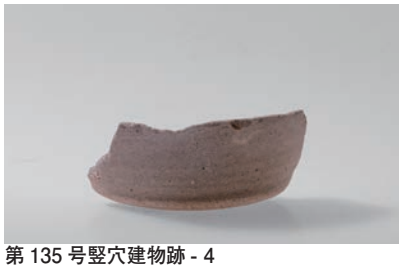

第 125 号竪穴建物跡 - 3

第 125 号竪穴建物跡 - 6

第 135 号竪穴建物跡 - 1

第 135 号竪穴建物跡 - 2

第 135 号竪穴建物跡 - 3


第 135 号竪穴建物跡 - 4

第 135 号竪穴建物跡 - 13

第 135 号竪穴建物跡 - 15

第 136 号竪穴建物跡 - 1

第 136 号竪穴建物跡 - 2

第 136 号竪穴建物跡 - 6

第 136 号竪穴建物跡 - 7

第 145 号竪穴建物跡 - 1

第 145 号竪穴建物跡 - 2

第 147 号竪穴建物跡 - 1

第 147 号竪穴建物跡 - 2

第 147 号竪穴建物跡 - 4

第 147 号竪穴建物跡 - 5

第 151 号竪穴建物跡 - 1

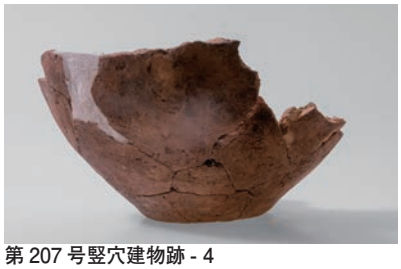
第 151 号竪穴建物跡 - 4

第 230 号竪穴建物跡 - 7

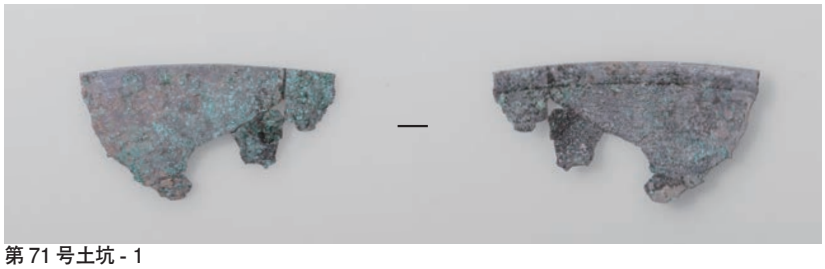
第 153 号竪穴建物跡 - 2

第 153 号竪穴建物跡 - 9

第 203 号竪穴建物跡 - 1


第 207 号竪穴建物跡 - 4

第 1 号古墳 - 6


第 71 号土坑 - 1

第 15 号土坑 - 1

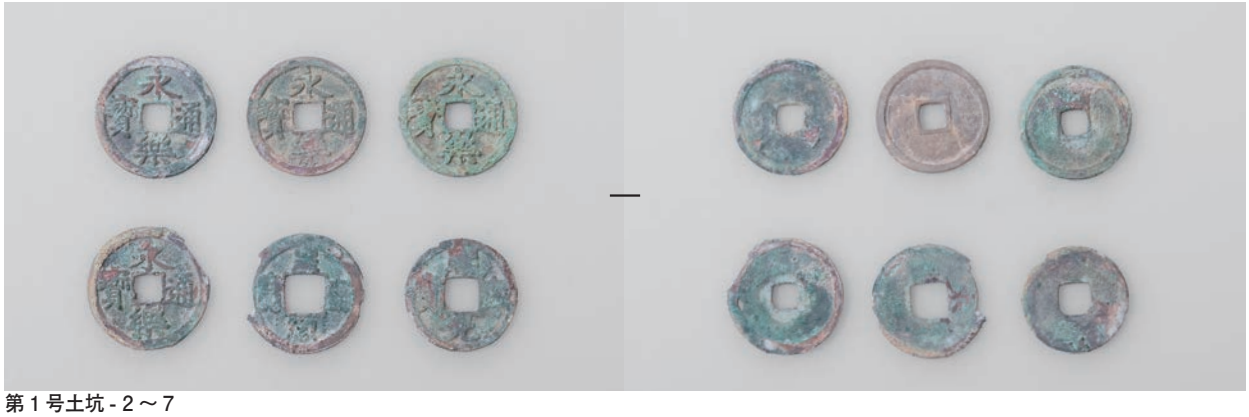
第 15 号土坑 - 4

第 15 号土坑 - 5

第 15 号土坑 - 6

第 15 号土坑 - 10

第 1 土坑 - 1


第 1 号土坑 - 2 ～ 7

第 2 号溝跡 - 2・3

第 5 号溝跡 - 1

第 12 号溝跡 - 2

報　告　書　抄　録

ふりがな	みやたいせき（だいいちじ）
書　　名	宮田遺跡（第１次）
ふりがな	せきねいわいまちほかいちろせんどうろかいりょうこうじにともなうまいぞうぶんかざいほうこくしょ
副　書　名	関根祝町線他１路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	大洗町文化財調査報告書　第 27 集
発行機関	大洗町教育委員会
所　在　地	〒 311-1301　茨城県東茨城郡大洗町磯浜町 6881-88
編著者名	蓼沼香未由　　平石尚和　　川井正一
編集機関	関東文化財振興会株式会社
所　在　地	〒 308-0846　筑西市布川 1012
発行年月日	2024（令和６）年３月 19 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査 面積	調査原因
みやたいせき 宮田遺跡	いばらきけん 茨城県 ひがしいばらきぐん 東茨城郡 おおあらいまちあざみやた 大洗町字宮田 ６１４１番３	08309	004	36° 32′ 13″	140° 57′ 56″	19 ～ 25m	2022.09.26 ～ 2023.03.30	5915㎡	町道整備工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
宮田遺跡	集落跡・古墳	弥　　生	竪穴建物跡	９棟	弥生土器 (広口壺) 土製品 (紡錘車)	古墳時代中期の鍛冶工房跡が検出された。
		古　　墳	竪穴建物跡 古　　墳	70 棟 １基	土師器 (坏・台付甕・甕) 土製品 (球状土錘・管状土錘) 金属製品 (刀子・鎌・鋤先・鏃・耳環)	
		奈　良・平　安	竪穴建物跡 土　　坑	27 棟 ２基	土師器 (坏・台付甕・甕) 須恵器 (坏・高台付坏・甕) 石製品 (砥石) 土製品 (鋤先状土製品・球状土錘・管状土錘) 金属製品 (刀子・鎌・銅鋺)	
		中世以降	掘立柱建物跡 土　　坑 溝　　跡	１棟 １基 ３条	陶器 (甕) 銅製品 (銭貨・匙)	
		時期不明	竪穴建物跡 柱 穴 列 土　　坑 溝　　跡 ピット群	11 棟 ４条 12 基 ８条 ４か所	土師器 (坏) 土製品 (土玉)	

要約	主体は、弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡である。今回の調査で確認できた主な遺構は、弥生時代の竪穴建物跡９棟、古墳時代の竪穴建物跡 70 棟、古墳１基、奈良平安時代の竪穴建物跡 27 棟、時期不明の竪穴建物跡 11 棟、中世の溝跡３条等である。断続的であるが長期にわたり集落が営まれていたことが確認できた。

大洗町文化財調査報告書　第 27 集

宮 田 遺 跡 （第 1 次）

— 関根祝町線他 1 路線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

（下巻）

印　刷　令和６年３月１７日
発　行　令和６年３月１９日

編　集　関東文化財振興会株式会社
〒 308-0846　筑西市布川 1012
TEL 0296-28-7737

発　行　大洗町教育委員会
〒 311-1301　茨城県東茨城郡大洗町磯浜町 6881-88
TEL 029-267-0230

印　刷　山三印刷株式会社
〒 311-4153　茨城県水戸市河和田町 4433-33
TEL 029-252-8481